**出土遺物**　210 はⅢ期甕 D1 類である。胴部は底部から開く。底部外面に布目痕が認められる。布目痕は１本越え１本くぐりである。胴部外面はクシ条痕、内面はナデ調整する。211 は磨製石鏃未製品１類である。表裏面ともに層理によるはがれである。212 は磨製石鏃未製品３類である。上半が折損する。表裏面を研磨する途中である。基部の左側も磨く。

**時期**　SI49 に切られることからⅣ期をさかのぼること、床面から出土した磨製石鏃類が SI13 出土のものと類似すること、想定できる規模や建物方位が SI13 と類似することから、SI13 と同時期である東野Ⅲ期の可能性が最も高いと判断した。

SI50（図 79）（AS0676）

**検出状況**　Ｃ地点 JD17 グリッドで検出した竪穴建物である。SI02 床下で検出した。貼床層を確認したことから竪穴建物と判断した。北部は SI03 に切られる。西部は発掘区外である。平面形は不明であるが、南辺から方形の可能性が想定できる。長軸の方位は、Ｎ－82°－Ｅである。

**埋土**　埋土は黒色土の単層である。埋土中に暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面は開く。壁の残存高は最大で 0.06ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（２層）が全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。南辺に接して、貼床層より固くしまった範囲が舌状に張り出しており、入口の可能性が考えられる。

**床下**　貼床除去後、掘方整地層を検出した。掘方整地層は暗褐色土を主体として黒色土ブロックを含む。貼床層や基盤層ほどのしまりはない。

**遺物出土状況・出土遺物**　出土遺物はなかった。

**時期**　出土遺物がなかったため、SI02 に切られることから東野Ⅲ期以前と判断した。

## ２　方形周溝墓

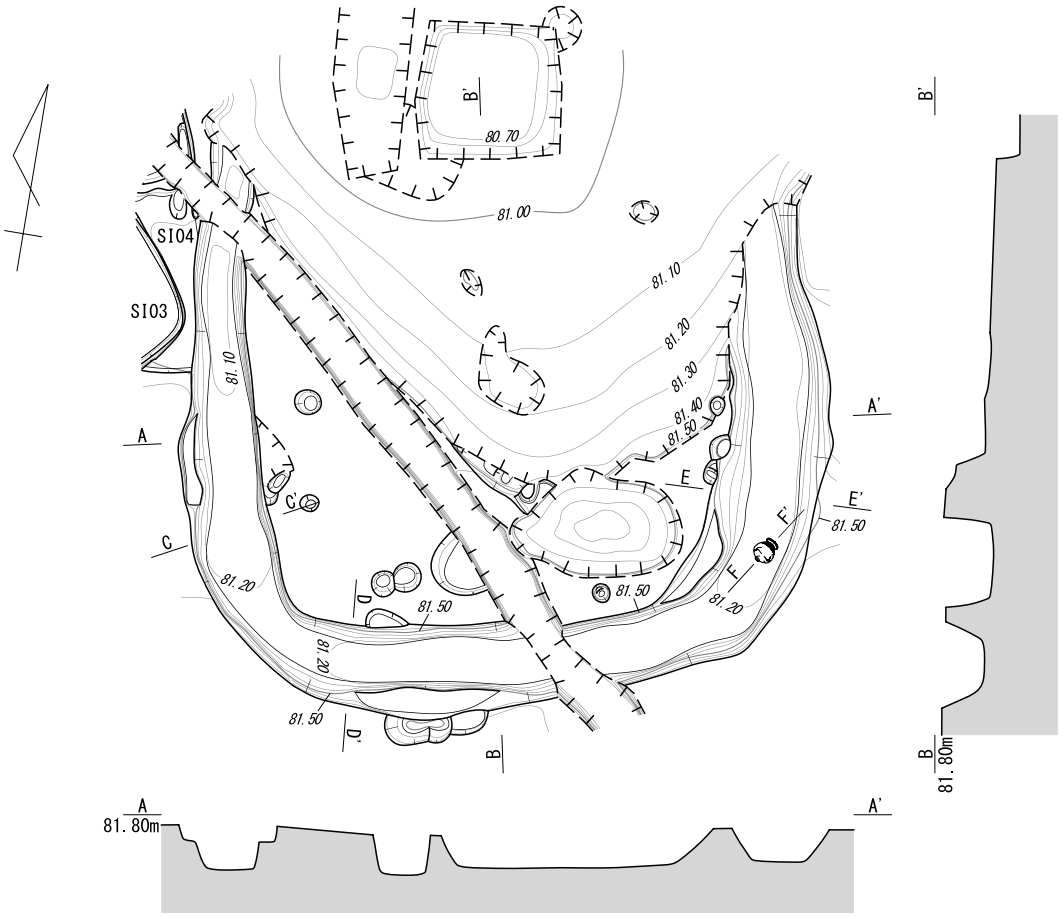
当該期の方形周溝墓を３基確認した。

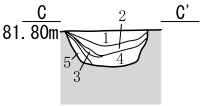
SZ1（図 81・82）（AS0001）

**検出状況**　Ｃ地点 JC18～JE20 グリッドで検出した方形周溝墓である。Ⅲ層上面で検出した。発掘区の最も標高の高い位置に構築される。方台部中央から周溝北辺は現代の撹乱により消失している。SI04 に切られ、SI01 を切る。

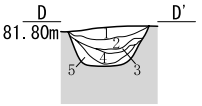
**方台部**　消失した北辺を除き各辺は直線的で、隅部は丸い。東西長は 6.52ｍ、南北長は不明で、平面形は不明であるが、西辺が南辺より長いため、南北方向に長軸をもつ隅丸長方形と想定できる。長軸の方位は、Ｎ－10°－Ｅである。墳丘盛土や主体部は残存しない。

**周溝**　消失を免れた３辺はそれぞれの辺の中央付近で最大幅、最深となる。周溝を含めた全体の形状は、やや丸みを帯びた長方形を呈すると考えられる。埋土は中央部がくぼむ堆積で、自然堆積と考えられる。西溝（Ｃ－Ｃ’）は深さ約 0.5ｍで、断面形は壁面傾斜の急な逆台形を呈する。底面は平坦である。周溝外縁側に外側からの流入土（５層）が認められる。南溝（Ｄ－Ｄ’）は深さ約 0.5ｍで、断面形は壁面傾斜の急な逆台形を呈する。底面は平坦である。黒褐色土によって底が広く埋まり（５層）、その後順に埋没している。Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。東溝（Ｅ－Ｅ’）は深さ約 0.5ｍで、

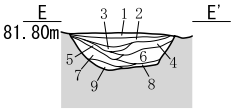



1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　10YR4/4　褐色土ブロック10%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　10YR4/4　褐色土ブロック7%含む

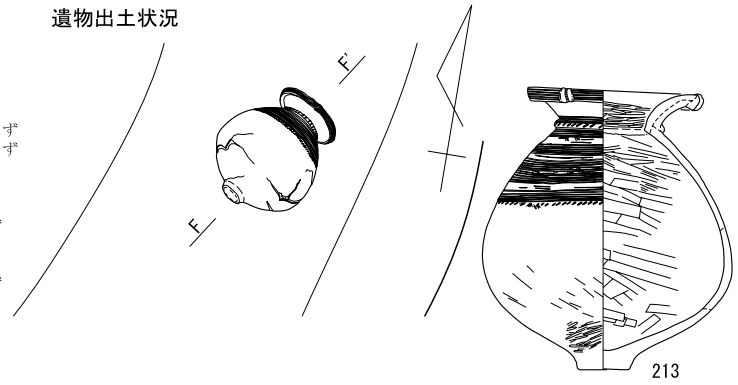



1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　10YR4/4　褐色土ブロック7%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　10YR4/4　褐色土ブロック15%含む




1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　下部に10YR3/4　暗褐色土層状に含む
5　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
6　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり
　礫含まず
7　10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック壁際に多く含む
8　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
9　10YR3/3　暗褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり
　礫含まず

遺物出土状況




0　5m
(S=1/100)

0　1m
(S=1/20)

図81　SZ1遺構図

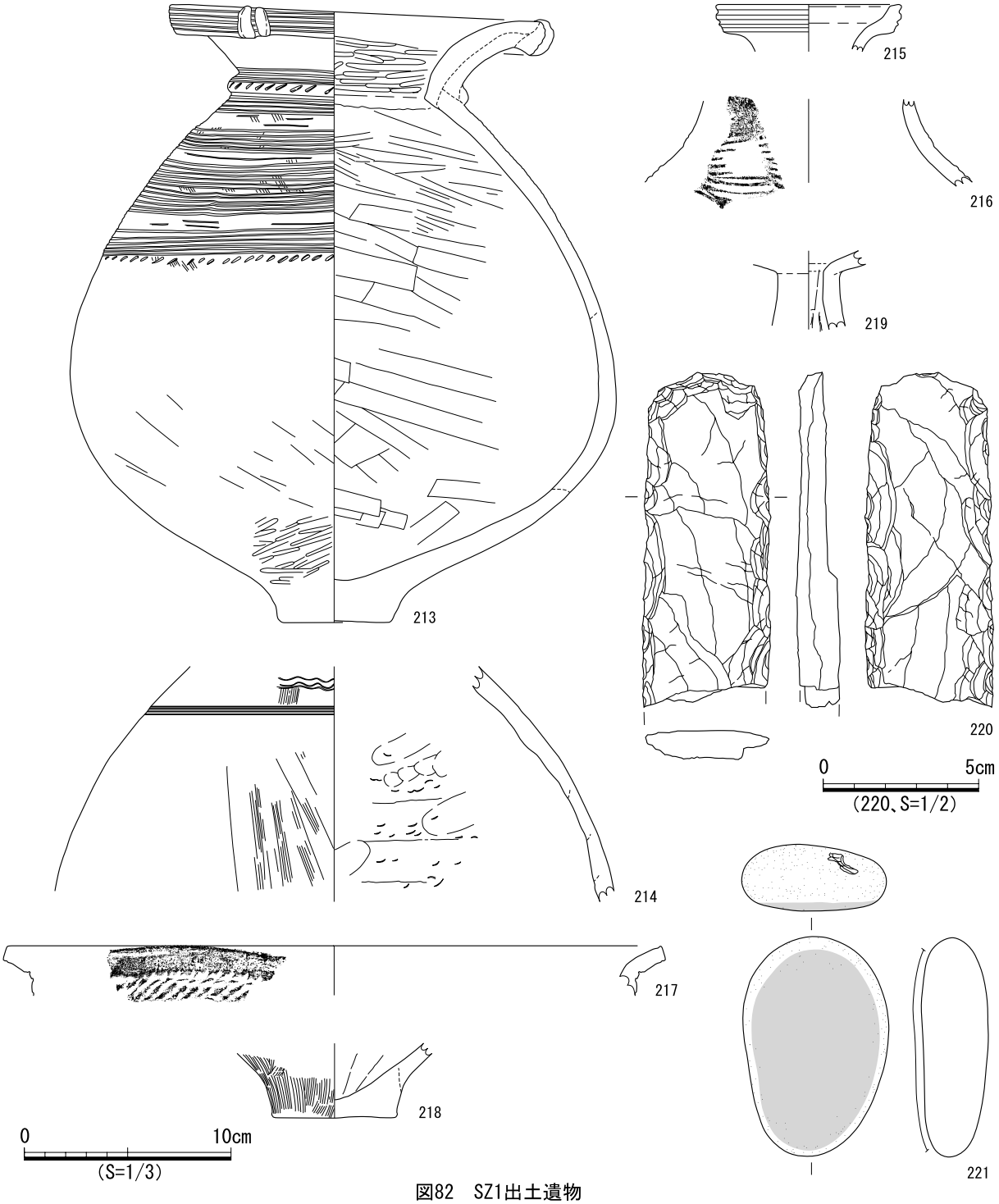



図82　SZ1出土遺物

断面形は、壁面傾斜のやや急な逆台形を呈する。底面は平坦である。埋没過程で方台部側と周溝外縁側から交互に土砂が流入しており、方台部側から流入している土は黒色土系（３・５・７層）で、周溝外縁部側から流入している土は下層から暗褐色土（８層）、黒褐色（６層）、黒色土（４層）である。

**遺物出土状況**　周溝埋土から縄文土器 45 点、弥生土器 78 点、古墳前期土師器類６点、古墳後期以降土師器類１点、時期不明土師器類 108 点、須恵器２点、石器 14 点が出土した。図 81 はⅢ期壺 A1 類(213)

の出土状況である。東溝の底面直上で、完形の壺が口縁部を北にして横位で出土した。

**出土土器**　213、214 はⅢ期壺 A1 類である。213 はやや下ぶくれの形状である。口縁部は大きく開き、端部は肥厚する。外面に擬凹線文が５条巡り、棒状浮文を貼り付ける。残存する浮文から４方向に貼り付けると思われる。端部下の張り出し部の折り返し部に斜方向の刻みが巡る。口縁部内面はヨコミガキを施す。頸部に突帯が巡り、突帯頂部に刻みが巡る。突帯上方の口縁部側に直線文が４条巡る。突帯下方から胴部の文様を開始する。上から直線文帯が５単位巡り、１単位は６条以上と思われる。その下に刺突列が巡る。その下は摩耗のため調整不明だが、底部近くに斜方向のミガキが残る。底部外面はややくぼむ。内面は板ナデで、上方は工具の柾目が強く残る。214 は口縁部が欠損する。胴部外面は、上から順に、波状文３条、直線文４条、ハケの痕跡である。内面はユビナデとユビオサエで、三日月状の爪痕が認められる。形状は下ぶくれである。215、216 はⅢ期壺Ｆ類である。215 は口縁部で、外面に凹線が３条巡る。頸部外面は板ナデ、内面はナデ調整する。口縁上端部に面をもつ。216 は肩部に横方向の条痕文が認められる。内面はナデ調整する。217 はⅢ期甕Ｃ類である。口縁部は屈曲して開き、端部に面をつくる。内面は板ナデ、外面は叩き調整する。218 はⅢ期甕 D1 類である。胴部外面はクシ条痕、内面はナデ調整する。底部外面は板ナデ調整する。内外面に黒斑がのこる。219 はⅢ・Ⅳ期器台である。中空部をもつ。外面は摩耗のため調整不明である。内面はナデ調整し、脚柱部内面に絞り込みが見られる。220 は打製石斧である。刃部が折損する。221 は磨石である。敲打痕はなく、磨面のみである。

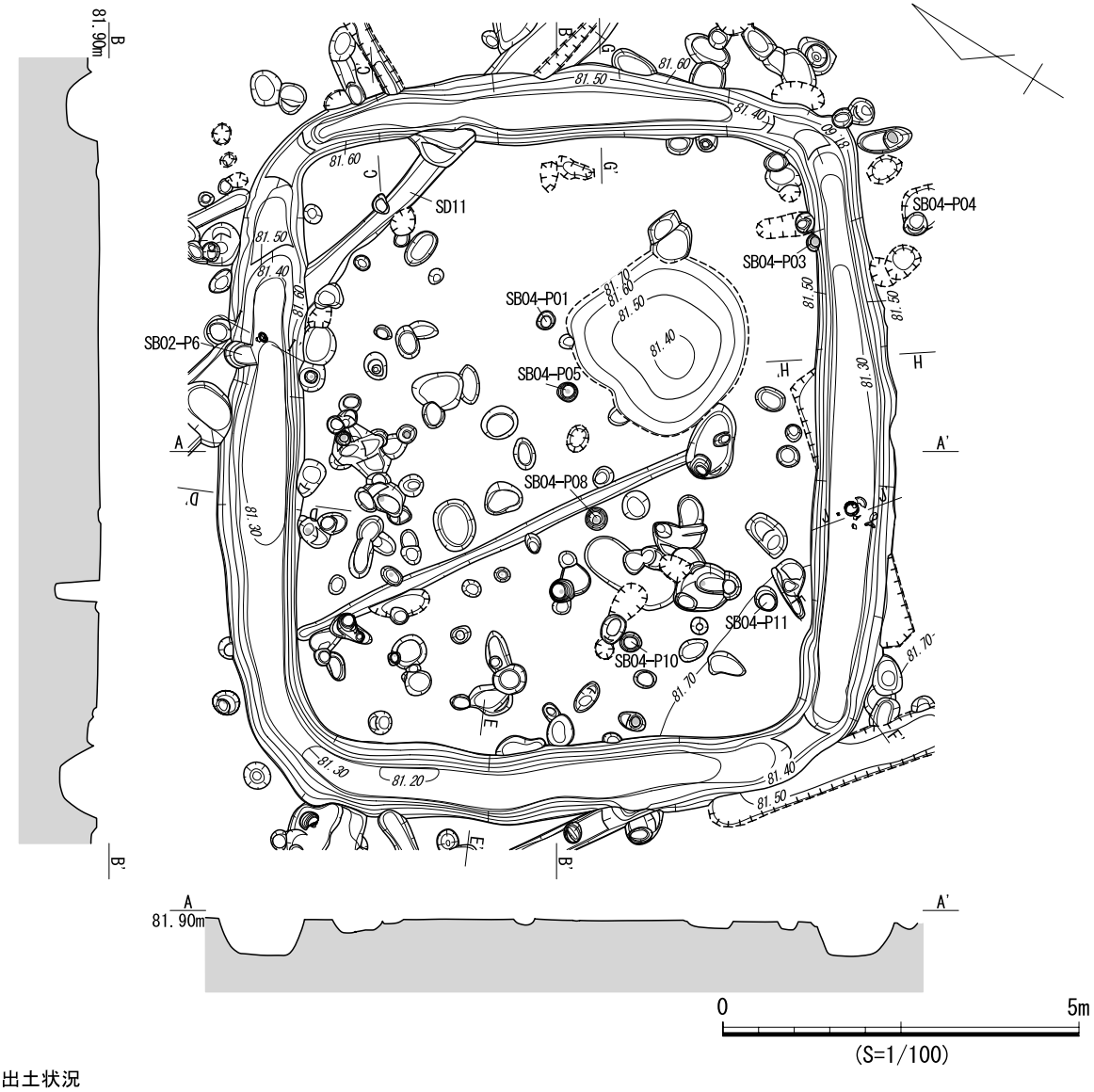
**時期**　周溝出土土器（6068）から東野Ⅲ期と判断した。

SZ2（図 83～86）（AS0129）

**検出状況**　Ｃ地点 KH１～KJ３グリッドで検出した方形周溝墓である。周溝北東辺中央部と南隅部を境に西側を平成 24 年度、東側を平成 25 年度に調査した。Ⅲ層上面で検出した。発掘区の最も標高の高い範囲から南西方向に向かってやや低くなる位置に構築される。

**方台部**　各辺は直線的で、隅部は丸い。長軸長は 9.06ｍ、短軸長は 7.51ｍで、平面形は北東－南西方向に長軸をもつ隅丸長方形である。長軸の方位はＮ－60°－Ｅである。墳丘盛土や主体部は残存しない。

**周溝**　４辺はそれぞれの辺の中央付近で最大幅、最深となる。周溝を含めた全体の形状は、やや丸みを帯びた長方形を呈する。隅部は、北・東・南でやや浅くなり、最深部と比較するとそれぞれ 0.3ｍ・0.3ｍ・0.2ｍ浅くなる。埋土は中央部がくぼむ堆積で、自然堆積と考えられる。北西溝（Ｄ－Ｄ’）は深さ約 0.5ｍで、断面形は壁面傾斜の急な逆台形を呈する。底面は平坦である。埋土上層で周溝外縁側からの土砂が流入が増加する。南西溝（Ｅ－Ｅ’）は深さ約 0.5ｍで、断面形は壁面傾斜のやや急な逆台形を呈する。底面は平坦である。方台部側崩落土と周溝外縁側流入土が交互に堆積しているが、方台部側崩落土が比較的厚く堆積する。北東溝（Ｇ－Ｇ’）は深さ約 0.4ｍで、断面形は壁面傾斜の急な逆台形を呈する。方台部側がやや緩やかである。底面は平坦である。埋土は、方台部側崩落土と周溝外縁側流入土が交互に堆積しており、方台部側崩落土が比較的厚く堆積する。南東溝（Ｈ－Ｈ’）は深さ約 0.4ｍで、断面形は壁面傾斜のやや緩やかな逆台形を呈する。方台部側の壁面傾斜の方が強い。底面は平坦である。埋没過程で方台部側崩落土と周溝外縁側流入土が交互に堆積しているが、方台部側崩落土が比較的厚く堆積する。Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。




遺物出土状況

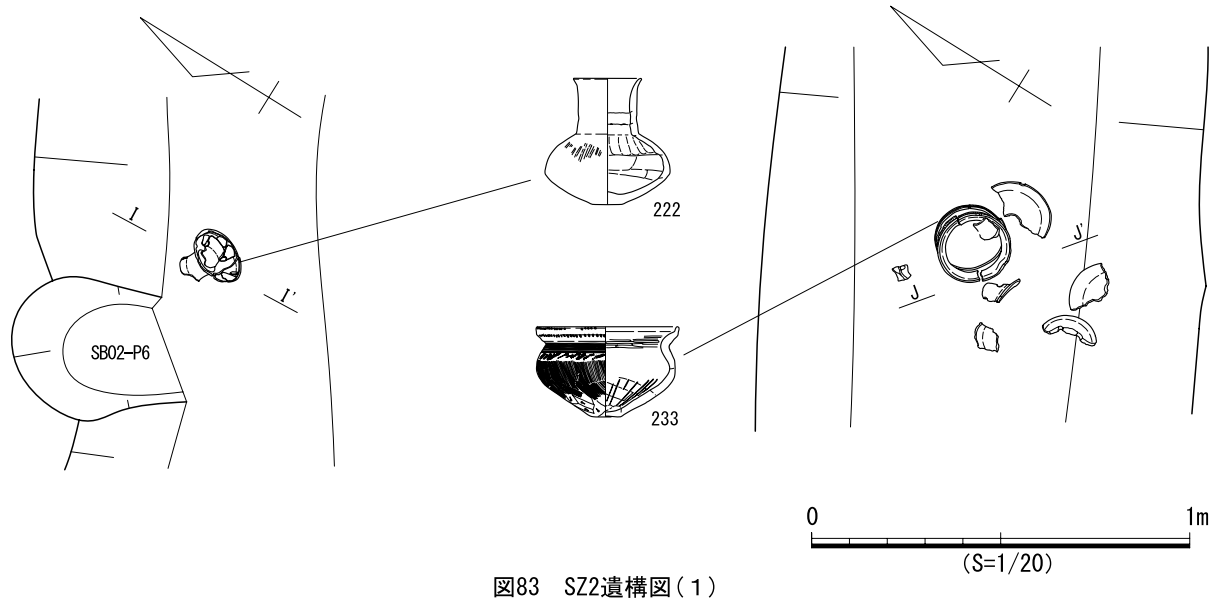
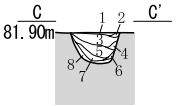
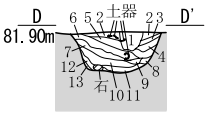


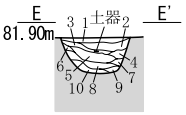

図83　SZ2遺構図（１）



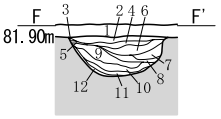

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック10%含む
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック3%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック1%含む
5　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック1%含む
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR2/2黒褐色土ブロック3含む
7　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック7%含む
8　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック10%含む



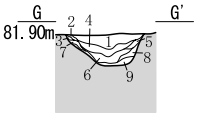

1　SB02-P5埋土
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
6　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
7　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
8　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
9　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
10 10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
11 10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径2cm以下の10YR4/4褐色土ブロック3%含む
12 10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
13 10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



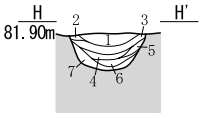

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/4褐色土ブロック3%含む
5　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/4褐色土ブロック1%含む
8　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
9　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
10 10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cmの10YR4/4褐色土ブロック3%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.1cm以下の10YR4/4褐色土ブロック3%含む（Ⅰ層）
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径5cm以下の10YR4/4褐色土ブロック15%含む
6　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
7　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
8　10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
9　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
10 10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
11 10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径2cm以下の10YR4/4褐色土ブロック7%含む
12 10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径2cm以下の10YR4/4褐色土ブロック10%含む




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR2/1黒色土ブロック10%含む
4　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
6　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック3%含む
7　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
8　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
9　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR2/1黒色土ブロック20%含む　下部10YR4/6　褐色土漸移層




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR2/1黒色土ブロック10%含む

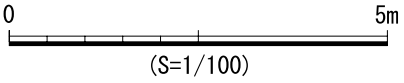



図84　SZ2遺構図（２）

**遺物出土状況**　周溝埋土から縄文土器 10 点、弥生土器 316 点、古墳前期土師器 54 点、古墳後期以降土師器類１点、時期不明土師器類 361 点、須恵器１点、灰釉陶器１点、山茶碗１点、石器 25 点が出土した。須恵器は南西溝最上層、灰釉陶器は検出面、山茶碗は北東溝最上層から出土した。図 83Ｉ－Ｉ’はⅢ期壺Ｅ類（222）の出土状況である。周溝底部から横位で出土した。ほぼ完形に復元できることから、壺底部は周溝の埋土圧によって潰れた可能性が考えられる。正位に起こすと、周溝底部最深部にほぼ位置する。図 83Ｊ－Ｊ’はⅢ期鉢（233）、高坏（取上番号 12482）の出土状況である。ともに周溝埋土中から出土した。鉢はほぼ完形で、高坏は小破片の状態で出土している。どちらも土器の下に周溝埋土を挟む。

**出土土器**　222 はⅢ期壺Ｅ類である。口縁端部で外反する。内外面は摩耗のため調整不明である。胴部は算盤玉の形状である。胴部外面にタテミガキが僅かに残る。内面上部は縦方向のナデ、下部は横方向にナデ調整する。223 はⅢ期壺Ｆ類の胴部である。胴部外面上から凹線２条、ハケ、簾状文の順に施す。内面はナデ調整する。224 はⅢ期甕Ａ類である。口縁部にクシ状工具による刺突列を施す。口縁端部外面はヨコナデによって刺突列の上部をナデ消す。胴部を同じ工具を使って、突き刺してから動かすため、刺突文状の痕跡が残る。内面はナデ調整する。225、226 はⅢ期甕 D1 類である。225 の口縁端部はナデ調整し、内面にクシ状工具による刺突列を施す。胴部外面はクシ条痕、内面は板ナデ調整する。底部は平底である。226 の外面はクシ条痕、内面はユビオサエで調整する。底部外面に布目痕が認められる。底部中央に焼成後穿孔がある。227 はⅢ期高坏Ｂ類である。口縁端部外面に直線文が３条巡る。その下にタテミガキを施す。内面端部にヨコミガキ、その下にタテミガキを施す。脚部は開く。透孔は２段３方向である。外面にタール状の煤が付着する。228 はⅢ期高坏Ｄ類である。口縁部が外反する。坏部内外面はタテミガキを施す。坏部内面に直線文３条、上端部に沈線１条、外面に沈線１条が巡る。229、230 はⅢ期器台である。229 の受部内外面は摩耗のため調整不明である。口縁部はやや波状になる。口縁端部で大きく外反する。脚端部で開き、強く外反する。透孔は１段４方向である。230 は脚部で、透孔は１段３方向である。外面はタテミガキを施す。裾端部に面をつくり、沈線が１条巡る。内面上部はヘラナデ、下部はヨコナデ調整する。231～233 はⅢ期鉢である。231 は口縁部が直線的にやや開く。口縁部内外面はヨコミガキを施す。胴部上半で最大幅となる。底部に向かって直線的にすぼむ。胴部上半はヨコミガキを施し、下半はクシ条痕である。内面はユビナデ調整する。底部外面に布目痕がある。232 は口縁部がやや受口状になる。口縁部外面はヨコナデ、稜部に刻みを施す。内面はヨコナデ調整する。胴部上半で最大幅となる。頸部以下に直線文が７条巡る。その下にクシ状工具による刺突列、その下から底部までタテミガキを施す。内面上部はヨコナデ、下部は縦方向に板ナデ調整する。底部外面に布目痕がある。233 は口縁部がやや受口状になる。口縁部外面はヨコナデ後、稜線上に刻みを２段施す。内面はヨコミガキを施す。頸部以下に直線文が 11 条巡る。その下に三日月状の刺突列１段、その下はクシ条痕である。最下段を縦方向にケズリ調整する。内面は上からヨコナデ、板ナデ調整し、その後間隔を空けて放射状にタテミガキを施す。底部外面に布目痕がある。内面に煤が付着する。234 はⅢ期ミニチュア土器でく字甕形である。口縁端部に刻みを施す。外面は摩耗のため調整不明である。内面に刺突列を施す。胴部外面はハケ、内面は板ナデ調整する。ハケは８本１単位である。235 は磨製石鏃未製品４類である。石材と斜方向の線状痕が確認できることから磨製石鏃未製品と判断した。基部に微細な抉りがあるが穿孔ではない。236 は石核Ｂ

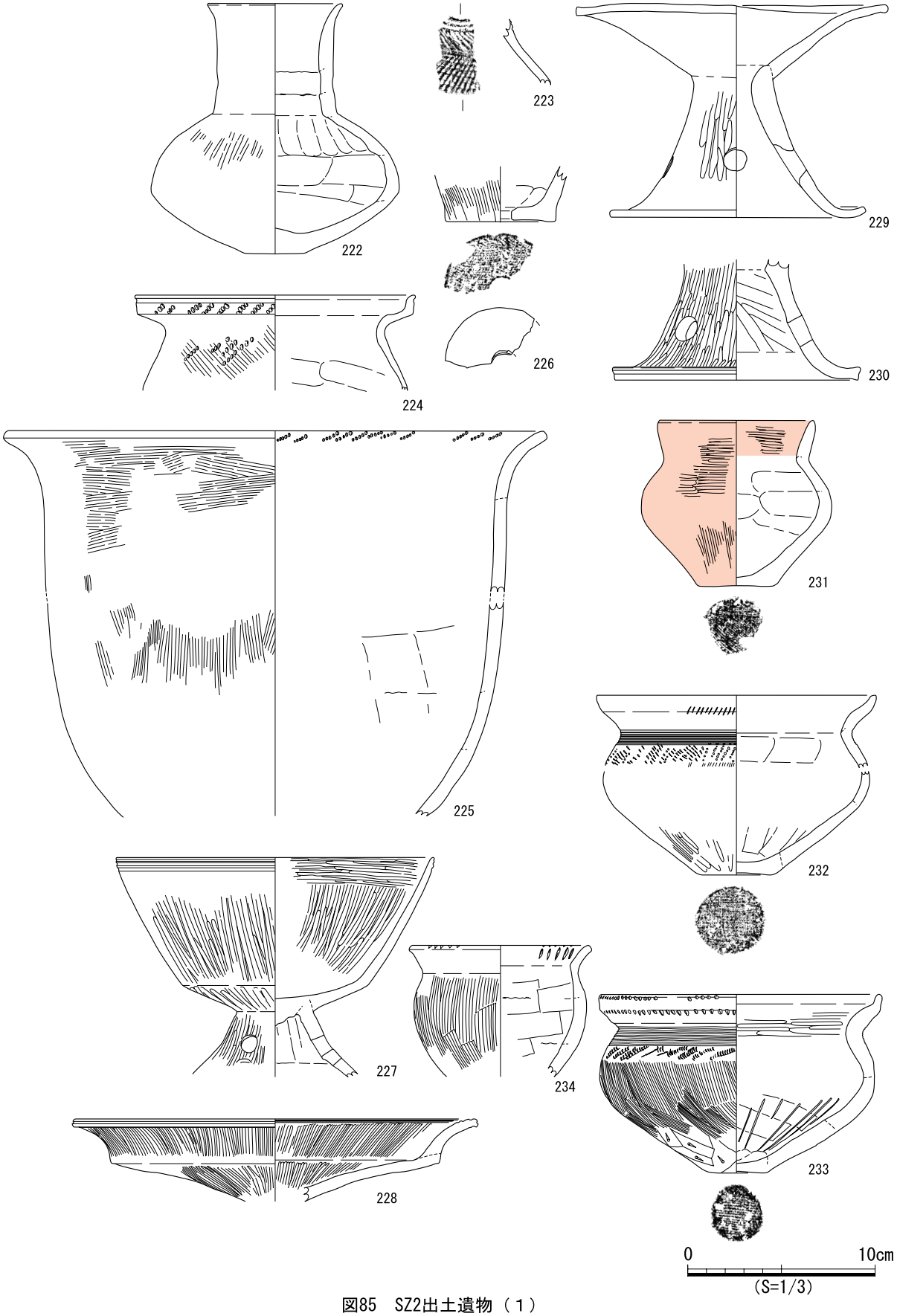



図85　SZ2出土遺物（１）

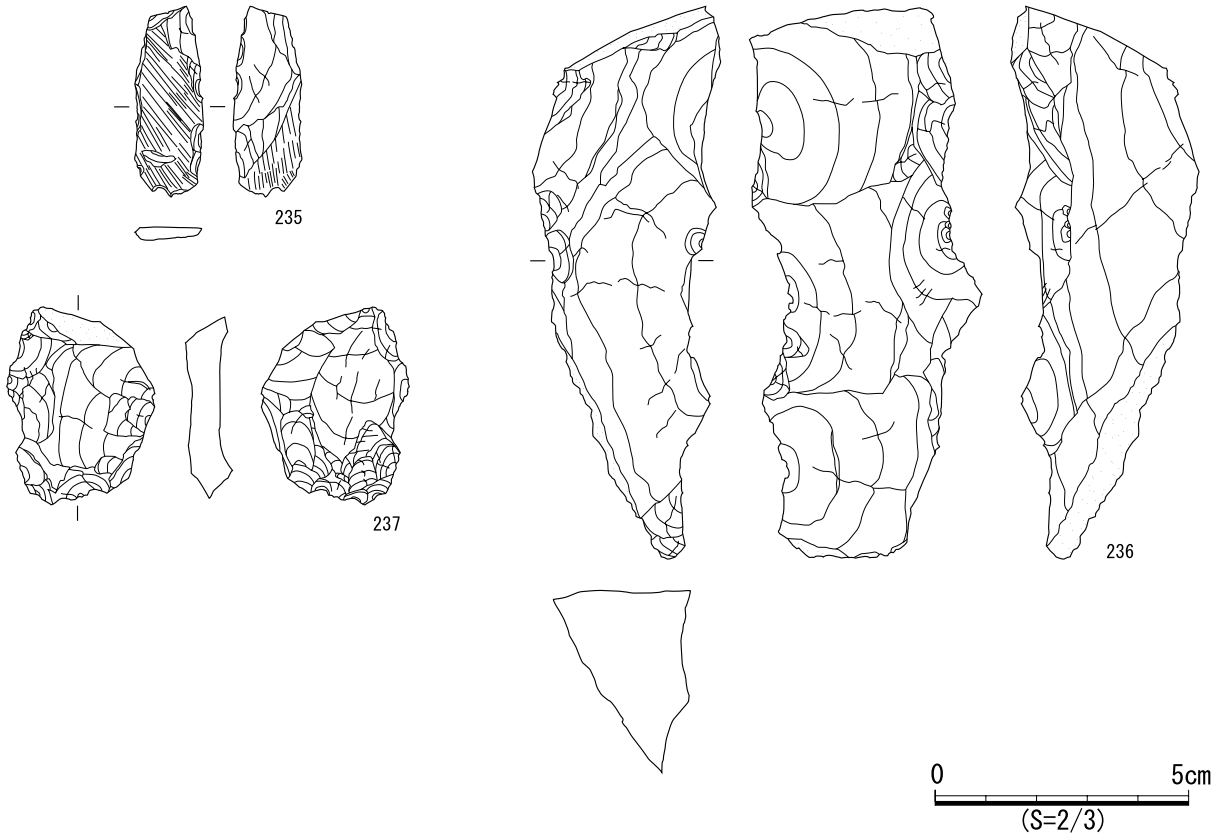



図86　SZ2出土遺物（２）

類である。縦長剥片で、横長剥片を４枚以上とる。側面は遠い打点から３枚並んで剥離させ、相対する面は１枚とる。237 はＲＦである。自然面が残る。自然面と相対する辺を二次調整する。

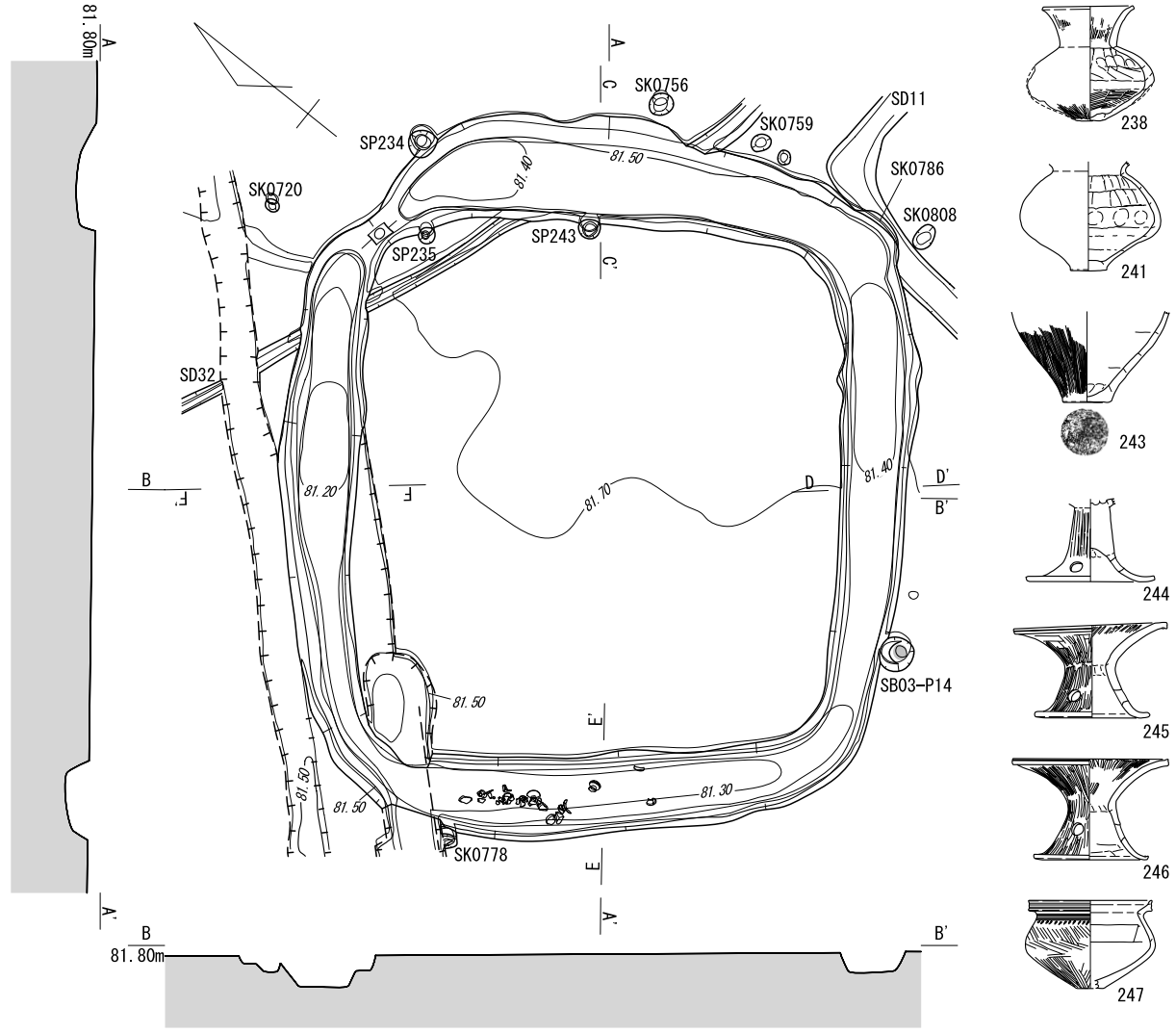
**時期**　周溝出土土器から東野Ⅲ期と判断した。

SZ3（図 87～89）(BS0139)

**検出状況**　Ｃ地点 JG17～JI19 グリッドで検出した方形周溝墓である。Ⅲ層上面で検出した。発掘区西寄りの最も標高の高い範囲から南西方向へ緩やかに下りはじめる斜面上に位置する。北西側の周溝は、近代から現代の溝に周溝や方台部の一部が切られ消失している。

**方台部**　４辺は直線的で、隅部は丸い。東西長 14.8m、南北長 12.28m で平面形は長方形である。長軸の方位はＮ－52°－Ｅである。墳丘盛土や主体部は残存しない。

**周溝**　４辺はそれぞれ辺の中央付近で最大幅となるが、最深部は北西辺と南西辺が中央、北東辺が北端、南東辺は南端である。北隅で溝幅は狭くなり底が浅くなる。周溝を含めた全体の形状は、やや丸みを帯びた長方形を呈する。埋土は中央部がくぼむことから自然堆積と考えられる。北東溝（Ｃ－Ｃ’）は深さ 0.42m で、壁面傾斜の急な逆台形を呈する。底面は平坦である。方台部側崩落土（５・６・７層）と周溝外縁側流入土（２・３・５層）が認められる。南東溝（Ｄ－Ｄ’）は深さ約 0.25m で、断面形は逆台形でⅥ層の露出により底面が二段となる。周溝外縁側流入土は認められず、方台部側崩落土（５・６・７層）が認められる。南西溝（Ｅ－Ｅ’）は深さ 0.21m で、断面形は逆台形で底面は方台部が深く周溝外縁側がやや浅い傾斜面となる。周溝外縁側からの流入土（２・８層）と方台部からの流入土（５・６・７層）が認められる。北西溝（Ｆ－Ｆ’）は深さ 0.28m で、断面形は壁面傾斜




遺物出土状況

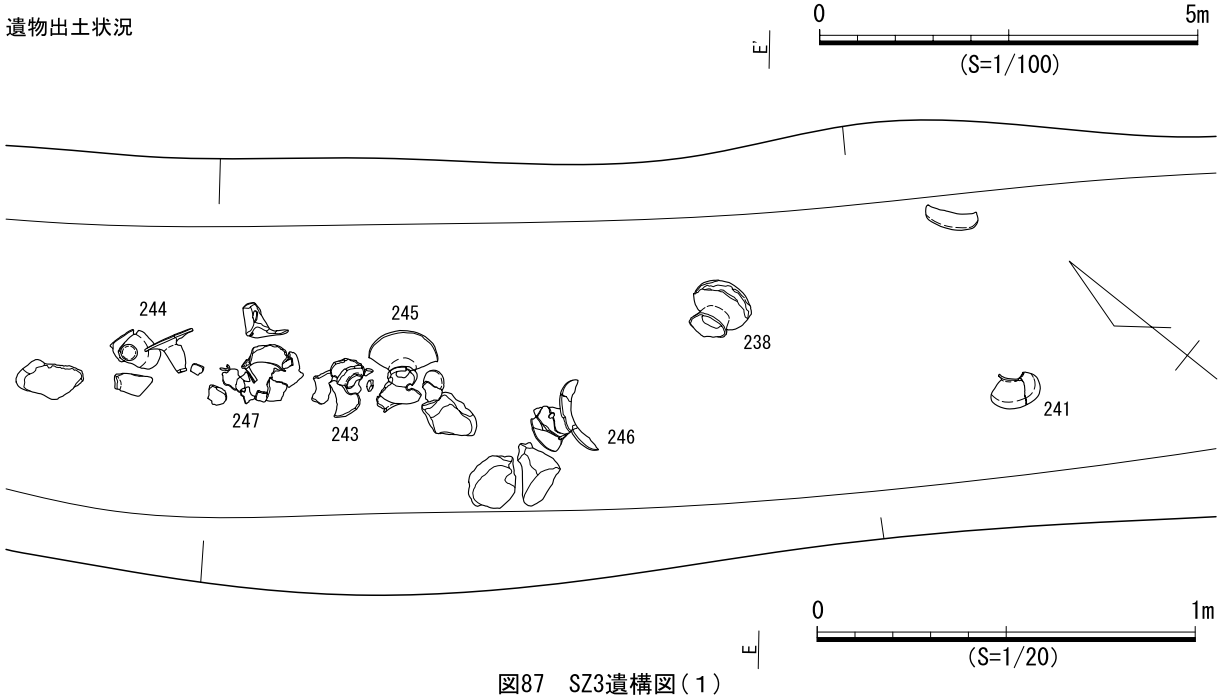
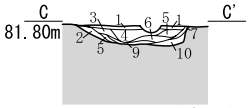
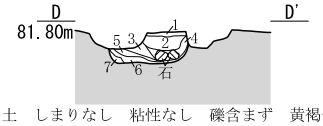


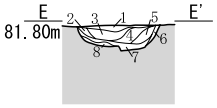

図87　SZ3遺構図（１）



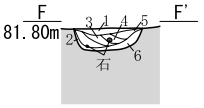

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
2　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック20%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック1%含む
4　7.5YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　7.5YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック10%含む
8　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック10%含む
9　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
10 10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



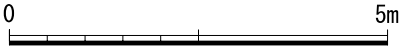

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック1%含む
2　7.5YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　径2cmの円礫含む
　黄褐色土ブロック1%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性ややあり　径12cmの円礫含む
　褐色土ブロック10%含む
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック5%含む
6　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック10%含む
7　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック5%含む
3　7.5YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
　黄褐色土ブロック均一に1%含む
5　7.5YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック5%含む
6　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック10%含む
7　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
8　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック10%含む




1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　黄褐色土ブロック1%含む
5　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性ややあり　径5cmの円礫含む
　黄褐色土ブロック1%含む
6　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　径2cmの円礫含む




(S=1/100)

**図88　SZ3遺構図（２）**

の急な逆台形を呈する。底面は平坦である。周溝外縁側流入土（５・６層）と方台部側崩落土（２・３層）が認められる。Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。

**遺物出土状況**　周溝埋土から縄文土器 58 点、弥生土器 146 点、古墳前期土師器３点、時期不明土師器類 208 点、礫１点、石器 14 点が出土した。南東辺の中央から南寄りの周溝で、高坏、器台、壺等の弥生土器が出土した。これらは底面から約 0.05m浮き、周溝土層３層に含まれる。また、破片は溝の深いところに広がっているものが多い。

**出土土器**　238、239 はⅢ期壺Ｆ類である。238 の口縁部は外反し、端部に面をもつ。胴部口縁部内外面はタテミガキを施す。胴部は算盤玉状である。胴部外面上半は摩耗のため調整不明で、下半はタテミガキを施す。内面上部はナデ、中程は板ナデ、下部はハケである。底部内面中央部がくぼむ。239 は口縁部が大きく開く。端部外方に面をつくり、縦方向の刻みが巡る。頸部は縦方向にハケ調整し、胴部との境に直線文が４条巡る。内面は剥離のため調整不明である。240 はⅢ期壺Ｃ類である。内面はナデ後端部に波状文を施す。外面端部に面をつくり、右下がりの刻みを施す。頸部から下は条痕文で、外面に煤が付着する。241 はⅢ期壺類である。胴部は袋状である。外面は摩耗のため調整不明である。内面はナデとユビオサエで調整する。頸部近くの内面に絞り込みがある。底部がやや突き出る。胴部形状から壺Ｊ類の可能性が高い。242 はⅢ期壺類の口縁部である。口縁端部が肥厚する。口縁部は屈曲して受口状になる。口縁端部上面に面を持ち、刻みを施す。古井式に比定できる。243 はⅢ期甕 D1 類である。胴部外面はクシ条痕、内面はナデ調整する。底部内面はユビオサエ、外面に布目痕が残る。被熱により器面全体が赤色化する。244 はⅢ期高坏である。脚部と裾部の屈曲部に透孔が１段

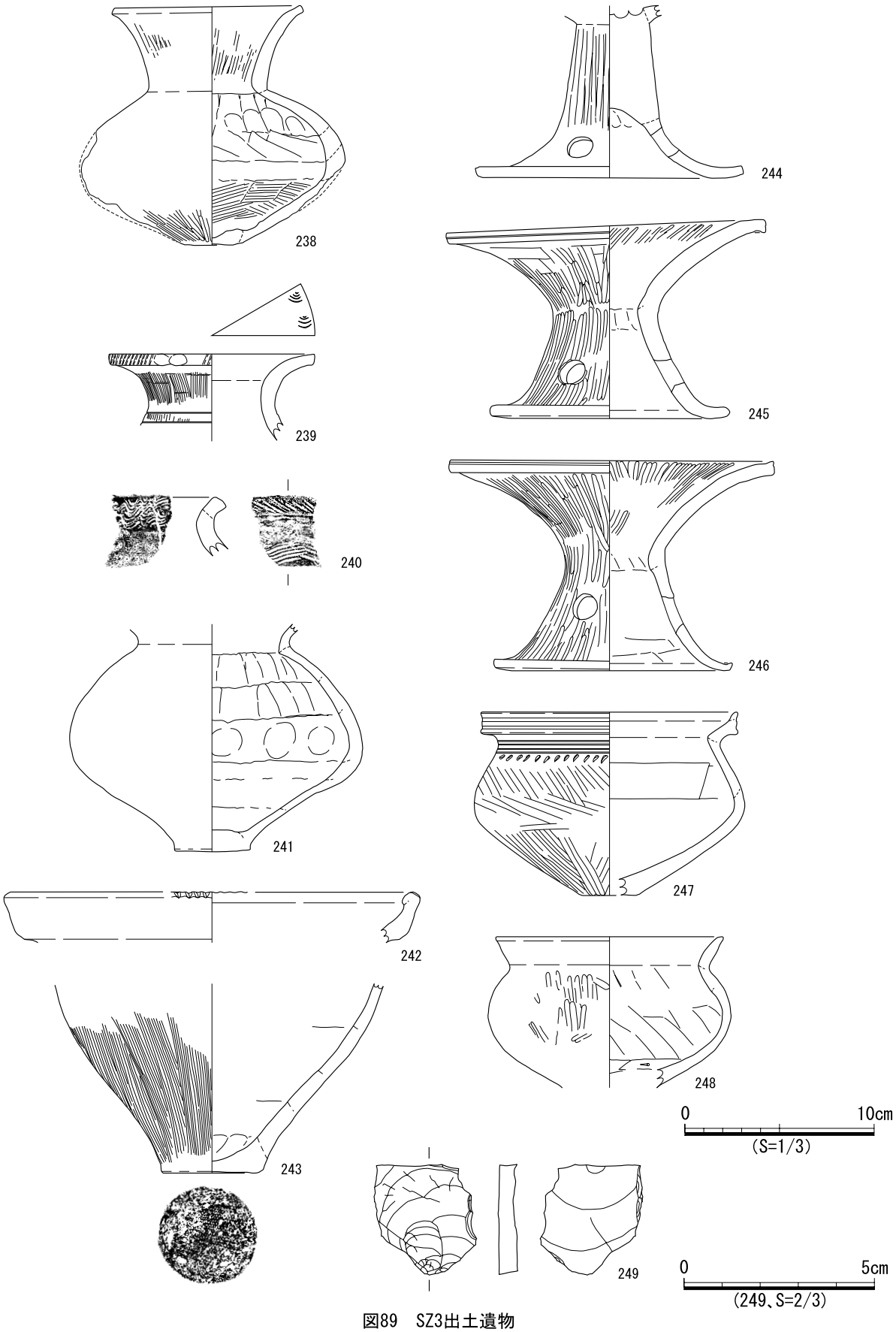

238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
0
10cm
(S=1/3)
0
5cm
(249、S=2/3)

図89　SZ3出土遺物

３方向ある。外面はミガキを施す。内面はナデとユビオサエで調整する。裾端部外反し、はねあげ状になる。245、246 はⅢ期器台である。外面と内面受部はタテミガキを施す。脚部内面は 245 がナデ、246 が板ナデ調整する。口縁端部外方に面を持ち、沈線が１条巡る。脚部は外反し、端部でやや跳ね上げるが、246 の方がつまみ上げは強い。透孔は１段３方向である。247、248 はⅢ期鉢である。247 は口縁部が受口状である。口縁端部外方に面をもち、擬凹線が４条巡る。胴部は、上から直線文４条、右上がりの刺突列、ハケとなる。口縁部内面はヨコナデ、胴部内面は板ナデ調整する。外面に煤が付着する。248 はやや小型である。口縁部は開き気味で小さく外反する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胴部外面全体にタテミガキの痕跡が残るが、明瞭ではない。内面は板ナデ調整する。胴部外面下半から底部にかけてケズリ調整する。249 はＲＦである。表面はポジ面を加工する。右側縁部も加工する。背面は層理面である。

**時期**　周溝出土土器から東野Ⅲ期と判断した。

### ３　掘立柱建物

当該期の掘立柱建物を１棟確認した。

SB07（図 90～92）

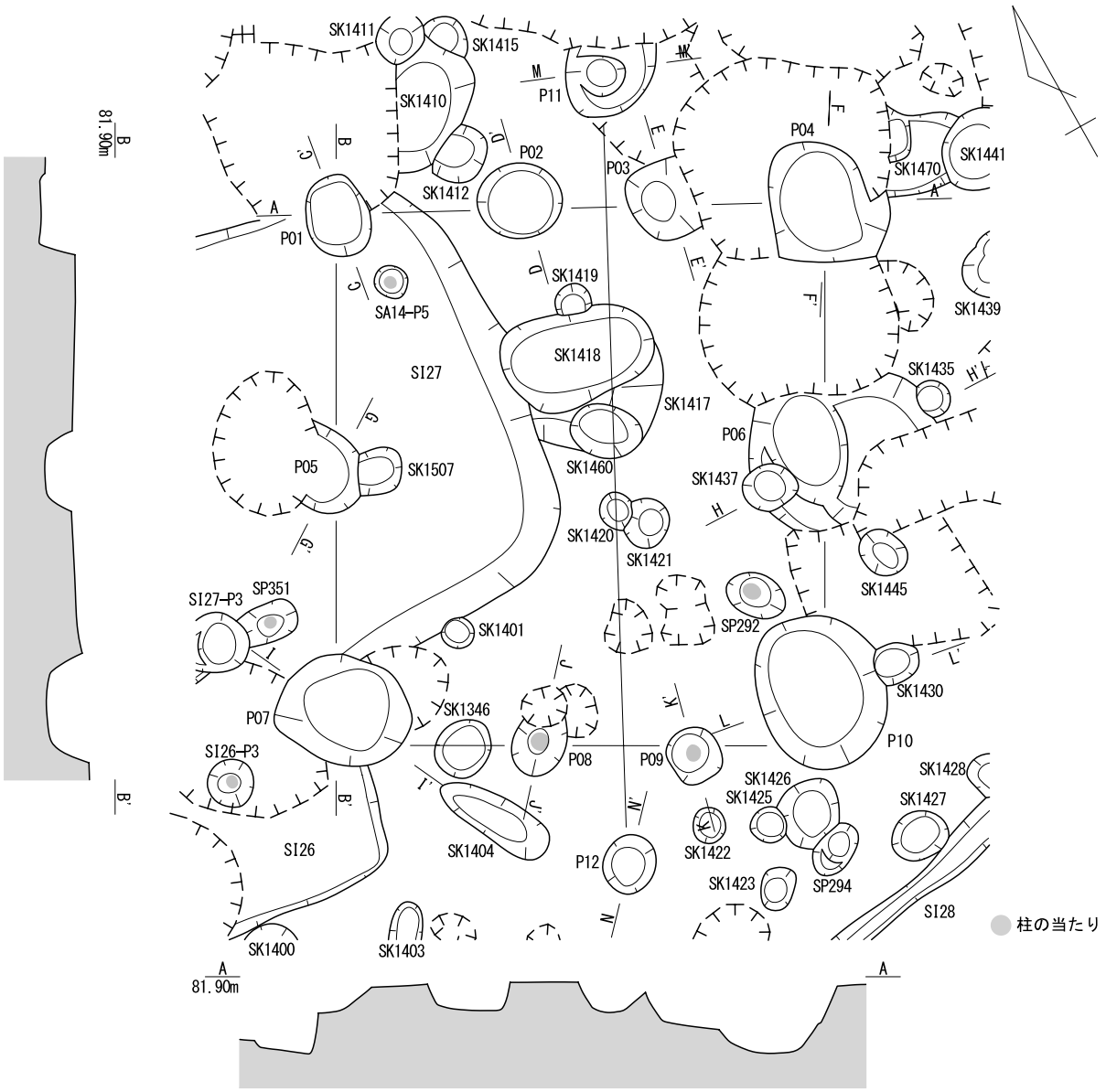
**検出状況**　Ｃ地点 KD５～KE６グリッドで検出した独立棟持柱建物である。SI26、SI27 の貼床下で柱穴を検出したことから SB07＜SI26・SI27 と判断した。平面形は長方形で、桁行２間（3.84m）×梁行３間（3.54m）、床面積 13.6 ㎡を測る。桁行の主軸はＮ－29°－Ｅである。

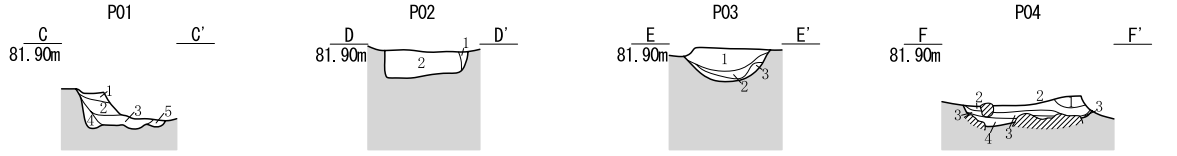
**柱穴**　12 基の柱穴を検出した。Ｐ01、Ｐ05 は SI27 床下で検出した。Ｐ07 は SI26 と重複し、Ｐ07＞SI26 として掘削したが、土層断面で SI26 の立ち上がりと貼床状の暗褐色土ブロックを含む層を確認したことから、Ｐ07＜SI26 と再判断した。Ｐ02、Ｐ03 は他の柱穴と比較すると浅いことから、SB07 を構成する柱穴ではない可能性もある。この場合、相対するＰ08、Ｐ09 も SB07 を構成する柱穴ではない可能性もある。柱穴の規模は、直径 0.43～1.37m、深さ 0.14～0.49mを測る。Ｐ08、Ｐ09 に明瞭な柱痕跡が、Ｐ08、Ｐ09、Ｐ11 に柱の当たりが確認できる。柱径は 0.11～0.15mと想定できる。柱間は、桁行がＰ01－Ｐ05 で 1.96m、Ｐ05－Ｐ07 で 1.88m、梁行がＰ01－Ｐ02 で 1.34m、Ｐ02－Ｐ03 で 1.00m、Ｐ03－Ｐ04 で 1.20m、棟持柱間はＰ11－Ｐ12 で 5.74mとなる。

**遺物出土状況**　Ｐ01 上層から縄文土器１点、Ｐ02 上層から時期不明土師器１点、Ｐ03 上層から古墳後期以降土師器１点、Ｐ06 上層から縄文土器３点・時期不明土師器４点、下層から弥生土器１点、Ｐ08 上層から縄文土器１点、Ｐ10 上層から縄文土器４点・土製品１点・鉄製品１点、Ｐ11 上層で時期不明土師器１点が出土した。

**出土遺物**　Ｐ06 出土の弥生土器はⅢ期甕 D2 類の胴部片で、条痕文を施す。250 は東海地方西部にみられない縄文土器深鉢の頸部から口縁部文様帯下部である。区画内に斜方向の短沈線を充填する。区画間と区画下に蕨手状文を施す。251 は土偶頭部である。前面は面的にはがれる。天部は皿状にくぼませる。背部中央に隆起する部分がある。その左右をくぼませる。天部の皿状のくぼみと背部の隆起が 69 と似ることから土偶と判断した。

**時期**　SI27 に切られることからⅢ期以前となる。出土遺物は縄文土器が多いが、埋土下層出土遺物に弥生土器が含まれる。よって東野Ⅲ期と判断した。




1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず 径0.2cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック15%含む
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　10%含む炭化物極少量混じる
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR2/1黒色土ブロック5%含む

1　10YR3/3　暗褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

図90　SB07遺構図（１）

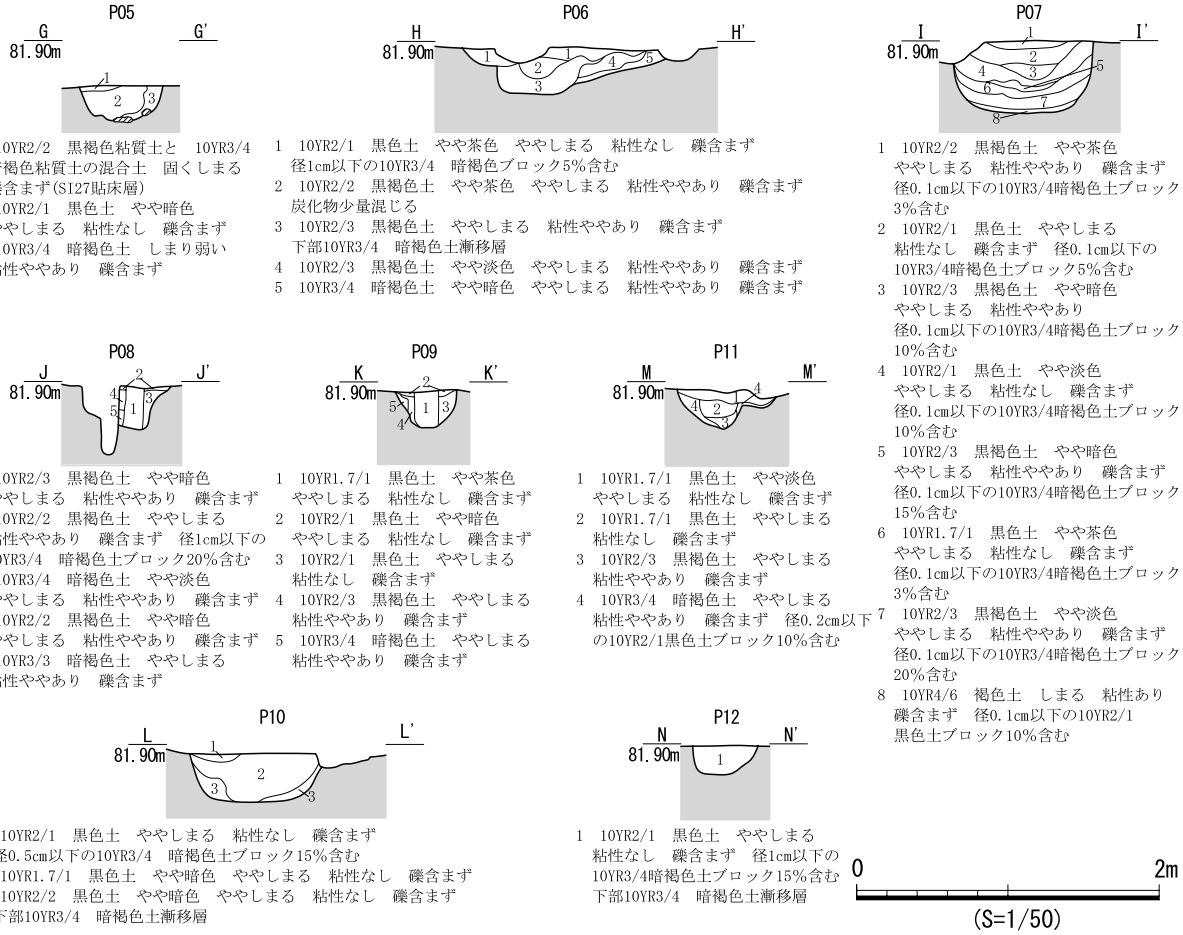



図91　SB07遺構図（２）

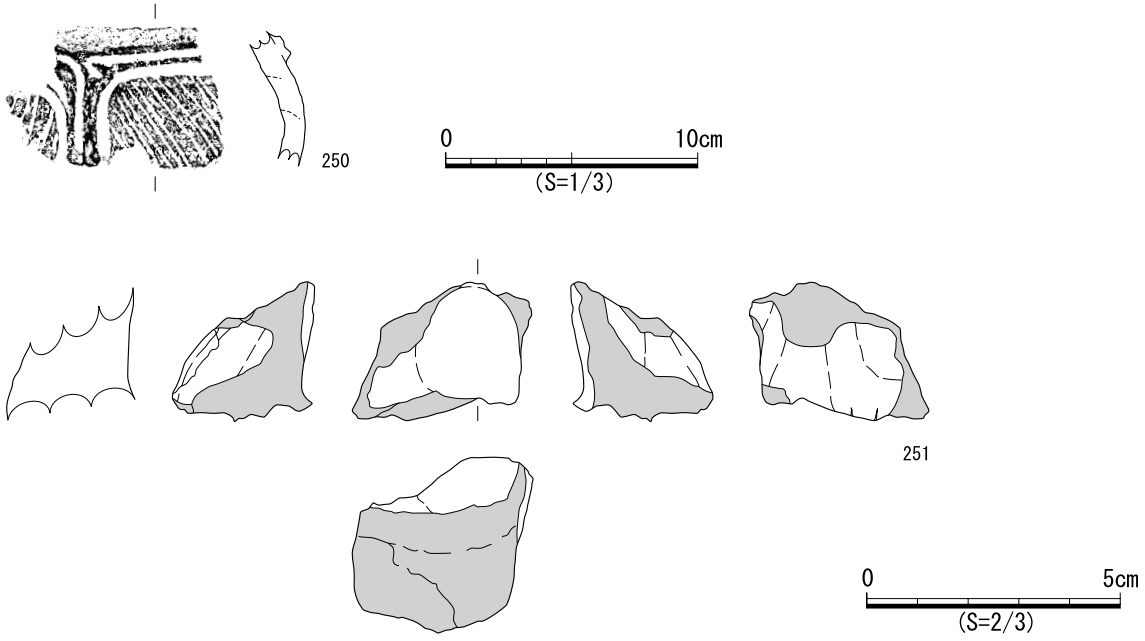



図92　SB07出土遺物

## ４　柵

当該期の柵を４列確認した。

### SA03（図 93）

**検出状況**　Ｃ地点 KI１～KJ１グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴がＬ字状に位置することから柵と判断した。SA01-Ｐ5 を SZ２周溝肩部で検出したことから、SA03＜SZ２と判断した。長辺の長さは 3.72ｍ、短辺の長さは 1.80ｍを測る。柱間は、Ｐ１－Ｐ５で 1.80ｍ、Ｐ５－Ｐ３で 1.92ｍ、Ｐ３－Ｐ４で 0.92ｍ、Ｐ４－Ｐ２で 0.88ｍである。長辺の方位はＮ－36°－Ｅである。

**柱穴**　５基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.19～0.34ｍ、深さ 0.10～0.24ｍを測る。Ｐ４、Ｐ５で柱痕跡を確認し、柱径は 0.05～0.10ｍと想定できる。Ｐ１～Ｐ３は、柱痕跡は確認できなかったが、底部や最下層下部に柱の当たりを確認したことから柱穴と判断した。

**遺物出土状況**　Ｐ３下層から縄文土器１点、Ｐ４上層から古墳前期土師器１点・時期不明土師器１点、Ｐ５上層から弥生土器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器（取上番号 6962）はⅢ期甕 D1 類の胴部片で、外面はハケ調整する。古墳時代前期土師器（取上番号 4057）はⅣ期甕Ｃ類の胴部片で、外面はハケ調整し、頸部の沈線が一部残る。

**時期**　SZ２に切られることから東野Ⅲ期以前の可能性が高いと判断した。

### SA06（図 93・108）

**検出状況**　Ｃ地点 JJ19～JK19 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴がＬ字状に位置することから柵と判断した。Ｐ２、Ｐ３が SI08 を切ることから SA06＞SI08 と判断した。長辺の長さは 3.02ｍ、短辺の長さは 2.40ｍを測る。柱間は、Ｐ１－Ｐ４で 1.44ｍ、Ｐ４－Ｐ５で 1.58ｍ、Ｐ５－Ｐ２で 1.32ｍ、Ｐ２－Ｐ３で 1.08ｍである。長辺の方位はＮ－42°－Ｅである。

**柱穴**　５基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.24～0.68ｍ、深さ 0.13～0.40ｍを測る。Ｐ4 以外の柱穴で柱痕跡を確認し、柱径は 0.06～0.10ｍと想定できる。

**遺物出土状況**　Ｐ３上層から縄文土器１点・弥生土器１点、Ｐ４上・中層から弥生土器 97 点、炭化物５点が出土した。Ｐ４からⅢ期壺Ｇ類（252）が出土した。破片を中層から上層に向かって積み重ねた状態で出土し、ところどころ炭化物の小片が混じる。

**出土遺物**　252 はⅢ期壺Ｇ類である。器面・断面の摩耗が激しく、１個体であるが部位や接合部が不明なものがほとんどであるため、合成して実測した。口縁部は受口状で、外面に僅かに凹線が残る。胴部外面は上から波状文３条、直線文４条、ハケ後直線文を施す。底部は平底である。

**時期**　SI08 を切ることとＰ４出土遺物から東野Ⅲ期以降と判断した。

### SA11（図 94）

**検出状況**　Ｃ地点 JI16～JJ18 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴が直線状に位置することから柵と判断した。長さは 6.56ｍを測り、柱間は、Ｐ１－Ｐ２で 1.90ｍ、Ｐ２－Ｐ３で 1.20ｍ、Ｐ３－Ｐ４で 1.64ｍ、Ｐ４－Ｐ５で 1.82ｍである。長辺の方位は、Ｎ－52°－Ｗである。

**柱穴**　５基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.24～0.40ｍ、深さ 0.15～0.40ｍを測る。Ｐ４、Ｐ７底で柱の当たりを確認した。Ｐ１北西側で SK0733、SK0829 が柱筋に載るが、それぞれ柱痕跡や柱の当たりが確認できなかったため SA11 を構成する柱穴ではないと判断した。

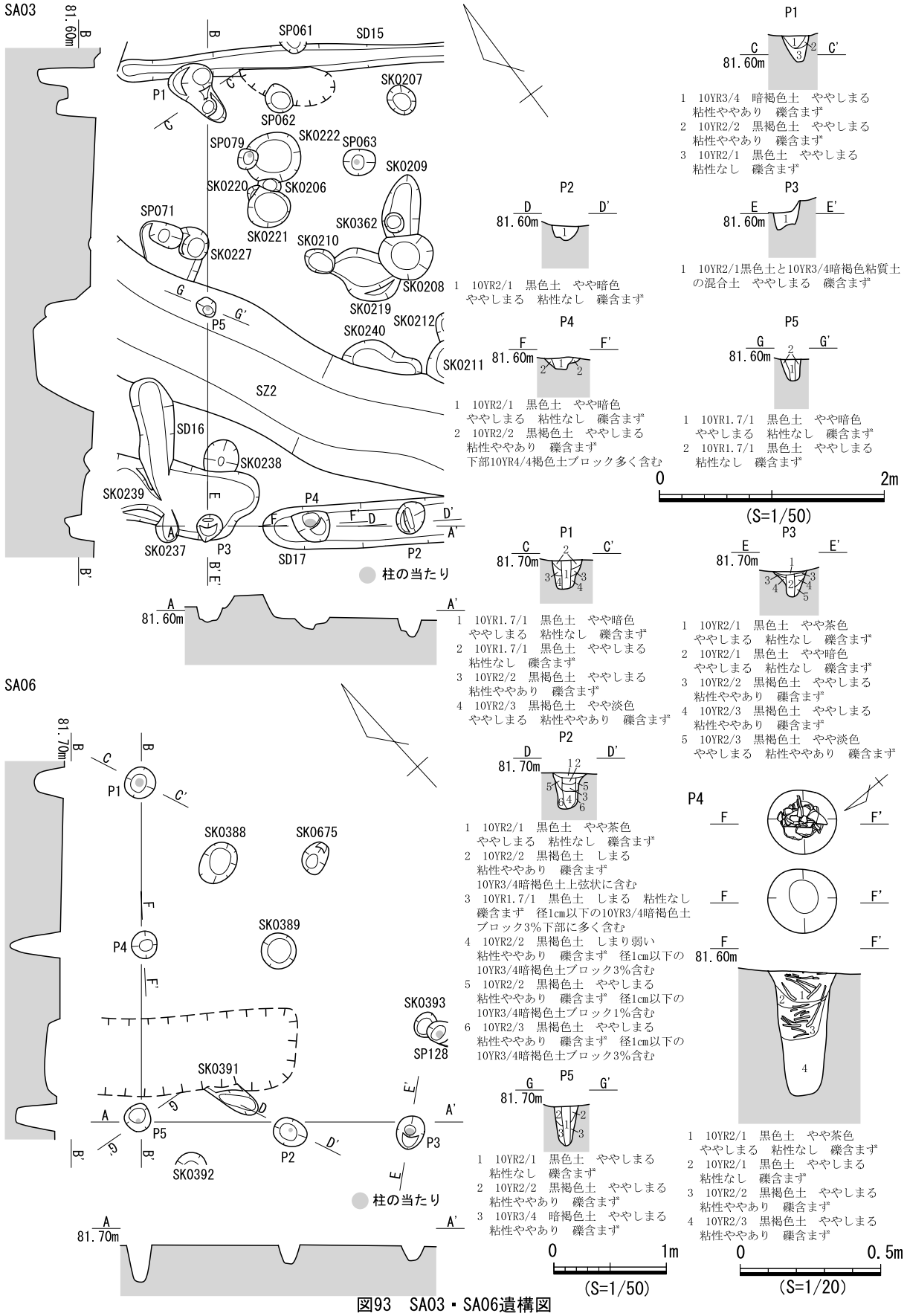



図93　SA03・SA06遺構図

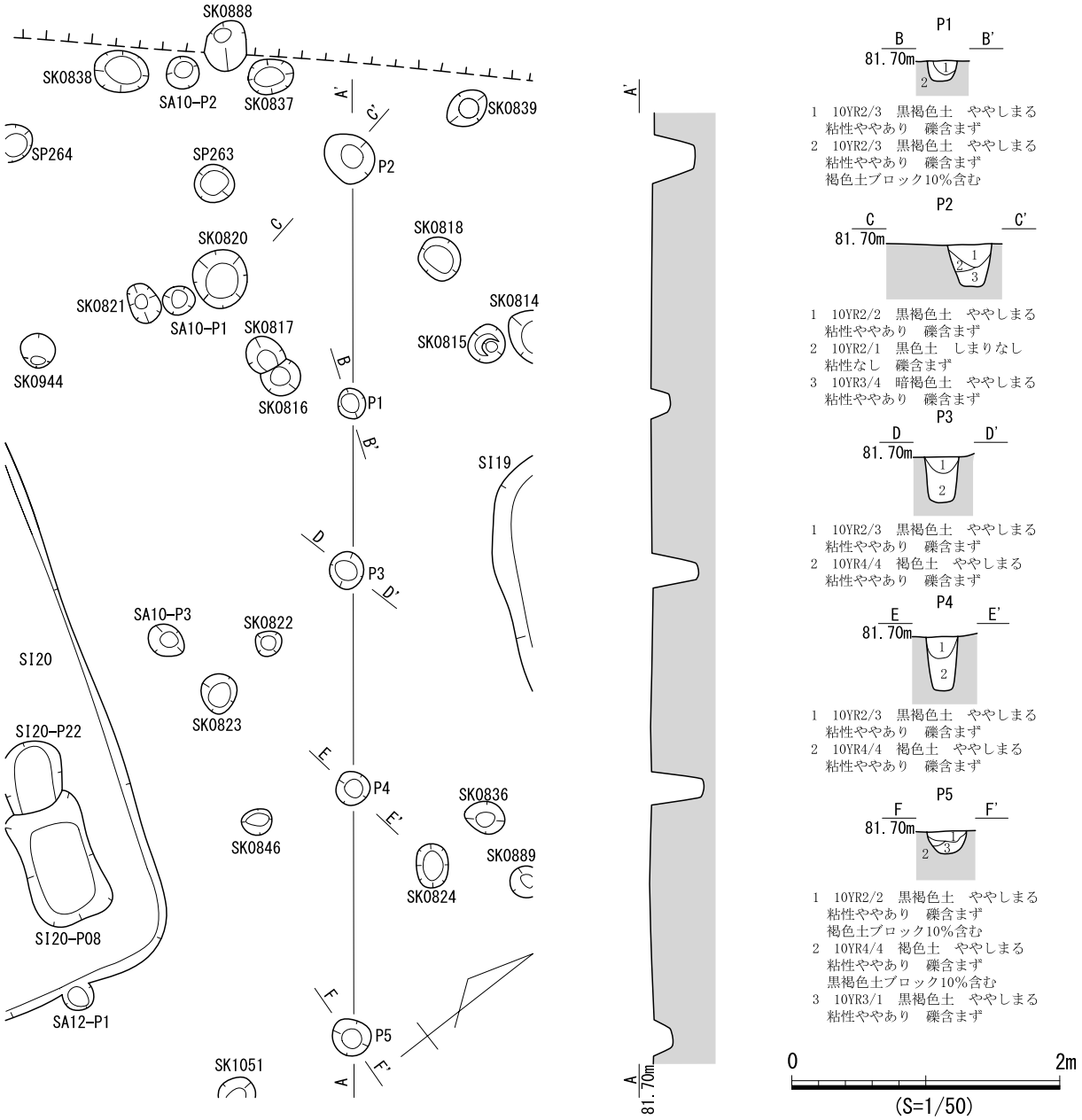



図94　SA11遺構図

**遺物出土状況**　Ｐ１上層から縄文土器３点・弥生土器１点・時期不明土師器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器（取上番号 21923）はⅢ期甕 D1 類の胴部片で、外面は摩耗するがハケ調整が残る。

**時期**　出土遺物から、東野Ⅲ期以降の可能性が高いと判断した。

SA15（図 95）

**検出状況**　Ｃ地点 KH６～KI７グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴がＬ字状に位置することから柵と判断した。南東部が発掘区外のためＰ１、Ｐ４から南東へ延びる可能性があること、Ｐ１から北東に向かう延長線上に柱穴が確認できなかったことから、発掘区外へ延びる掘立柱建物になる可能性もある。長辺の長さは 4.92m、短辺の長さは 2.90mを測り、長辺の柱間はＰ１－Ｐ２で 2.60m、Ｐ２－

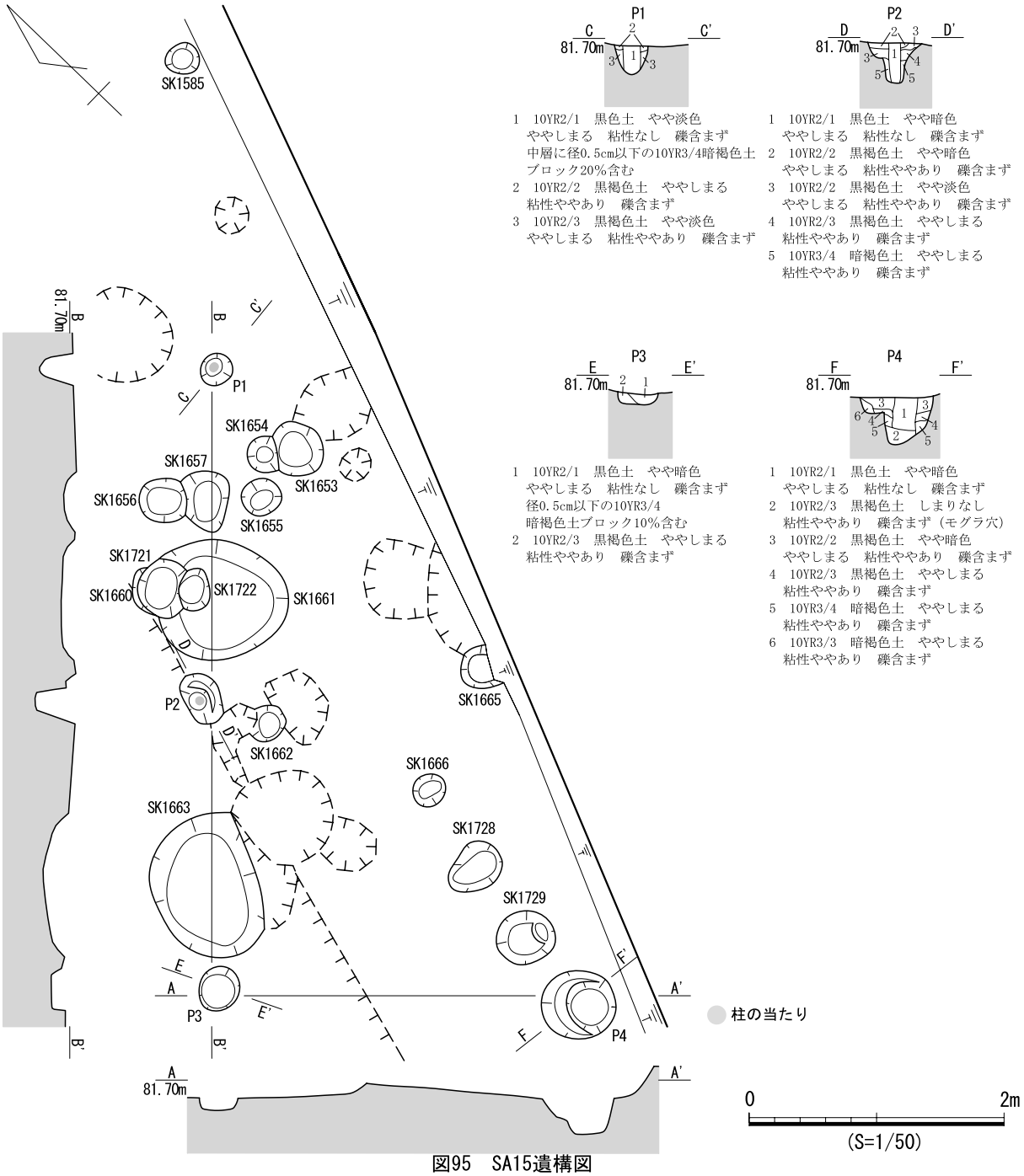



図95　SA15遺構図

Ｐ３で2.32ｍである。長辺の方位はＮ－28°－Ｅである。

**柱穴**　４基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径0.26～0.58ｍ、深さ0.08～0.37ｍを測る。Ｐ１、Ｐ２、Ｐ４で明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は0.09～0.17ｍと想定できる。

**遺物出土状況**　Ｐ４下層から弥生土器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。Ｐ４下層出土の弥生土器（取上番号 11414）はⅢ期壺Ａ類の胴部片で列点文が施される。

**時期**　出土遺物から、東野Ⅲ期以降の可能性が高いと判断した。

## ５　溝状遺構（図 96）

当該期に関連すると判断した溝状遺構は６条である。通水の痕跡はない。６条ともにⅢ期に属する遺構との重複関係や出土遺物によって、Ⅲ期以降の溝状遺構と判断した。

## ６　柱穴（図 97～101）

当該期に関連すると判断した柱穴は 85 基である。Ⅲ期に属する遺構との重複関係や出土遺物によって、Ⅲ期に関連する柱穴と判断した。以下、特徴的な柱穴について記述する。

### SP385（図 100）（AS2581）

**検出状況**　Ｃ地点 KI４グリッド、SZ２周溝北東隅部の浅い底面で検出した。平面形は円形で、やや浅い穴である。

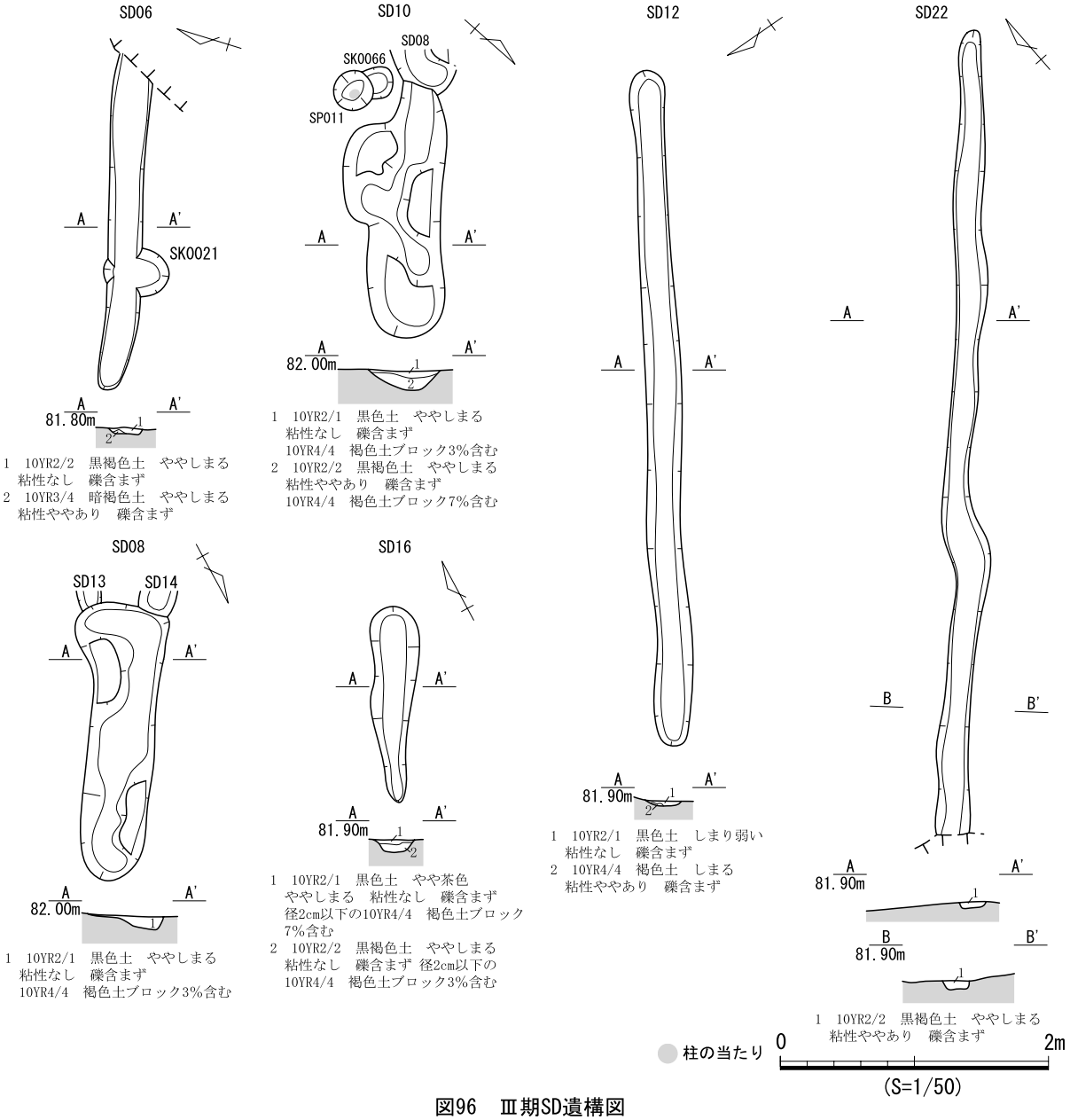
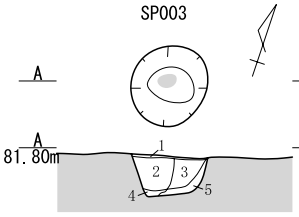
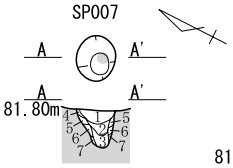


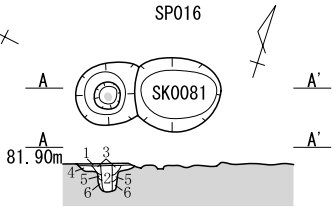

図96　Ⅲ期SD遺構図



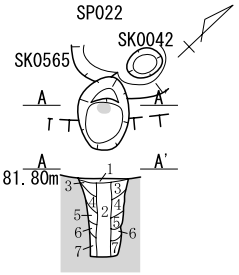

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR1.7/1　黒色土　しまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



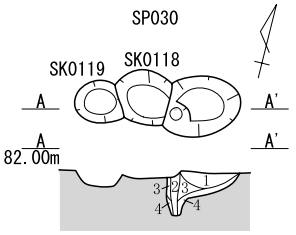

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
7　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



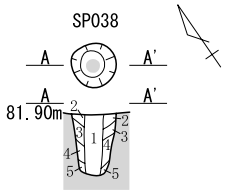

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



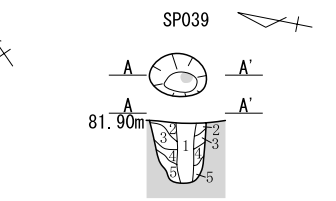

1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　しまり弱い
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
7　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



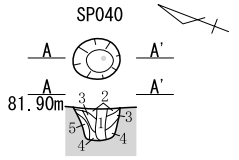

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



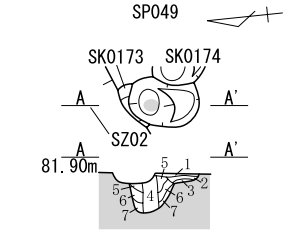

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
しまり弱い　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　10YR4/4
褐色土ブロック5%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
10YR4/4　褐色土ブロック10%含む



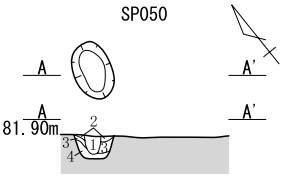

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



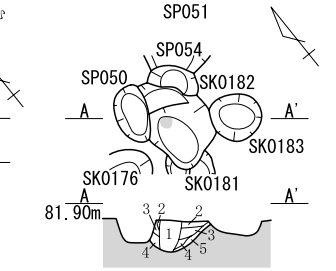

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



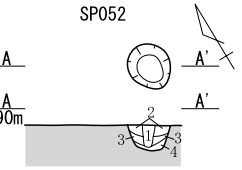

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



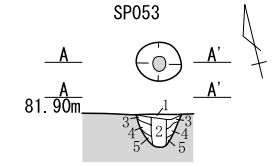

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒褐色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



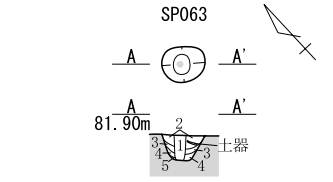

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



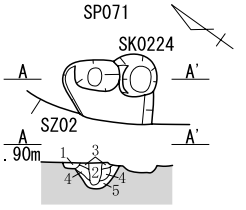

1　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



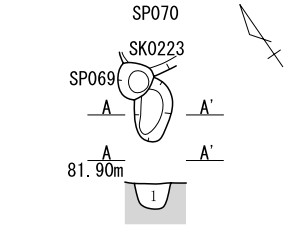

1　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　しまり弱い
粘性なし　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR1.7/2　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR1.7/1　黒色土　しまり弱い
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

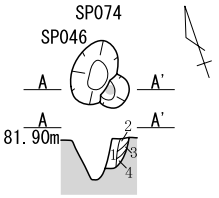



1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず

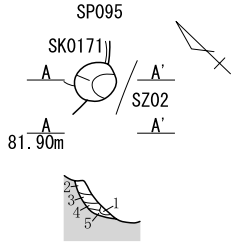
0　2m
(S=1/50)

柱の当たり

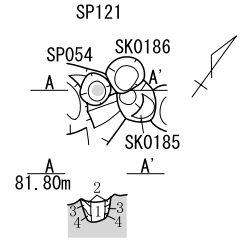
図97　Ⅲ期SP遺構図（１）



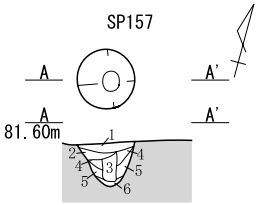

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



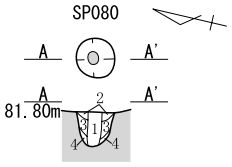

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



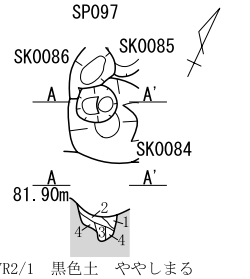

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず



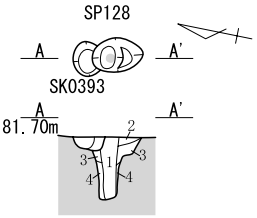

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
4　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　しまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR2/1　黒色土ブロック3%含む



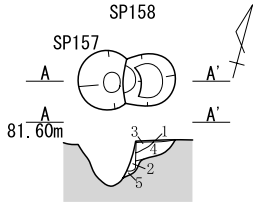

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



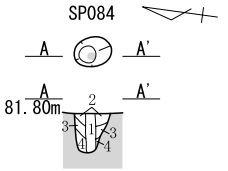

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



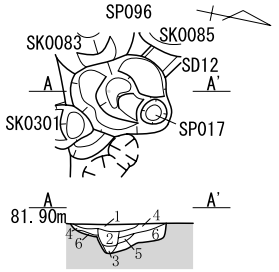

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



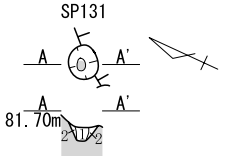

1　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR2/1
　黒色土ブロック3%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　やや茶色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり
　礫含まず



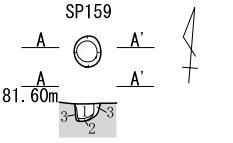

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



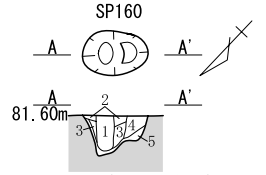

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　10YR4/4
　褐色土ブロック3%含む
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



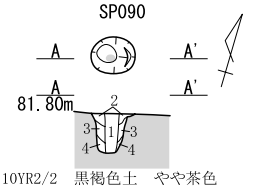

1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



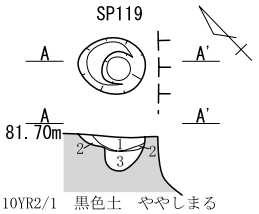

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土と10YR3/4
　暗褐色粘質土との混合土　固くしまる
　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず



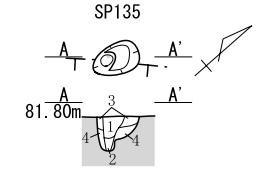

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



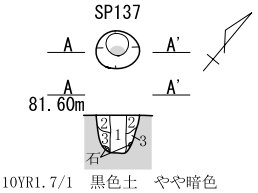

1　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



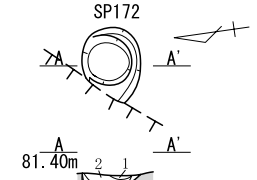

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック1%含む




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず

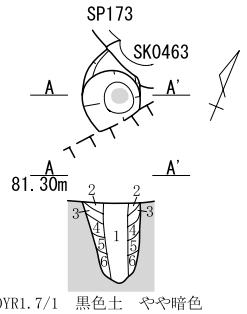



1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

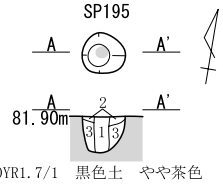
● 柱の当たり

0　2m
(S=1/50)

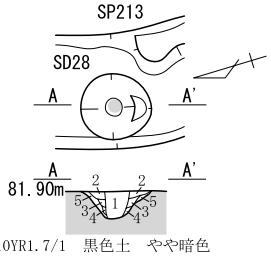
図98　Ⅲ期SP遺構図（２）



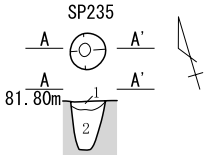

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック
　5%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック
　10%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック
　3%含む
6　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



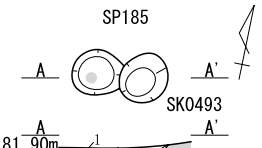

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



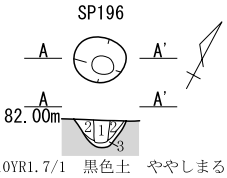

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　土色下層にむけ徐々に淡くなる
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR1.7/1　黒色土ブロック5%含む
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR1.7/1　黒色土ブロック5%含む



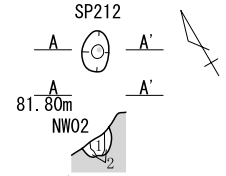

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



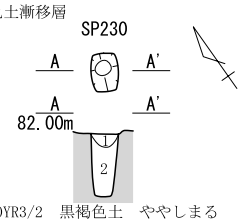

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　下部固くしまる
3　10YR2/2　黒褐色土　しまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



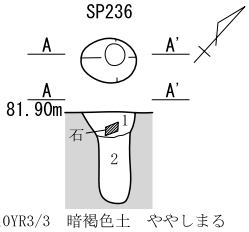

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



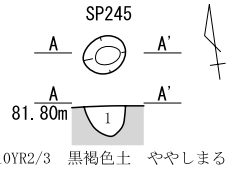

1　10YR2/1　黒色土　しまり弱い
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　下部10YR4/4
　褐色土漸移層



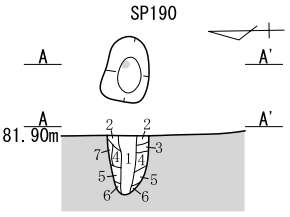

1　10YR3/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



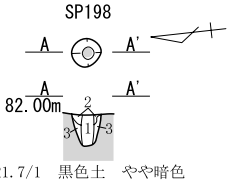

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　径10cmの角礫含む
　黒褐色ブロック20%含む
2　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



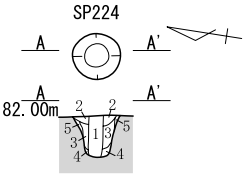

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む



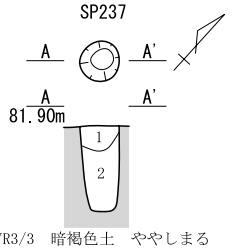

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



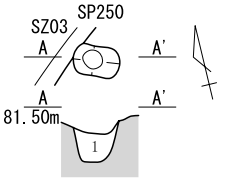

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



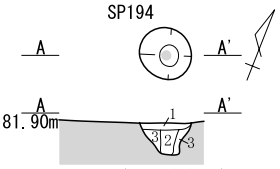

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　下部固くしまる
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



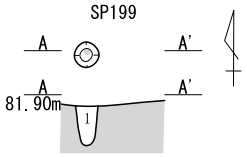

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　径5cmの角礫含む
2　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



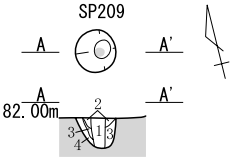

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
　粘性なし　径2cmの角礫含む
　褐色土ブロック1%含む



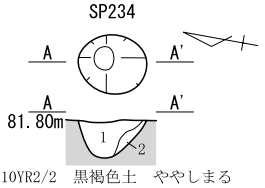

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　しまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず



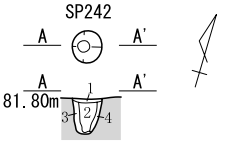

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず



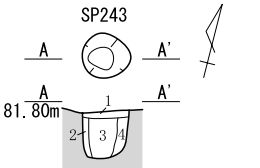

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黒褐色土ブロック10%含む




1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック10%含む

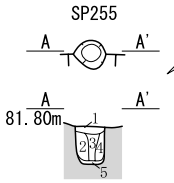



1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック20%含む

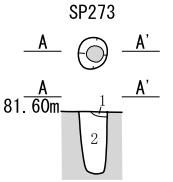
●柱の当たり

0　2m
(S=1/50)

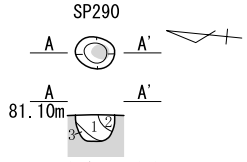
図99　Ⅲ期SP遺構図（３）



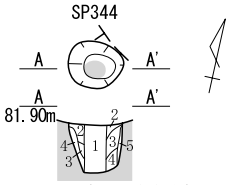

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　礫含まず
褐色土ブロック20%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック5%含む
5　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック40%含む



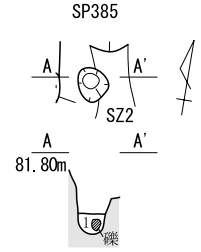

1　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



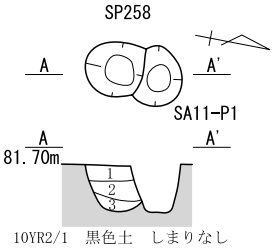

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック30%含む
3　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



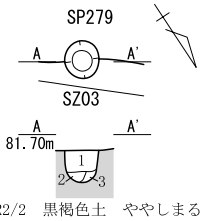

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



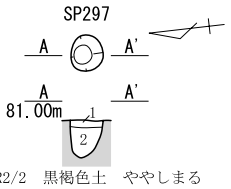

1　10YR2/2　黒褐色土　しまり弱い
粘性ややあり　礫含まず
下部10YR4/6　褐色土漸移層



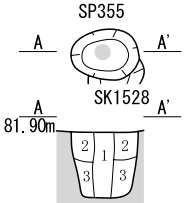

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　礫含まず
褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



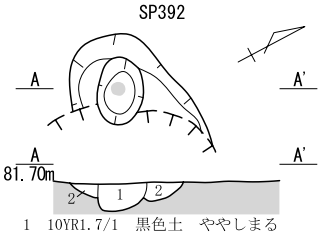

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR5/6　黄褐色土　しまりあり
粘性なし　礫含まず　黒褐色土
ブロック40%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



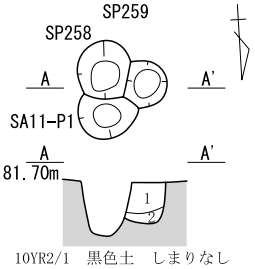

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



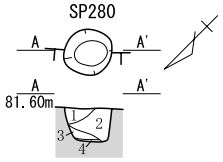

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



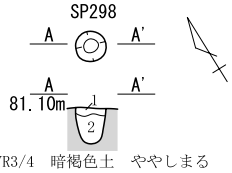

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり
礫含まず　径2cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック10%含む



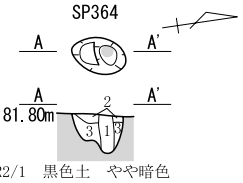

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　径3cmの角礫含む
褐色土5%含む
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　径4cmの角礫含む



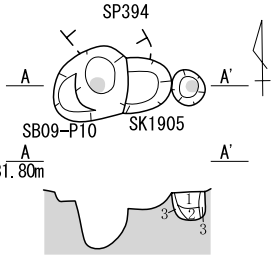

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり
粘性なし　礫含まず　褐色土ブロック
10%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック5%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



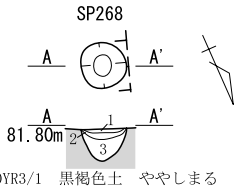

1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず



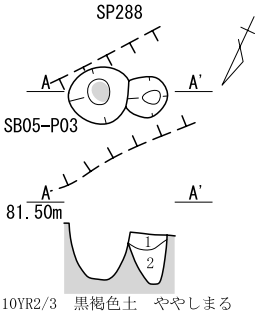

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
下部10YR3/4　暗褐色土漸移層



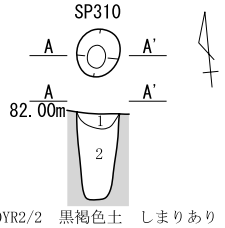

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　固くしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



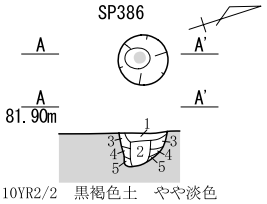

1　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　径3cmの角礫含む
粒状の10YR5/6　黄褐色土全体に
わずかに含む




1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

● 柱の当たり

0　2m
(S=1/50)

図100　Ⅲ期SP遺構図（４）

**埋土**　埋土は単層で、底部付近に自然礫を含む。底部で柱の当たりを確認したため柱穴と判断した。柱径は不明である。SZ３北隅部の浅い底面にも同じような土坑（SK0798）があり、類似する。

**遺物出土状況・出土遺物**　出土遺物はなかった。

**時期**　SZ２との重複関係から、東野Ⅲ期以前と判断した。

**その他の柱穴出土遺物（図 108）**　Ⅲ期に関連すると判断した柱穴から出土した特徴的な遺物について記述する。253 は SP121 出土のⅢ期甕 D2 類である。口縁部は外反する。口縁端部に面を持ち、斜方向の刻みを施す。口縁部内面はクシ状工具による６個１単位の刺突列を施す。外面は条痕文である。254 は SP351 出土のⅢ・Ⅳ期高坏Ａ類の脚柱部である。３方向の透孔がある。段数は折損のため不明である。透孔の高さが僅かにずれる。外面はミガキを施し、内面は絞り込み後板ナデ調整する。255 は SP022 出土の楔形石器で、１辺は自然面である。その対辺に微細な剥離がある。左右の辺に階段状剥離が見られる。

### ７　土坑（図 102～107）

当該期に関連すると判断した土坑は 126 基である。Ⅲ期に属する遺構との重複関係や出土遺物によって、Ⅲ期に関連する柱穴と判断した。以下、特徴的な土坑について記述する。

#### SK0798（図 104）（BS0203）

**検出状況**　Ｃ地点 JG19 グリッド、SZ３周溝北隅部の浅い底面で検出した。SZ２周溝北東隅部の浅い底面で検出した柱穴（SP385）と類似するが、柱痕跡や柱の当たりが確認できないため土坑と判断した。性格は不明である。

**遺物出土状況・出土遺物**　出土遺物はなかった。

**時期**　SZ３との重複関係から、東野Ⅲ期以前と判断した。

#### SK1874（図 107・108）（AS2667）

**検出状況**　Ｃ地点 KJ４グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は楕円形である。検出時に土師器のく字甕が埋設されており、脚台部が露出していた。

**埋土**　最上層（１層）が掘り込まれている土層を示す堆積である。テラスをもつ二段構造の穴である。１層からⅢ期甕 B2 類（256）が出土した。く字甕は外面に煤が付着することから使用していたものと思われる。土層断面から、二つの可能性が考えられる。一つめは、掘方を掘削した後に整地をし（５層）、く字甕を容器に入れて据え（１層）、掘方を埋戻し土（４・３・２層）で充填し、容器が腐るなどして消失した後に黒褐色土（１層）が流入した可能性である。２つめは、１層と２～５層は別遺構で２基が切り合う遺構である可能性である。なお、前者について言及している容器について、その痕跡は確認できなかった。土器埋納遺構と判断した。

**遺物出土状況**　く字甕は、口縁部をを下にして横位に近い状態で出土した。土圧のためか、やや潰れて出土したが、ほぼ完形である。

**出土遺物**　256 はⅢ期甕 B2 類である。口縁部がやや内彎する。胴部内面はケズリ調整する。底部から砂粒を含む粘土を充填して接合する。脚台部外面に短冊形の被熱痕が残る。

**時期**　出土遺物から東野Ⅲ期と判断した。

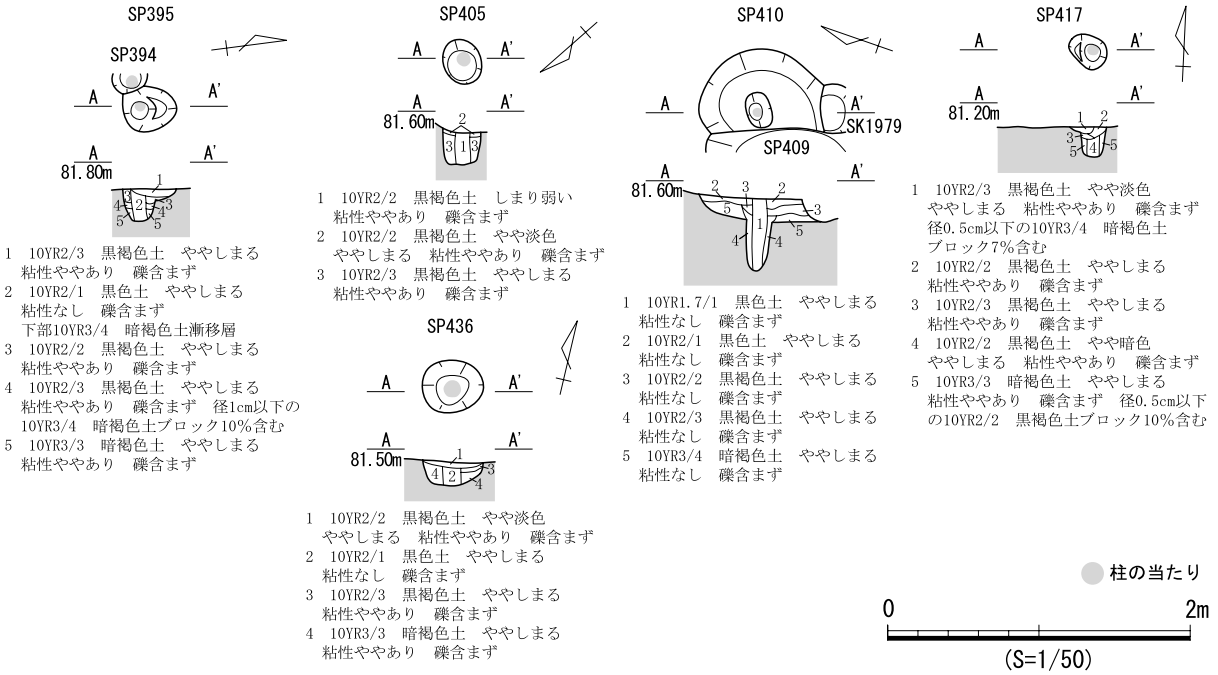



図101　Ⅲ期SP遺構図（５）

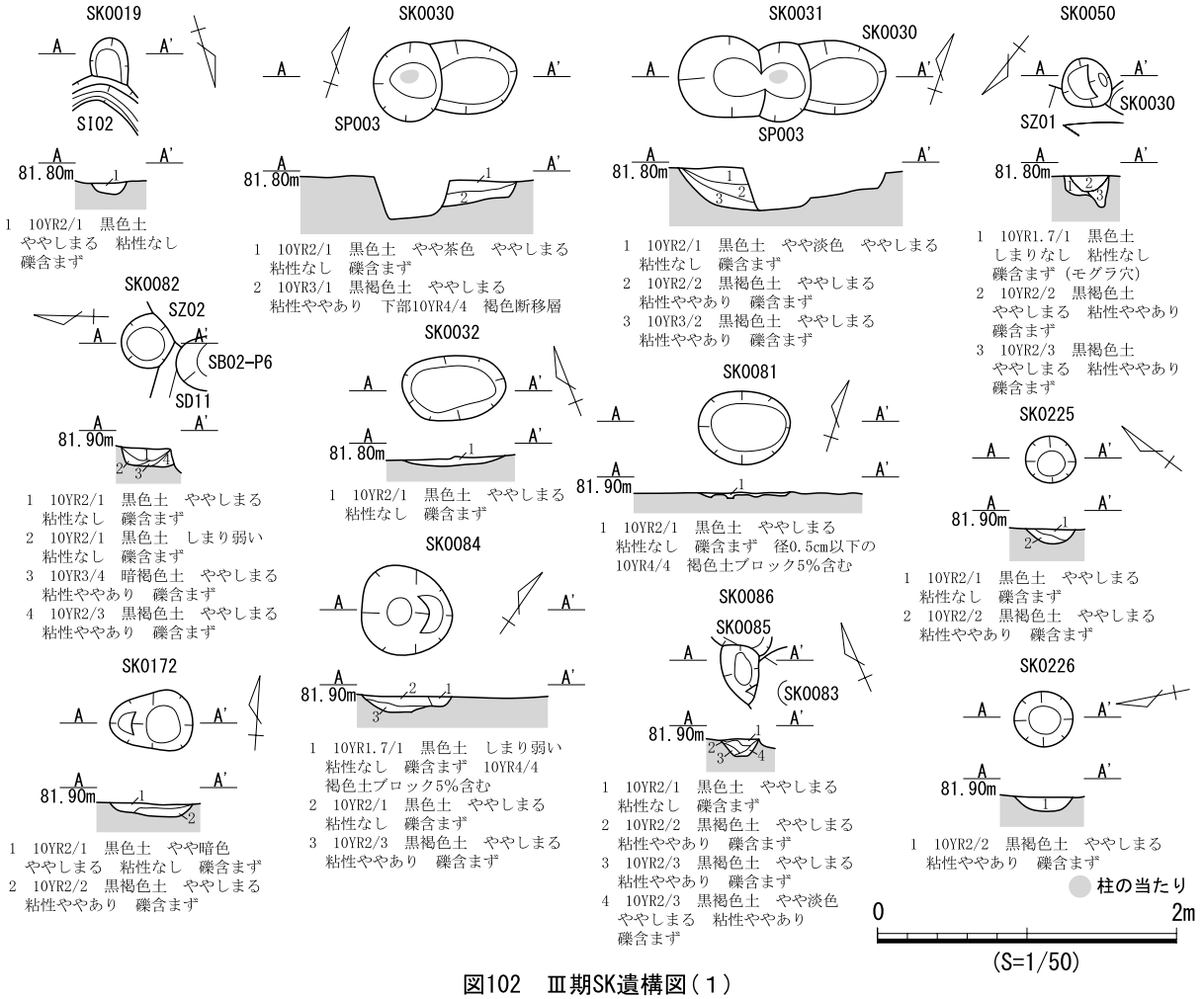



図102　Ⅲ期SK遺構図（１）

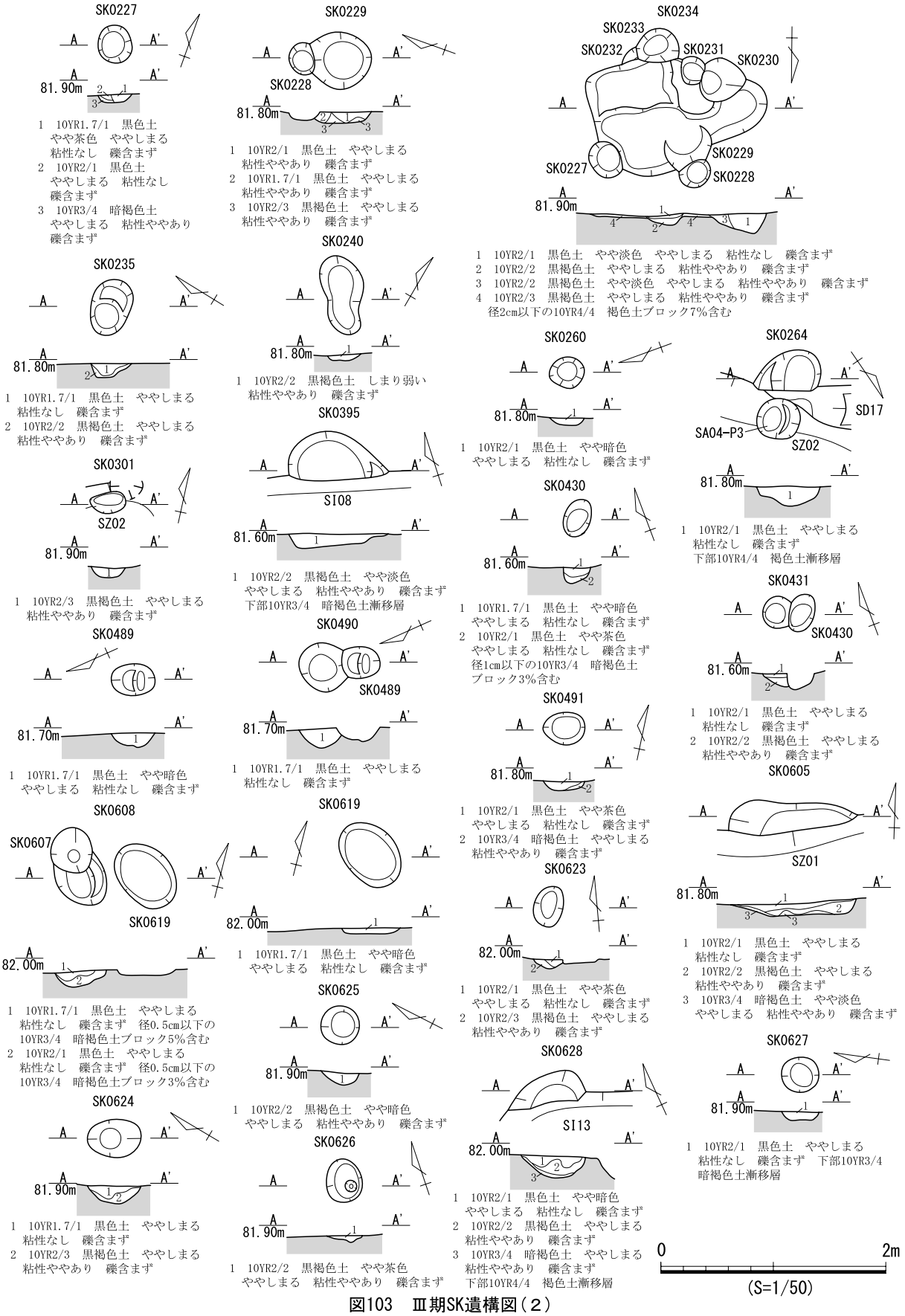



図103　Ⅲ期SK遺構図（２）

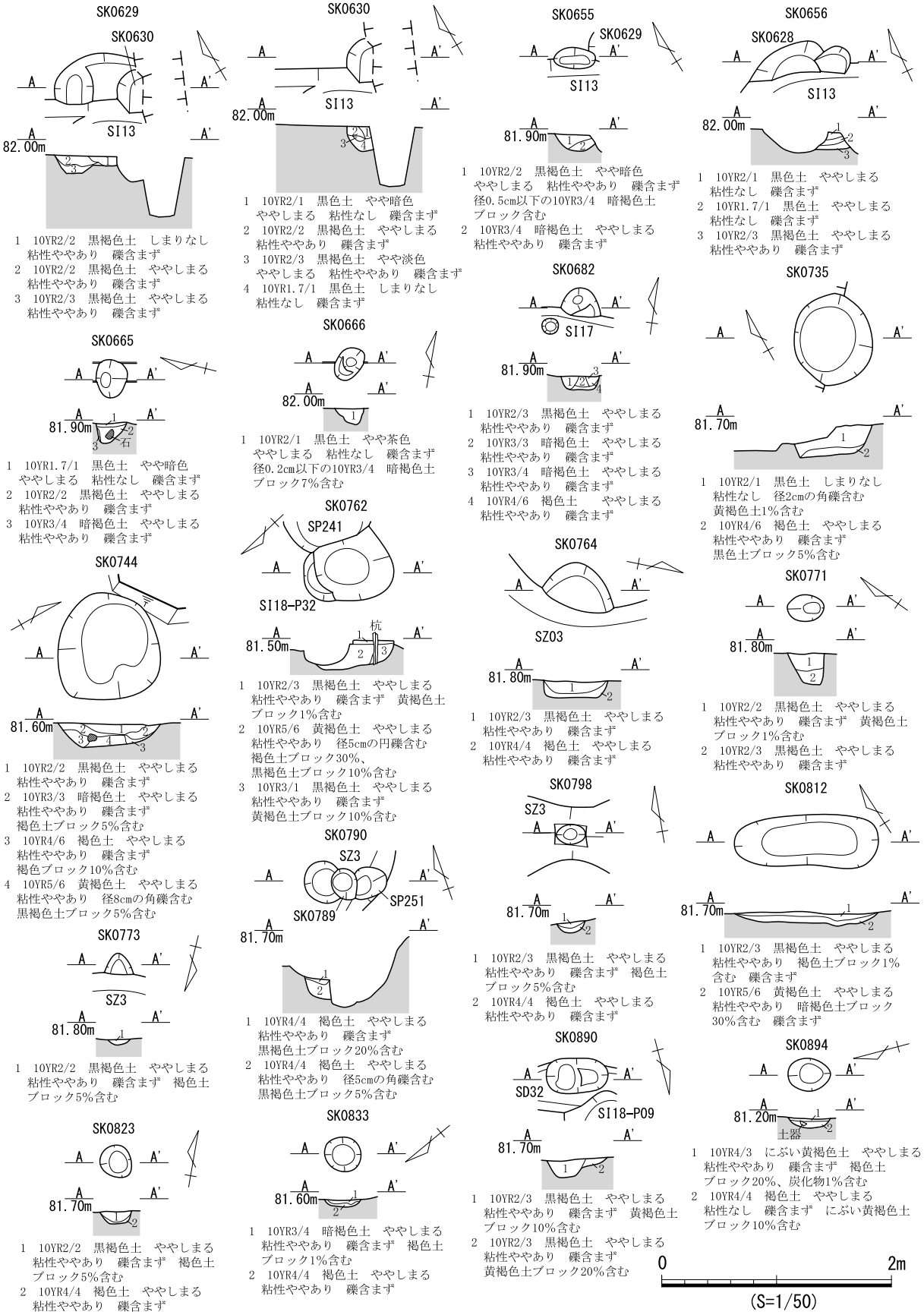



図104　Ⅲ期SK遺構図（３）

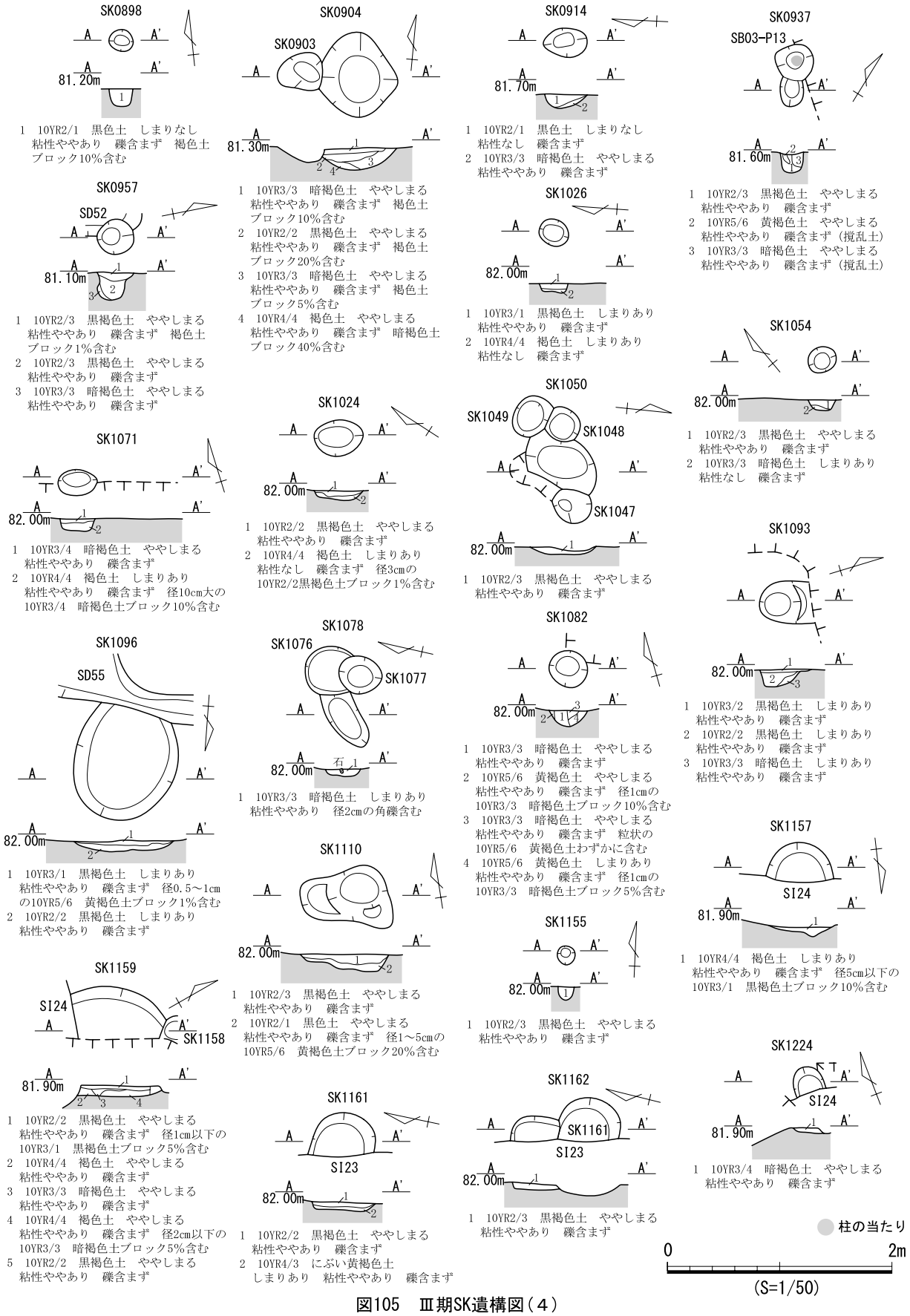
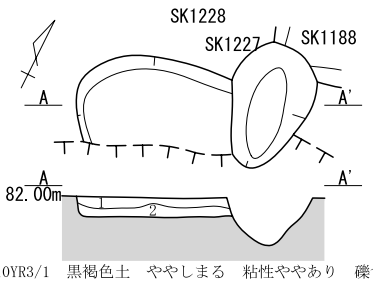
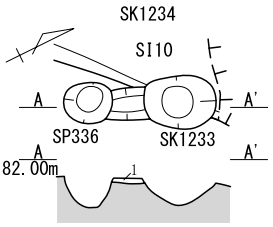


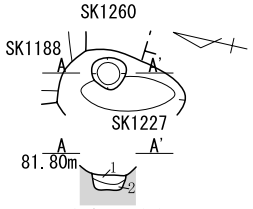

図105　Ⅲ期SK遺構図（４）



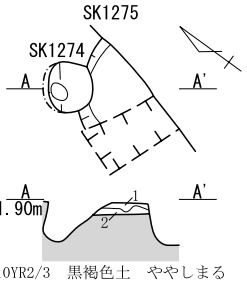

1　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず
径3cm以下の10YR3/1　黒褐色ブロック5%含む



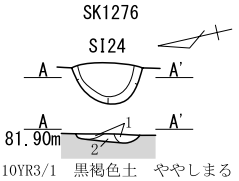

1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



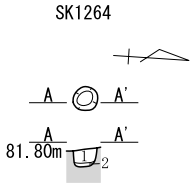

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR6/6　明黄褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず



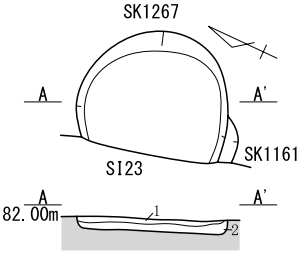

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/6　褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず



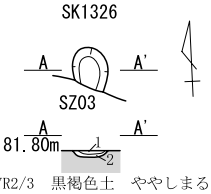

1　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/6　褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず



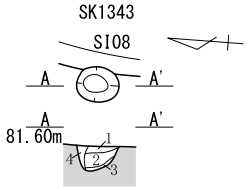

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



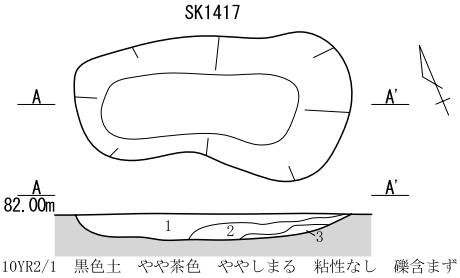

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず



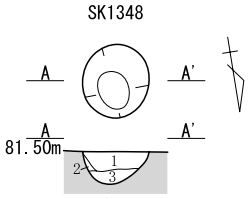

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/6　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



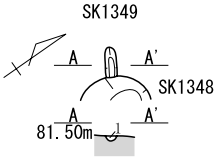

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
径2cm以下の10YR5/6　黄褐色土
ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR4/3　にぶい黄褐色土
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



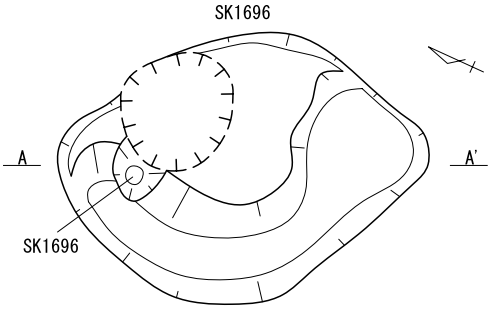

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

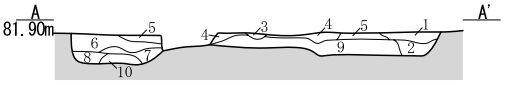



1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック1%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/3　にぶい黄褐色土
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

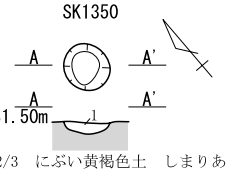



1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

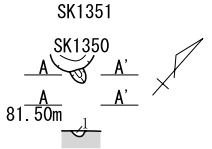


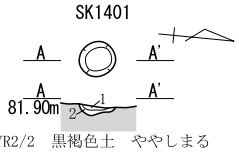

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
5　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
6　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
7　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
8　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
9　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
10　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性あり　礫含まず



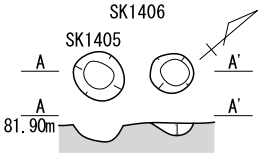

1　10YR2/3　にぶい黄褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む

0　2m
(S=1/50)

図106　Ⅲ期SK遺構図（５）

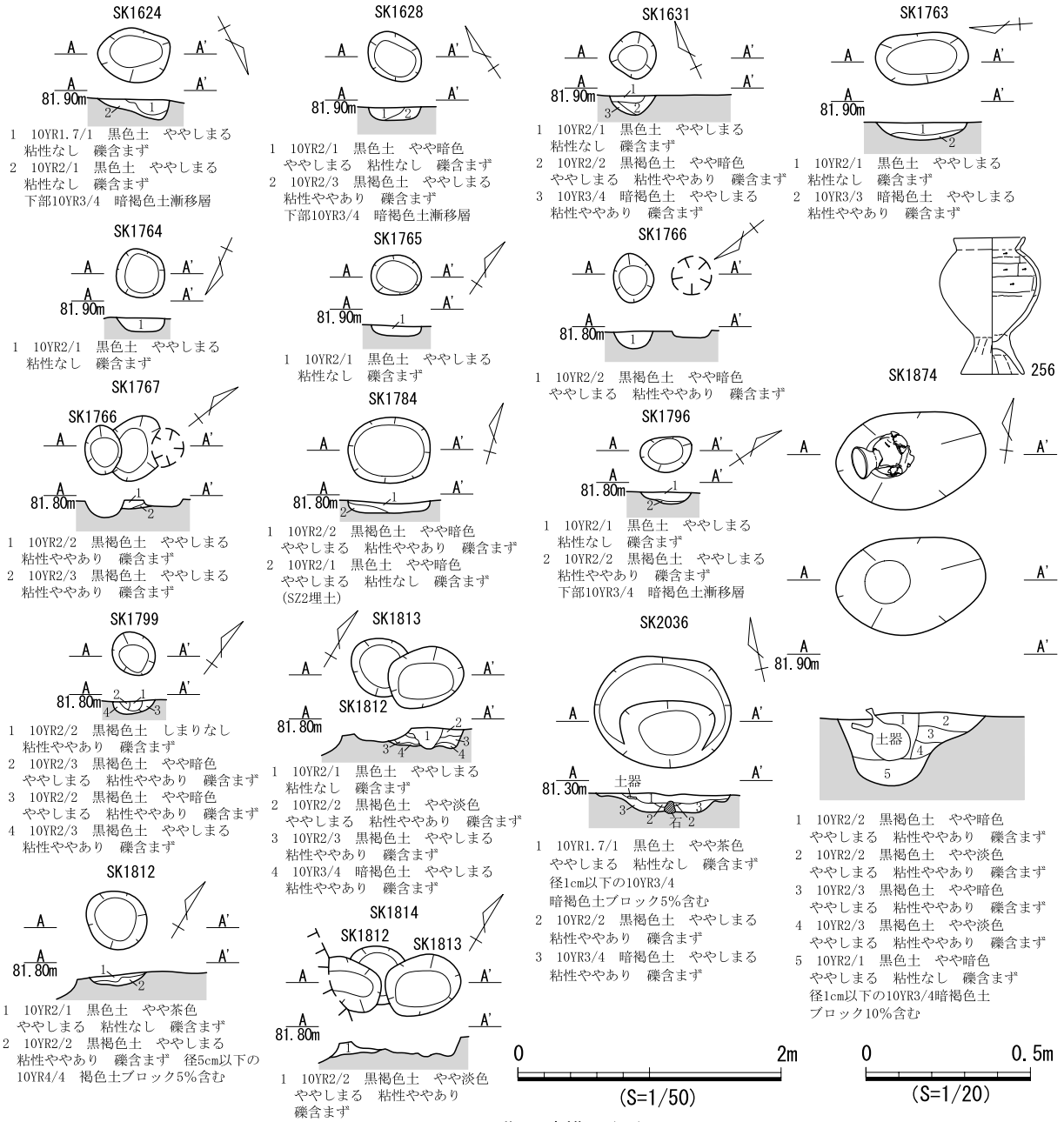



**図107　Ⅲ期SK遺構図（６）**

**その他の土坑出土遺物（図 108）**　Ⅲ期に関連すると判断した土坑から出土した特徴的な遺物について記述する。257 は SK0735 出土のⅢ期壺 A1 類の口縁部である。内面は連弧文を施す。口縁端部に面をつくり、擬凹線文が３条巡る。その後、波状文を５条施す。258 は SK1506 出土の打製石斧である。表面を研磨する。磨製石斧製作途中に打製石斧の転用した可能性が考えられる。背面の刃部に使用痕と思われる線状痕が多く見られる。259、260 は SK2036 出土である。259 はⅢ期甕Ａ類で、口縁部は受口状である。口縁部外面の屈曲部に斜方向の刻みが巡る。胴部はヨコハケ調整する。外面に煤が付着する。260 はⅢ期甕 X1 類で、脚台部は端部でやや内彎する。端部に折り返しはない。胎土の類似から 259 と 260 は同一個体である。

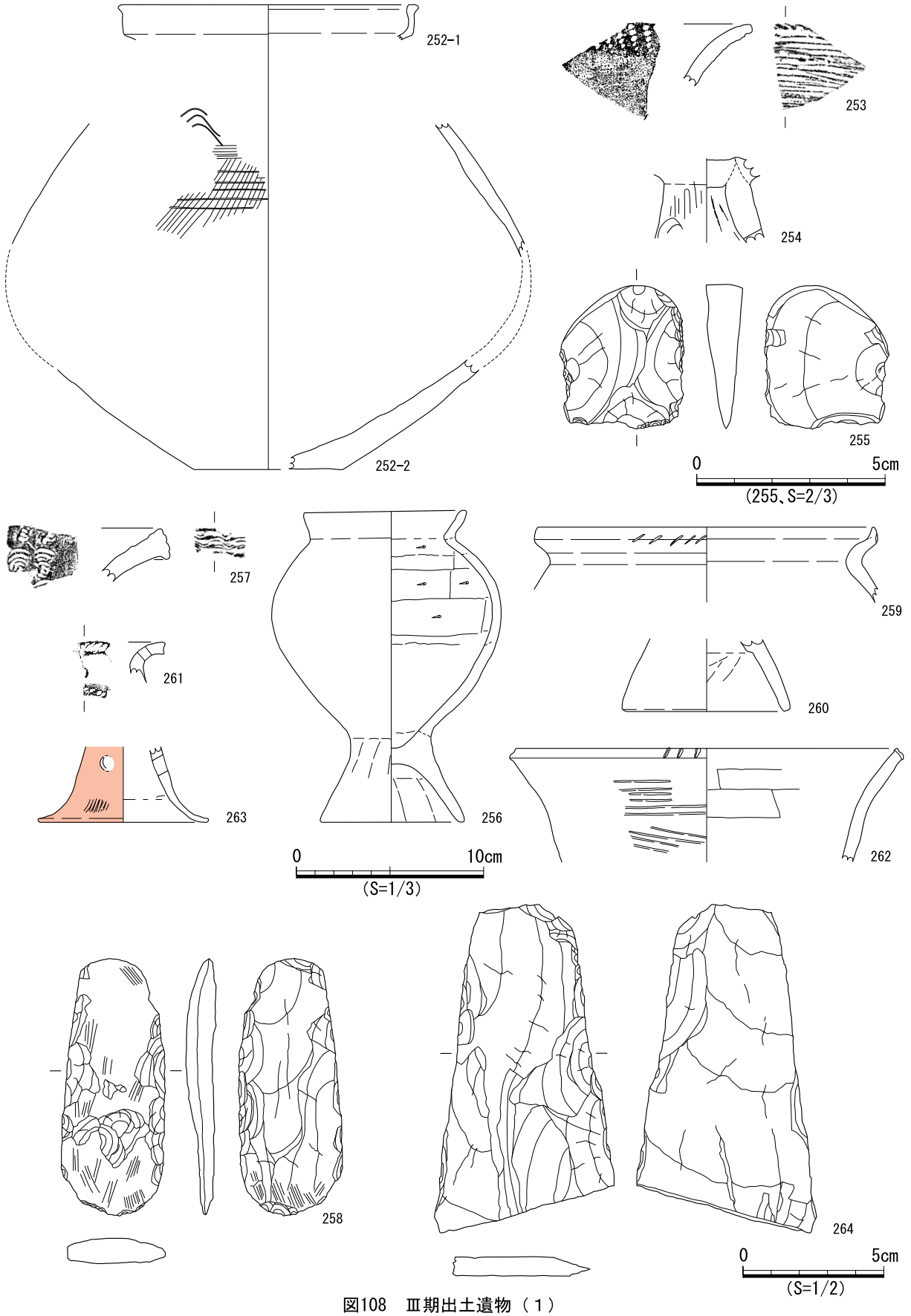



図108　Ⅲ期出土遺物（１）

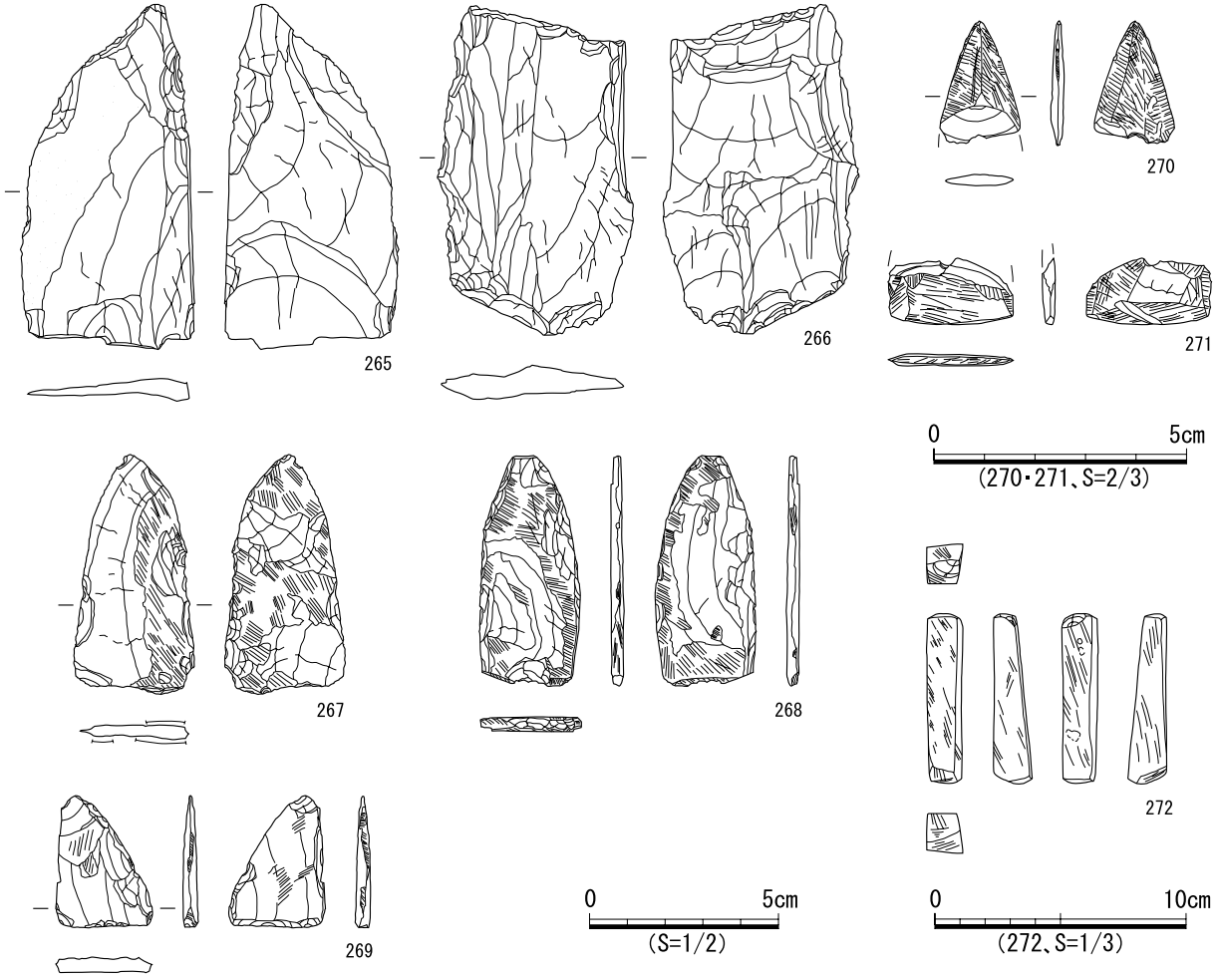



図109　Ⅲ期出土遺物（２）

## ８　撹乱坑・遺物包含層出土遺物（図 108・109）

261 は撹乱坑出土のⅢ期甕 B1 類の口縁部である。大きく外反する。口縁外方に面を持ち、刻みを施す。頸部に列点文が認められる。屈曲部に焼成前穿孔がある。内面に煤が付着する。262 は KC３グリッド出土のⅢ期甕 D2 類である。口縁端部に面をつくり、垂直方向に刻みを入れる。刻みは不規則である。外面は横方向の条痕文である。263 は撹乱坑出土のⅢ期器台の裾部である。透孔があるが、折損のため段数や方向は不明である。外面はミガキを施し、赤彩が残る。264 は KC３グリッド出土の磨製石鏃未製品１類である。表裏面とも層理によるはがれである。長軸端部の幅広側は自然面が残る。粗く打ち欠いたのみで、微細な調整は認められない。265、266 は KC７グリッド出土の磨製石鏃未製品２類である。265 の表面は層理後の風化が認められる。右側縁部は自然面が残る。先端部に微細な剥離が認められる。266 は全体を粗く打ち欠いた後、長軸方向の端部に微細な剥離を施す。267 は KD８グリッド、268 は KG３グリッド、269 は JF18 グリッド出土の磨製石鏃未製品３類である。267 は研磨の途中で、鏃身表裏面のみ研磨痕（二次加工）が見られる。側縁部と基部は研磨していない。268 は鏃身部、側縁部（刃部）、基部（平坦面）の研磨を開始している。269 は、粗い打ち欠きによる形状作出の痕跡（一次加工）が少ないため、適度な大きさの石材を利用して一次加工を省略し、二次加工を開始したと考えられる。基部に微細な剥離を施し、研磨を開始している。270 は JK18 グリッド、271 は KJ１グリッド出土の磨製石鏃である。270 は穿孔がある。穿孔は、表面は剥離のため形状不明で、

裏面は左壁が立ち、右壁は大きく開く。全体を斜方向に研磨し、表は中央部に縦位の稜、先端部 1.5㎝基部側で枝分かれする。裏は先端から４㎝基部側で枝分かれする。271 は基部のみである。穿孔がある。穿孔時についたと見られるくぼみがある。先端のやや丸い棒状工具で穿孔していると考えられる。鏃身部は斜方向に研磨する。刃部は急角度にして横方向に研磨する。基部は直立させて研磨し、面をつくる。272 は KH４グリッド出土の砥石で、砥面は５面である。

## 第６節　東野Ⅳ期（古墳時代前期）

### １　竪穴建物

当該期の竪穴建物を 21 軒確認した。

**SI04（図 110・115）（AS0066）**

**検出状況**　Ｃ地点 JD18 グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物南西部で SI03 に切られ残存部が少ないが、貼床層と壁際溝を確認したことから竪穴建物と判断した。SZ１を切る。作業の進行上、SI01 以南の発掘作業を先行させた後、北側の表土除去を実施した際に SI04 を検出したために、SI01 と重複する南西部は掘削順が逆となり残存していない。また、西部は発掘区外となる。長軸の方位は、Ｎ－18°－Ｗである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に明赤褐色土・暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.08ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（９層）が全体にわたり残る。貼床は黒色土と暗褐色粘質土の混合土で、基盤層より強くしまる。床面で検出した遺構は壁際溝である。壁際溝以外の付属施設は確認できなかった。壁際溝は、建物の確認できる部分をほぼ全周する。深さ平均 0.04ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

**床下**　貼床除去後、掘方整地層を検出した。掘方整地層は、黒褐色土に黒色土ブロック、暗褐色土ブロックを含むややしまる層（10 層）である。東辺中央部やや北寄りで東西方向に浅い範囲がある。北東隅部は二段構造になる。

**遺物出土状況**　埋土から縄文土器３点、弥生土器２点、古墳前期土師器５点、時期不明土師器８点が出土した。残存部が少なく、出土土器も極少量であった。

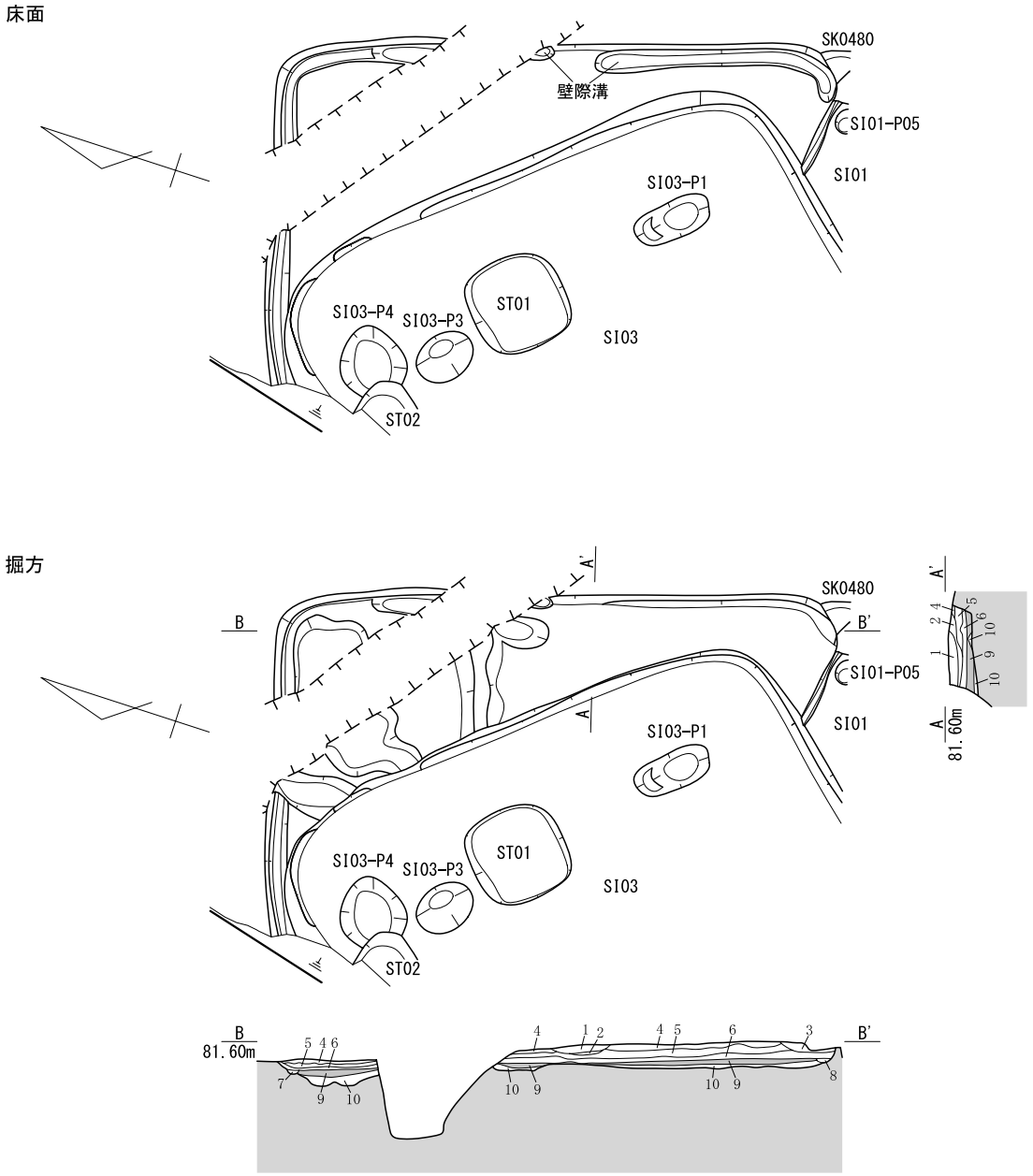
**出土遺物**　273 はⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。内面は板ナデ、外面はハケ調整する。下部の器壁が厚く、底部に近い部位と思われる。

**時期**　SZ１を切り、SI03 に切られることからⅢ～Ⅴ期に収まると考えられる。埋土出土遺物（273 等）はⅣ期に比定できるものが多い。よって東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。

**SI07（図 111・112・115）（AS0665）**

**検出状況**　Ｃ地点 JK20～KL１グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物北部で SI06 を切る。平面形は四辺がほぼ直線状の隅丸方形である。長軸の方位は、Ｎ－86°－Ｗである。

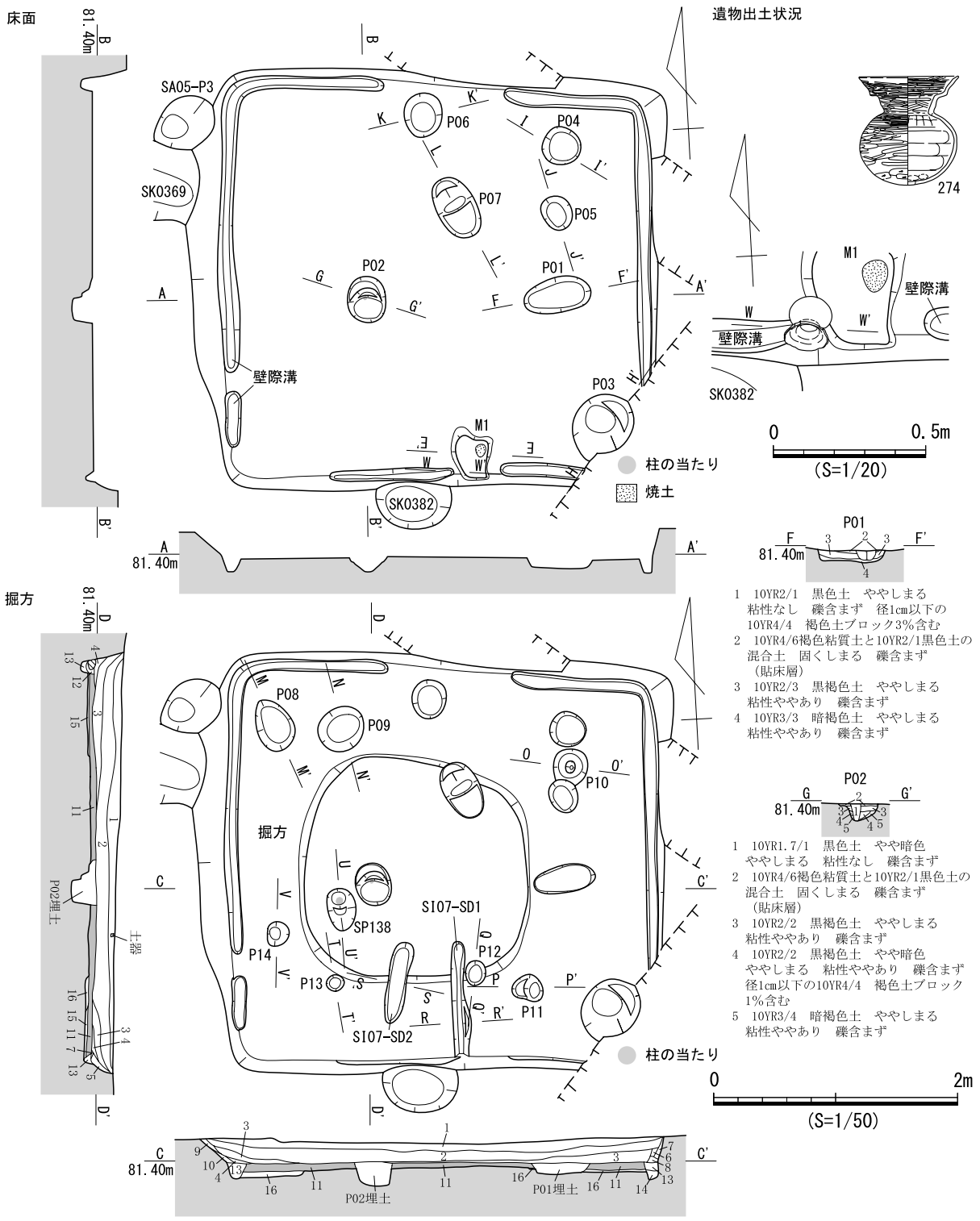
**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に黒色土・




1　5YR5/6　明赤褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　10YR1.7/1　黒色土層状に含む
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の5YR5/6　明赤褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
4　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の5YR5/6　明赤褐色土ブロック3%含む
5　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
6　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
7　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック7%含む(壁際溝埋土)
8　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず(壁際溝埋土)
9　10YR1.7/1　黒色土と10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　しまり強い　礫含まず（貼床層）
10　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR1.7/1　黒色土ブロック5%、10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む（掘方整地層）

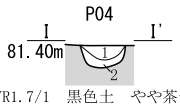
0　2m
(S=1/50)

図110　SI04遺構図

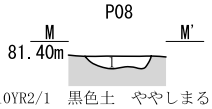



1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径3cm以下の10YR1.7/1　黒色土ブロック5%含む
7　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径3cm以下の10YR1.7/1　黒色土ブロック1%含む
8　10YR2/1　黒色土　しまり弱い　粘性なし　礫含まず
9　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
10 10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径2cm以下の10YR1.7/1　黒色土ブロック3%含む
11 10YR2/1　黒色土と10YR4/6　褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず
（貼床層）
12 10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず（壁際溝埋土）
13 10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
14 10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
径5cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
15 10YR1.7/1　黒色土　しまる　粘性なし　礫含まず
径5cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック7%含む（周溝状掘方埋土）
16 10YR2/2　黒褐色土　しまる　粘性ややあり　礫含まず
径5cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック5%含む（周溝状掘方埋土）

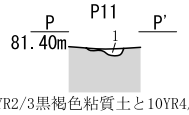
図111　SI07遺構図（１）



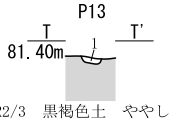

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2黒褐色土と10YR4/4褐色粘質土
　の混合土　ややしまる　礫含まず



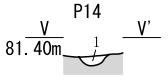

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の
　10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
　下部10YR4/6　褐色土漸移層



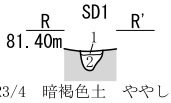

1　10YR2/3黒褐色粘質土と10YR4/6褐色
　粘質土との混合土　ややしまる
　礫含まず



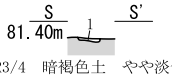

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR4/4　褐色土ブロック3%含む



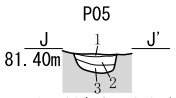

1　10YR2/3黒褐色粘質土と10YR4/6褐色
　粘質土との混合土　ややしまる
　礫含まず



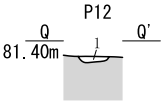

1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



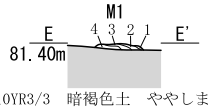

1　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色
　しまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/6　褐色土ブロック
　3%含む



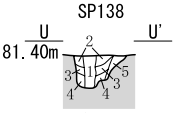

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径2cm以下の
　10YR4/6　褐色土ブロック5%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック1%含む



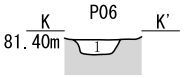

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/2　黒褐色土ブロック3%含む



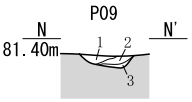

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR1.7/1黒色土ブロック3%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR1.7/1　黒色土ブロック5%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
　10YR4/4　褐色土ブロック7%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
　5YR4/6　赤褐色土ブロック1%含む



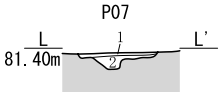

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



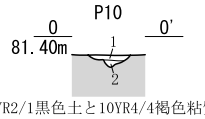

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず



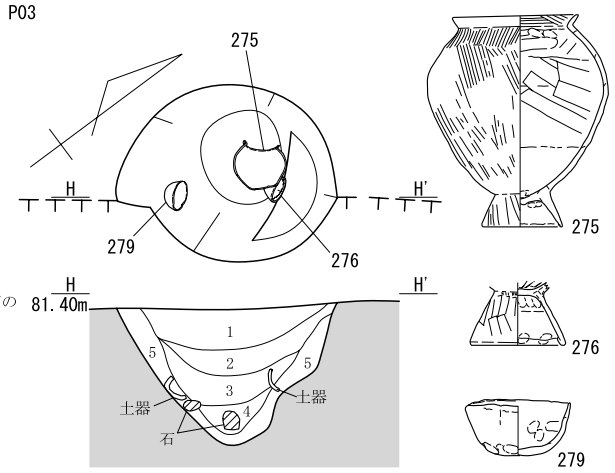

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の
　10YR4/4　褐色土ブロック3%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR4/4　褐色土ブロック7%含む
3　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック3%含む




1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1黒色土と10YR4/4褐色粘質土の
　混合土　ややしまる　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

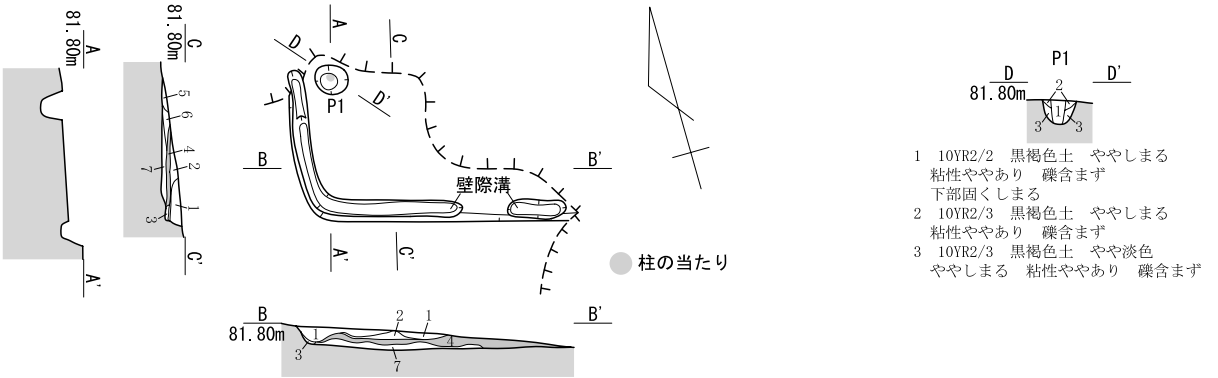



1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり
　礫含まず　径0.2cm以下の褐色土粒1%含む
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.2cm以下の褐色土粒3%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり
　礫含まず　径0.2cm以下の褐色土粒3%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.2cm以下の褐色土粒5%含む
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.2cm以下の褐色土粒3%含む　下部10YR4/6　褐色土漸移層

0　2m
(S=1/50)

0　1m
(S=1/20)

図112　SI07遺構図（２）




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　下部固くしまる
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
4　10YR2/1　黒色土と10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　しまり強い　礫含まず（貼床層）
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック10%含む（掘方整地層）
7　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（掘方整地層）

0　2m
(S=1/50)

図113　SI09遺構図

褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面は、西はやや開くが、残る三辺はほぼ直立に近い。壁の残存高は最大で 0.23ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（11 層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒色土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴２基、壁際溝、貯蔵穴１基、盛土状遺構１基、性格不明土坑４基である。炉は確認できなかった。竪穴内の位置関係からＰ01、Ｐ02 をこの建物の主柱穴と判断した。２基ともに明瞭な柱痕跡が、Ｐ01 に柱の当たりが確認できる。柱径は 0.07～0.12ｍと想定できる。柱埋戻土最上層に貼床層が確認できることから、柱埋設後、貼床形成したと考えられる。壁際溝は、建物の北部中央、南部西を除き壁際を巡る。南西区画を床面検出時に掘りすぎたために南西隅部壁際溝は消失した可能性が高い。深さ平均 0.14ｍを測る。

**貯蔵穴**　南東隅床面で検出したＰ03 を竪穴内の位置と規模から貯蔵穴と判断した。平面形は円形で、壁は開き、底はやや尖る。４・５層は１・２・３層に比べてややしまりが強い。埋土最下層で、Ⅳ期甕 C2 類上半部（275）、Ⅳ期甕 X1 類（276）、Ⅳ期鉢（279）が出土した。

**盛土状遺構**　南壁際で盛土状遺構Ｍ１を検出した。やや粘性のある暗褐色土を主体として構築される。頂部に焼土が認められる。Ｍ１東西脇で壁際溝が途絶えていることから、Ｍ１は壁際溝掘削前に構築された可能性が高いと考えられる。床下で検出した SI07-SD1 と近接することから、入口施設の固定等の可能性が考えられる。

**床下**　貼床除去後検出した遺構は溝状遺構２条、柱穴１基、性格不明土坑７基、四辺を巡る周溝状掘方である。SD１、SD２は南部中央で検出した。床面では検出できなかったが、床を除去すると明瞭になった。床下周溝状掘方を切っていることから、床下掘方を埋めた後に掘削されている。SD１は南壁で止まる。前回調査の SH07 と同様、この溝に挟まれた床は周囲よりも固く締まっていたことから、入口施設の可能性が考えられる。床下で検出した柱穴１基及び性格不明土坑７基と SI07 との関連は不明である。床下周溝状掘方は、幅 0.5～1.0ｍで壁際を巡る。埋土は黒色土（15 層）と黒褐色土（16 層）で、貼床ほどではないがよくしまる。これらのことから、竪穴の掘削→床下周溝状掘方の形成→柱穴、入口施設の掘削・形成→貼床の形成→盛土状遺構の構築→壁際溝の掘削・形成となる。床下周溝状掘方完掘後、遺構は確認できなかった。

**遺物出土状況**　縄文土器 190 点、弥生土器８点、古墳前期土師器 111 点、時期不明土師器類 79 点、石器類 19 点が出土した。埋土上層から弥生土器・土師器類、縄文土器が多量に出土したが、下層の掘削にしたがって減少し、破片が大きくなっていった。縄文土器は、SI06 と重複する範囲の埋土で多く出土した。建物南部の壁際、貼床直上でⅣ期壺 C1 類（274）が口縁部を壁に接するように正位で出土した（図 111）。この位置は、建物の入口部分と考えられ、建物の廃棄儀礼の可能性を窺わせる。

**出土遺物**　274 はⅣ期壺 C1 類である。口縁部が二段になる。下段はやや開き、屈曲部を経て上段は下段より開く。内外面はヨコミガキを施す。胴部は丸く、頸部内面に絞り込みが見られる。胴部内面は板ナデ、底部内面はユビオサエで調整する。胴部外面の上４分の３はヨコミガキを施し、下４分の１はヘラケズリで調整する。丸底である。275 は埋土とＰ03 で出土したⅣ期甕 C2 類である。Ｓ字状口縁の屈曲がかなり弱い。頸部に沈線も巡らない。胴部外面のハケ調整は粗く、５本１単位である。脚台端部は折り返す。底部と脚台部は両側から充填して接合する。276 はＰ03 で出土したⅣ期甕 X1 類であ

る。内面は板ナデとユビナデで調整する。折り返し部にユビオサエがある。外面は板ナデで調整する。底部との接合部にハケが残る。底部内面に板状工具の当たり痕が見られる。胴部と脚台部は両側から充填して接合する。277 はⅣ期高坏 C2 類の脚部である。脚部内面は板ナデ調整し、絞り込みが見られる。外面は縦方向のヘラナデによって面ができる。脚部はエンタシス状に下部がふくらむ。278 はⅣ期高坏ＡまたはＣ類の坏部である。内面はタテミガキを施す。外面は調整不明である。坏底部が緩やかに屈曲する。279 はⅣ期鉢である。口縁端部は未調整のため不規則な波状になる。内外面はナデ調整とユビオサエである。内面に焼成時の黒斑が認められる。280 は砥石である。長軸方向の線状痕が多い。表面下部に２条に浅いＵ字溝が見られる。281 はＲＦである。縁辺部をところどころ加工するが規則性はない。282、283 はＭＦである。282 は微細な剥離が３辺にあり、283 は断面形状が三角形で、そのうち２辺に微細な剥離が認められる。

**時期**　床面出土土器（274）、貯蔵穴出土土器（276）から東野Ⅳ期と判断した。

SI09（図 113）（AS1147）

**検出状況**　Ｃ地点 KD１グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物北部から東部にかけて撹乱により消失している。平面形は、残存する二辺から隅丸方形と想定できる。長軸の方位は、Ｎ－74°－Ｗである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土が不均一に堆積する。北に向かって削平されているために、埋土の残存状況はよくない。埋土中に暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.10ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（３層）が、建物の残存する部分の南寄りに残る。貼床は黒色土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴１基、壁際溝である。炉は確認できなかった。Ｐ１は柱穴であるが、床面が削平された部分で検出していることと西壁に近接していることから、主柱穴の可能性は低いと考えられる。壁際溝は、残存する範囲の壁際を巡る。深さ平均 0.03ｍを測る。建物の南部に途切れる部分があり、入口の可能性が考えられる。

**床下**　貼床除去後、掘方整地層を検出した。掘方整地層の埋土は暗褐色土（６・７層）で、貼床ほどではないがよくしまる。５層も標高から掘方整地層の可能性があるが、直上に貼床が残存していないため不明である。

**遺物出土状況**　床面近くで縄文土器１点、古墳前期土師器１点、時期不明土師器類１点が出土した。

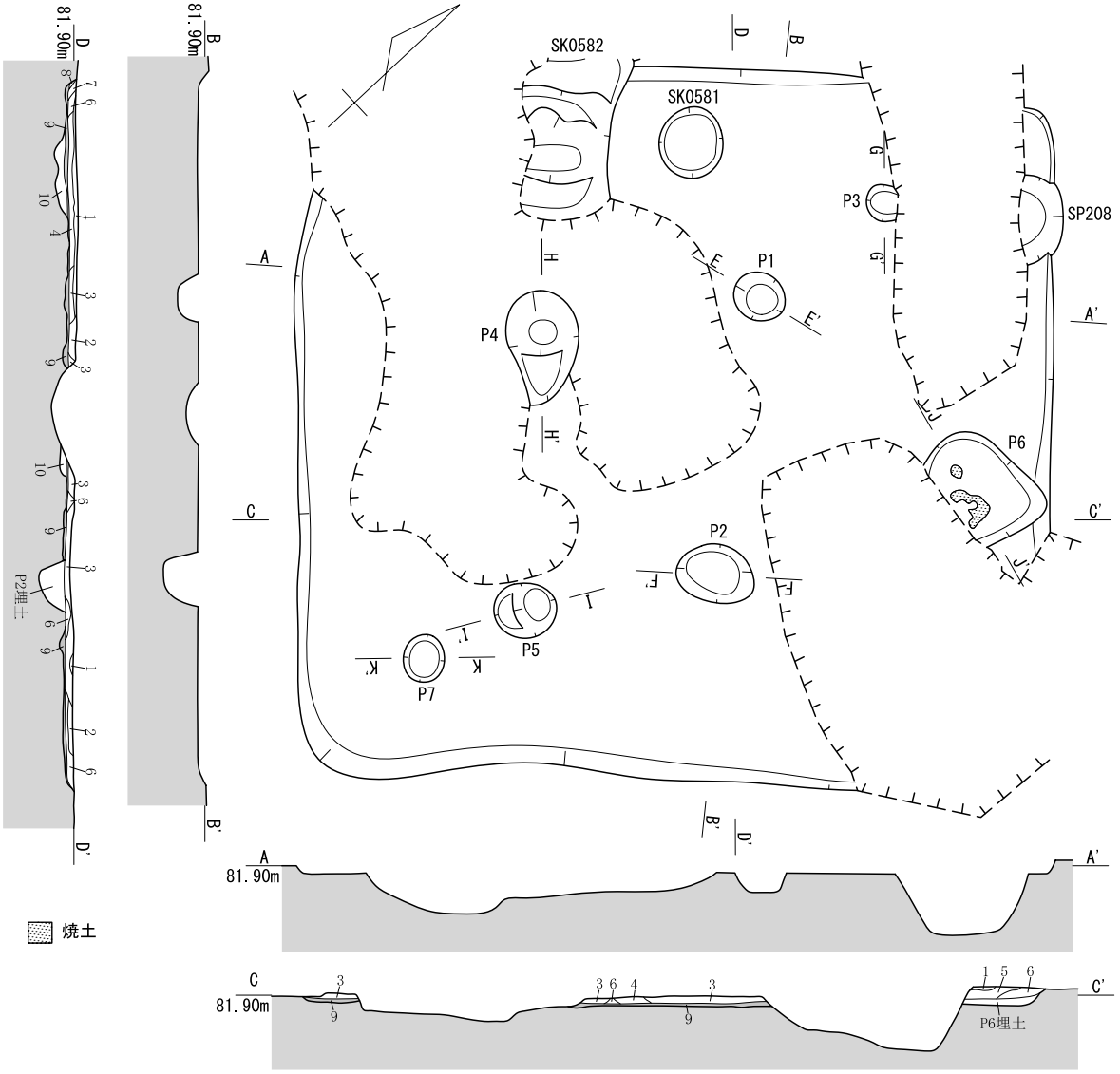
**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。縄文土器は深鉢 E2 類の小片で摩耗している。古墳時代前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片とⅢ・Ⅳ期高坏坏部片である。高坏坏部は内面にタテミガキを施す。

**時期**　出土遺物からはⅡ期かⅣ期の可能性が考えられる。南辺は直線状で、南西隅部がほぼ直角に屈曲する。当遺跡の竪穴建物で前述の平面形を示すのはⅢ期以降である。よって東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。

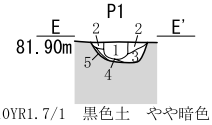
SI10（図 114・115）（AS1200）

**検出状況**　Ｃ地点 KE２～KF３グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物内部の約３分の１を現代の撹乱坑によって消失する。残存状況から、平面形は四辺がほぼ直線状の隅丸方形と想定できる。南部で SI11 を切る。長軸の方位はＮ－44°－Ｗである。

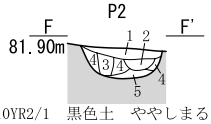
**埋土**　埋土は薄く、黒色土、黒褐色土が堆積し、ところどころ拳大の黒褐色、暗褐色土ブロックを多



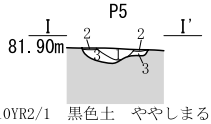

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　しまる　粘性ややあり　礫含まず
径0.5cm以下の5YR4/8　赤褐色土ブロック20%含む
径0.5cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック10%含む
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
8　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
9　10YR2/1　黒色土と10YR2/3　黒褐色粘質土と10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土
しまる　礫含まず（貼床層）
10　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径0.5cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック5%含む



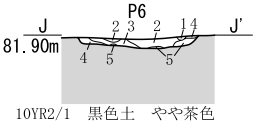

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



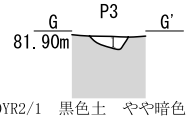

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



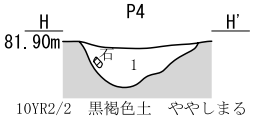

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



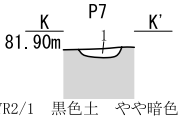

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
径0.2cm以下の5YR4/6　褐色土ブロック
3%含む
2　5YR2/3　極暗赤褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
径0.2cm以下の5YR4/6赤褐色土ブロック
10%含む
3　7.5YR2/3　極暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
下部に径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土
ブロック10%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　亜角礫下部に2個含む
土色下部にむけて徐々に淡くなる




1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
下部に径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土
ブロック多く含む

0　2m
(S=1/50)

図114　SI10遺構図

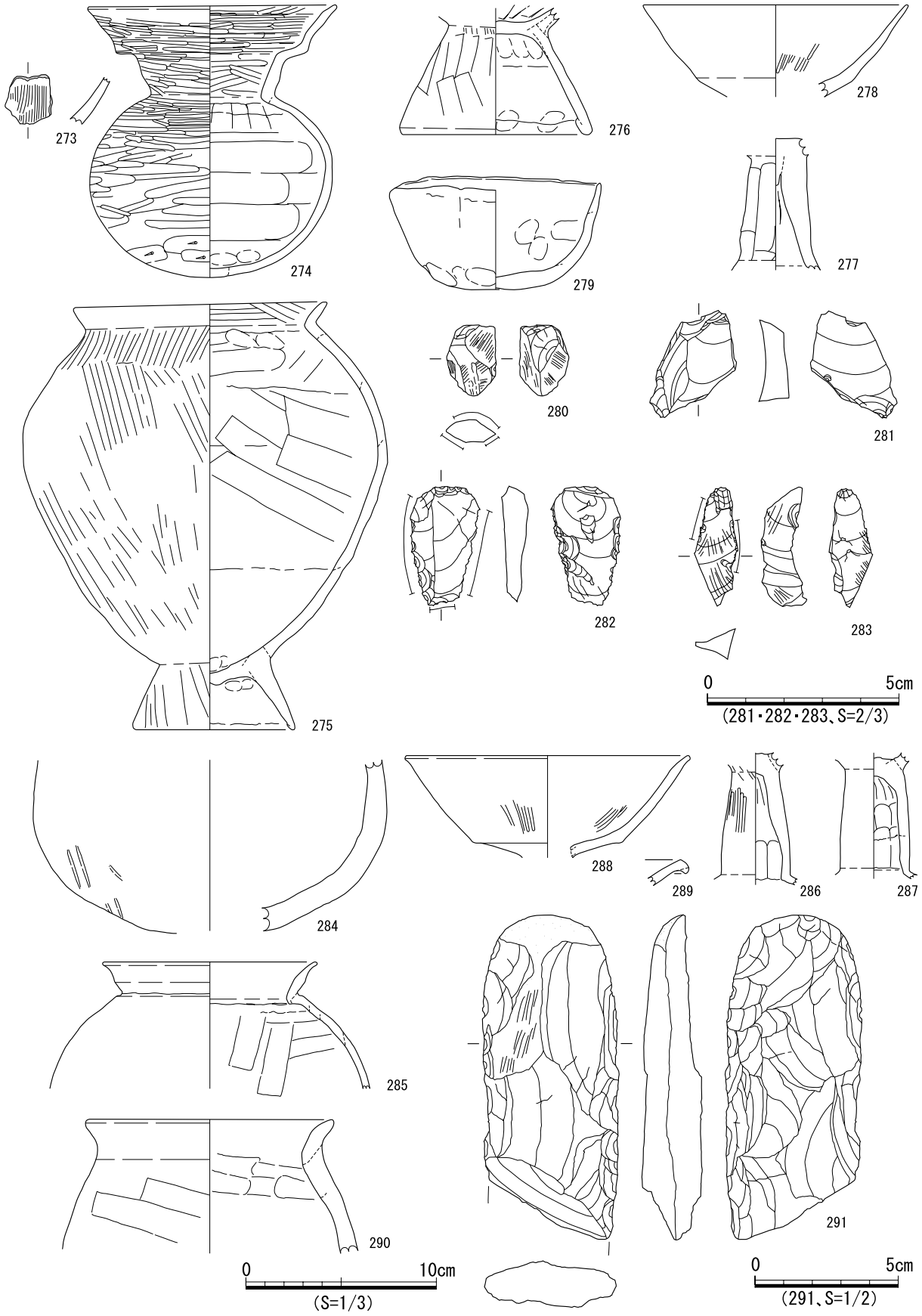



図115　SI04・SI07・SI10出土遺物

く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。６・７層のように壁際から埋没する。

**壁**　Ⅲ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.13ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（９層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒色土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴２基、性格不明土坑５基である。炉、壁際溝は確認できなかった。Ｐ１、Ｐ２は柱穴である。２基ともに明瞭な柱痕跡が確認できる。柱径は 0.09～0.15ｍと想定できる。柱埋戻土最上層に貼床層が確認できないことから、貼床形成後、柱穴の掘削を行ったと考えられる。ともに建物の中軸線から北東へ寄るため、主柱穴かは不明である。Ｐ３、Ｐ７は４本柱の建物とすると竪穴内の位置関係としては主柱穴の想定が可能であるが浅く、柱の当たりも確認できない。Ｐ６は北東辺に接している浅い穴である。検出面中央部で焼土を確認した。埋土は薄く、焼土も底面から浮く。底面に被熱痕が認められないため、炉の可能性は低いと判断した。

**床下**　貼床除去後、遺構は確認できなかった。竪穴内部北西部と中央部で浅い窪み（Ｄ－Ｄ’土層図 10 層）を確認したが一部にとどまり、掘方整地層や周溝状掘方のような面的な広がりは確認できなかった。

**遺物出土状況**　縄文土器３点、弥生土器７点、古墳前期土師器 48 点、時期不明土師器類 59 点、石器類２点が出土した。床面で、Ⅳ期高坏Ｃ類（288）、Ⅲ・Ⅳ期器台（289）が、潰れて破片が散在する状態で出土した。

**出土遺物**　284 はⅣ期壺 X2 類である。内面に煤が付着する。外面は被熱のため赤色化する。外面に先端の細い工具によるナデ痕跡が残る。285 はⅣ期甕 C2 類である。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胴部内面は板ナデ調整する。胴部は外傾接合する。286、287 はⅣ期高坏 C2 類である。286 は外面をヘラナデ調整して面取りした後、タテミガキを施す。坏部との接合部で工具を強く当ててナデているため、ケズリ状の砂粒の動きが看取できる。脚部内面は絞り込み後、ナデ調整する。脚部内面の調整後、裾内面をナデているため、粘土が脚柱部内側にはみ出す。287 の脚部はエンタシス状にやや下方がふくらむ。内面絞り込み後、縦方向のユビナデ、外面は縦方向の板ナデで調整する。外面に縦方向のほぼ等間隔の稜が認められる。288 はⅣ期高坏Ｃ類である。内外面にタテミガキが僅かに残る。口縁端部は薄くなり、僅かに外反する。坏底部は屈曲部が肥厚し明瞭な稜をつくる。289 はⅢ・Ⅳ期器台である。口縁端部は肥厚して外反する。外面はヨコミガキを施す。内面は摩耗のため調整不明である。290 はⅤ・Ⅵ期甕である。口縁部の屈曲が弱い。291 は打製石斧である。刃部を折損する。上部から中央部に円礫時の自然面が残る。装着痕は不明だが、自然面に斜方向の線状痕が認められ、装着痕の可能性がある。

**時期**　床面出土遺物から東野Ⅳ期の可能性が高いと判断した。

**SI11（図 116～118）（AS1222）**

**検出状況**　Ｃ地点 KF２・３グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物北東半部を SI10 に切られる。平面形は四辺がほぼ直線状の隅丸方形である。長軸の方位はＮ－39°－Ｅである。

**埋土**　北半は SI10 に切られるため、埋土は残存していない。南半の埋土は、黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。残存する壁面はやや開く。北東辺はSI10によって立ち上がりを消失しているため、壁際溝掘方をSI11の規模とした。壁の残存高は最大で0.09mである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（４層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴４基、壁際溝、貯蔵穴２基、盛土状遺構３基、性格不明土坑６基である。炉は確認できなかった。竪穴内の位置関係からＰ01、Ｐ02、Ｐ03、Ｐ04をこの建物の主柱穴と判断した。Ｐ02で明瞭な柱痕跡、Ｐ01とＰ02で柱の当たりが確認できる。柱径は0.09m前後と想定できる。Ｐ03は、柱痕跡は不明だが、底面にやや硬化した範囲を確認したため柱穴と判断した。Ｐ04は、撹乱坑底部の清掃時、周囲のⅥ層とは異なる範囲があり、精査したところ底面の硬化面を確認したため柱穴とし、SI11内の位置関係から主柱穴と判断した。そのため土層断面を記録していない。Ｐ02、Ｐ03で貼床除去後に掘方を検出したことから、柱埋設後、貼床形成した可能性が高いと考えられる。壁際溝は、現代の撹乱坑及び建物の北東部 SI10と重複する部分で途切れる以外、壁際を全周する。深さ平均0.06mを測る。

**貯蔵穴**　Ｐ06は南東隅床面、Ｐ07は南東隅からやや西寄りの床面で確認した円形の穴である。どちらも竪穴内の位置と形状から貯蔵穴の可能性が高いと判断した。Ｐ06の壁は直立し、底面は平らである。深さは0.28mを測る。Ⅵ層に到達したところで掘削が終わっている。埋土中から甕胴部片３点が出土した。貼床層（Ｐ06土層７層）がＰ06にほぼ垂直に切られていることから、貼床形成後、貯蔵穴の掘削を行ったと考えられる。Ｐ07の壁は開き、底部は丸い。深さは約0.15mを測り、Ｐ06に比べ浅い。壁際溝を切ることから、壁際溝の埋戻し後に掘削されたと考えられる。

**盛土状遺構**　貯蔵穴の周囲で盛土状遺構Ｍ１、Ｍ２、Ｍ３を検出した。暗褐色粘質土と黒褐色粘質土の混合土で構築され、しまる。Ｍ２はＰ07の上端東側を僅かに覆う。さらに、Ｍ３が柱穴に接し、Ｍ１、Ｍ２が壁際溝を覆うことから、構築順は、貼床の形成→壁際溝及び柱穴の掘削・埋戻し→貯蔵穴の掘削→盛土状遺構の構築と考えられる。Ｍ３はその形状から２基の盛土状遺構が重複していると想定して解体したが、明瞭な先後関係を見出すことはできなかったことから一体で構築された可能性が考えられる。

**床下**　貼床除去後、柱穴１基、性格不明土坑５基を確認したが、SI11との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器４点、弥生土器８点、古墳前期土師器48点、時期不明土師器類29点、須恵器１点、石器類４点が出土した。埋土上層から弥生土器・土師器類が出土したが、下層の掘削にしたがって減少し、破片が大きくなっていった。建物南部の床面直上でⅣ期甕B3類（292）、Ⅳ期器台（294）が出土した（図116）。

**出土遺物**　292はⅣ期甕B3類である。口縁端部でやや内彎する。内面はヨコナデ、外面はナデ調整する。口縁端部は折損する。293はⅣ期甕C2類である。口縁部はほぼ直線的に開くが、僅かな凹凸でＳ字状になる。口縁部は内外面ヨコナデ調整する。頸部外面に沈線が１条巡る。胴部外面はハケ、内面はユビナデ調整する。294 はⅣ期器台である。受部内面中程で窪み、やや皿状を呈する。孔部の断面は逆台形で、上から工具を差し込んで回転させて仕上げる。内外面はナデ調整する。295 は磨製石鏃未製品２類である。全体を粗く打ち欠いて大まかな形状にする。背面は層理面である。下半は一次加工時の折れの可能性がある。296は砥石である。砥面は４面で、Ｕ字溝が同じ面で４条切り合う。

**時期**　床面出土土器（294）から東野Ⅳ期と判断した。

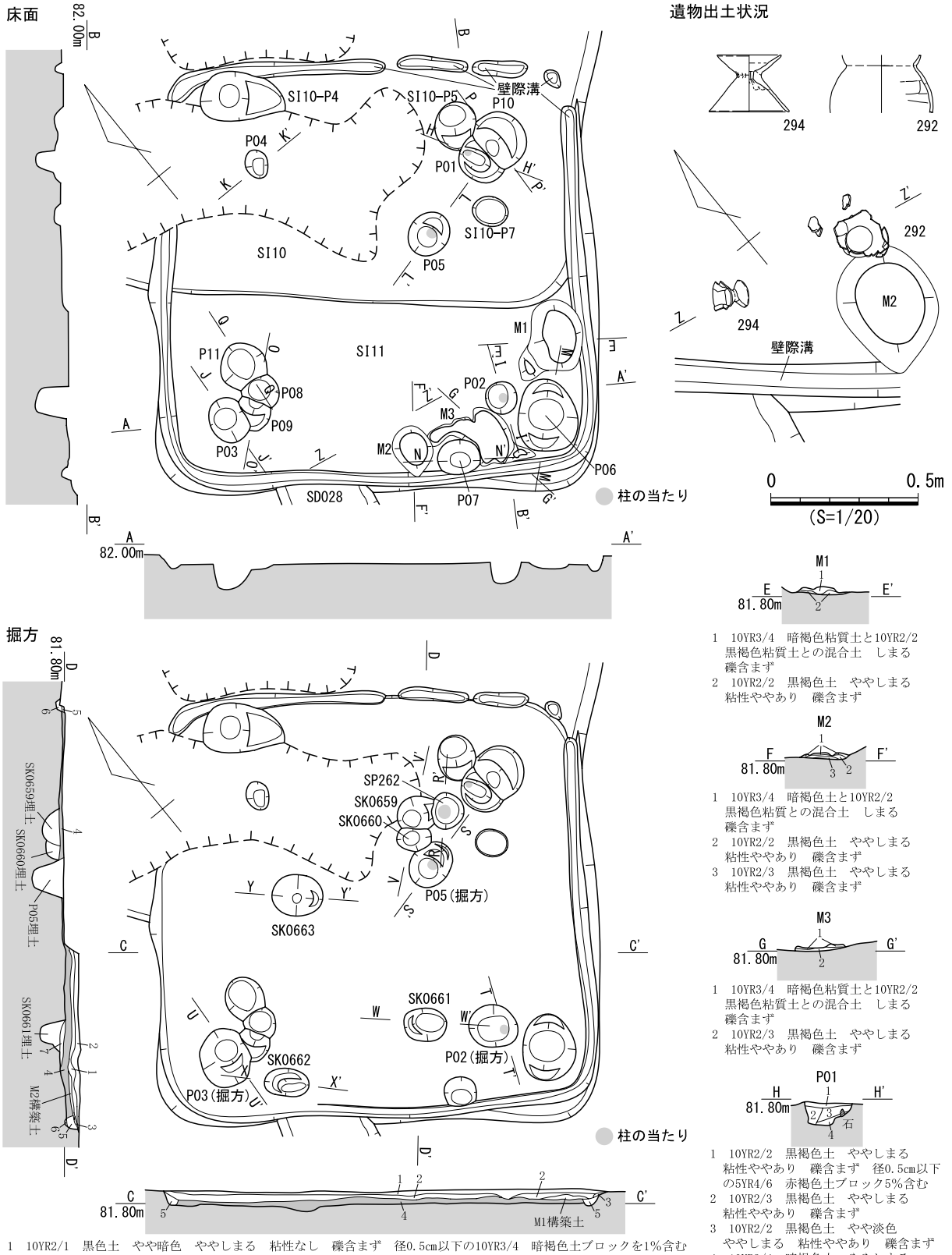
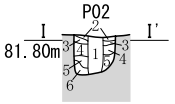
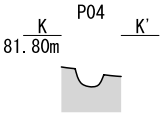


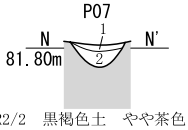

図116　SI11遺構図（１）



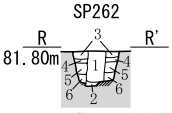

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土と10YR3/4　暗褐色
　粘質土の混合土　固くしまる
　礫含まず（貼床層）
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



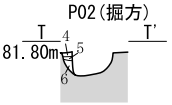

＊土層記録なし



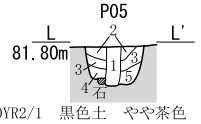

1　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



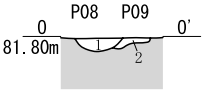

1　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　下部にむかって濃くなる
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土と10YR3/4　暗褐色
　粘質土の混合土　固くしまる
　礫含まず（貼床層）
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



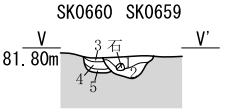

4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



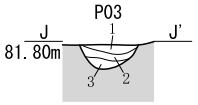

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　しまり弱い　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



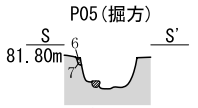

P08
1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
P09
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず



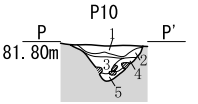

SK0659
1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
SK0660
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



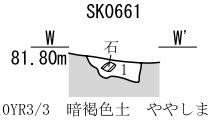

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



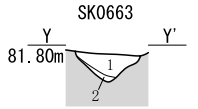

6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR2/2黒褐色土ブロック10%含む
7　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の 10YR4/6　褐色土ブロック10%含む



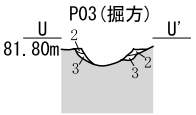

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR4/3　にぶい黄褐色土
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず



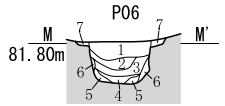

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



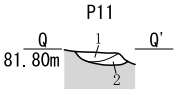

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　炭化物極少量含む
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



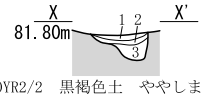

2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/2　黒褐色粘質土と10YR3/4
　暗褐色粘質土と 10YR1.7/1　黒色土の
　混合土　固くしまる　礫含まず




1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土
　ブロック7%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土
　ブロック20%含む

0　2m
(S=1/50)

図117　SI11遺構図（２）

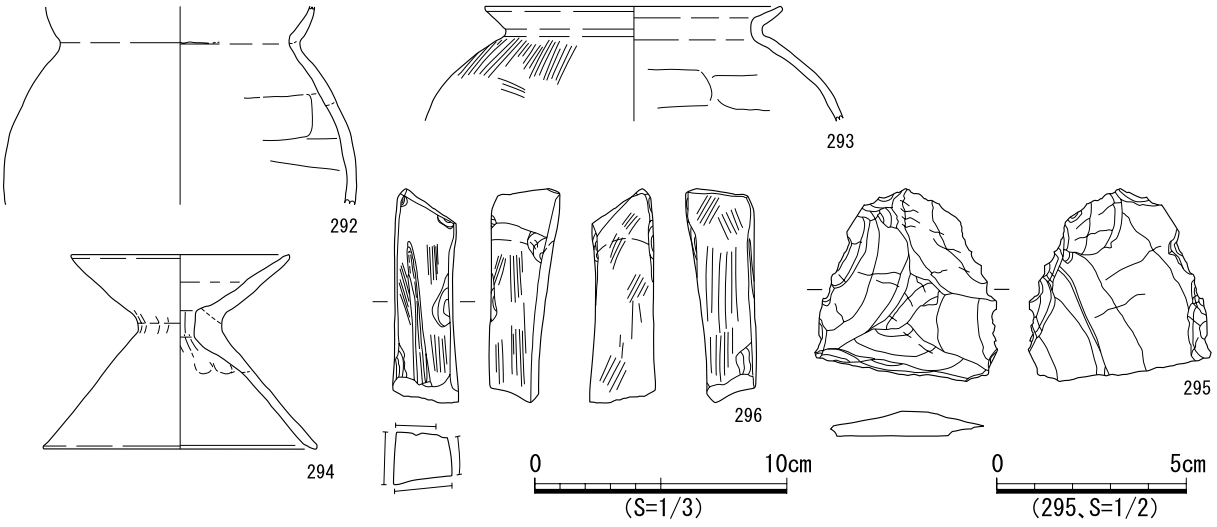



図118　SI11出土遺物

SI17（図 119～121）(BS0001)

**検出状況**　Ｃ地点 JF19～JG20 グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物北西部で SK0682、NW06 を、南東部で NW08 を切る。平面形は、東西にやや長い隅丸方形である。長軸の方位は、Ｎ－３°－Ｗである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土が僅かに傾斜する。埋土中に黄褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

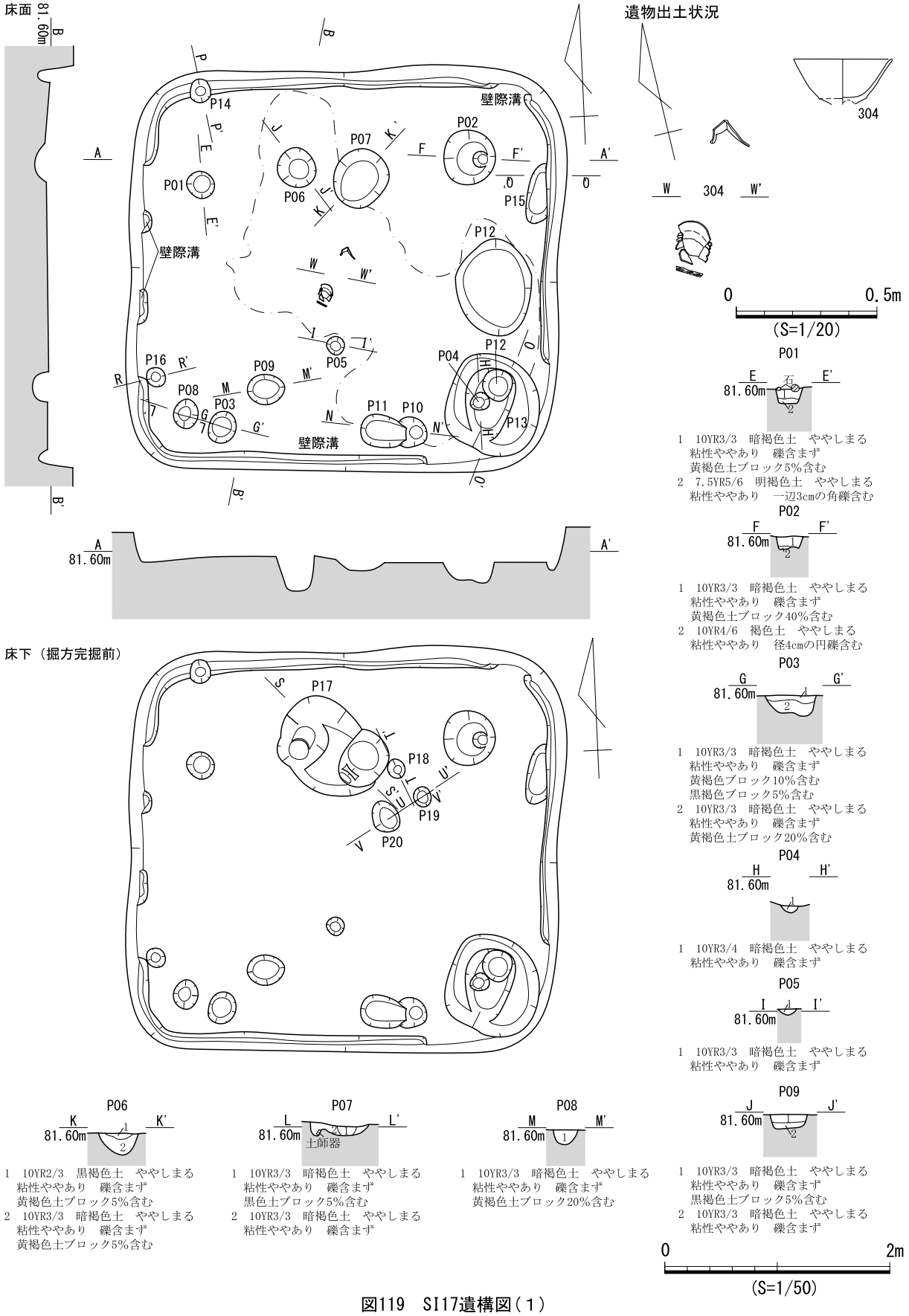
**壁**　Ⅲ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.25ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（６層）が中央部に残存する。貼床は、褐色土を主体として黒褐色土ブロックを含み、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴４基、壁際溝、立石遺構１基、性格不明土坑 12 基である。炉は確認できなかった。Ｐ01、Ｐ02、Ｐ03、Ｐ04 は、柱痕跡は確認できなかったが、竪穴内の位置関係と深さから主柱穴の可能性が高いと判断した。Ｐ01 は貼床を切ることから、貼床形成後、掘削されたと考えられる。Ｐ13 底面でＰ04 を検出したことから、Ｐ13 はＰ04 の掘方である可能性が考えられる。壁際溝は建物の北西と南西隅、西側で途切れるがほぼ全周する。深さは南辺と西辺で 0.14ｍ、北辺で 0.08ｍを測る。Ｐ15 は床面東部壁際で検出した楕円形の土坑である。亜角礫の長軸と建物東辺が平行になるように出土し、その下部で浅い掘り込みを確認したことから立石遺構と判断した。亜角礫は土坑の長軸方向に長手に配置される。壁際溝を切ることから、壁の構築後に掘られ、礫が置かれたと考えられる。壁を支える目的で構築された可能性が考えられる。

**床下**　貼床除去後、性格不明土坑４基、竪穴北西部以外の壁際を巡る周溝状掘方、掘方整地層を検出した。なお、床下で検出した性格不明土坑は周溝状掘方及び掘方整地層を切っていることから、建物掘方の整地後、貼床形成前の遺構と判断した。床下で、周溝状掘方（７層）、掘方整地層（８層）を検出した。土層断面から、まず竪穴を整地（８層）した後、北西部を除く壁際を巡る部分を掘り下げて褐色土を充填（７層）する。周溝状掘方は、北西部を除く壁際で検出し、幅 0.4～1.1ｍ、厚さ 0.05～0.12ｍを測る。Ⅵ層に到達した時点で掘削を終えており、床下周溝状掘方及び掘方整地層が確認できなかった範囲はⅥ層のレベルが高く、木曽川泥流堆積物に含まれる礫が多量に露出している。周溝状掘方及び掘方整地層は、褐色土を主体に黒褐色土ブロックと黄褐色土ブロックを含み、貼床及び基盤層よりしまりは弱い。

**遺物出土状況**　縄文土器 11 点、弥生土器 93 点、古墳前期土師器 125 点、古墳後期以降土師器類４点、時期不明土師器類 219 点、須恵器１点、礫類１点、石器類８点、炭化物が出土した。埋土から弥生土器・土師器類、須恵器、縄文土器が出土したが、下層の掘削にしたがい弥生土器・土師器類が増えていった。また、埋土４層から砥石（取上番号 20554）が出土した。床面南部壁際で円礫が出土した。この礫は床面から浮いており、Ｐ15 のような下部の掘り込みは確認できなかった。

**出土遺物**　297 は掘方出土のⅢ・Ⅳ期壺 A2 類である。頸部に突帯を２本貼りつける。内外面は摩耗により調整不明である。298、299 はⅣ期壺Ｃ類である。298 の口縁部外面はヨコナデ調整し、内面は摩耗により調整不明である。胴部外面はミガキ、内面はナデ調整する。299 は口縁部上段が外反する。内外面は摩耗により調整不明である。300～302 はⅣ期甕 C1 類である。300 の口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部外面に沈線が１条巡る。胴部外面はハケ、内面はナデ調整する。口頸部の接合部にユビオサエが残る。口縁部外面に煤が付着する。301 は口縁端部をつまみ上げて上端に面をつくり、そ




P01
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック5%含む
2　7.5YR5/6　明褐色土　ややしまる
粘性ややあり　一辺3cmの角礫含む

P02
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック40%含む
2　10YR4/6　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　径4cmの円礫含む

P03
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色ブロック10%含む
黒褐色ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック20%含む

P04
1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

P05
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

P06
1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック5%含む

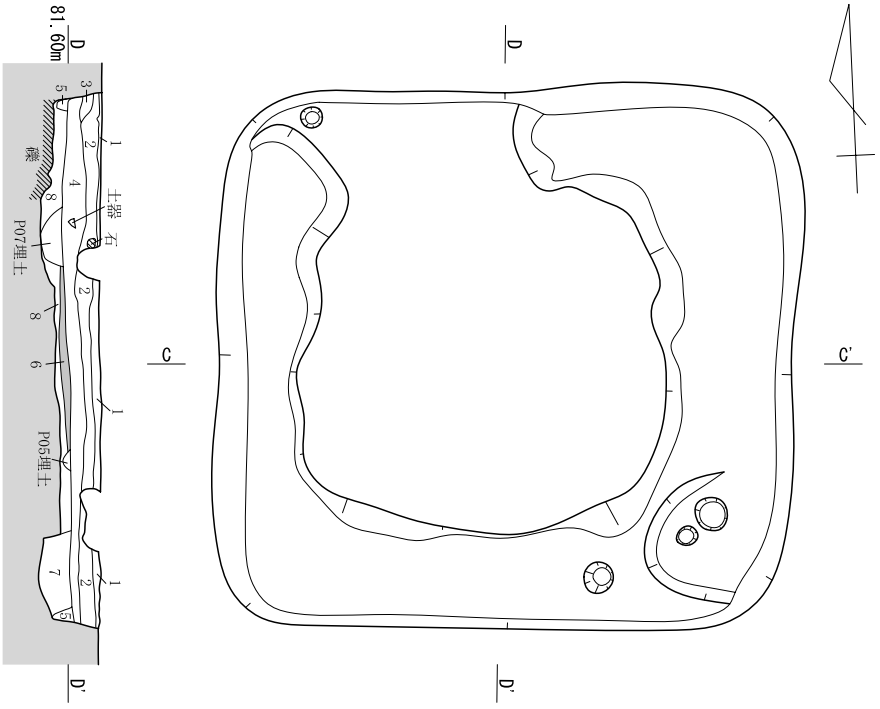
P07
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黒色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

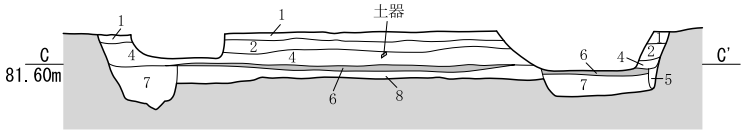
P08
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黄褐色土ブロック20%含む

P09
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黒褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

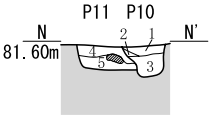
図119　SI17遺構図（１）

掘方（掘方完掘後）

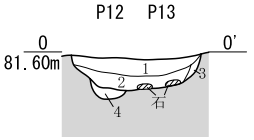



1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土ブロック3%含む
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　径5cmの角礫わずかに含む　黄褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土ブロック20%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土ブロック15%含む
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土ブロック5%含む（壁際溝埋土）
6　10YR4/4　褐色土　固くしまる　粘性なし　礫含まず　黒褐色土ブロック20%含む（貼床層）
7　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黒色土ブロック10%、黄褐色土ブロック5%含む
　場所によりブロック含有率異なる（周溝状掘方埋土）
8　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土ブロック10%含む（掘方整地層）

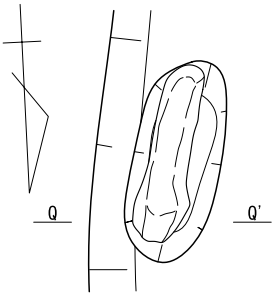


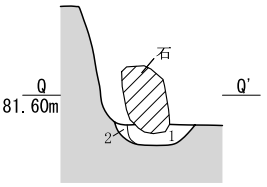

P10
1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR5/8　黄褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
P11
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック20%含む
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　径8cmの角礫含む
　黄褐色土ブロック30%含む



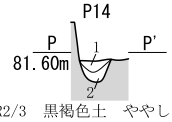

P13
1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック1%含む
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック1%含む
3　10YR5/4　にぶい黄褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　径8cmの亜円礫含む
P12
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

P15遺物出土状況

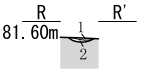


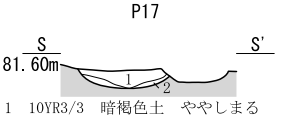

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック30%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黄褐色土ブロック5%含む



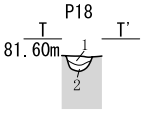

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



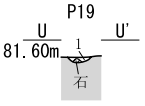

1　10YR1.7/1　黒色土　しまりなし
　粘性なし　礫含まず
　褐色土ブロック40%含む
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



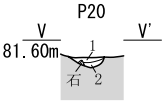

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土
　ブロック5%　黄褐色ブロック5%含む
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック30%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　径7cmの円礫含む




1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　径4cmの円礫含む
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

0　0.5m
(S=1/20)

図120　SI17遺構図（２）

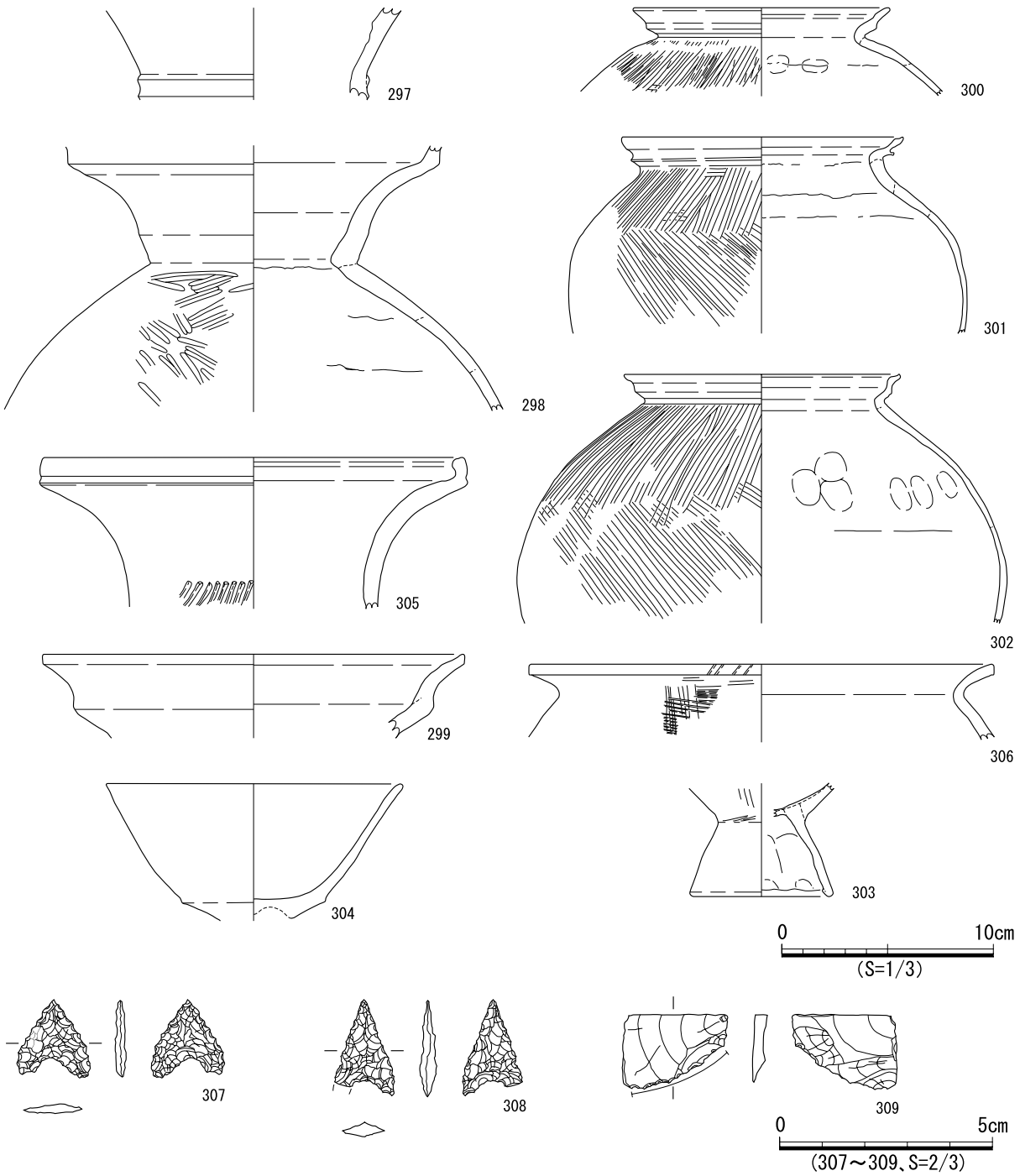



図121　SI17出土遺物

の面に沈線を巡らせて段をつくる。頸部は、下から上に向け棒状工具を押し当てて沈線を巡らせるため、屈曲部が強く外方へ突出する。胴部外面は８本１単位のハケ、内面はヨコナデ調整する。302 は口縁部が屈曲し、端部をやや上方につまみ上げる。頸部外面に沈線が１条巡る。303 はⅣ期甕 X1 類である。脚台部外面は摩耗により調整不明である。内面はユビナデ後ユビオサエが見られる。胴部外面はハケ、内面はナデ調整する。脚台部と胴部は両側から充填して接合する。304 はⅣ期高坏Ｃ類である。坏部がやや深く、底径は小さい。内外面は摩耗により調整不明である。305 はⅢ期壺Ｇ類の口縁

～頸部である。口縁部は内傾する。外面に凹線１条を施す。内面は摩耗により調整不明である。頸部はくびれて口縁部に向かって直立する。外面に板状工具による刺突列を施す。306 はＰ07 から出土したⅢ期甕Ｃ類である。口縁部は大きく開き、外反する。口縁端部外方に面を持ち、叩き調整する。胴部外面はハケ調整後、叩き調整する。内面は摩耗により調整不明である。307、308 は打製石鏃である。307 は、背面の右側縁部に顕著に見られる細かい調整の連続によって刃部を作出する。308 は片脚を折損する。右側縁、左側縁、脚の順で調整している。309 はＭＦである。弧状の辺に微細な剥離を連続させる。

**時期**　床面出土土器（302）から東野Ⅳ期と判断した。

**SI20（図 122～125・131）(BS0320)**

**検出状況**　Ｃ地点 JI16～JK17 グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。平面形は、四辺がほぼ直線状の東西方向にわずかに長い隅丸方形である。長軸の方位は、Ｎ－76°－Ｗである。

**埋土**　埋土が薄いが、埋土中に黒褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

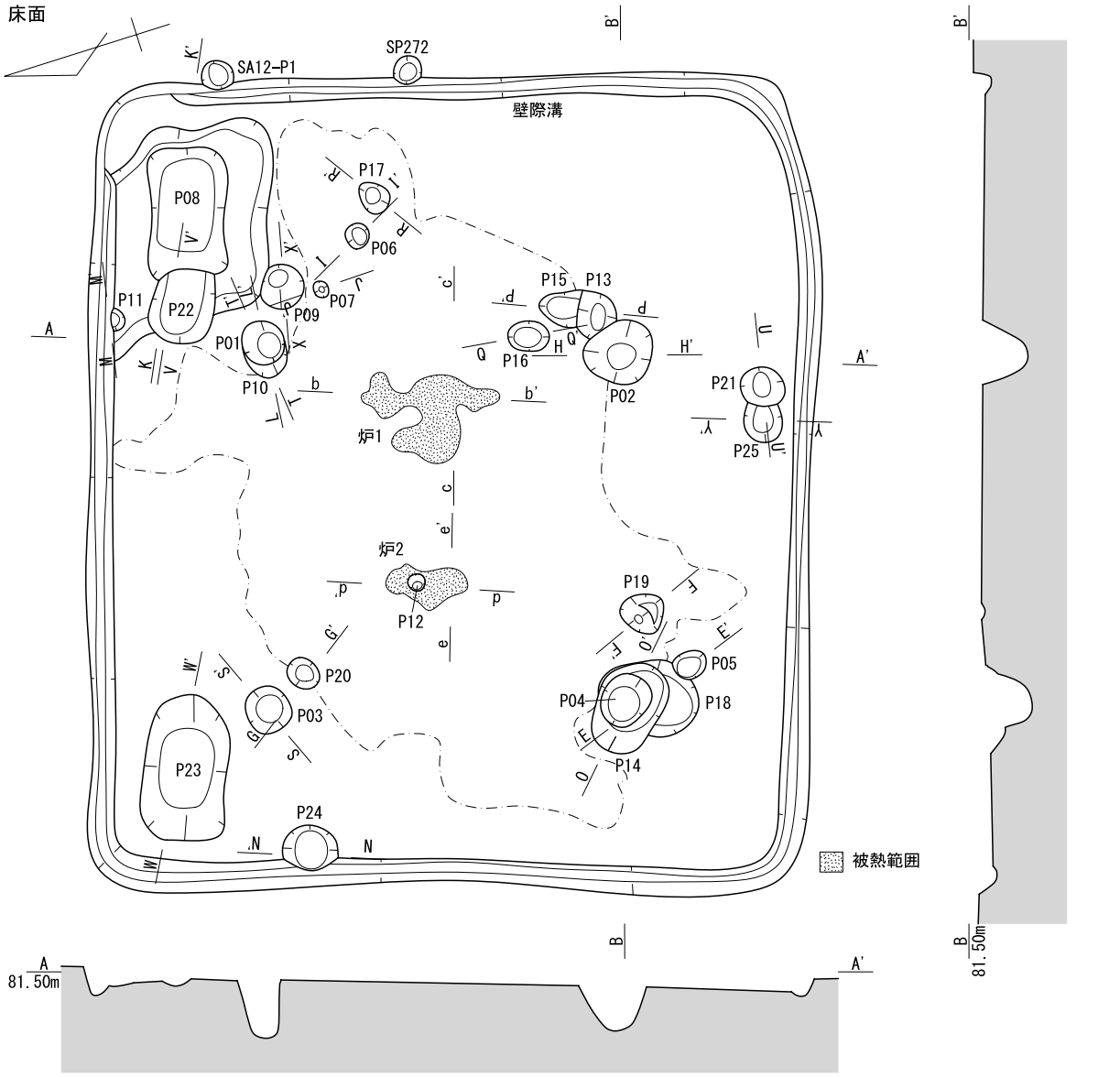
**壁**　Ⅲ層を掘り込んでいる。壁面は直立に近い。壁の残存高は最大で 0.03ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。硬化部分（８・９層）が建物中央部に残る。貼床（７～11 層）は黒褐色土・褐色土が主体で、褐色土ブロック・黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロックを不均一に含み、しまる。11 層は７～10 層よりしまりは弱いが、周溝状掘方の上端を覆うことから、貼床層と判断した。床面で検出した遺構は柱穴８基、壁際溝、炉２基、貯蔵穴２基、性格不明土坑 15 基である。竪穴内の位置関係と規模からＰ01、Ｐ02、Ｐ03、Ｐ04 をこの建物の主柱穴と判断した。Ｐ04 で明瞭な柱痕跡が確認できる。柱径は約 0.17ｍと想定できる。柱埋戻土最上層に貼床層が確認できないことから、貼床形成後に柱穴が掘削されたと考えられる。Ｐ09、Ｐ17、Ｐ21、Ｐ25 は柱穴である。Ｐ17、Ｐ25 で明瞭な柱痕跡が確認できる。壁際溝は、ほぼ全周にわたり壁際を巡る。深さ平均 0.15ｍを測るが、南中央部は比較的浅い。

**炉**　建物中央部やや東寄りで炉１、西寄りで炉２を検出した。炉１は竪穴埋土である黒褐色土（１層）除去後、Ｐ12 によって消失している範囲以外で焼土を確認した。焼土除去後、基盤層の被熱を確認した。炉２は竪穴建物埋土である黒褐色土（１層）除去後、焼土を確認した。焼土除去後、基盤層の被熱を確認した。ともに明確な掘方は確認できない。被熱深度を確認するためそれぞれ断ち割りを行い、0.06～0.08ｍの被熱深度があった。炉の掘方が確認できなかったことから、地床炉の可能性が高いと判断した。

**貯蔵穴**　北東隅のＰ08 と北西隅のＰ23 を、竪穴内の位置関係と形状から貯蔵穴と判断した。床面、床下掘方を切ることから掘方を埋め戻し、貼床形成後に掘削されたと考えられる。平面形は隅丸方形で、底は平らである。竪穴機能時に２基併存していたか使用時期差があるかは不明であるが、床面で検出し、床状の硬化層が覆っていないことから同時機能の可能性が高いと考えられる。Ｐ08 の外縁は床面からややくぼんでおり二段構造である。埋土からⅣ期甕 C1 類（312）が出土した。

**床下**　貼床除去後、性格不明土坑１基、周溝状掘方を検出した。周溝状掘方は、北東部を除いて壁際を巡る。周溝状掘方（11・13 層）は幅 0.72～1.24ｍ、深さ平均 0.03ｍを測る。褐色土を主体とし、黒褐色土ブロックと暗褐色土ブロックを不均一に含む。性格不明土坑と SI20 との関連は不明である。



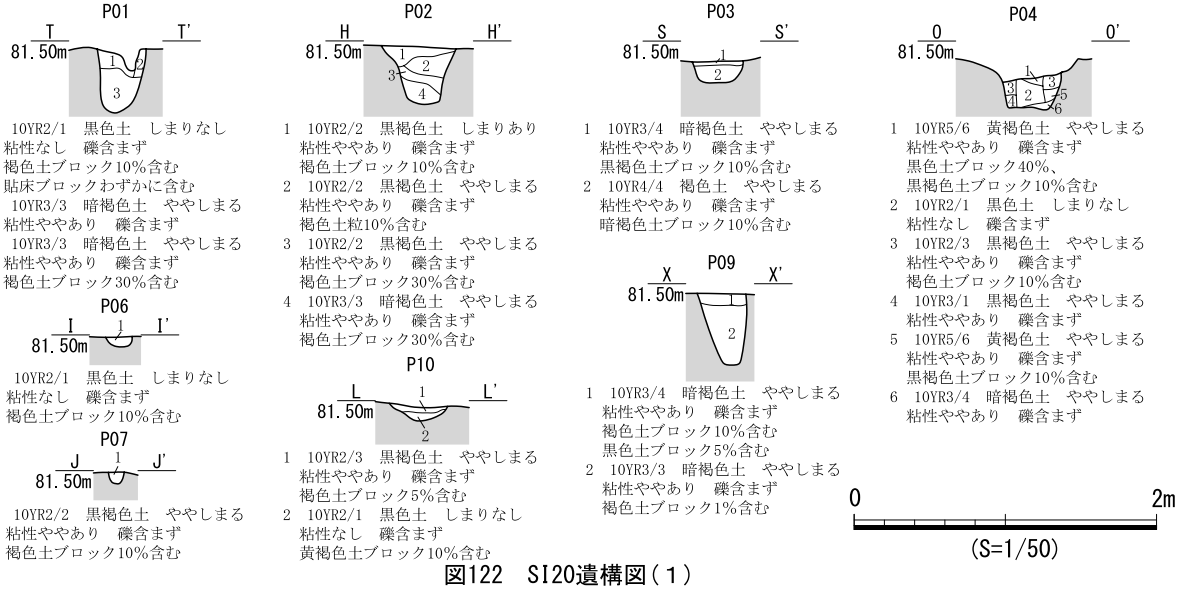
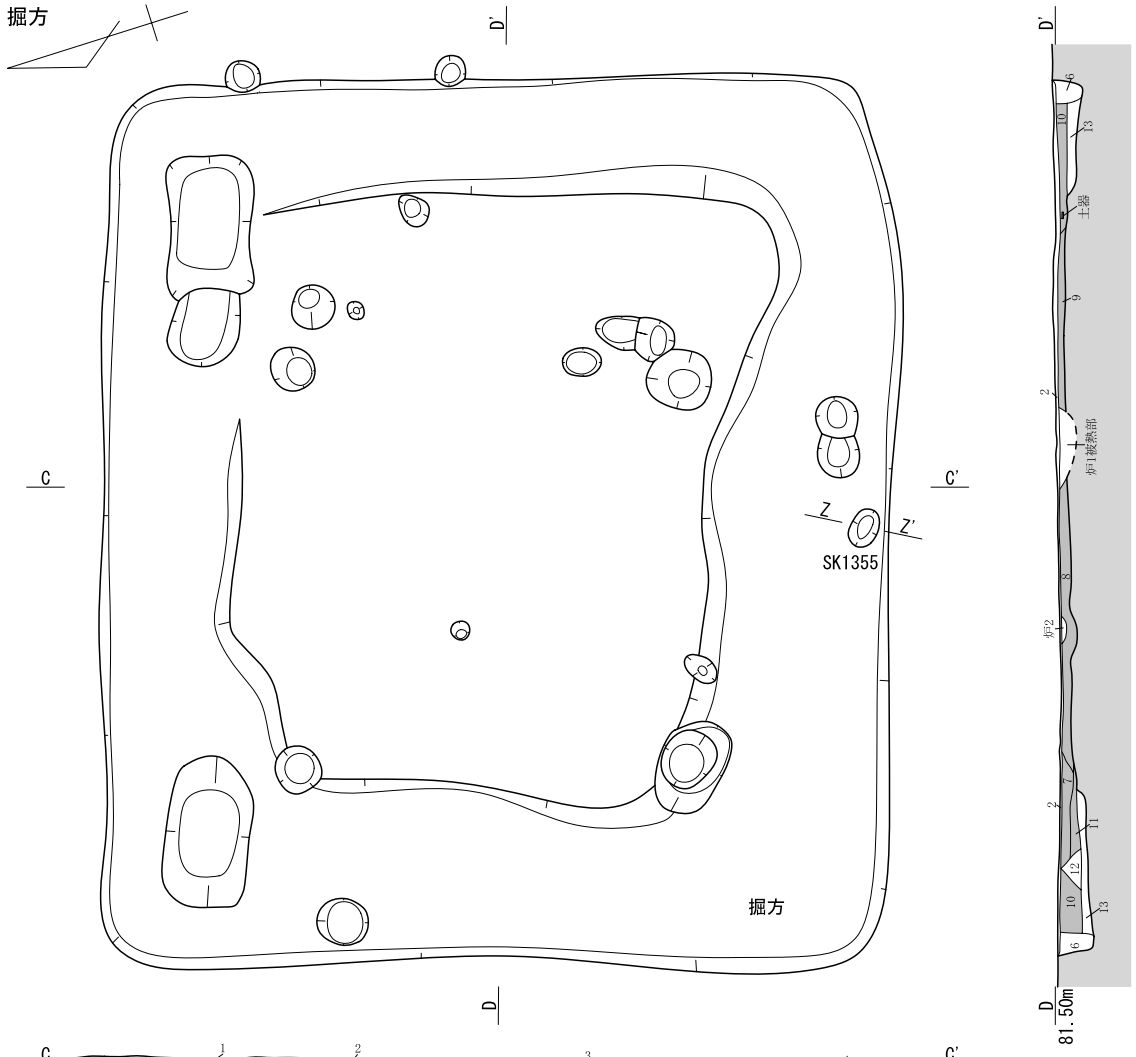
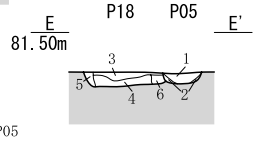



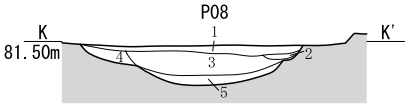

図122　SI20遺構図（１）



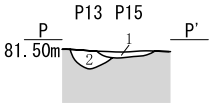

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　10YR2/3　黒褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック10%、黒色土ブロック1%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック20%含む（壁際溝埋土）
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック10%含む（壁際溝埋土）
7　10YR2/3　黒褐色土　しまる　粘性なし　礫含まず　褐色土ブロック30%含む（貼床層）
8　10YR4/6　褐色土　しまる　粘性なし　礫含まず　黒褐色土ブロック20%含む（貼床層）
9　10YR2/3　黒褐色土　しまる　粘性なし　礫含まず　褐色土ブロック10%含む（貼床層）
10　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土ブロック20%含む（貼床層）
11　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黒色土ブロック5%、褐色土ブロック10%含む（貼床層）
12　10YR5/6　黄褐色土　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土ブロック20%含む（根痕）
13　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　暗褐色土ブロック30%、黒褐色土ブロック10%含む
（周溝状掘方埋土）



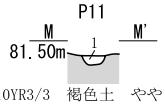

P05
1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック20%含む
2　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　礫含まず
P18
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　礫含まず
黄褐色土ブロック20%含む
5　10YR4/4　褐色土　しまりなし
粘性なし（根痕）
6　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック40%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土粒5%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　粒状～径3cm大の角礫40%含む
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土粒1%含む




P15
1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
P13
2　10YR4/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
黒褐色土ブロック20%含む




1　10YR3/3　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック10%含む

0　2m
(S=1/50)

図123　SI20遺構図（２）

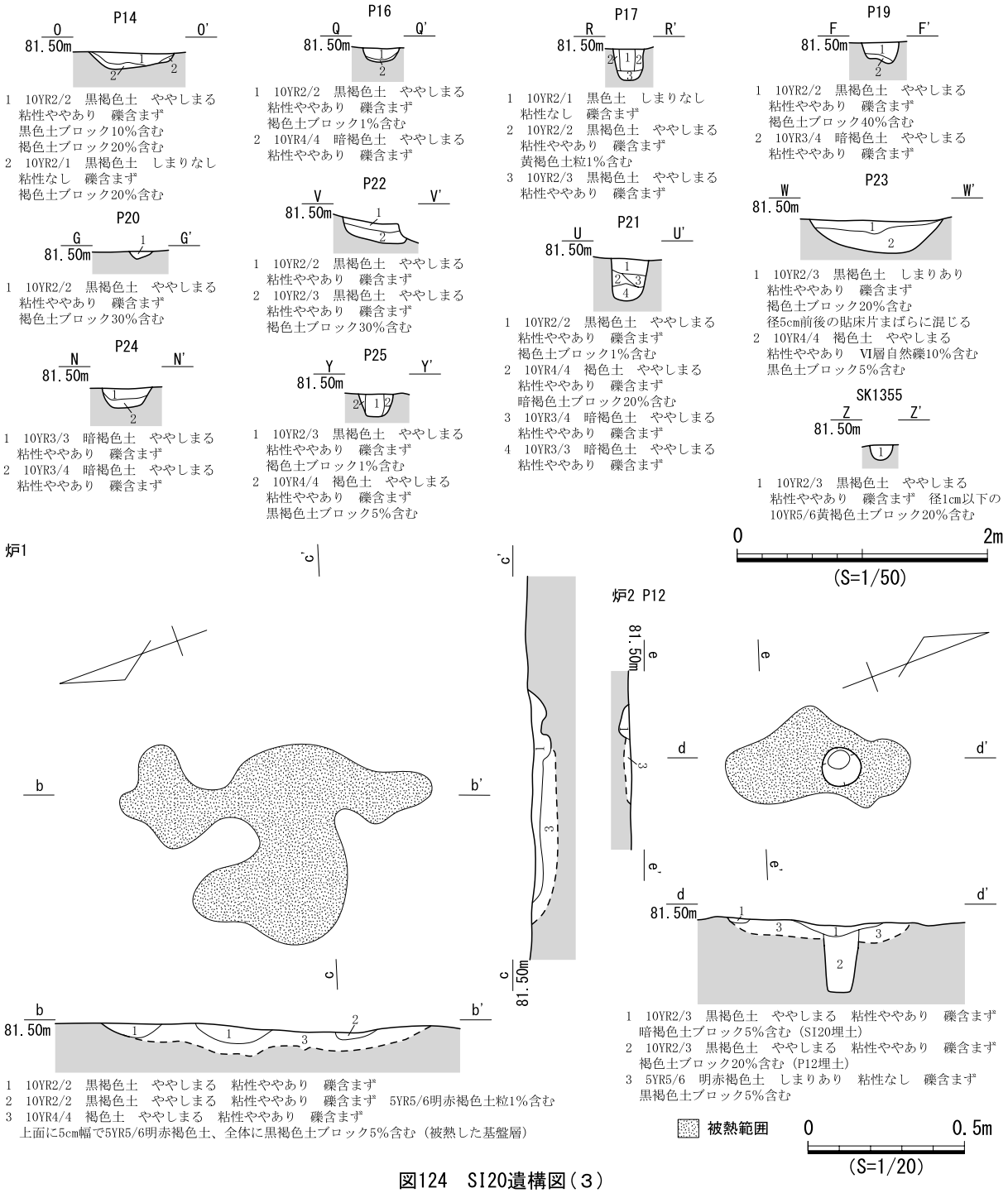



図124　SI20遺構図（３）

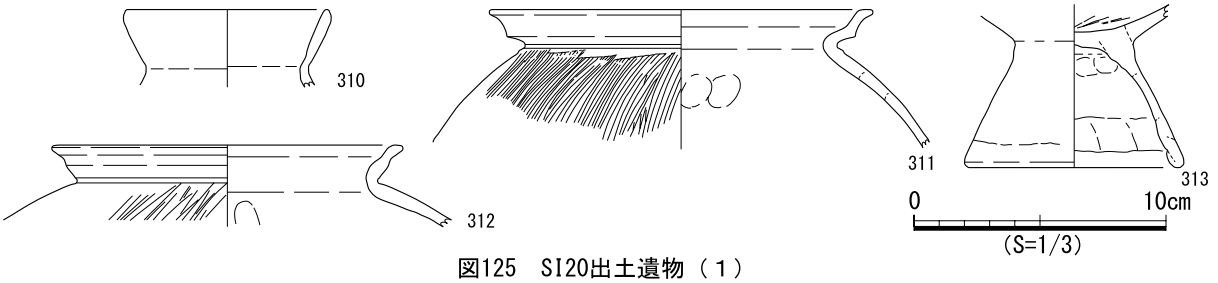



図125　SI20出土遺物（１）

**遺物出土状況**　縄文土器３点、弥生土器 14 点、古墳前期土師器 59 点、時期不明土師器類 39 点、石器類５点が出土した。

**出土遺物**　310 はⅣ期壺Ｄ類である。内外面はナデ調整する。比較的粗雑なつくりで器面に凹凸が見られる。311 はⅣ期甕 C1 類である。口縁端部上方に面をもつ。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胴部外面は８本１単位のハケ調整し、内面はナデ調整後、ユビオサエする。312 はＰ08 から出土したⅣ期甕 C1 類である。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胴部外面はハケ調整し、内面はヨコナデ調整後、ユビオサエする。頸部に沈線が１条巡る。外面は焼成時の黒斑が認められる。313 はⅣ期甕 X1 類である。脚台部外面はナデ調整し、内面は板ナデ調整する。折り返し部にユビオサエが見られる。胴部と脚台部は両側から充填して接合する。ハケは確認できない。被熱により器面が黒色化する。底部内面に板状工具の当たりが放射状に残る。314、315 は打製石鏃である。314 は凸基の打製石鏃で、作りが粗く、基部の抉りの大きさが異なる。先端範囲を内彎させて五角形状に作出する。315 は凹基の未製品で、右側縁部に微細な剥離調整を施して刃部を作出する。基部も微細な剥離調整が認められる。左右非対称である。

**時期**　床面出土土器（312）から東野Ⅳ期と判断した。

**SI28（図 126・127・131）（AS1898）**

**検出状況**　Ｃ地点 KE６～KF６グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。平面形は、東西方向にやや長い隅丸方形である。長軸の方位はＮ－81°－Ｅである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

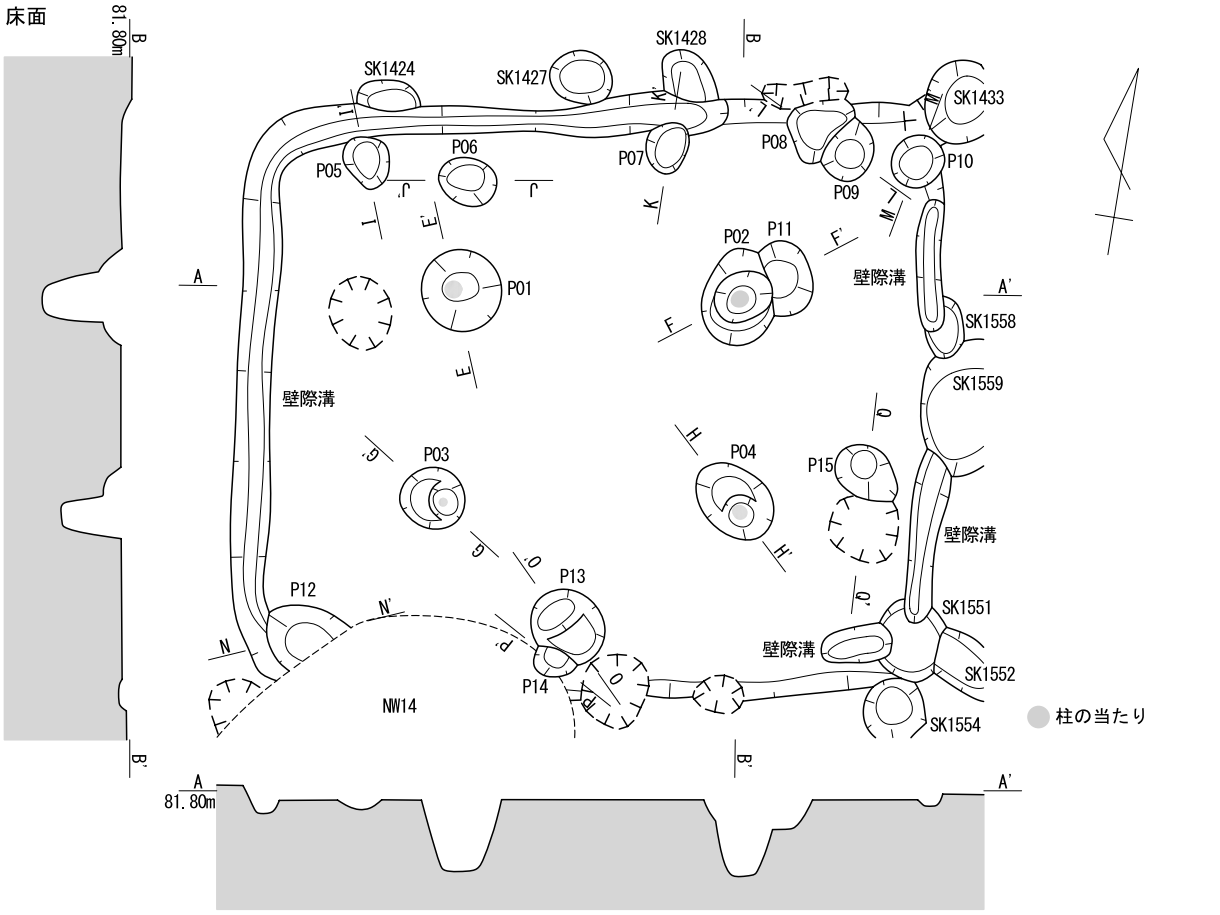
**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.10ｍである。

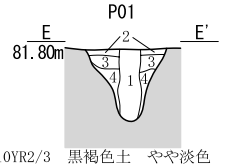
**床面**　ほぼ平坦である。貼床（７層）が全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土が主体で、暗褐色粘質土ブロックを含み、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴４基、壁際溝、性格不明土坑 11 基である。炉は確認できなかった。竪穴内の位置関係からＰ01、Ｐ02、Ｐ03、Ｐ04 をこの建物の主柱穴と判断した。４基ともに明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱埋戻土最上層に貼床層が確認できないことから、貼床形成後、柱穴が掘削されたと考えられる。位置関係は、東西方向の柱間がやや広く、竪穴掘方の形状と類似する。壁際溝は、南辺と北辺東部を除き、建物の壁際を巡る。深さ平均 0.06ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

**床下**　貼床除去後、性格不明土坑３基を検出したが、SI28 との関連は不明である。

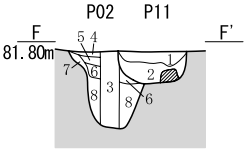
**遺物出土状況**　埋土から縄文土器８点、弥生土器 12 点、古墳前期土師器８点、時期不明土師器類 45 点、石器類４点が出土した。埋土から弥生土器・土師器類、縄文土器が出土したが、下層の掘削にしたがい土師器類が増えていった。

**出土遺物**　316 はⅣ期壺 D1 類である。内外面はヨコナデ調整である。鉢の可能性もある。317 は床面から出土したⅣ期甕 C2 類である。口縁部の屈曲部がやや弱い。内外面は調整不明である。頸部に沈線が１条巡る。318 はⅣ期甕 X1 類の脚台部である。脚台部のハケ調整からＳ字状口縁台付甕と思われる。胴部と脚台部は両側から充填して接合する。外面に接合時のユビオサエが残り、その後ハケ調整する。内面に煤が付着する。319 はⅢ期壺 A1 類の胴部片である。内面はナデ調整する。外面上方に直線文が４条巡り、その下方に簾状文を施す。左から右に向かって押し引く。

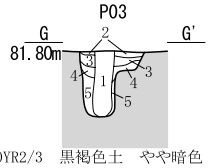


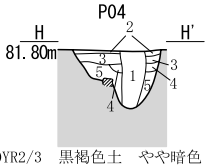

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性あり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



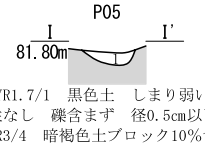

P11
1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
P02
3　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
8　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性あり　礫含まず



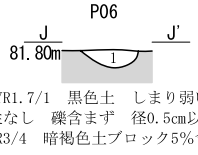

1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



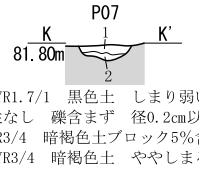

1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



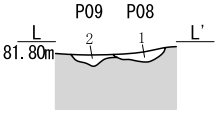

1　10YR1.7/1　黒色土　しまり弱い
　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む



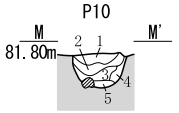

1　10YR1.7/1　黒色土　しまり弱い
　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む



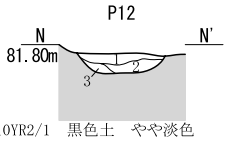

1　10YR1.7/1　黒色土　しまり弱い
　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




P08
1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色ブロック
　10%含む
P09
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色ブロック
　5%含む




1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性あり　径5cm以下の亜円礫含む




1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

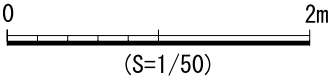
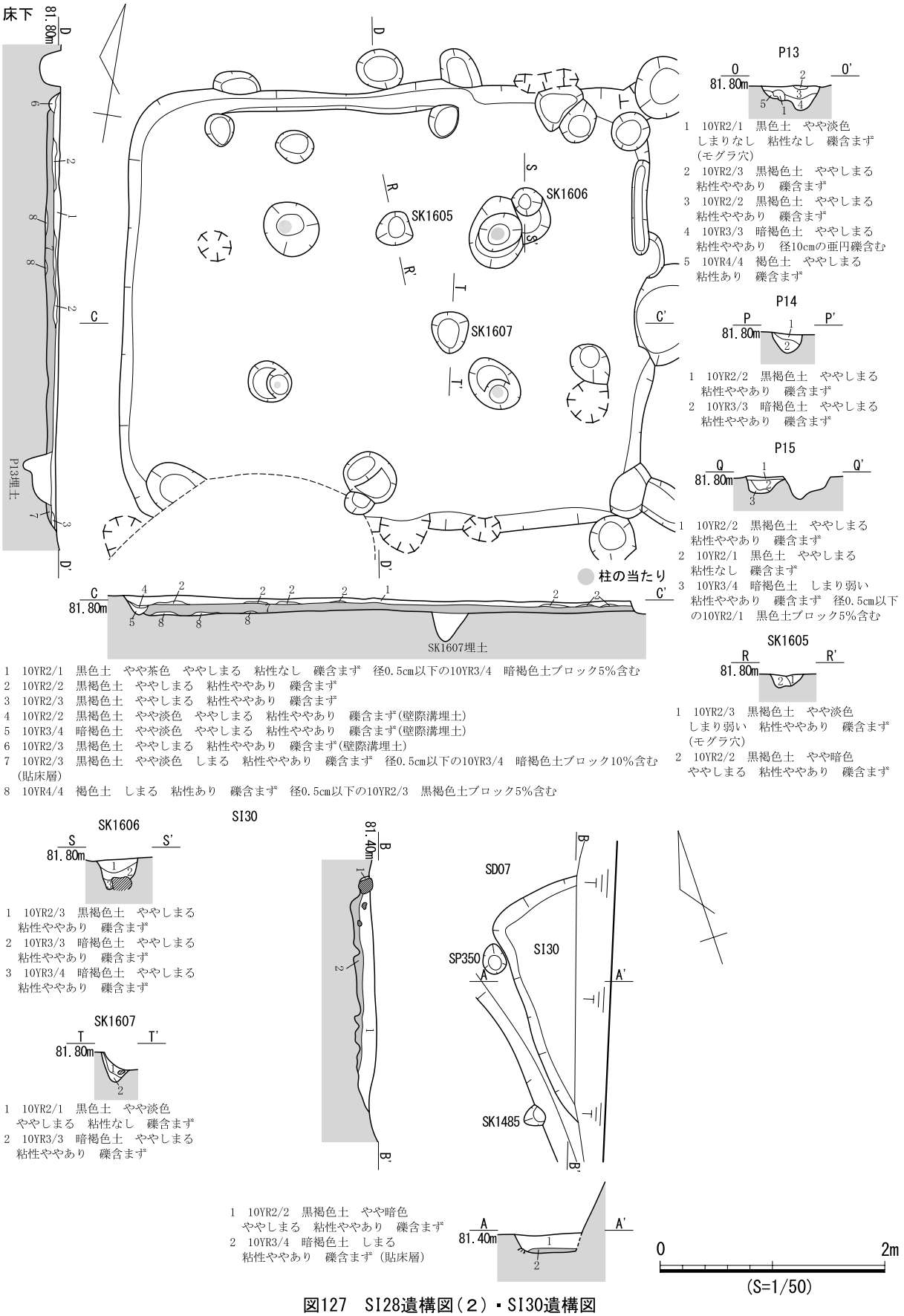



図126　SI28遺構図（１）




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず(壁際溝埋土)
5　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず(壁際溝埋土)
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず(壁際溝埋土)
7　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　しまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む(貼床層)
8　10YR4/4　褐色土　しまる　粘性あり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/3　黒褐色土ブロック5%含む

1　10YR2/1　黒色土　やや淡色　しまりなし　粘性なし　礫含まず(モグラ穴)
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　径10cmの亜円礫含む
5　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性あり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック5%含む

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず(モグラ穴)
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　しまる　粘性ややあり　礫含まず(貼床層)

図127　SI28遺構図(２)・SI30遺構図

**時期**　床面出土土器（316、318）から東野Ⅳ期と判断した。

SI30（図 127）（AS2037）

**検出状況**　Ｃ地点 KE８～KF８グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。東部は発掘区外のため不明だが、確認した二辺から平面形は隅丸方形と想定できる。SD07 に切られる。建物に付属する遺構は確認できなかったが、貼床が確認できることから竪穴建物と判断した。残存長軸の方位はＮ－２°－Ｗである。

**埋土**　黒褐色土の単層である。最大 0.14m厚の層が一気に埋まった状況を示すことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。壁面は開く。壁の残存高は最大で 0.13ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（２層）が確認した範囲全体に残る。貼床は暗褐色粘質土でしまる。床面で遺構は確認できなかった。

**床下**　貼床除去後、遺構は確認できなかった。

**遺物出土状況**　古墳時代前期土師器５点、時期不明土師器５点が出土した。埋土から散在した状態で出土している。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していないが、外面にやや粗いハケ調整する甕胴部片、折り返しのある台付甕脚台部などの破片が出土している。これらの破片は、当遺跡出土のⅣ期甕Ｃ類と類似する。

**時期**　埋土出土土器から、東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。

SI31（図 128・129・131）（AS2220）

**検出状況**　Ｃ地点 KG６～KH７グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。平面形は、東西方向にやや長い隅丸方形である。長軸の方位はＮ－62°－Ｅである。

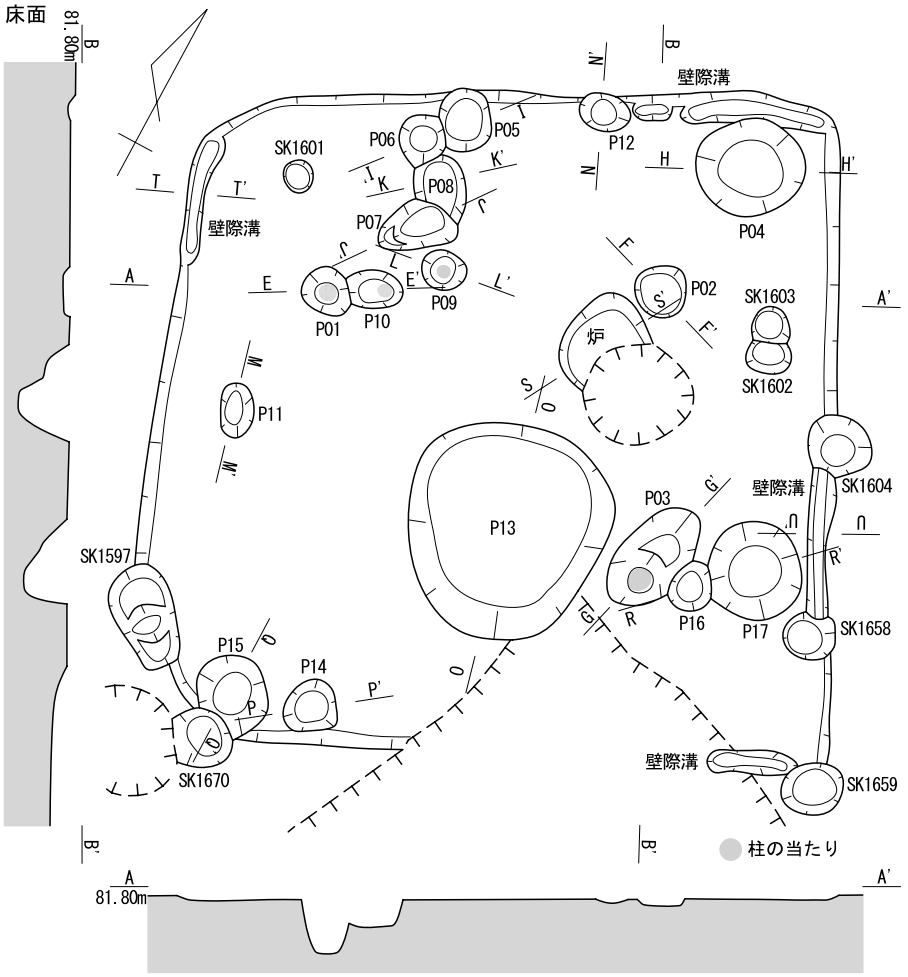
**埋土**　表土除去後床面に到達し、埋土が確認できないため堆積状況は不明である。

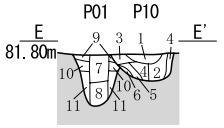
**壁**　Ⅲ層を掘り込んでいる。壁面形状は、立ち上がりを消失しているため不明である。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（３層）が全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と褐色粘質土の混合土で、しまる。床面で検出した遺構は、柱穴３基、壁際溝、炉１基、貯蔵穴１基、性格不明土坑 13 基である。竪穴内の位置関係と規模からＰ01、Ｐ02、Ｐ03 をこの建物の主柱穴と判断した。位置的には４本柱と想定できるが、残る１基は検出できなかった。Ｐ01、Ｐ03 に明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。Ｐ02 は浅く、柱痕跡、柱の当たりともに確認できなかった。Ｐ02 対角線上に想定できる主柱穴も同じような規模であったと仮定すると、上層の削平によって消失した可能性が考えられる。壁際溝は、西辺北部、北辺東部、東辺中央部、南辺東部の各所で断続的に検出した。深さ平均 0.05ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

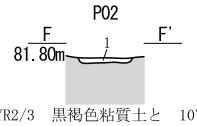
**炉**　建物中央部やや北寄りで検出した円形の遺構を、上層に焼土粒が混じることから炉の可能性が高いと判断した。床面を浅く掘りくぼませているが、底面の被熱は不明瞭である。形状から地床炉の可能性が高い。貼床を切る。

**貯蔵穴**　北東隅に位置するＰ04 をこの建物の貯蔵穴と判断した。平面形は円形である。壁はやや開き、底は北部がやや丸みを帯びる。長軸長 0.70ｍ、短軸長 0.64ｍ、深さ 0.15ｍを測る。埋土からⅣ期高坏Ｃ類脚部が出土した。

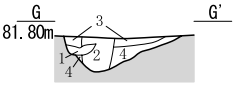


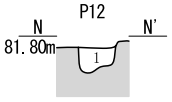

P10
1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
P01
7　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
8　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
9　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
10 10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
11 10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



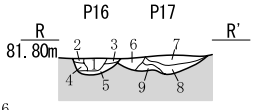

1　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4
暗褐色粘質土の混合土　しまる
礫含まず



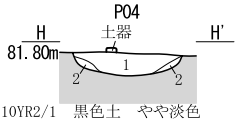

1　10YR4/6　褐色土　しまり弱い
粘性あり　礫含まず（モグラ穴）
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



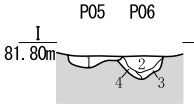

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む



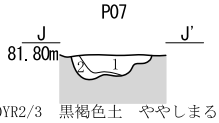

P16
1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
P17
6　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
8　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
9　10YR4/6　褐色土　ややしまる
粘性あり　礫含まず



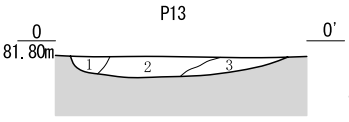

1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



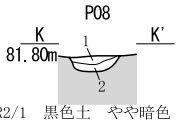

P05
1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック
10%含む
P06
2　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土
ブロック5%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm
以下の10YR2/1　黒色土ブロック
5%含む



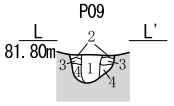

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む



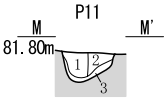

1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



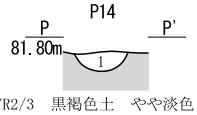

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR4/6　褐色土　ややしまる
粘性あり　礫含まず



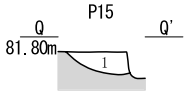

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
しまり弱い　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径5cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む

0　2m
(S=1/50)

図128　SI31遺構図（１）

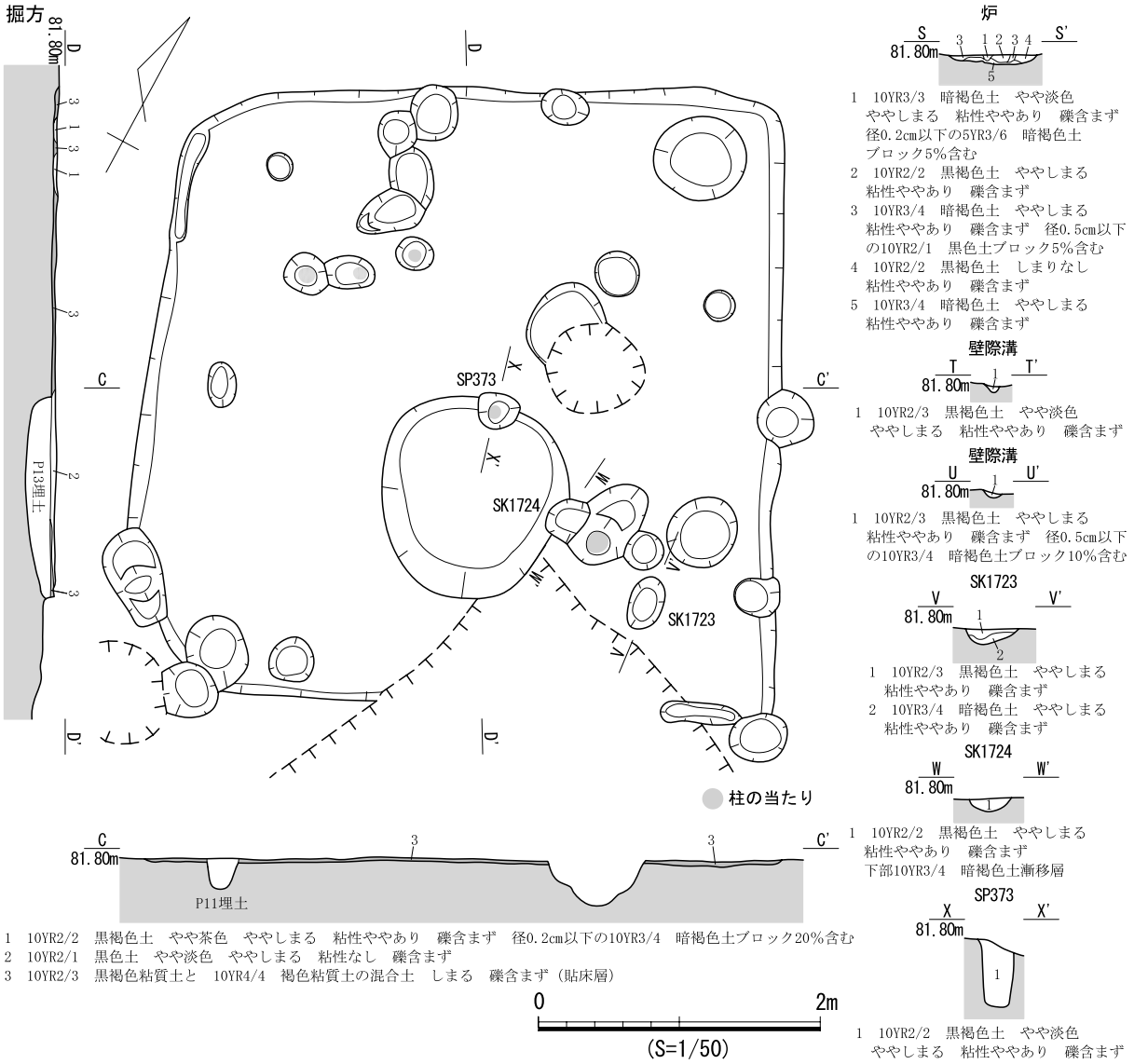



図129　SI31遺構図（２）

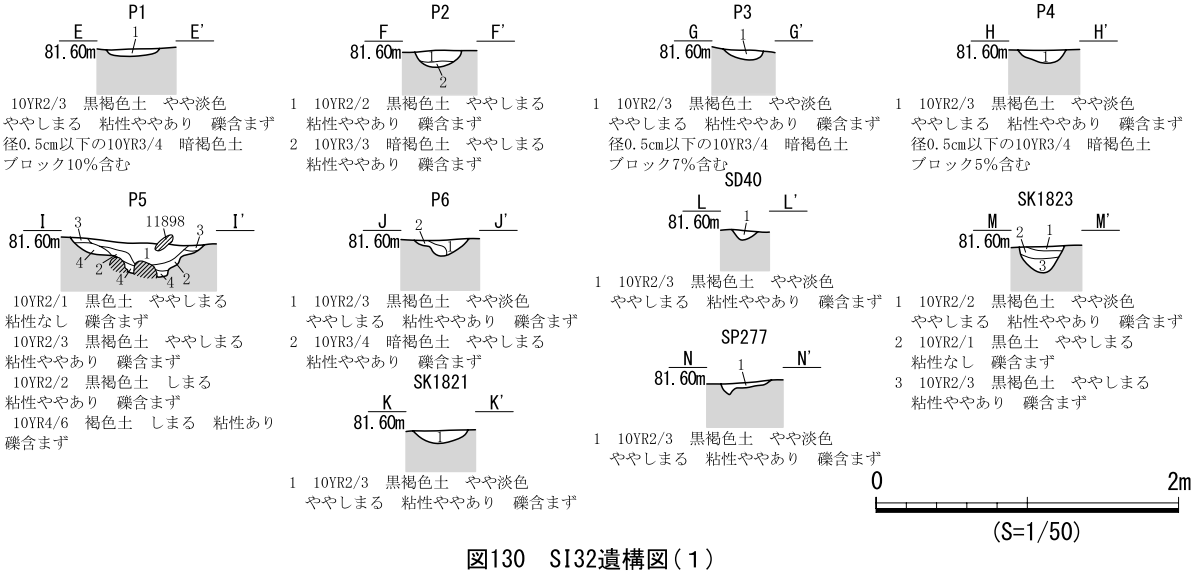



図130　SI32遺構図（１）

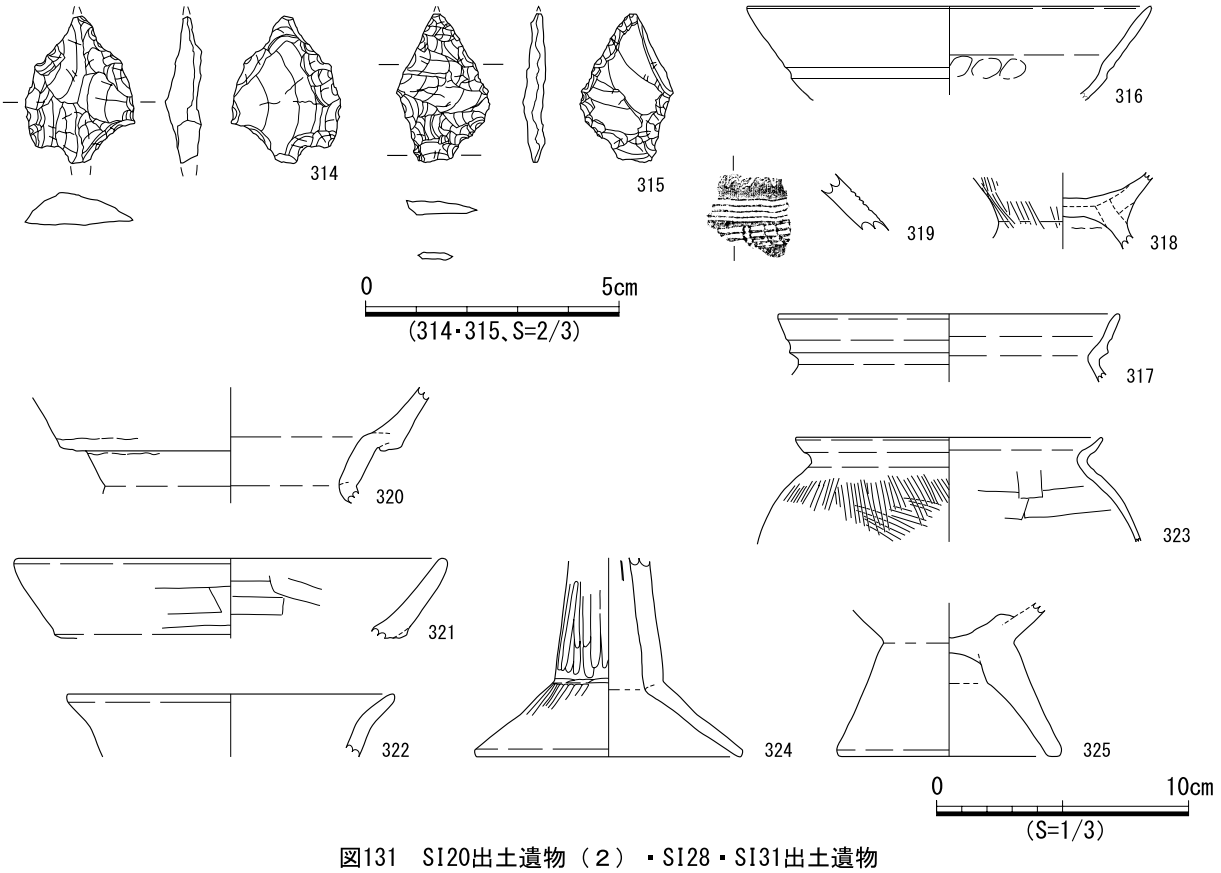



図131　SI20出土遺物（２）・SI28・SI31出土遺物

**床下**　貼床除去後、床下で柱穴１基、性格不明土坑２基を検出したが、SI31 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器７点、弥生土器１点、古墳前期土師器８点、時期不明土師器類 18 点、石器類１点が出土した。SI31 床面上層の遺物包含層から弥生土器・土師器類、縄文土器の破片が出土した。

**出土遺物**　320 はⅣ期壺 C1 類の口縁部である。有段部に突帯状に粘土を貼り付ける。内外面は調整不明である。321 はⅣ期壺Ｃ類である。口縁部がやや内彎する。口縁部外面は板ナデで、板目がハケ状になっているが、ハケほど深くない。内面は板ナデ調整し、有段部で折損する。322 はⅣ期甕 B1 類である。口縁部が開くタイプで、内外面は摩耗のため調整不明である。323 はⅣ期甕 C2 類である。口縁部の屈曲が弱い。胴部外面はハケ、内面は板ナデ調整する。外面に煤が付着する。324 はⅣ期高坏 C1 類の脚～裾部である。外面はタテミガキ調整する。内面上部は絞り込み、下方は板ナデ調整する。時計回りになでる。裾部内面はナデ調整し、脚とその接合部の外面は板状の工具で押さえているため、三日月状の痕跡が残る。325 はⅢ期甕 X1 類である。外面は叩き調整後、ヨコナデ調整する。

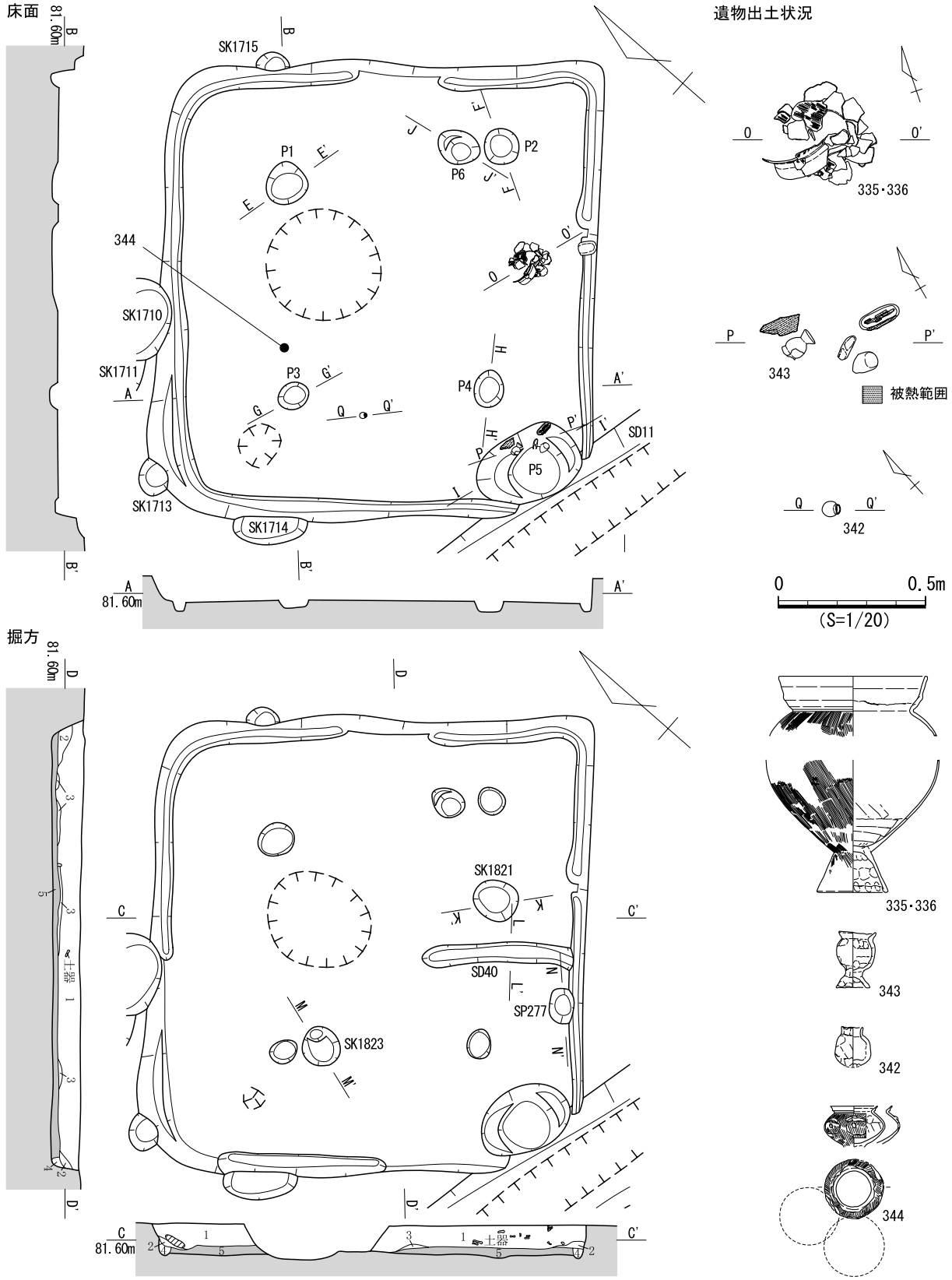
**時期**　埋土出土土器、貯蔵穴出土土器から東野Ⅳ期と判断した。

SI32（図 130・132～134）（AS2390）

**検出状況**　Ｃ地点 KH５～KI５グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。平面形は隅丸正方形である。SD11 に切られ、SI33 を切る。長軸の方位はＮ－47°－Ｅである。

**埋土**　黒色土（１層）が比較的厚く堆積し、暗褐色土ブロックを多く含むことから、人為的に一気に埋められた可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。壁面はほぼ直立する。壁の残存高は最大で 0.19ｍである。




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり（壁際溝埋土）
5　10YR2/2　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず（貼床層）

図132　SI32遺構図（２）

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（５層）が全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴４基、貯蔵穴１基、壁際溝、性格不明土坑１基である。炉は確認できなかった。竪穴内の位置関係からＰ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ４をこの建物の主柱穴と判断したが、どの穴も浅く、柱痕跡は確認できない。底面中央部は基盤層よりややしまることから、柱の当たりの可能性が考えられる。当遺跡の当該期の建物と比較すると、竪穴掘方が深く、壁が立ち、主柱穴が浅いことから、上屋は柱立ちではなく壁立ちの建物の可能性も考えられる。壁際溝は、北東辺中央部で途切れる以外、壁際を巡る。深さ平均 0.11ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。壁際溝の途切れる部分は、その位置から入口の可能性が考えられるが、その範囲の床面は周囲と同じようなしまりである。

**貯蔵穴**　南東隅に位置するＰ５をこの建物の貯蔵穴と判断した。平面形は楕円形である。壁はやや開き、底面はⅥ層に到達する。長軸方向にテラスをもつ二段構造の穴である。長軸長 0.88ｍ、短軸長 0.61ｍ、深さ 0.21ｍを測る。埋土からⅣ期甕Ｃ類胴部が出土した。

**床下**　貼床除去後、柱穴１基、溝状遺構１条、性格不明土坑２基を検出した。溝状遺構 SD40 は、南東辺にほぼ直交すること、建物東部中央に位置すること、竪穴掘方で収束することから、関連する遺構の可能性が指摘できるが、壁際溝の途切れる北側を入口と想定すると、東辺に直交する SD40 は SI07 床下溝状遺構のような入口施設に関するものと判断できないため、関連不明と判断した。その他の床下遺構と SI31 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器４点、弥生土器８点、古墳前期土師器 573 点、古墳後期以降土師器類３点、時期不明土師器類 128 点、須恵器２点、山茶碗１点、石器類８点が出土した。埋土上層で山茶碗、須恵器、弥生土器・土師器類、縄文土器の破片が大量に出土したが、下層で弥生土器・土師器類が出土した。床面で、Ⅳ期甕 C3 類（335）、Ⅳ期ミニチュア土器台付甕形（343）、Ⅳ期ミニチュア土器直口壺形（342）が出土した。

**出土遺物**　326 はⅣ期壺 A2 類である。口縁部中程で外反する。口縁端部外面に沈線１条巡る。内外面は摩耗のため調整不明である。内外面の砂粒のはずれたくぼみに赤彩状の赤褐色粘土が入り込む。327 はⅣ期壺 A2 類である。口縁部は外反する。口縁端部は欠損する。内外面はヨコナデ調整する。頸部から胴部へ向かってハケ調整する。頸部の口縁側にハケ工具の当たり痕が見られる。胴部内面はユビナデ調整する。328 はⅣ期壺 C2 類である。小型品である。内外面はヨコナデ調整する。頸部に沈線が１条巡る。329 はⅣ期壺 D2 類である。内面はヨコナデとユビナデ調整する。外面はヨコナデ調整する。口縁端部は僅かだが残る。330 はⅣ期甕 B1 類である。口縁部でやや屈曲するがＳ字状の屈曲とは異なる。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部外面にユビオサエがあり、そのために稜が消失する。胴部外面は板ナデ調整する。331 はⅣ期甕 B3 類である。口縁部が開き、端部で屈曲して直立する。外面はヨコナデ調整後、ユビオサエする。内面はヨコナデ調整する。胴部外面はハケ調整し、内面はユビナデ調整とユビオサエである。外面に煤が付着する。332、333 はⅣ期甕 C1 類である。332 は口縁端部に沈線が１条巡る。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部に沈線が１条巡る。胴部外面はハケ調整し、内面は板ナデ調整後、ユビオサエする。333 は口縁端部横へつまみ出す。頸部に沈線が１条巡る。胴部中程に最大径をもつ。胴部外面はハケ調整する。胴部上半にヨコハケが残る。内面はナデ調整する。脚台部外面はハケとナデ調整する。内面はユビオサエが残る。胴部と脚台部は両側から充填して

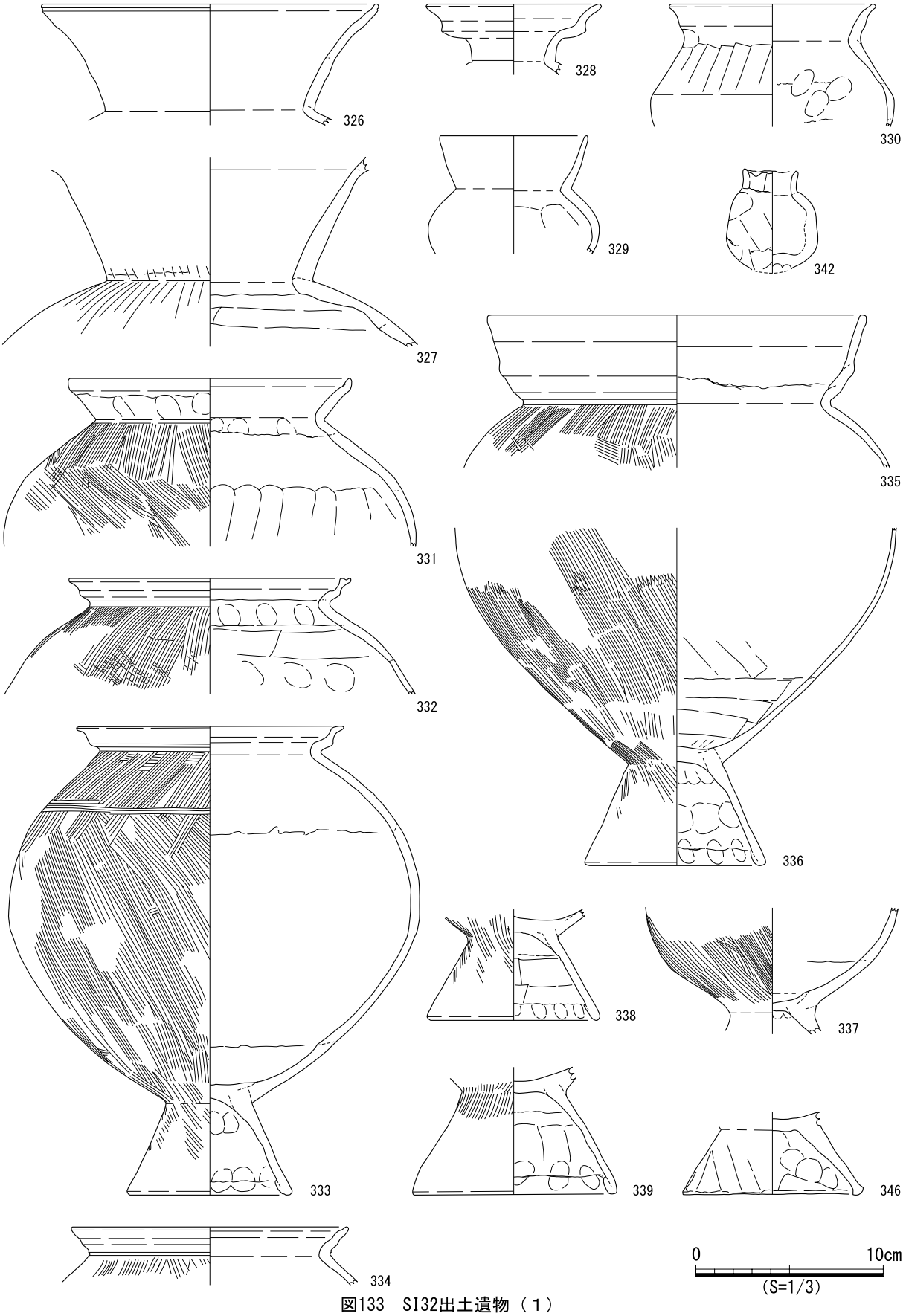



図133　SI32出土遺物（１）

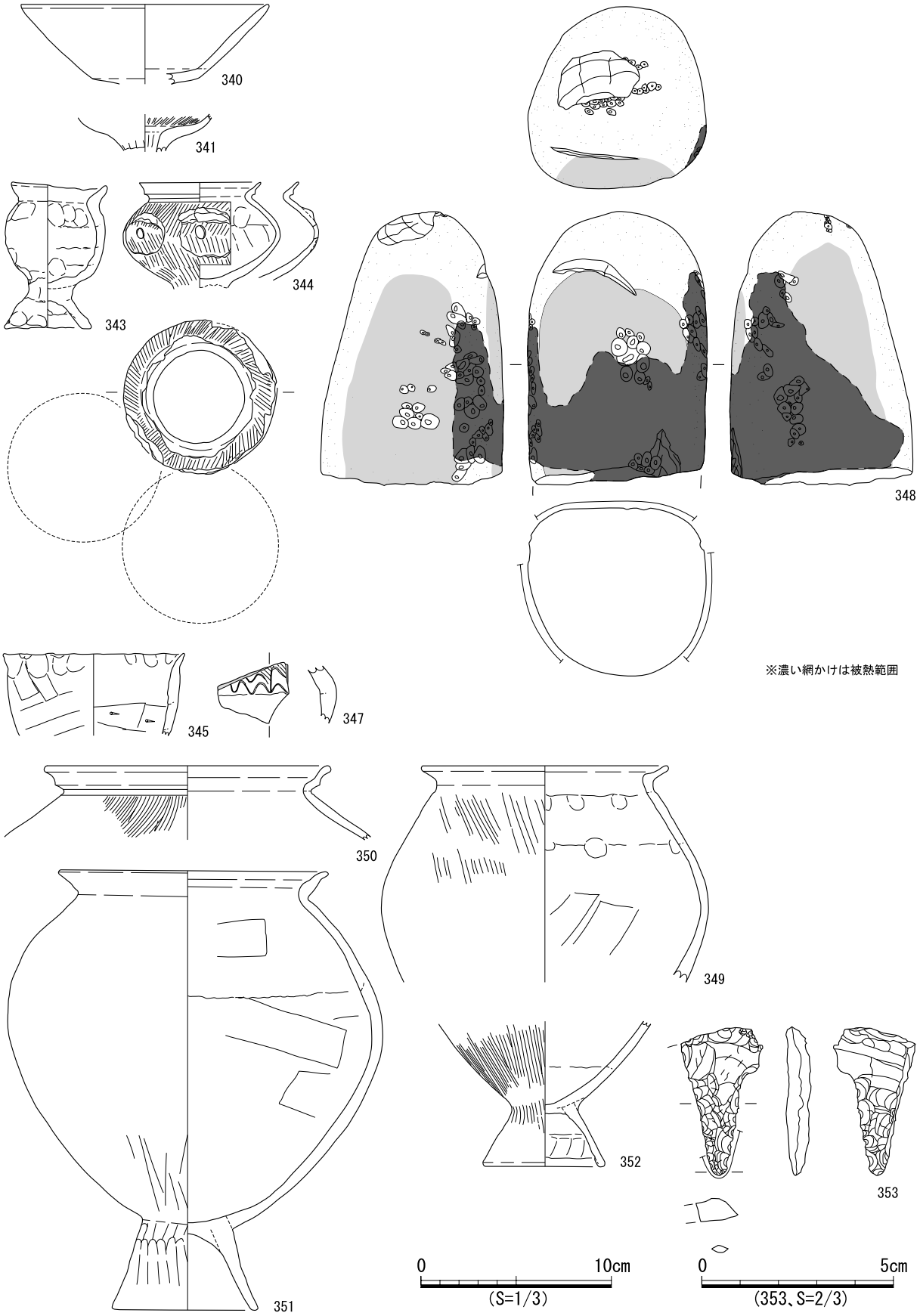



図134　SI32出土遺物（２）・SI34出土遺物

接合する。Ｓ字状口縁台付甕Ｃ・Ｄ類の過渡期と思われる。334 はⅣ期甕 C2 類である。屈曲が弱い。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部に沈線が１条巡る。胴部外面はハケ調整する。外面に煤が付着する。335 は床面で出土したⅣ期甕 C3 類である。口縁部内外面はヨコナデ調整する。端部外面に沈線が１条巡る。胴部外面はハケ調整し、内面はナデ調整する。いわゆる山陰系口縁甕である。336～339 はⅣ期甕 X1 類である。336 は胎土から 335 と同一と思われる。胴部外面はハケ調整し、内面は板ナデ調整する。脚台部外面はハケ調整し、内面はナデ調整後、ユビオサエする。内外面に煤が付着する。胴部と脚台部は両側から充填して接合する。337 は底部から脚台部が残る。胴部外面はハケ調整し、内面はナデ調整する。脚台部内面はユビオサエが見られる。底部と脚台部は両側から充填して接合する。338 の外面はハケ調整し、内面は板ナデ調整する。折り返しにユビオサエが残る。胴部と脚台部は両側から充填して接合する。339 は外面上部はハケ調整し、下部はナデ調整する。内面はナデ調整後、ユビオサエする。340 はⅣ期高坏ＡまたはＣ類である。内外面はナデ調整する。ミガキ調整に類似するが単位は不明である。341 はⅢ・Ⅳ期器台の受部である。皿状を呈する。中空部は、上から工具を差し込んで回転させる。受部内面に放射状のミガキを施す。屈曲部外面は板ナデ調整する。342 は床面で出土したⅣ期ミニチュア土器で直口壺形である。口縁部内面はナデ調整し、端部は未調整である。外面はユビナデ調整する。343 はⅣ期ミニチュア土器で台付甕形である。手捏ね状で、内外面はユビオサエで調整する。脚台部の折り返し幅が大きい。344 はⅣ期ミニチュア土器でＳ字甕形である。胴部最大径に穿孔が２か所確認できる。穿孔周囲に粘土を楕円形状に貼り付ける。これらのことから三連Ｓ字甕と思われる。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部外面に沈線が１条巡る。胴部外面はハケ調整するがヨコハケはない。内面はナデ調整する。Ｓ字状口縁台付甕Ｄ類を模倣する。脚台部は欠損する。345 はⅣ期ミニチュア土器で鉢形である。口縁部は外反する。口縁部内面に親指側面と思われるユビオサエ、外面に人差し指と思われるユビオサエが見られる。外面下部は板ナデ調整する。内面下部はヘラケズリ調整する。胴部に焼成後穿孔がある。346 はⅢ期甕 X1 類である。脚台部がやや開き気味である。端部に折り返しはない。底部側から充填して接合する。内外面は板ナデ調整する。347 はⅢ期手焙り形土器の覆部片である。粘土積み以下は無文である。斜方向のハケの後、波状文を施す。内面はナデ調整する。348 は磨石・敲石類である。床面東壁際で出土した。磨面は３面で、磨面に敲打痕が多く見られる。敲打の位置は不規則である。敲打痕内部に被熱が認められることから、敲石として使用された後に被熱したと考えられる。SI32 は炉が確認できなかったため確証はないが、炉石（枕石）であった可能性も考えられる。

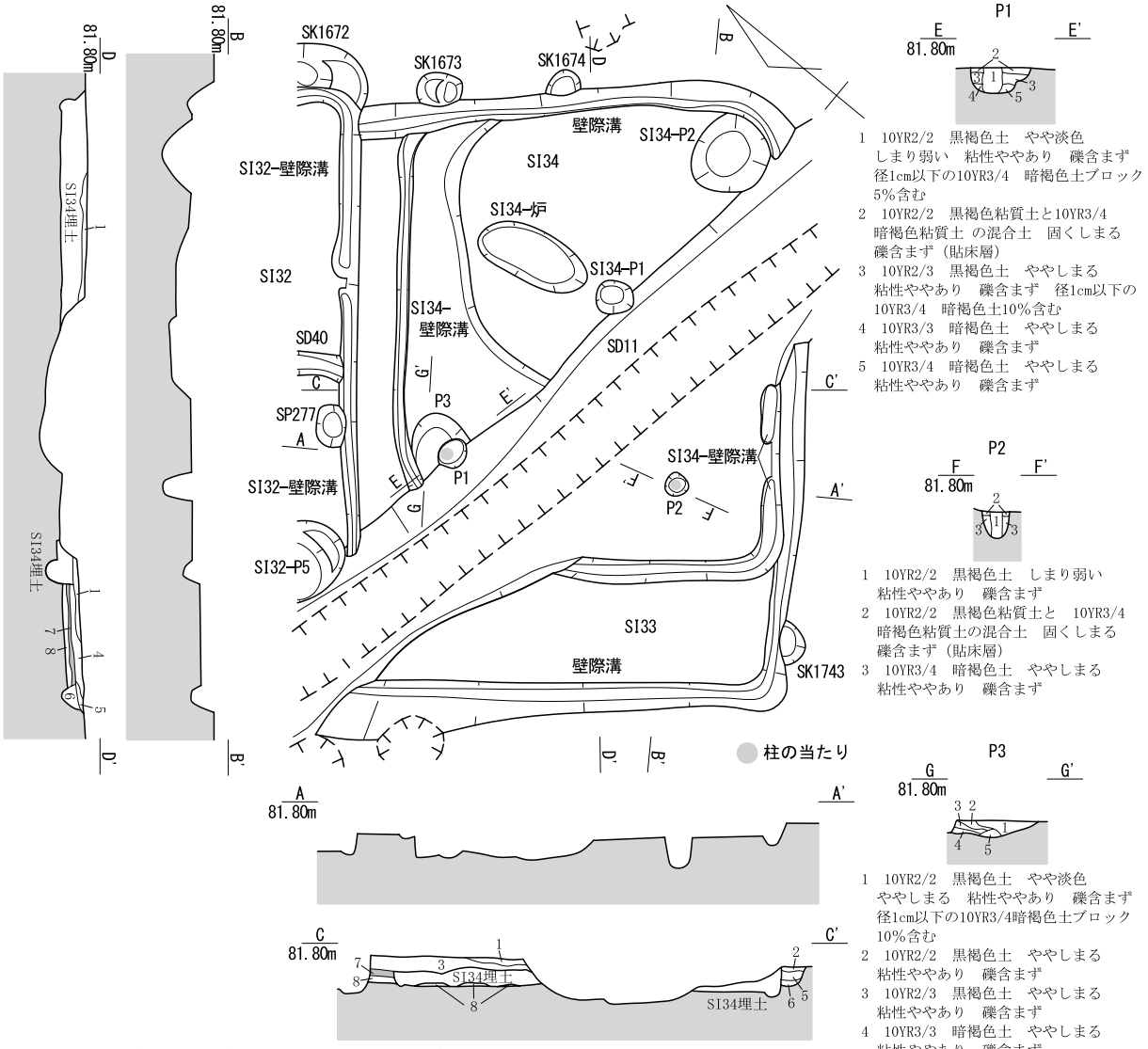
**時期**　床面出土土器から東野Ⅳ期と判断した。

SI33（図 135）（AS2430）

**検出状況**　Ｃ地点 KH５～KI６グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。検出時は１軒の竪穴建物と考えていたが、床面に到達した段階で床面のレベルが異なること、南西辺で平行する壁際溝を２条検出したことから、２軒の建物の重複と判断した。SI32、SI34、SD11 に切られる。長軸の方位はＮ－51°－Ｅである。

**埋土**　黒褐色土がほぼ水平に堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。壁面はほぼ直立する。壁の残存高は最大で 0.09ｍである。




1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　しまる　粘性あり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
7　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまる 礫含まず（貼床層）
8　10YR4/6　褐色土　しまる　粘性あり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/2　黒褐色土ブロック5%含む（掘方整地層）

図135　SI33遺構図

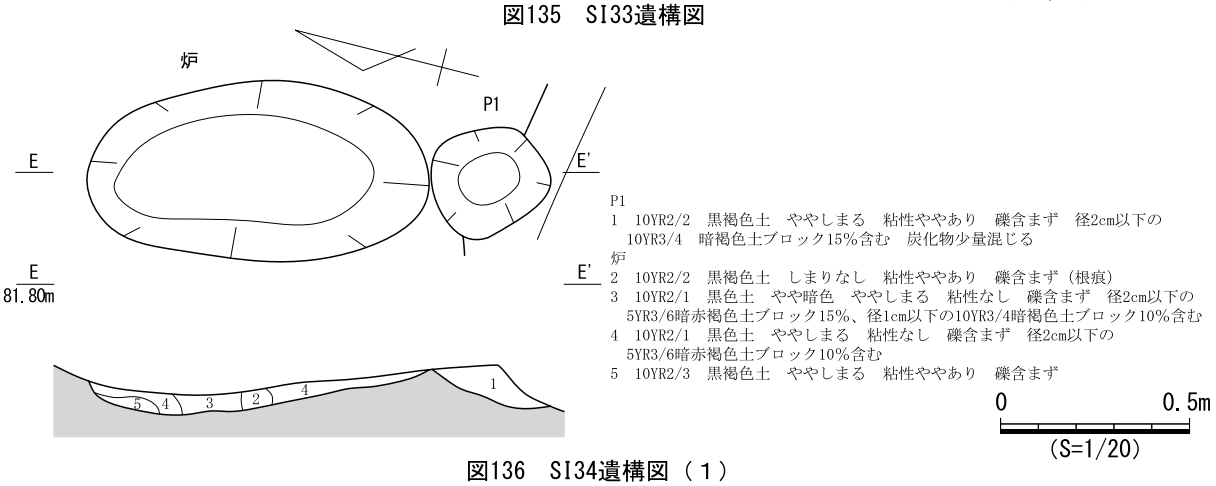



図136　SI34遺構図（１）

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（７層）が残存する範囲に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は壁際溝である。炉は確認できなかった。また、SI34 床下で検出した柱穴２基と性格不明土坑１基を SI33 に属すると判断した。主柱穴は不明である。Ｐ１、Ｐ２は柱穴で、２基ともに明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は 0.09～0.12ｍと想定できる。壁際溝は、北東辺、南西辺、南東辺で検出した。北東壁際溝は SI34 壁際溝と重複する。深さ平均 0.11ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

**床下**　貼床除去後、掘方整地層を検出した。褐色土が主体で黒褐色土ブロックを含む層（８層）で、ほぼ水平に堆積し、平均 0.04m厚である。貼床層、基盤層よりしまりは弱い。

**遺物出土状況**　埋土から弥生土器・土師器類、縄文土器の破片が出土したが、掘削時には建物１軒と考えて遺物を取り上げたため、SI34 と重複する範囲から出土した遺物の帰属建物は不確定である。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土しなかった。SI32、SI34 と重複しない範囲の埋土から出土した土器は古墳前期土師器がほとんどを占める。ハケの交差するＳ字状口縁台付甕の胴部片や、折り返しのある台付甕の脚台部片が認められる。

**時期**　SI32、SI34 を遡る。埋土出土土器の多くが古墳前期土師器であり、Ｓ字状口縁台付甕Ｄ類に類似する破片が出土したことから東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。出土遺物から、SI32・SI34 との時期差は僅かであると考えられる。

**SI34（図 134・136・137）（AS2614）**

**検出状況**　Ｃ地点 KH５～KI６グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。検出時は１軒の竪穴建物と考えていたが、床面に到達した段階で床面のレベルが異なり、壁際溝を内外２条検出したことから、２軒の建物の重複と判断した。SD11 に切られ、SI33 を切る。長軸の方位はＮ－50°－Ｅである。

**埋土**　黒褐色土がほぼ水平に堆積し、中央部がややくぼむ堆積である。埋土中に暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。壁面はほぼ直立する。壁の残存高は最大で 0.15ｍである。

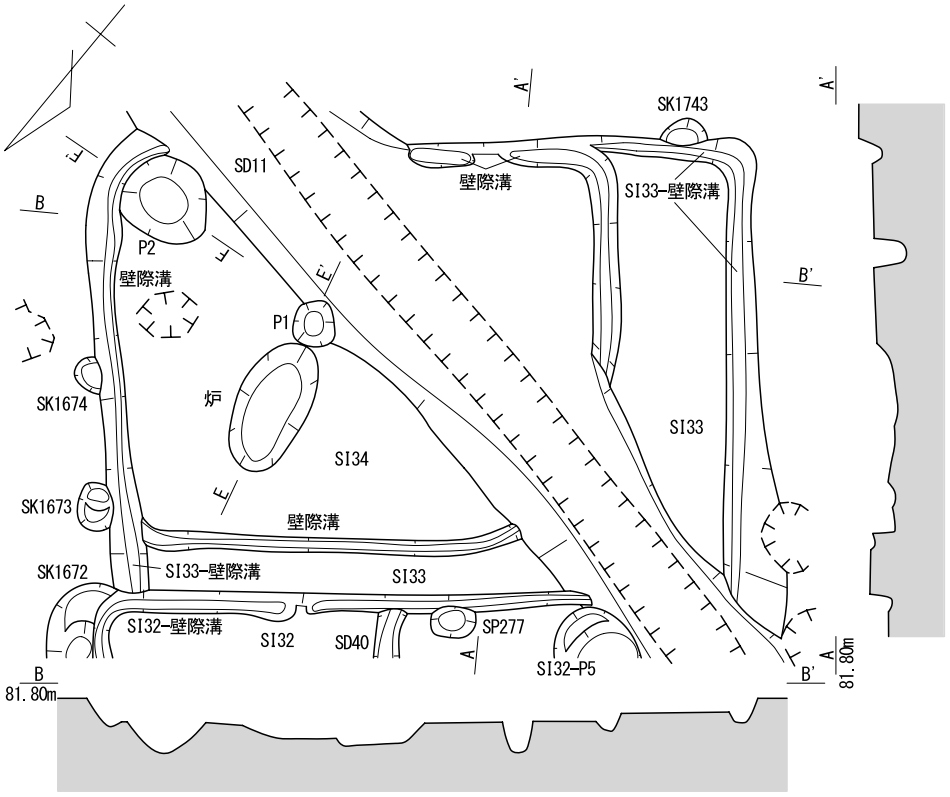
**床**　ほぼ平坦である。貼床（８層）は建物が残存する範囲全体に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴１基、壁際溝、炉１基、貯蔵穴１基である。主柱穴は不明である。Ｐ１は柱穴である。柱痕跡は確認できないが、底部中央に柱の当たり状の硬化した範囲が確認できる。壁際溝は、北東辺、南西辺、南東辺で検出した。北東壁際溝は SI33 壁際溝と重複する。深さ平均 0.10ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

**炉**　建物中央部北寄りで確認した。底面の被熱が不明瞭であるが、検出面に焼土が散在することから炉と判断した。皿状に浅くくぼみ、貼床層を切る。地床炉と考えられる。

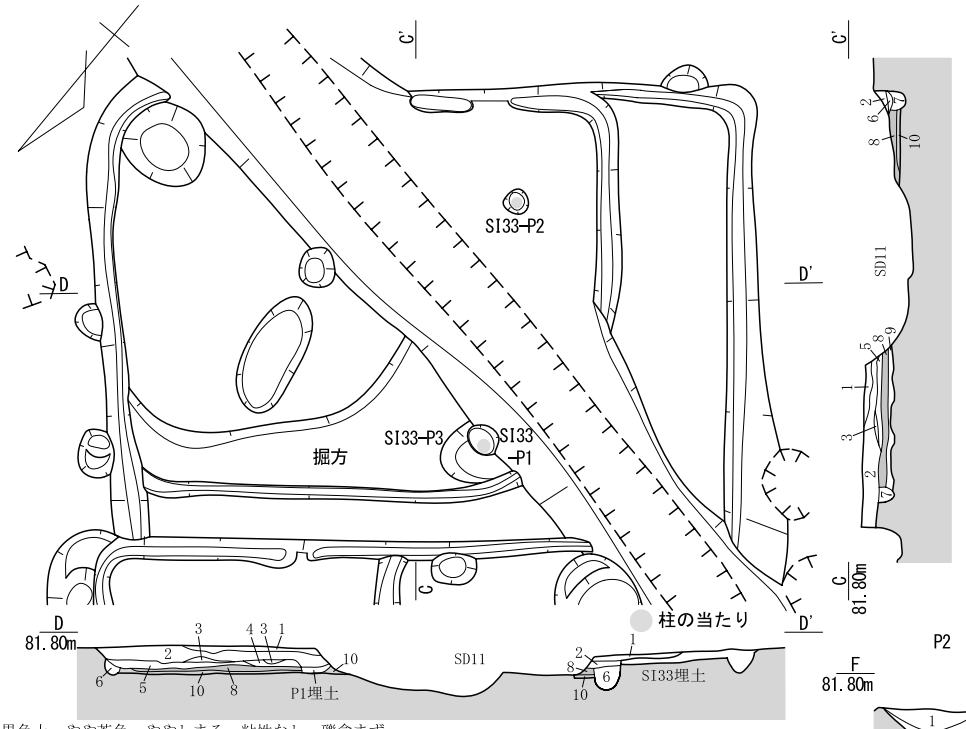
**貯蔵穴**　東角に位置するＰ２を竪穴内の位置と形状から貯蔵穴と判断した。平面形は楕円形である。壁は開き、底は丸みを帯びる。長軸長 0.65ｍ、短軸長 0.58ｍ、深さ 0.23ｍを測る。埋土からⅣ期甕 C1 類の口縁部から頸部（350）が出土した。

**床下**　貼床除去後、床下で柱穴２基、性格不明土坑１基、北～西部で掘方整地層を検出した。掘方整地層（９層）は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で貼床層（８層）よりしまりは弱いが、基盤層

床面




掘方




1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
7　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
8　10YR2/2　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず（貼床層）
9　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまるが8層よりしまり弱い　礫含まず（掘方整地層）
10　10YR3/4　暗褐色土　やや明色　固くしまる　粘性ややあり　礫含まず（Ⅴ層）

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

図137　SI34遺構図（２）

より固くしまる。ほぼ水平に堆積し、平均 0.02m厚である。東部・南部では確認できなかった。柱穴と土坑は床下で確認したことから SI33 に属する遺構と判断した。

**遺物出土状況**　埋土から弥生土器・土師器類、縄文土器の破片が出土したが、掘削時には建物１軒と考えて遺物を取り上げたため、SI33 と重複する範囲から出土した遺物は SI24 の埋没過程のものであると考えられる。

**出土遺物**　349 はⅣ期甕 B3 類である。口縁部外面の屈曲が弱く、受け状に内彎する。胴部のハケは頸部から右下がりに施す。頸部に沈線は巡らない。350 はＰ２で出土したⅣ期甕 C1 類である。口縁部の屈曲が明瞭で、端部に面をもつ。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胴部外面はハケ調整し、内面はヨコナデ調整する。頸部に沈線が１条巡る。口縁部外面に煤が付着する。351 はⅣ期甕 C2 類である。口縁部の屈曲はやや弱くなる。頸部に沈線は巡らない。外面はナデ調整し、底部付近にハケが僅かに残る。脚台部外面はヘラケズリ、内面はヨコナデと板ナデ調整する。352 はⅣ期甕 X1 類である。やや小ぶりである。外面はハケ、内面は板ナデ調整する。被熱のため赤色化する。外面に煤が付着する。353 は壁際溝出土の石錐である。左側縁部が面になっているが、その面の先端の錐部が摩耗することから、面をもたせたままの形状で使用していたと考えられる。

**時期**　貯蔵穴出土土器、埋土出土土器から東野Ⅳ期と判断した。

**SI37（図 138・139・146）（AS2729）**

**検出状況**　Ｃ地点 KK４～KL３・４グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。SB09 に切られる。平面形は、四辺がほぼ直線状の隅丸方形である。長軸の方位は、Ｎ－35°－Ｅである。

**埋土**　黒色土と北東辺に黒褐色土が堆積する。埋土中に暗褐色粘質土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

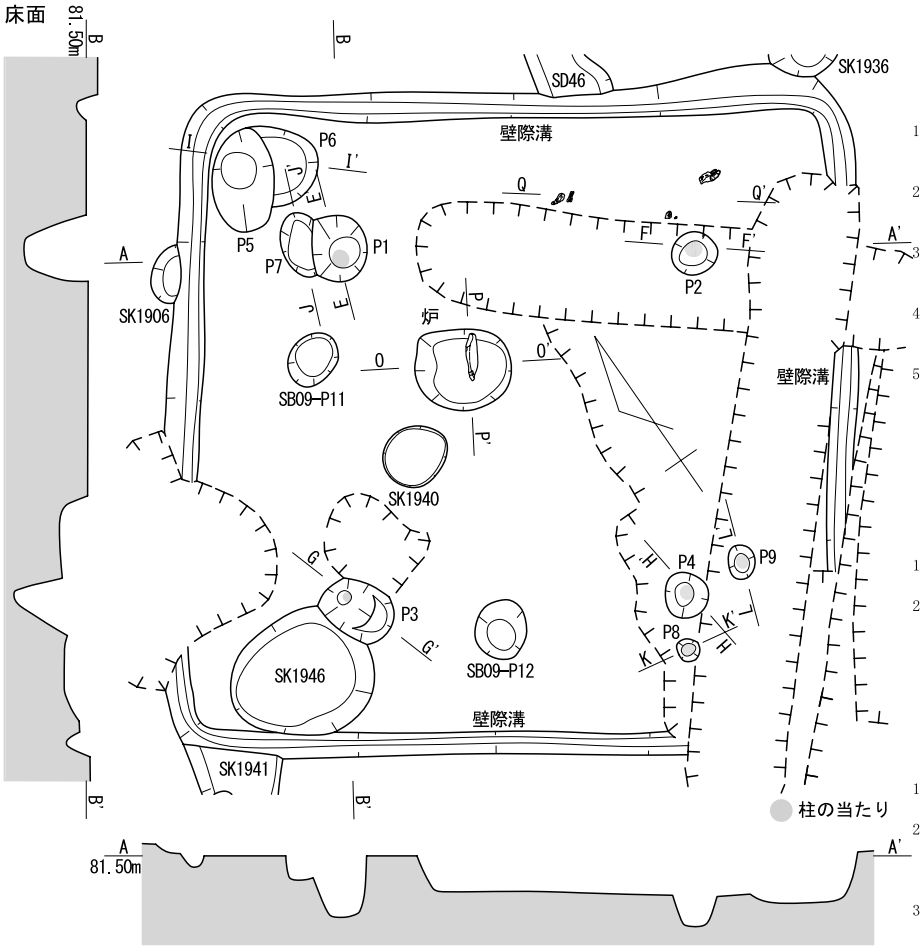
**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.08ｍである。

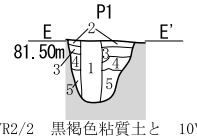
**床面**　ほぼ平坦である。貼床（５層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴６基、壁際溝、炉１基、貯蔵穴１基、性格不明土坑２基である。床面で検出したＰ１、Ｐ３、撹乱坑底で検出したＰ３、Ｐ４を竪穴内の位置関係や規模から主柱穴と判断した。４基とも明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は 0.10～0.14ｍと想定できる。Ｐ１、Ｐ３の最上層に貼床状のしまる土層が確認できることから、柱埋設後、貼床形成したと考えられる。Ｐ８、Ｐ９は柱穴である。SI37 プラン内に位置するため、SI37 に属する遺構と判断したが、撹乱坑底で検出しており SI37 に関連しない可能性も考えられる。壁際溝は、建物の残存する壁際を巡る。深さ平均 0.06ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

**炉**　建物中央部やや北寄りで長楕円形の川原石が出土した。川原石及びその周囲の床面がやや被熱することから地床炉と判断した。床面を浅く掘りくぼませる。底面はⅣ層で、やや被熱する。川原石は基盤層に埋没していたが、川原石を埋設するための掘方は確認できなかった。煮炊き用の土器を支える枕石の可能性が考えられる。

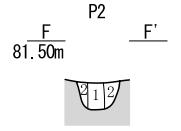
**貯蔵穴**　北隅で検出したＰ５を、位置と形状から貯蔵穴と判断した。検出時、東西に長い楕円形の穴１基として掘削したが、南西方向に広がること、東部が浅いこと、土層断面で立ち上がりが認められることから２基が重複すると判断し、Ｐ５、Ｐ６とした。Ｐ５の平面形は楕円形で、南北壁はやや開

床面

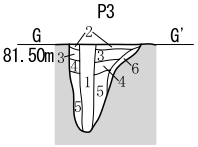


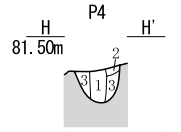

1　10YR2/2　黒褐色粘質土と　10YR3/4
暗褐色土粘質土の混合土　しまり弱い
礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　しまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4暗褐色土ブロック15%含む
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR2/2黒褐色土ブロック5%含む
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR2/2黒褐色土ブロック10%含む



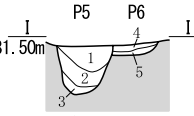

1　10YR2/3　黒褐色土　しまり弱い
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
しまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
10%含む
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



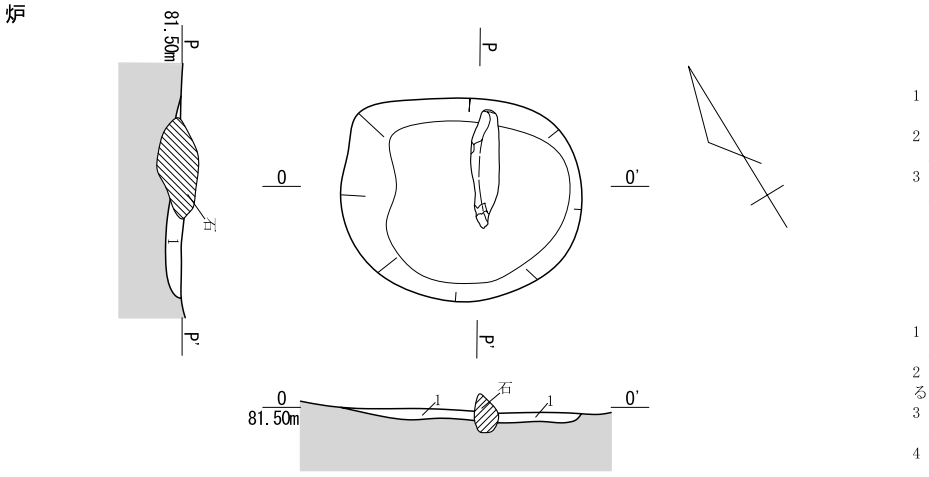

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性あり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしま
る　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

炭化物出土状況

炉

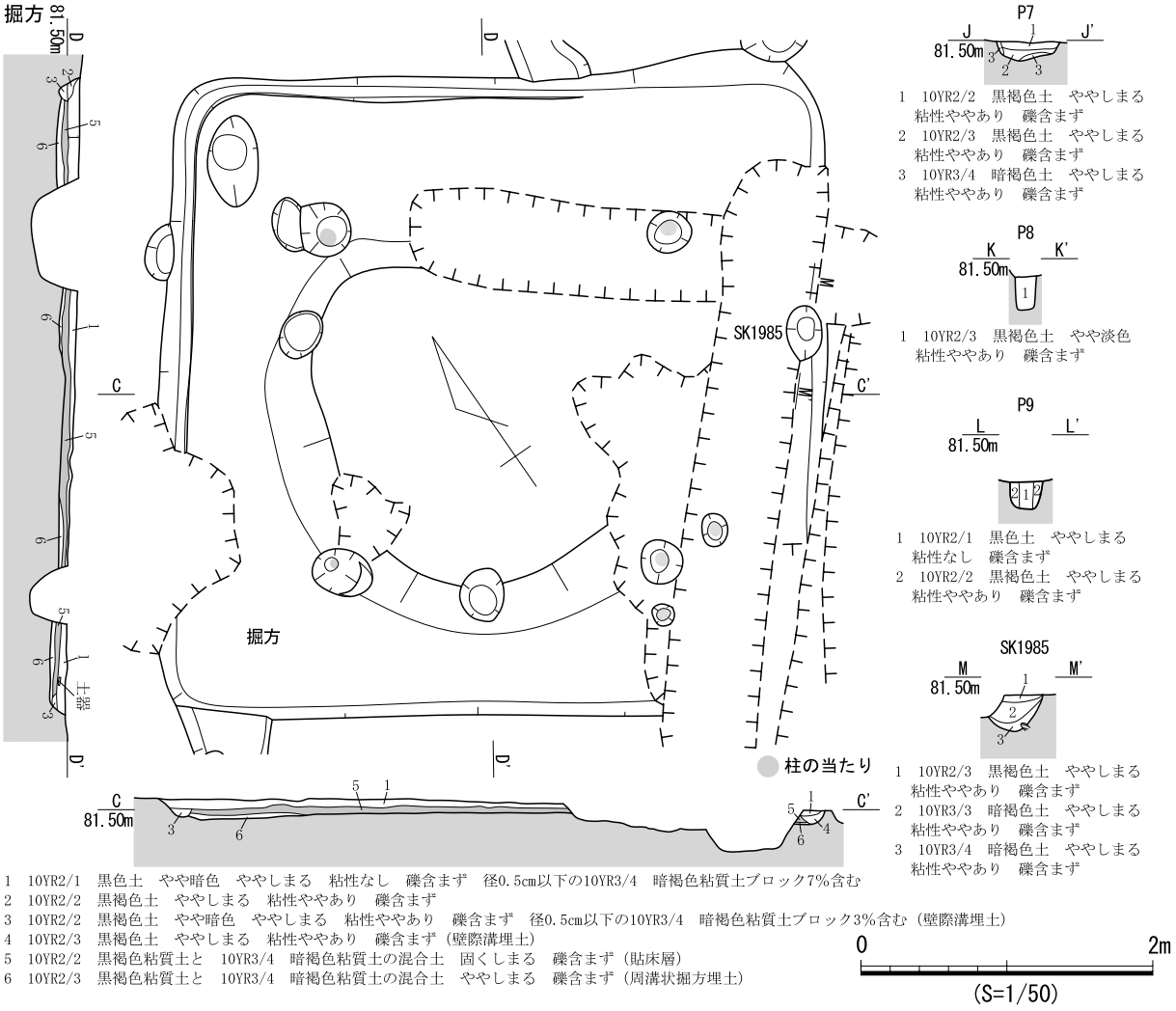



1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

0　1m　(S=1/20)

0　2m　(S=1/50)

図138　SI37遺構図（１）




1　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色粘質土ブロック7%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色粘質土ブロック3%含む（壁際溝埋土）
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
5　10YR2/2　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず（貼床層）
6　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　ややしまる　礫含まず（周溝状掘方埋土）

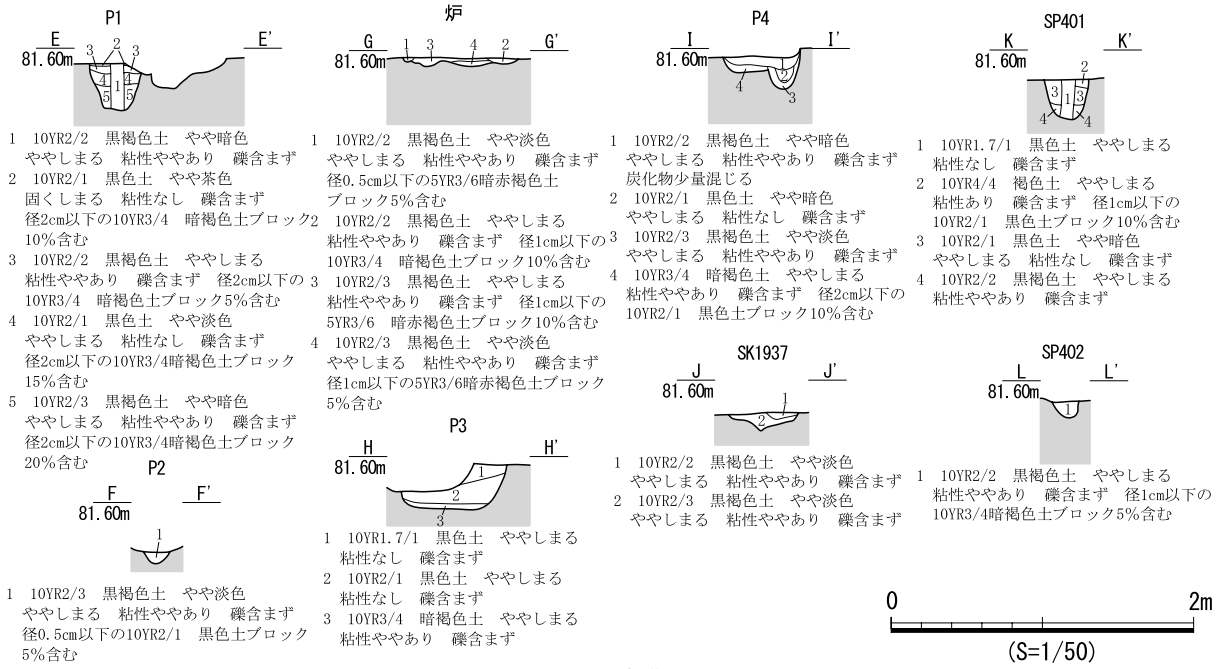
1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

図139　SI37遺構図（２）




1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや茶色　固くしまる　粘性なし　礫含まず　径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/1　黒色土　やや淡色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック15%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック20%含む

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック5%含む

1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の5YR3/6暗赤褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の5YR3/6　暗赤褐色土ブロック10%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の5YR3/6暗赤褐色土ブロック5%含む

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　炭化物少量混じる
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック10%含む

1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性あり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック10%含む
3　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む

図140　SI38遺構図（１）

き、東西壁は立つ。やや丸みを帯びる。長軸長 0.68m、残存短軸長 0.41m、深さ 0.32mを測る。底部からⅣ期甕 C2 類口縁部（356）が出土した。

**床下**　貼床除去後、床下で周溝状掘方と性格不明土坑１基を検出した。性格不明土坑と SI37 の関連は不明である。周溝状掘方は、幅 0.8～1.2mで壁際を巡る。埋土は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土（６層）で、貼床や基盤層ほどではないがよくしまる。

**遺物出土状況**　縄文土器 31 点、古墳前期土師器 75 点、時期不明土師器類 23 点、山茶碗３点、石器類５点、炭化物５点が出土した。埋土上層から弥生土器・土師器類、縄文土器が多量に出土したが、下層の掘削にしたがって減少し、破片が大きくなっていった。山茶碗は最上層からの出土である。北東部床面で炭化材が出土した（図138Ｑ－Ｑ’）。出土した炭化材の北辺に対する傾きは、西から順に 45 度西、ほぼ直交、45 度西、60 度西となる。焼土は検出していない。分析の結果、アカガシ亜属４点、サクラ属１点判明した。前回調査を含め当遺跡で確認した焼失建物出土炭化材はⅣ期以降はハンノキ亜属やアカガシ亜属が多く、部材として周辺から入手していた可能性を指摘している（第４章第４節参照）。出土した炭化材の樹種から建築部材であった可能性が考えられる。

**出土遺物**　354 はⅣ期壺 C1 類である。下部にハケ調整が見られるが、その他は調整不明である。355 はⅣ期壺 X1 類である。内面は板ナデ、外面は浅いハケ調整する。ハケの１単位幅は狭い。底部外面は被熱により赤色化する。356 はＰ５出土のⅣ期甕 C2 類である。口縁部の屈曲上段に沈線を巡らせてＳ字をつくる。胴部外面はハケ調整し、最大径付近にヨコハケが見られる。内面はヨコナデ調整し、接合部にユビオサエが見られる。357 はⅣ期高坏ＡまたはＣ類の坏部である。坏底部から下部を折損する。内面はタテミガキ、外面はヨコミガキを施す。358 はⅣ期器台の脚部である。外面はタテミガキを施す。内面はユビナデ調整し、端部を折り返す。折り返し部をユビオサエする。脚部が開き、裾部でやや外反する。359 は打製石鏃である。先端部が僅かに折損する。右側縁部、左側縁部、脚部の順に調整する。

**時期**　床面出土土器（354、357）、貯蔵穴出土土器（356）から東野Ⅳ期と判断した。

**SI38（図 140・141・146）（AS2752）**

**検出状況**　Ｃ地点 KK２～KL３グリッドで検出した竪穴建物である。試掘確認調査の TP03 で検出した。Ⅲ層上面で検出した。SI41、SB09 に切られ、SB10 を切る。平面形は、四辺がほぼ直線状の隅丸方形である。長軸の方位は、Ｎ－74°－Ｅである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土が水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に赤褐色土・暗褐色土・明黄褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.09mである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（４層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴２基、壁際溝、炉１基、貯蔵穴１基、性格不明土坑１基である。床面で検出したＰ１と撹乱坑底面で検出したＰ２を竪穴内の位置と規模からこの建物の主柱穴と判断した。２本柱建物である。２基ともに柱の当たりが、Ｐ１に柱痕跡が確認できる。柱径は 0.09m前後と想定できる。Ｐ１最上層に貼床層が確認できることから、柱埋設後に貼床を成形した可能性が高いと考えられる。壁際溝は、建物の残存する壁際を巡る。深さ平均 0.1mを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に掘削されたと考えられる。

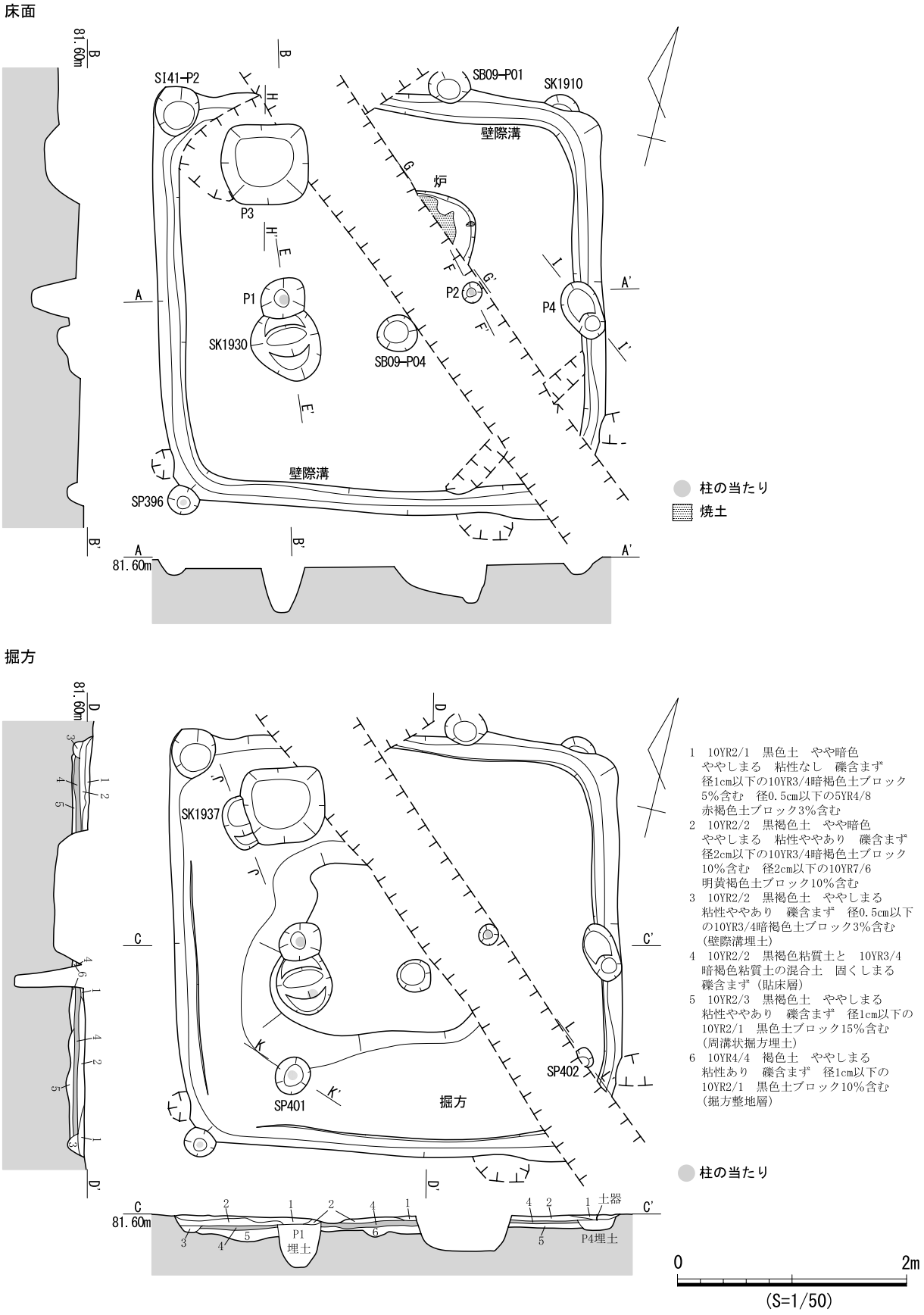



図141　SI38遺構図（２）

**炉**　建物中央部やや北寄りで検出した、床面がやや被熱する範囲を地床炉と判断した。西部は撹乱坑によって消失している。床面を浅く掘りくぼませる。埋土は黒褐色土が主体で暗赤褐色土ブロックを含む。底面はやや被熱している。

**貯蔵穴**　北西隅で検出したＰ３を位置と形状から貯蔵穴と判断した。平面形は隅丸方形で、壁はやや開き、底面は平らである。長軸長 0.76m、残存短軸長 0.69m、深さ 0.31mを測る。埋土上層からⅣ期高坏 C1 類の脚から裾部（361）が出土した。

**床下**　貼床除去後、柱穴２基、性格不明土坑１基、周溝状掘方、掘方整地層を検出した。周溝状掘方は幅 0.7～1.0mで壁際を巡る。埋土は黒褐色土（５層）でややしまる。掘方整地層の土色はＶ層に類似するが、Ｖ層よりしまりの弱い層（６層）で、周溝状掘方に切られる。掘方掘削後、整地し、その後周溝状に掘削したと考えられる。これらのことから、竪穴の掘削→床下の整地→周溝状掘方の掘削→柱穴の掘削・柱の埋設→貼床の形成→壁際溝の掘削・埋戻しとなる。柱穴２基と性格不明土坑１基と SI37 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器３点、弥生土器２点、古墳前期土師器 17 点、時期不明土師器類 16 点、陶器類１点、石器類２点が出土した。埋土上層から弥生土器・土師器類、縄文土器が出土した。陶器類は最上層から出土した。

**出土遺物**　360 はⅣ期壺 D1 類である。口縁部～胴部上半外面はヨコナデ調整する。頸部を棒状工具でナデ調整し、巡る。胴部下半外面はランダムなケズリ調整で、上から下方向のケズリが多い。361 はⅣ期高坏 C1 類である。坏部は折損する。外面はタテミガキを施す。内面はユビナデ調整し、絞り込みが見られる。接合部は坏部側から充填する。362 はⅣ期高坏 C1 類である。坏部は内外面ナデ調整する。脚部は裾部に向かって広がる。脚部外面はタテミガキを施し、内面上部は絞り込み、下部はナデ調整する。裾部は折損する。埋土出土土器は古墳前期土師器が多い。ハケの交差するＳ字状口縁台付甕の胴部片や、折り返しのある台付甕の脚台部片、Ⅳ期高坏Ｃ類の脚部片などが認められる。

**時期**　貯蔵穴出土土器（361）、埋土出土土器から東野Ⅳ期と判断した。

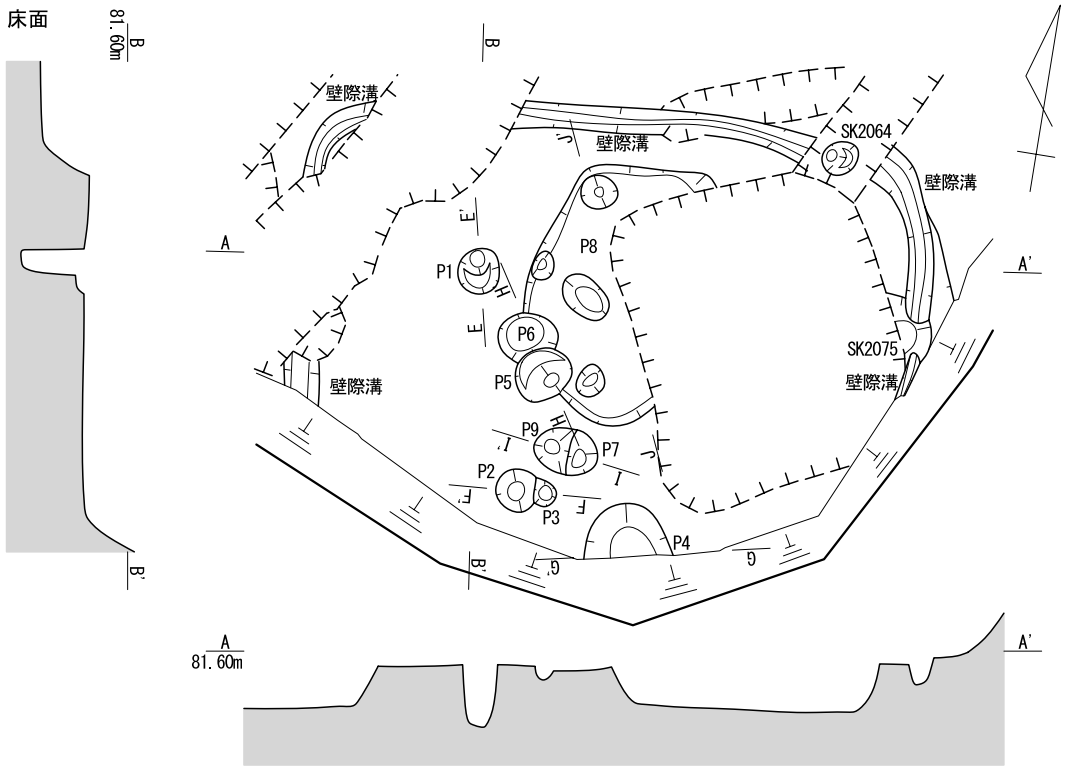
**SI42（図 142・143・146）（AS1443）**

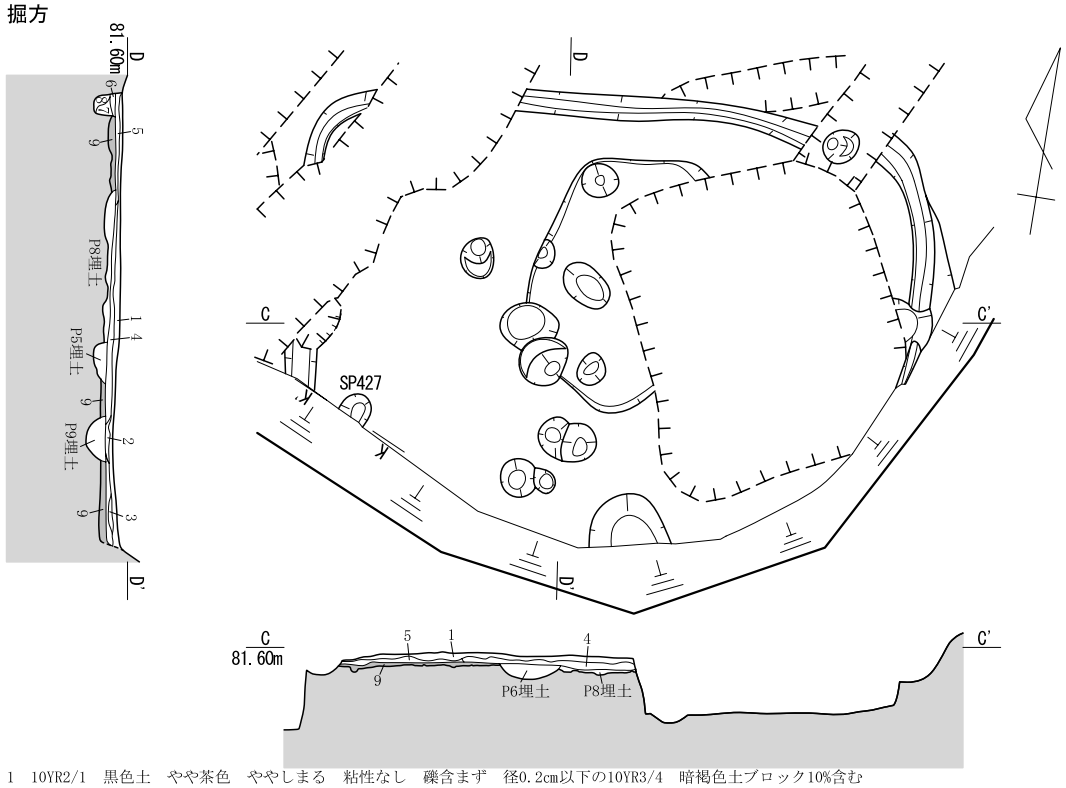
**検出状況**　Ａ地点 ET６・７グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物南部は町道下になるが、平面形は隅丸方形と想定できる。長軸の方位はＮ－80°－Ｅである。

**埋土**　黒褐色土（５層）が床直上の壁際から中央部にかけて堆積し、次に中央部に黒褐色土（４層）が堆積する。その後、黒色土（１層）が全体に堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面は北辺で確認する限り直立に近い。壁の残存高は最大で 0.07m である。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（９層）が全体にわたって明瞭に残る。貼床は暗褐色粘質土と褐色粘質土の混合土に黒色土ブロックを含み、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴１基、壁際溝、貯蔵穴１基、性格不明土坑７基である。炉は確認できなかった。竪穴内の位置関係から床面北西部で検出したＰ１を主柱穴と判断した。位置から４本柱建物と想定できる。Ｐ１は柱の当たりが確認できる。残り３基の主柱穴は、撹乱坑内と発掘区外に位置すると考えられる。壁際溝は、建物の残存する部分のうち、ほぼ全周する。深さ平均 0.14mを測る。建物中央北よりに位置するＰ８は長軸長 1.75mの大型




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
5　10YR3/4　暗褐色土　しまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック10%含む
6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　（壁際溝埋土）
7　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　（壁際溝埋土）
8　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　（壁際溝埋土）
9　10YR3/3　暗褐色粘質土と　10YR4/6　褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック10%含む（貼床層）

0　2m
(S=1/50)

図142　SI42遺構図（１）

の土坑である。位置的には炉の可能性が想定できたが、埋土に焼土や炭化物が含まれず、底面に被熱痕が認められないことから炉ではないと判断した。

**貯蔵穴**　想定できる建物の中央部やや南寄りに位置するＰ４を貯蔵穴の可能性があると判断した。やや深い穴で、埋土最上層は表土層に似る。東壁は直立気味に立ち、西壁は緩やかに開く。底は平らである。残存長軸長 0.53m、残存短軸長 0.45m、深さ 0.27mを測る。埋土は中央がやや窪む堆積で、自然堆積と考えられる。想定できる南側柱穴２基の間に位置すると考えられ、当遺跡の当該期の竪穴建物貯蔵穴は建物隅部に位置することが多く、配置が異なるため可能性の域を出ない。

**床下**　貼床除去後、柱穴１基を検出したが、SI42 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　埋土から古墳前期土師器 15 点、時期不明土師器類 26 点、須恵器１点、山茶碗１点、近世陶器１点、石器１点が出土した。床面出土土器片の多くはⅣ期甕Ｃ類の胴部片で、ハケが認められる。Ⅳ期高坏Ｃ類の脚部と坏底部の屈曲部片も出土している。

**出土遺物**　363 はⅣ期甕 B1 類である。口縁部が開き、口縁端部外面を折り返し、肥厚する。口縁部外面はヨコナデ調整し、一部ユビオサエが見られる。364 はＰ８出土のⅢ・Ⅳ期高坏脚部片である。内外面はナデ調整する。

**時期**　床面出土土器（363）から東野Ⅳ期と判断した。

**SI44　（図 144～146）（AS1515）**

**検出状況**　Ｂ地点 HB６～HC６グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物東は発掘区外である。平面形は、確認できる三辺から隅丸方形と想定できる。長軸の方位は、Ｎ－８°－Ｗである。

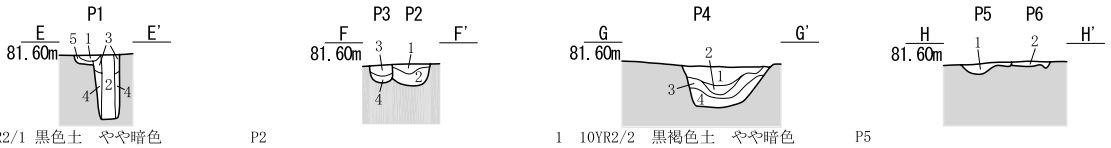
**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面は三辺とも緩やかに開く。壁の残存高は最大で 0.10mである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（８層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴２基、壁際溝、性格不明土坑１基を検出した。Ｐ１、Ｐ２を SI44 の主柱穴と判断した。２基ともに柱痕跡は確認できなかったが、Ｐ１の底部が比較的しまることと竪穴内の位置関係からこの建物の主柱穴と判断した。Ｐ５は想定できる建物の中央部やや南寄りに位置する。浅い穴で炉の可能性が考えられるが、底面の被熱痕や埋土中に焼土・炭化物などは確認できなかった。壁際溝は、建物の残存する部分を全周する。深さ平均 0.07mを測る。

**床下**　貼床除去後、SI44 柱穴２基、性格不明土坑４基を検出した。Ｐ３とＰ４は、明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は 0.10～0.11mと想定できる。床面で検出できなかったことと、位置的に SI44 の主柱穴と考えられることから、建て替えが行われた可能性が高いと考えられる。床下で検出した性格不明土坑４基と SI44 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器 29 点、弥生土器６点、古墳前期土師器 19 点、時期不明土師器類 28 点、近世陶器１点、石器類６点、炭化物６点が出土した。埋土上層から縄文土器、古墳前期土師器が出土したが、下層の掘削にしたがい古墳前期土師器のみとなり、破片が大きくなっていった。縄文土器の多くは深鉢の胴部片で摩耗する。近世陶器は最上層から出土した。

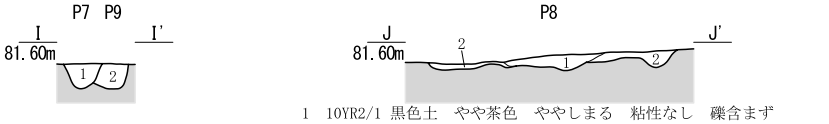



1　10YR2/1 黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土
　ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.1cm以下
　の10YR2/1　黒色土ブロック5%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ややしまる
　粘性あり　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック3%含む
5　10YR4/6　褐色土　しまる　粘性あり
　礫含まず

P2
1　10YR2/3 黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　3%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
P3
3　10YR2/3 黒褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック1%含む
4　10YR2/1　黒色土　しまり弱い
　粘性なし　礫含まず

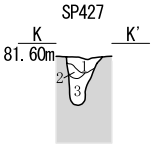
1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径3cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　25%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり
4　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり

P5
1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
P6
2　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　10%含む




P7
1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　7%含む
P9
2　10YR2/3　黒褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む

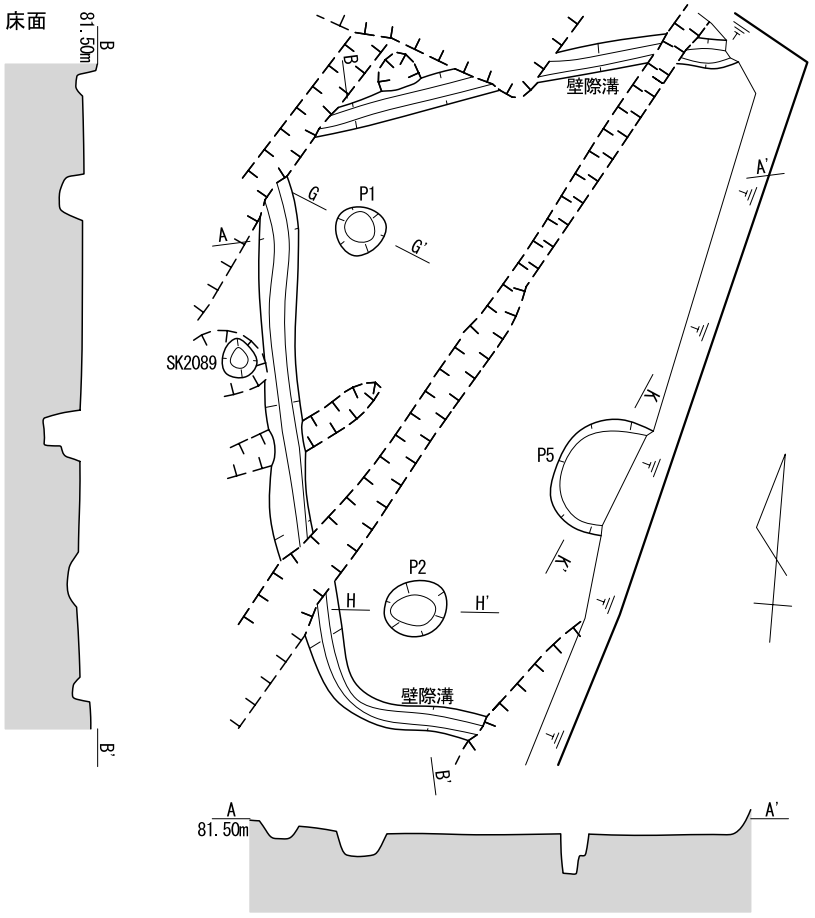
1　10YR2/1 黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む

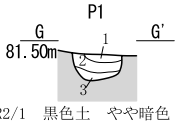



1　10Y2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　3%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4暗褐色土ブロック1%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10Y2/1　黒色土ブロック5%含む
　炭化物少量混じる

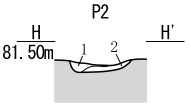
0　2m
(S=1/50)

図143　SI42遺構図（２）

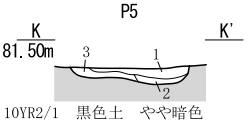



1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　3%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR2/1　黒色土ブロック5%含む




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　10%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

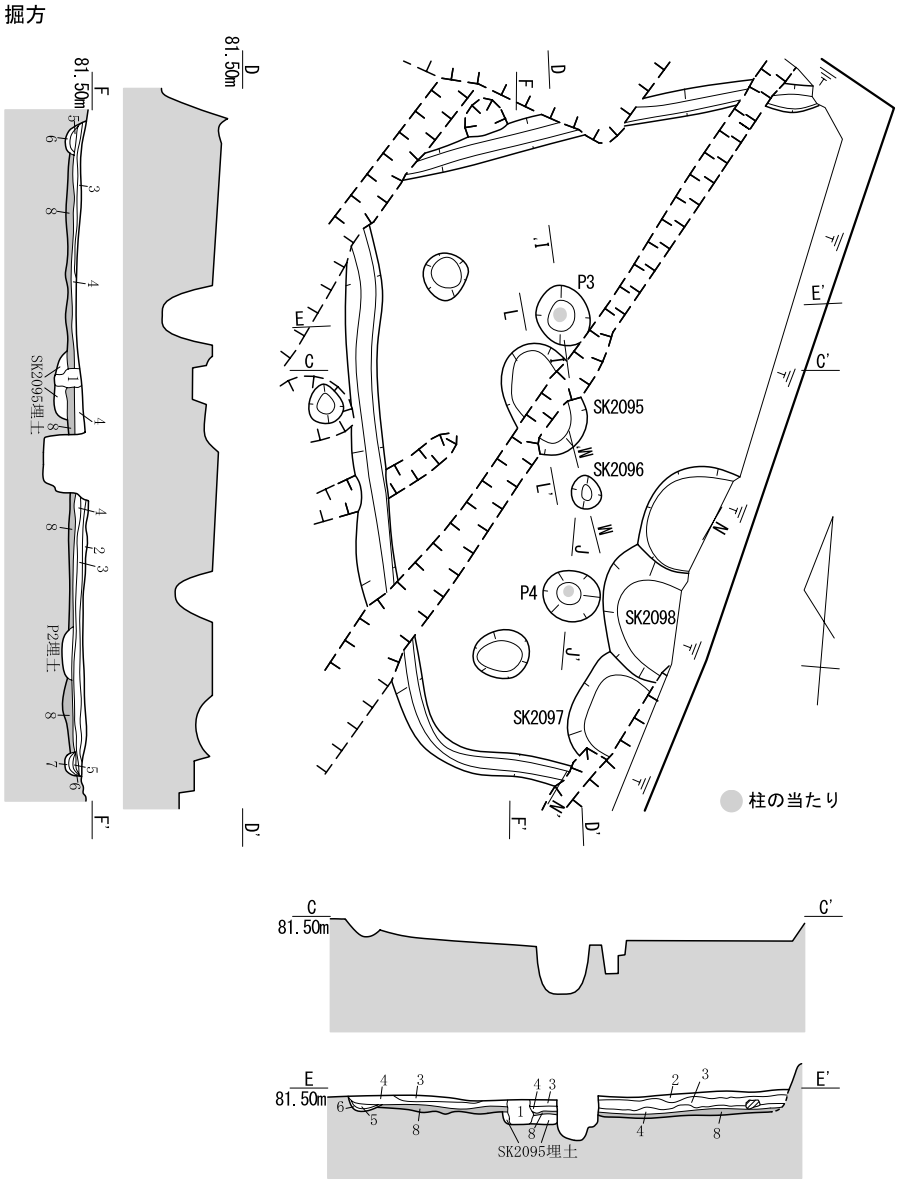


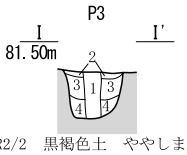

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　3%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

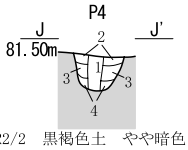
図144　SI44遺構図（１）

掘方

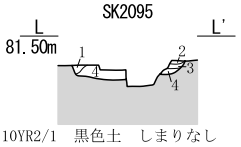



1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
径3cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
15%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

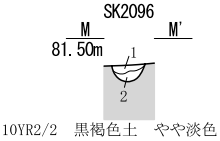



1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

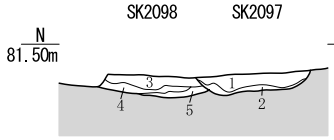



1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
粘性なし　礫含まず（根痕）
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　しまりなし　粘性なし　礫含まず（根痕）
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
径0.2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック3%含む　炭化物少量混じる
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック7%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
6　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
7　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
8　10YR2/2　黒褐色粘質土と10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず（貼床層）




1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




SK2097
1　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
SK2098
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径0.1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック3%含む
炭化物少量含む
4　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性あり　礫含まず　径0.2cm以下の10YR2/1黒色土ブロック5%含む

0　2m
(S=1/50)

図145　SI44遺構図（２）

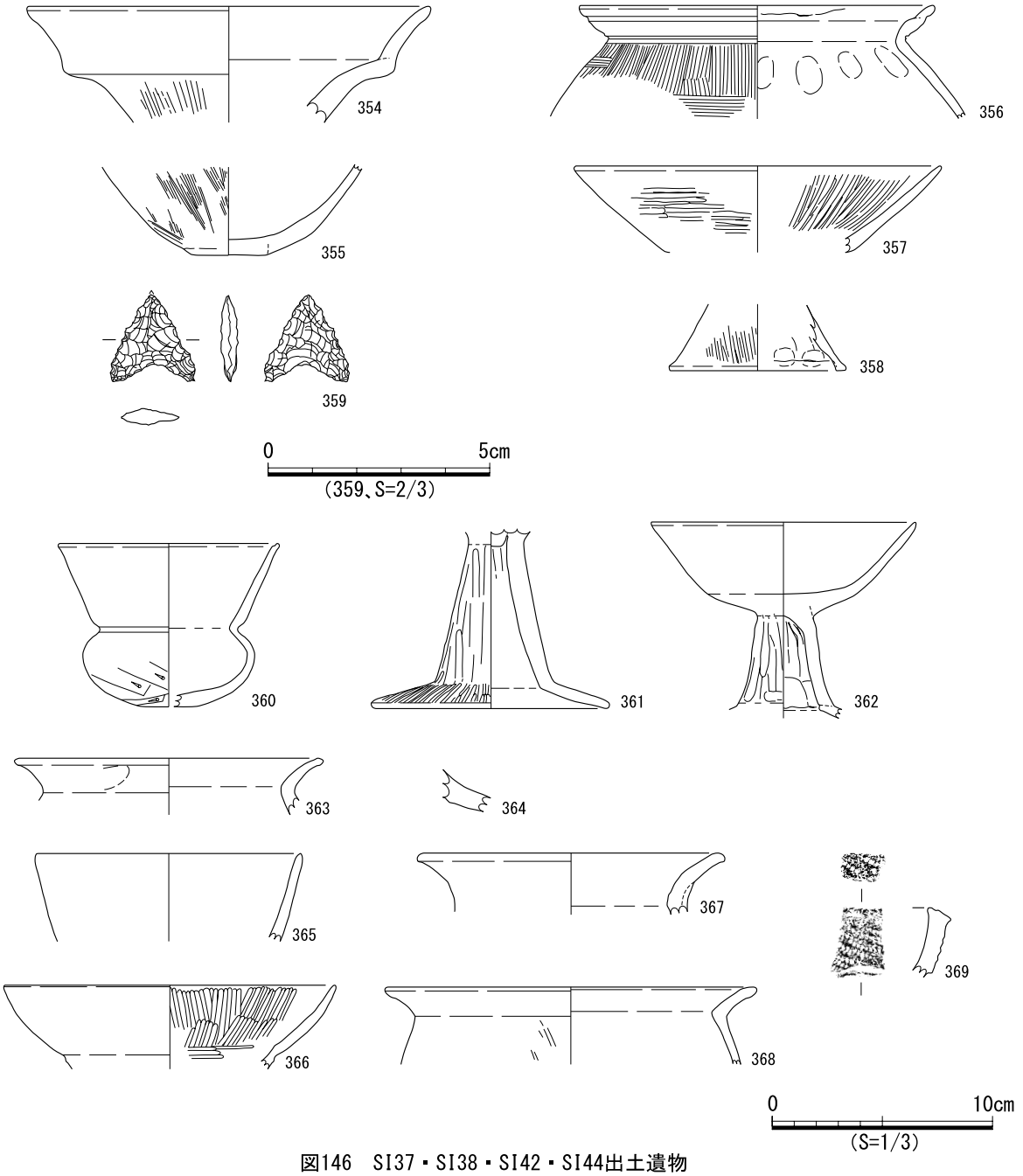



図146　SI37・SI38・SI42・SI44出土遺物

**出土遺物**　365 はⅣ期壺Ｂ類の口縁部である。ほぼ直立し、やや内彎する。内外面は摩耗のため調整不明である。366 はⅣ期壺Ｄ類である。口径が胴部径より大きい形状である。口縁部内面はタテミガキが明瞭である。頸部外面はヨコミガキを施す。367 はⅣ期甕 B1 類である。口縁端部が開く。口縁部外面はヨコナデ調整し、内面は摩耗により調整不明である。外面に煤が付着する。頸部との接合部に、外面に粘土を貼り付けた痕跡が残る。368 はⅣ期甕 B1 類である。口縁端部は丸みをもたせつつ肥厚する。口縁部外面はヨコナデ調整し、内面は摩耗により調整不明である。頸部から胴部にかけて右下がりのハケ調整する。Ⅳ期甕Ｃ類とはハケの方向が異なる。369 は縄文土器深鉢 B3 類である。口縁部は沈線で渦巻文と区画を施す。ＬＲ縄文で器面調整する。口縁端部に原体を刺突状に押しつける。断面

が摩耗する。

**時期**　床面出土土器（366、368）から東野Ⅳ期と判断した。

**SI45（図 147～150）（AS1569）**

**検出状況**　Ｂ地点 HD５～HE６グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物南部は撹乱坑によってほぼ床面が露出している。東は町道下である。平面形は、検出した三辺がほぼ直線状の隅丸方形である。長軸長は 6.30ｍで、当該期の竪穴建物としては当遺跡内最大規模である。長軸の方位は、Ｎ－７°－Ｅである。

**埋土**　床上の壁際から堆積（５→４層）し、その後黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積（３→２→１層）する。また、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に褐色土・黒色土・暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

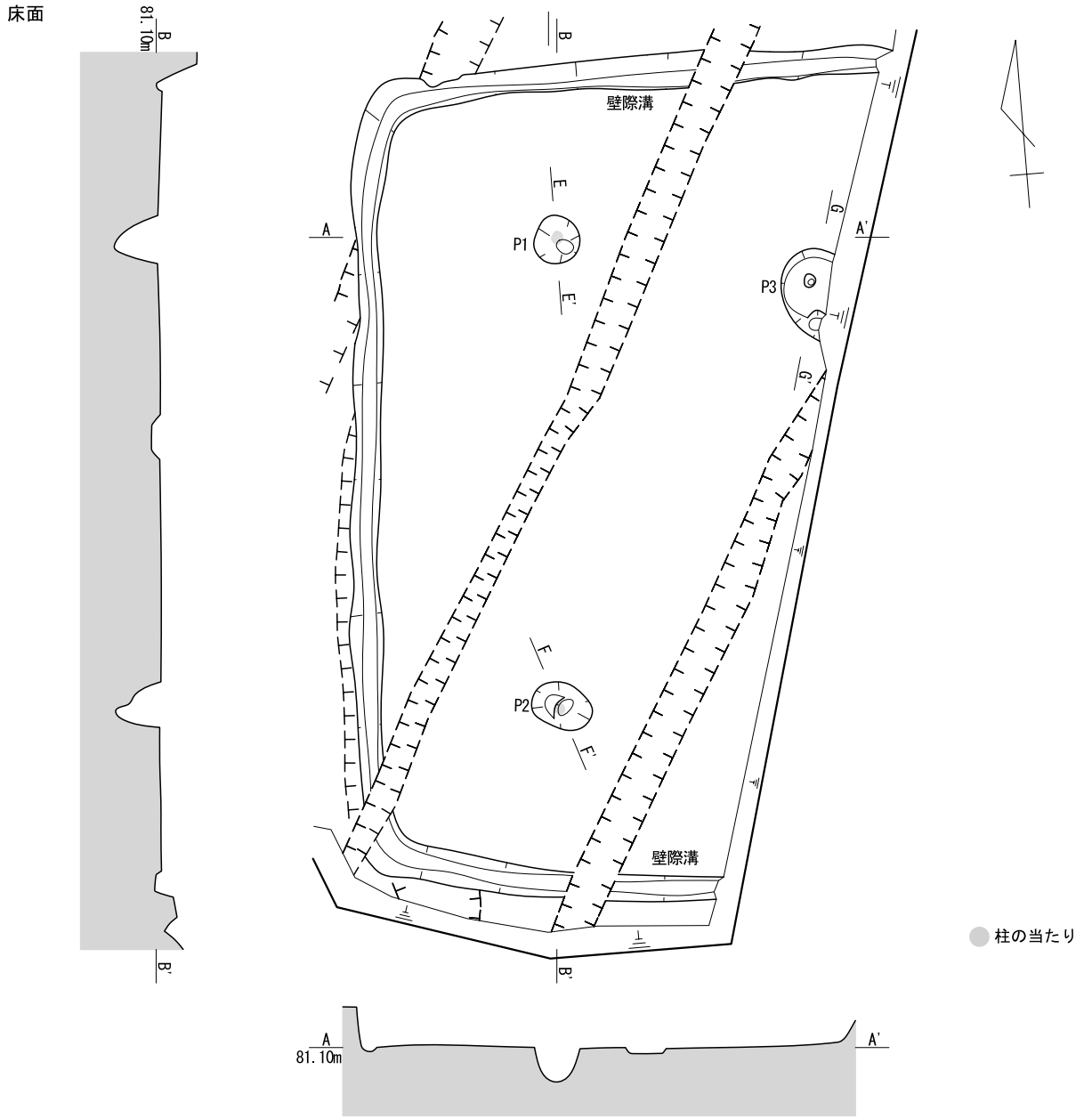
**壁**　Ⅲ～Ⅴ層を掘り込み、Ⅵ層に到達した時点で掘削を終えている。壁面は三辺とも直立に近い。壁の残存高は最大で 0.37ｍである。

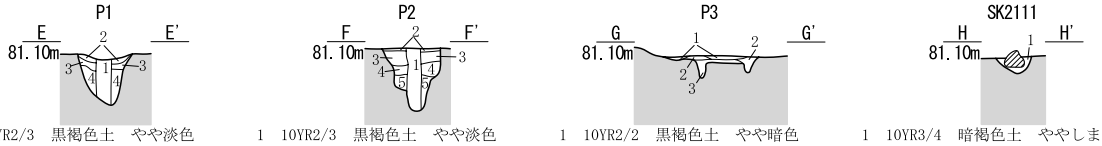
**床面**　ほぼ平坦である。貼床（８層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴２基、性格不明土坑１基である。炉は確認できなかった。竪穴内の位置関係と規模から、Ｐ１、Ｐ２をこの建物の主柱穴と判断した。四本柱建物の可能性が高く、残る２基は発掘区外にあると考えられる。２基ともに明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は 0.10ｍ前後と想定できる。Ⅵ層まで掘削が及ぶ。Ｐ３は想定できる建物の中央部の北寄りに位置する。浅い穴で炉の可能性が考えられたが、被熱部や焼土、炭化物などが確認できなかったため、性格不明土坑とした。壁際溝は、建物の残存する部分を全周する。深さ平均 0.05ｍを測る。

**床下**　貼床除去後、床下で性格不明土坑１基を検出したが、SI45 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器 25 点、弥生土器 11 点、古墳前期土師器 179 点、時期不明土師器類 89 点、石器類３点が出土した。埋土上層から縄文土器、古墳前期土師器の細片が出土したが、下層の掘削にしたがって古墳前期土師器片のみとなり、破片が大きくなっていった。床面でⅣ期鉢（379）やⅣ期甕Ｃ類（372～375）などが出土した。

**出土遺物**　370 はⅣ期壺 A2 である。口縁端部外面に沈線が巡り、段をつくる。外面はヨコナデ調整後、ヨコミガキを施す。内面はヨコナデ調整後、ミガキを施す。371 はⅣ期壺Ｅ類である。口縁部上段に羽状文を施す。内面はヨコナデ調整する。372、373 はⅣ期甕 C1 類である。372 は口縁端部を横へつまみ出す。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部沈線が巡り、比較的深い。胴部外面はハケ調整し、ハケは５本１単位と思われる。373 は口縁端部を丸く収める。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部沈線が巡り、やや浅い。胴部外面はハケ調整し、ハケは６～７本１単位と思われる。374、375 はⅣ期甕 C2 類である。374 は口縁部屈曲が弱い。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胴部外面はハケ調整し、胴部内面の頸部粘土積みをユビオサエする。375 は口縁部屈曲がかなり弱い。頸部は沈線が明瞭に巡る。外面はヨコナデ調整し、内面は摩耗のため調整不明である。376 はⅣ期甕Ｃ類である。胴部のヨコハケが頸部の屈曲部付近まであがる。377 はⅢ・Ⅳ期高坏ＡまたはＣ類である。口径が大きいので高坏Ａ類の可能性が高いと考えられる。内外面は調整不明である。378 はⅢ・Ⅳ期器台の受部である。穴が一部残る。底部は平らで、折損部から立ちあがる。外面はタテミガキを施す。379～381 は




1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4
暗褐色粘質土の混合土　しまる
礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

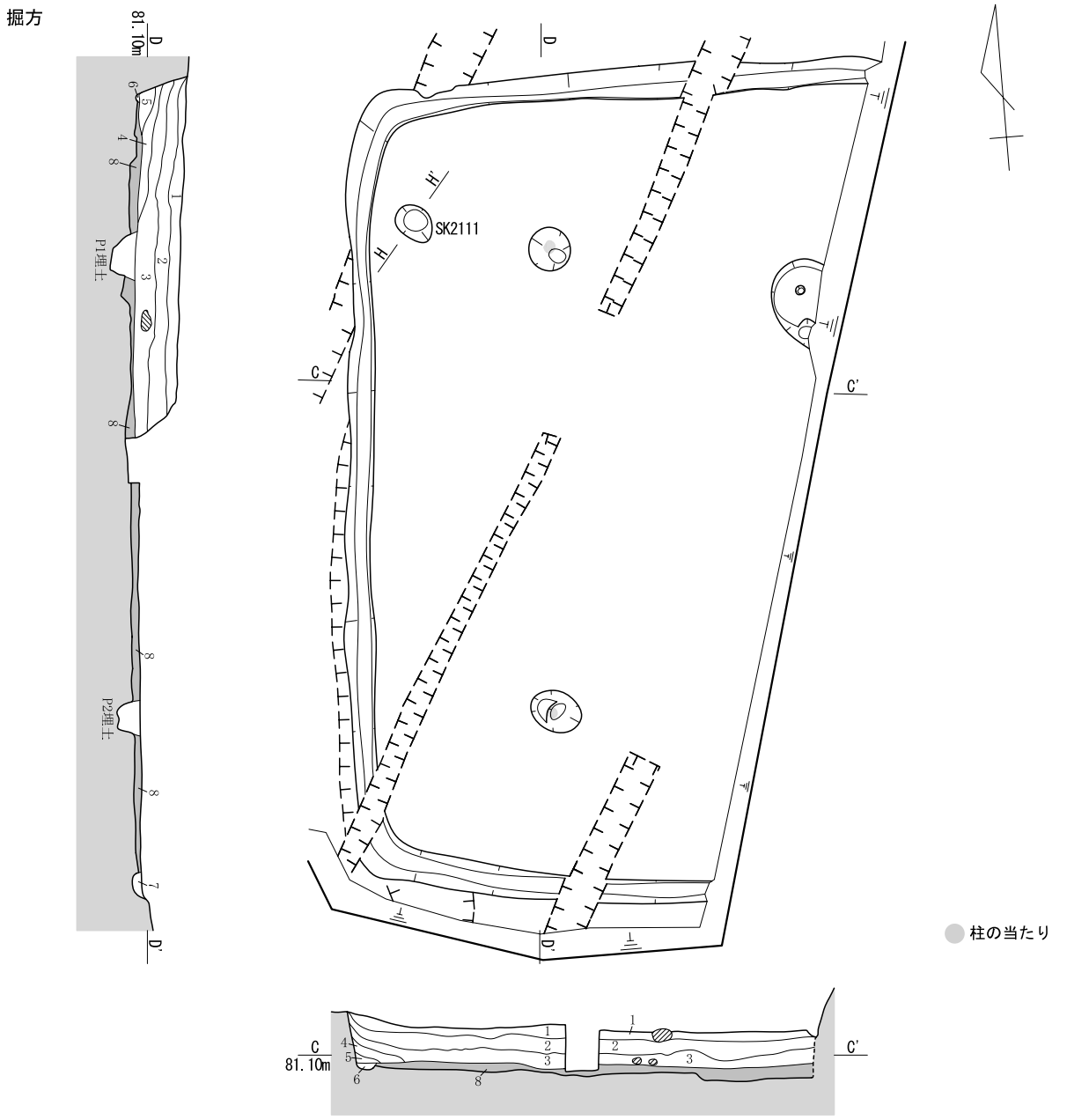
1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4
暗褐色粘質土の混合土　しまる
礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず

1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　径15cmの亜円礫含む
径0.5cm以下の10YR4/6　褐色土ブロック
5%含む

0　2m
(S=1/50)

図147　SI45遺構図（１）




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の10YR4/4　褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック5%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック7%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
7　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず（壁際溝埋土）
8　10YR2/3　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　しまる　径1～3cmの亜円礫5%含む（貼床層）

0　2m
(S=1/50)

図148　SI45遺構図（２）

図149　SI45出土遺物（１）

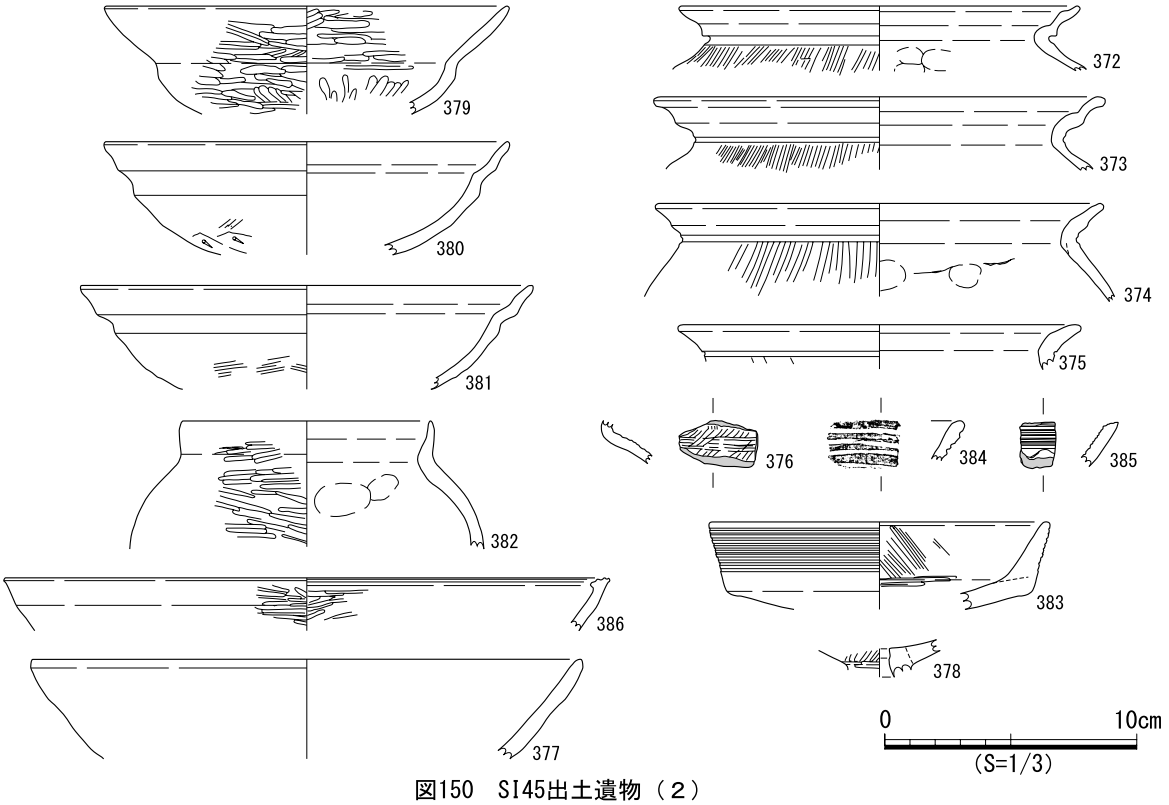



図150　SI45出土遺物（２）

Ⅳ期鉢である。379 は口縁部内外面と胴部外面はヨコミガキを施す。内面はタテミガキを施す。380、381 は底部を欠損する。底部付近の稜上に斜め方向のハケ調整する。その下部はケズリ調整する。頸部のくぼみは、先端の丸い工具で調整する。382 はⅢ期壺Ｄ類である。口縁部は丸みを帯びて直立する。胴部外面はヨコミガキを施す。内面はナデ調整後ユビオサエする。口縁部外面は摩耗により調整不明である。内面はヨコナデ調整する。383 はⅢ期壺類である。口縁部外面に直線文が９条巡る。内面は斜方向のミガキを施す。立ち上がり部に接合痕が残る。内面に煤が付着する。384 はⅢ期甕 B2 類である。外面に３条の直線文が見られる。385、386 はⅢ期高坏Ａ類である。385 は口縁部内面にかえり状の段をもつ。口縁端部内面に沈線が３条巡り、段の下に沈線が７条、その下に波状文が１条巡る。外面は調整不明である。386 は口縁端部内面にかえり状の段をもつ。口縁端部内面に沈線が３条巡る。内外面はヨコミガキを施す。

**時期**　床面出土土器から東野Ⅳ期と判断した。

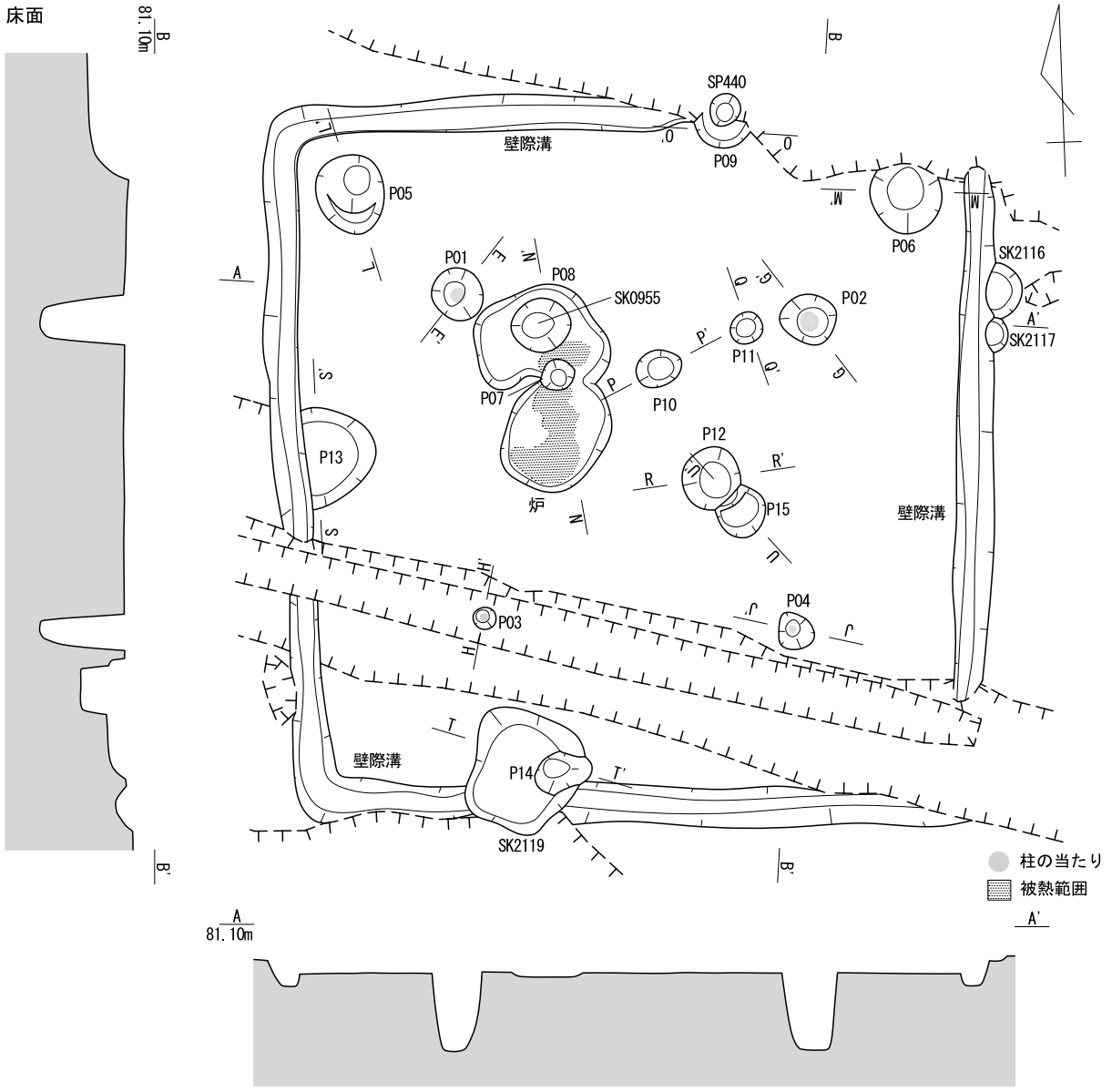
**SI47（図 151～156・159）（AS1640）**

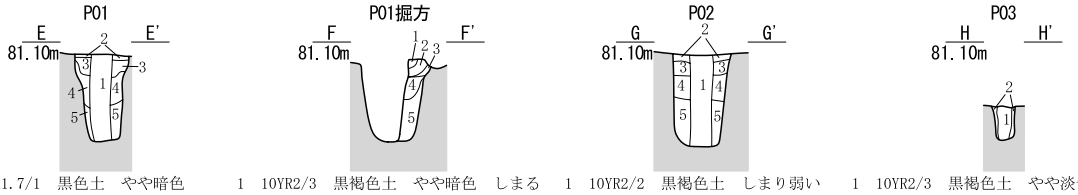
**検出状況**　Ｄ地点 H0４～HQ５グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。平面形は、四辺がほぼ直線状で南部がやや窄まる隅丸方形である。長軸の方位は、Ｎ－２°－Ｗである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを多く含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面は四辺ともやや開く。壁の残存高は最大で 0.11ｍである。

**床面**　ほぼ平坦である。貼床（７層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、固くしまる。床面で検出した遺構は柱穴４基、壁際溝、炉１




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　固くしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

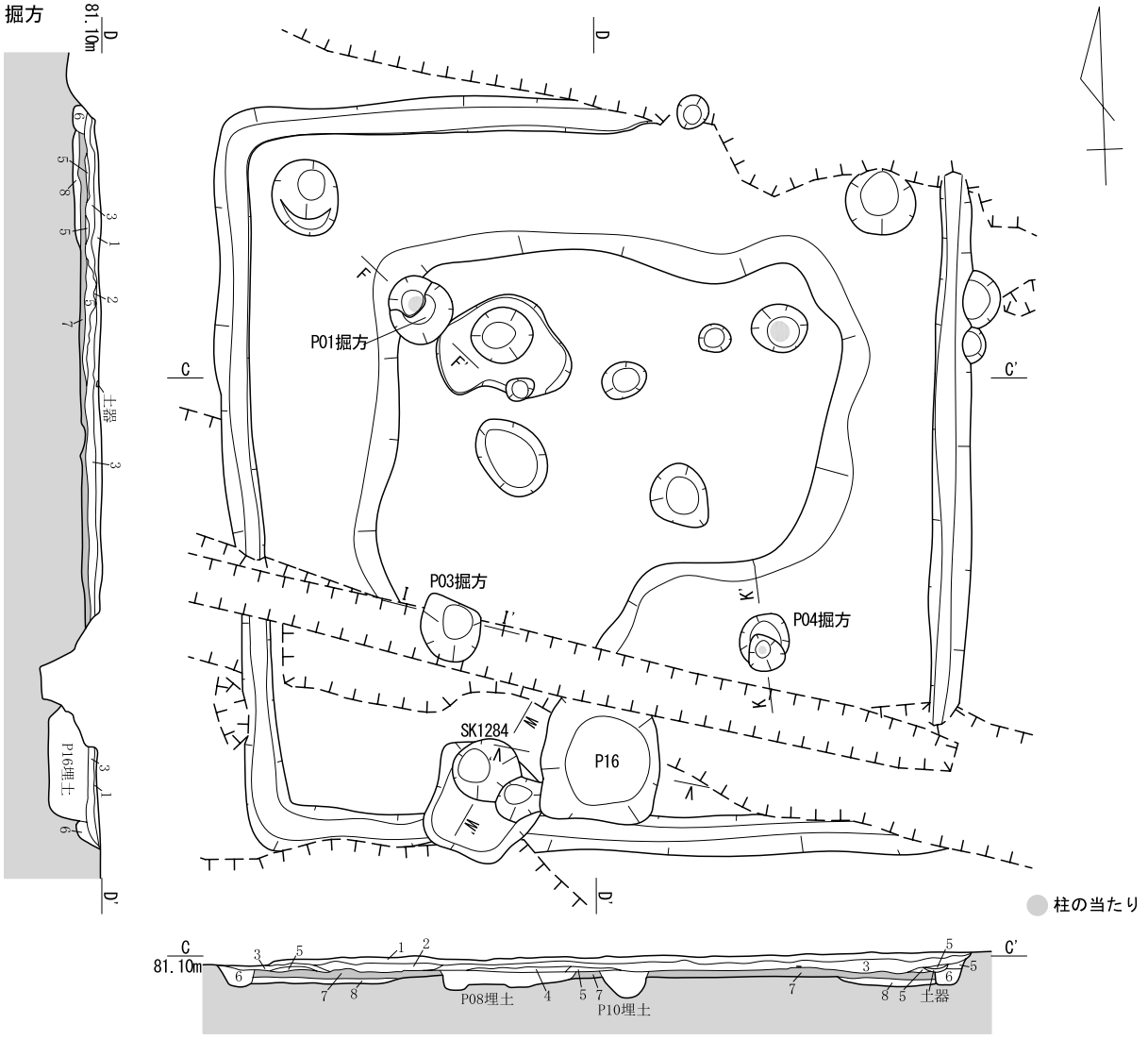
1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　しまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック5%含む

1　10YR2/2　黒褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　固くしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

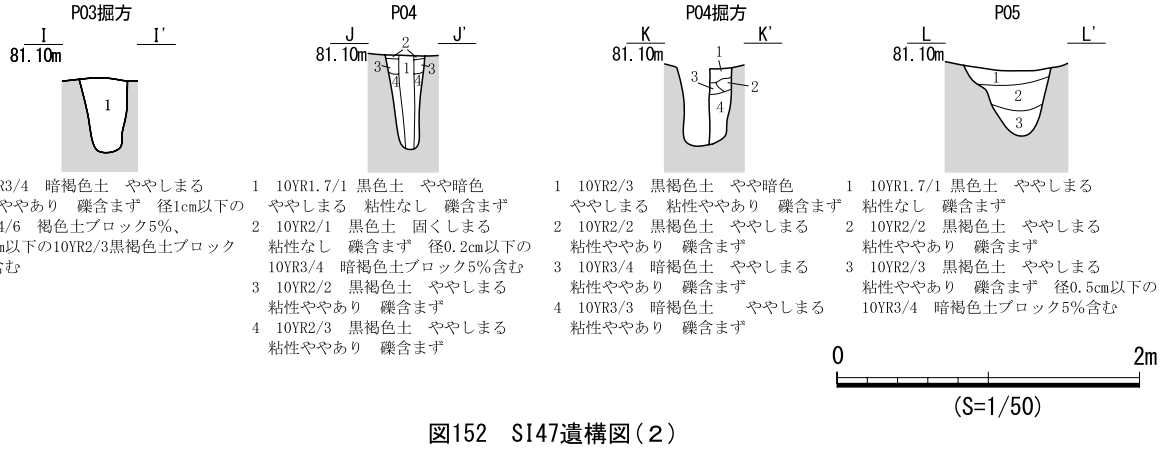
1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

図151　SI47遺構図（１）




1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　しまる　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまる　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
4　10YR2/1　黒色土　やや暗色　しまる　粘性なし　礫含まず　炭化物少量混じる
5　10YR2/3　黒褐色土　しまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
6　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む（壁際溝埋土）
7　10YR2/2　黒褐色粘質土と10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　固くしまる　礫含まず（貼床層）
8　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR2/2　黒褐色土ブロック10%含む（周溝状掘方埋土）



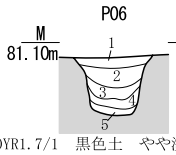

P03掘方
1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR4/6　褐色土ブロック5%、径1cm以下の10YR2/3黒褐色土ブロック5%含む

P04
1　10YR1.7/1 黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　固くしまる　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

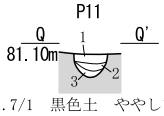
P04掘方
1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

P05
1　10YR1.7/1 黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む

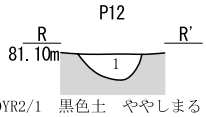
図152　SI47遺構図（２）



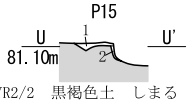

1　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック7%含む
3　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR1.7/1黒色土ブロック5%含む



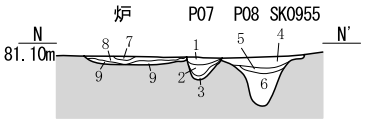

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



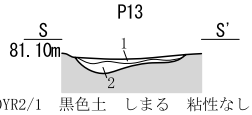

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む



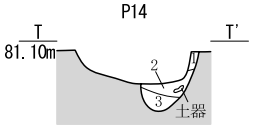

1　10YR2/2　黒褐色土　しまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.1cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　しまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.1cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む



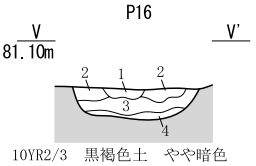

P7
1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
P08
4　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.1cm以下の5YR2/3　極暗赤褐色土10%含む
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.1cm以下の5YR2/3　極暗赤褐色土5%含む
SK0955
6　10YR3/3　暗褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.1cm以下の5YR2/3　極暗赤褐色土5%含む　炭化物少量混じる
炉
7　7.5YR2/3　極暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
8　7.5YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず　炭化物少量混じる
9　5YR2/3　極暗赤褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　炭化物少量混じる



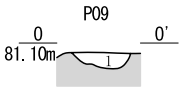

1　10YR2/1　黒色土　しまる　粘性なし
　礫含まず　径0.2cm以下の10YR3/4暗褐色土
　ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　しまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック3%含む



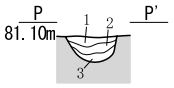

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径0.2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　10%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR4/6　褐色土　しまり弱い
　粘性あり　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック5%含む



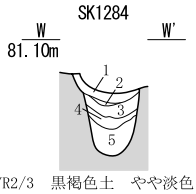

1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　20%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/3黒褐色土ブロック15%含む
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック7%含む
　上層に多く含む
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/3黒褐色土ブロック3%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
　10YR3/4暗褐色土15%含む




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　しまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR2/1黒色土ブロック5%
　10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR2/1黒色土ブロック3%
　含む
3　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　7%含む
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

図153　SI47遺構図（３）

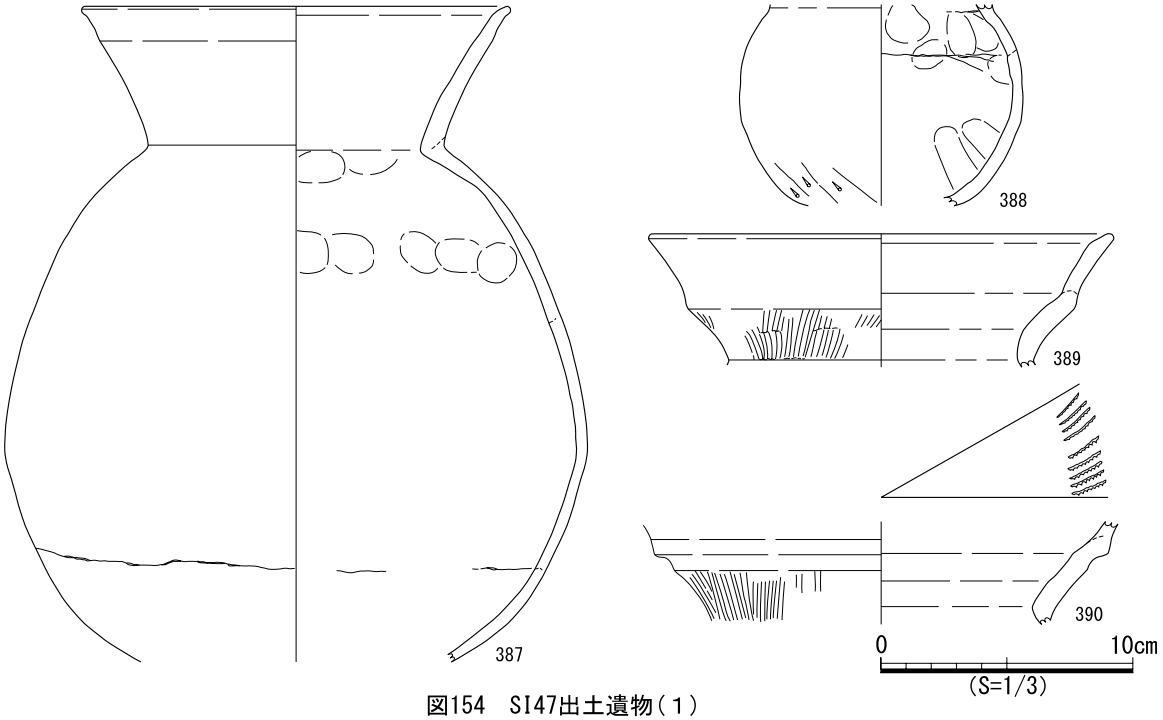



図154　SI47出土遺物（１）

遺物出土状況

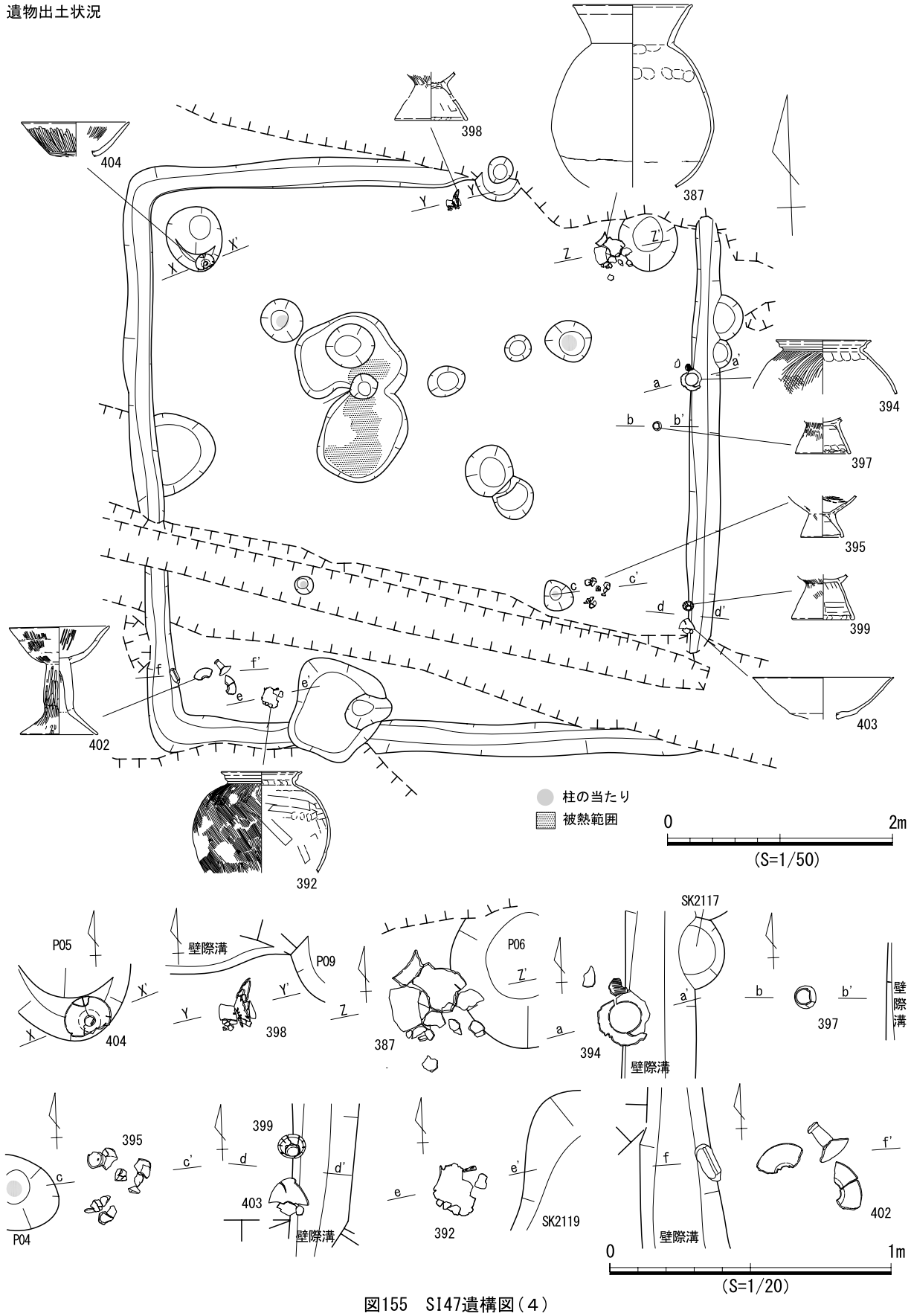



図155　SI47遺構図（４）

基、貯蔵穴２基、性格不明土坑８基である。竪穴内の位置関係からＰ01、Ｐ02、Ｐ03、Ｐ04 を主柱穴と判断した。四本柱建物跡である。すべて明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は 0.09～0.13ｍと想定できる。貼床除去後、Ｐ01、Ｐ03、Ｐ04 で掘方を確認した。柱穴掘方が確認できたことから、柱埋設後、貼床形成したと考えられる。壁際溝は、建物の残存する部分の壁際を巡る。深さ平均 0.13ｍを測る。

**炉**　建物中央部やや西寄りで、床面が被熱している範囲を検出した。下層に焼土ブロックを多数含み、炭化物が混じる。底面は強く被熱することから地床炉と判断した。被熱部はＰ08 南部に入り込んでいることから、実際の炉は、掘方上端よりやや北に広がる可能性がある。

**貯蔵穴**　北西隅で検出したＰ05 と北東隅で検出したＰ06 を貯蔵穴と判断した。Ｐ05 の平面形は円形で、壁はやや開き、南にテラス部をもつ二段構造の穴である。底面は丸い。長軸長 0.56ｍ、短軸長 0.50ｍ、深さ 0.44ｍを測る。テラス部でⅣ期甕Ｃ類の胴部片が出土した。Ｐ06 の平面形は円形と想定できる。壁は外反する。底面は平らである。残存長軸長 0.51ｍ、短軸長 0.51ｍ、深さ 0.39ｍを測る。底面で粘土塊（取上番号 8214）が出土した。

**床下**　貼床除去後、主柱穴掘方３基、建築儀礼に伴う土坑１基、性格不明土坑２基、周溝状掘方を確認した。周溝状掘方は、幅 0.74～1.78ｍで壁際を巡る。埋土は暗褐色土（８層）でややしまる。南辺中央部に接して検出したＰ16 を、建築儀礼に伴う土坑と判断した。平面形は隅丸方形に近い。壁は開き、底部は平らである。長軸長 0.83ｍ、残存短軸長 0.81ｍ、深さ 0.20ｍを測る。底面で粘土塊（取上番号 8440）と古墳時代前期土師器３点が出土した。Ｐ06 とＰ16 で出土した粘土塊はともに水成であるが、Ｐ16 出土粘土塊は、混合物が少なく植物珪酸体化石が著しく多いという特徴をもち、組成がやや異なる。これは、採取場所の違いに起因する可能性が考えられる。床下で検出したこと、竪穴掘方内の位置、混合物の少ない粘土塊が出土したことなどから、建物建築時に意図的にＰ16 を配した可能性が窺える。SK0955 はＰ08 底面で検出した。埋土上層に焼土や炭化物が見られる。SI47 床下で検出した性格不明土坑と SI47 との関連は不明である。

**遺物出土状況**　縄文土器１点、弥生土器６点、古墳前期土師器 398 点、時期不明土師器類 187 点、灰釉陶器１点、礫類６点、石器類 29 点、土製品１点、粘土塊４点が出土した。埋土上層から弥生土器・土師器類片が多量に出土したが、下層の掘削にしたがって減少し、破片が大きくなっていった。建物壁に近接する位置で完形に近い古墳前期土師器と粘土塊が出土した（図 155）。北西隅部、南西隅部、南東隅部でⅣ期高坏Ｃ類が出土し、北東隅部でⅣ期壺 A2 類が出土し、北辺中央部、東辺中央部、南西隅部、南東隅部でⅣ期甕Ｃ類が出土した。建物中央の床面直上では土器は出土していない。

**出土遺物**　387 はⅣ期壺 A2 類である。口縁部は大きく開く。口縁端部でやや外反する。口縁端部外面に僅かに段をもつ。外面は被熱により調整不明である。外面に煤が付着する。内面は板ナデ調整後、ユビオサエする。388 はⅣ期壺Ｂ類である。胴部外面上半はナデ、下半はケズリ調整である。内面はユビナデ調整する。389 はⅣ期壺 C1 類である。外面上段はヨコナデ、下段はハケ調整する。内面はヨコナデ調整する。口縁端部内面に面をつくる。390 はⅣ期壺Ｃ類である。上段部を欠損する。下段外面はハケ調整する。ハケは８本１単位である。上段内面は鋸歯文状の刺突文が並ぶ。391 はⅣ期甕 B2 類である。口縁部が開く。内外面は摩耗のため調整不明である。接合部の内外面にユビオサエが見られる。口縁部外面にヨコハケ状の調整が見られる。392～394 はⅣ期甕 C1 類である。392 は口縁端部内

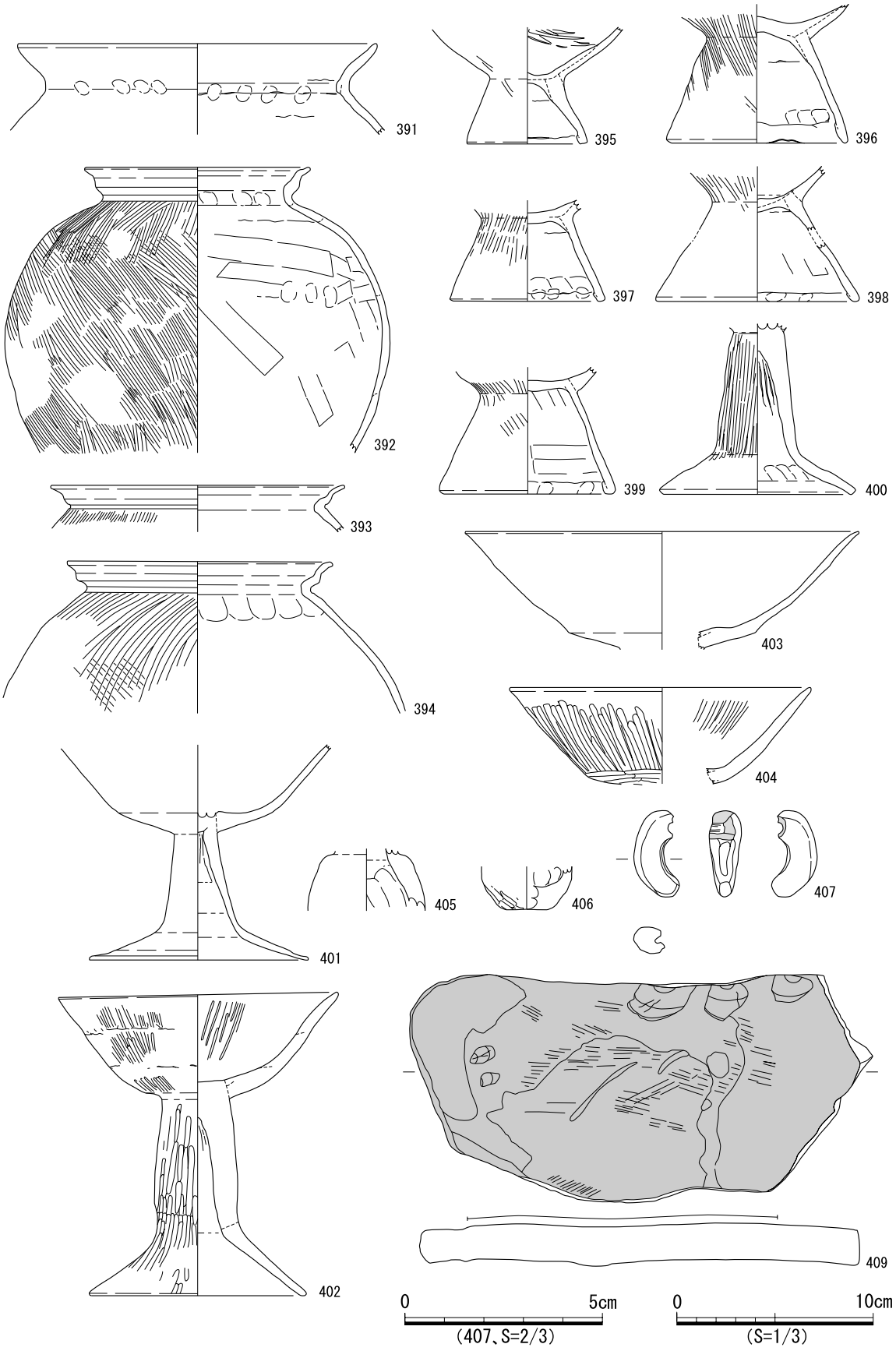



図156　SI47出土遺物（２）

面に段をもつ。胴部外面はハケ調整する。煤が多量に付着する。内面は板ナデ調整し、ユビオサエする。胴下半部は二次被熱のために器面が荒れる。脚台部は欠損する。393 の口縁端部は外方につまみ出す。胴部外面のハケが粗い。394 の口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部外面は沈線が１条巡る。胴部外面のハケが粗い。ハケは８本１単位と思われる。胴部内面はナデ調整する。胴部内面の接合部をユビオサエする。395～399 はⅣ期甕 X1 類である。395 は底部と脚台部の接合痕が明瞭である。両側から粘土をユビオサエして充填する。脚台部側はやや粗い砂粒を混和する。器面は二次被熱のため荒れ、赤色化する。外面の一部にハケ調整が残る。脚台部内面は板ナデ調整する。底部内面に棒状工具でなでている沈線状の痕跡が残る。396 は胴部外面のハケが粗く、胎土も粗い。底部と脚台部は両側から充填して接合するが、脚台部側からのユビオサエが強く、底部内面が盛り上がる。397 の底部と脚台部は両側から充填して接合する。やや小ぶりである。脚台部内面は横方向の板ナデ調整後ユビオサエする。398 は二次被熱のため器面が荒れる。内面は板ナデ調整し、折り返し部をユビオサエする。押さえた箇所の器壁が薄くなる。399 は被熱し、底部内面に煤が付着する。底部外面はハケ調整し、７本１単位である。内面は板ナデ調整する。底部と脚台部は両側から充填して接合する。底部側は充填時にユビオサエした後、斜方向に板ナデ調整する。400、401 はⅣ期高坏 C1 類である。400 の脚部外面はタテミガキがみられ、途切れることなく上から下まで続く。脚部内面は右回転の絞り込みである。裾部外面は摩耗のため調整不明である。401 の外面は摩耗のため調整不明である。脚部内面は絞り込みが見られる。裾端部に沈線が巡ってくぼみ、端部で肥厚する。402 はⅣ期高坏 C2 類である。内外面タテミガキを施す。脚部はエンタシス状に下部がふくらむ。脚部内面の絞り込み後、下部のみ横方向に板をまわしなでる。403、404 はⅣ期高坏Ｃ類の坏部である。403 は脚部との接合部が残る。内外面摩耗のため調整不明である。404 の坏部外面はタテミガキ、坏底部外面はヨコミガキを施す。内面はタテミガキが一部残る。坏端部は丸く収める。405 はＰ05 出土のⅢ・Ⅳ期器台の脚部である。受部は折損する。穴が一部残る。丸みを帯びた形状である。内外面は摩耗のため調整不明である。406 はⅣ期ミニチュア土器である。口縁部を欠損するため器形は不明であるが、壺形と思われる。外面斜め方向のミガキを施す。内面はユビオサエする。器壁の厚さから底部付近と思われる。407 は土製勾玉である。大まかな形状を作ってから尾を作り出すために、くびれ部を指で外方から中へ巻き込むように押さえている。穴は約３分の１が残存する。穴は細い棒状工具を差し込み、回転させてつくる。穴内部で外方向へ複数回押さえているため、工具の稜が残る。408、409 は砥石である。408 は砥面が５面で、風化が著しい。Ｖ字溝が複数ある。全体が被熱し、煤が付着する。409 は砥面が１面で、ややふくらむ部分が強く研がれ、線状痕が見られる。Ｕ字溝が２条見られる。

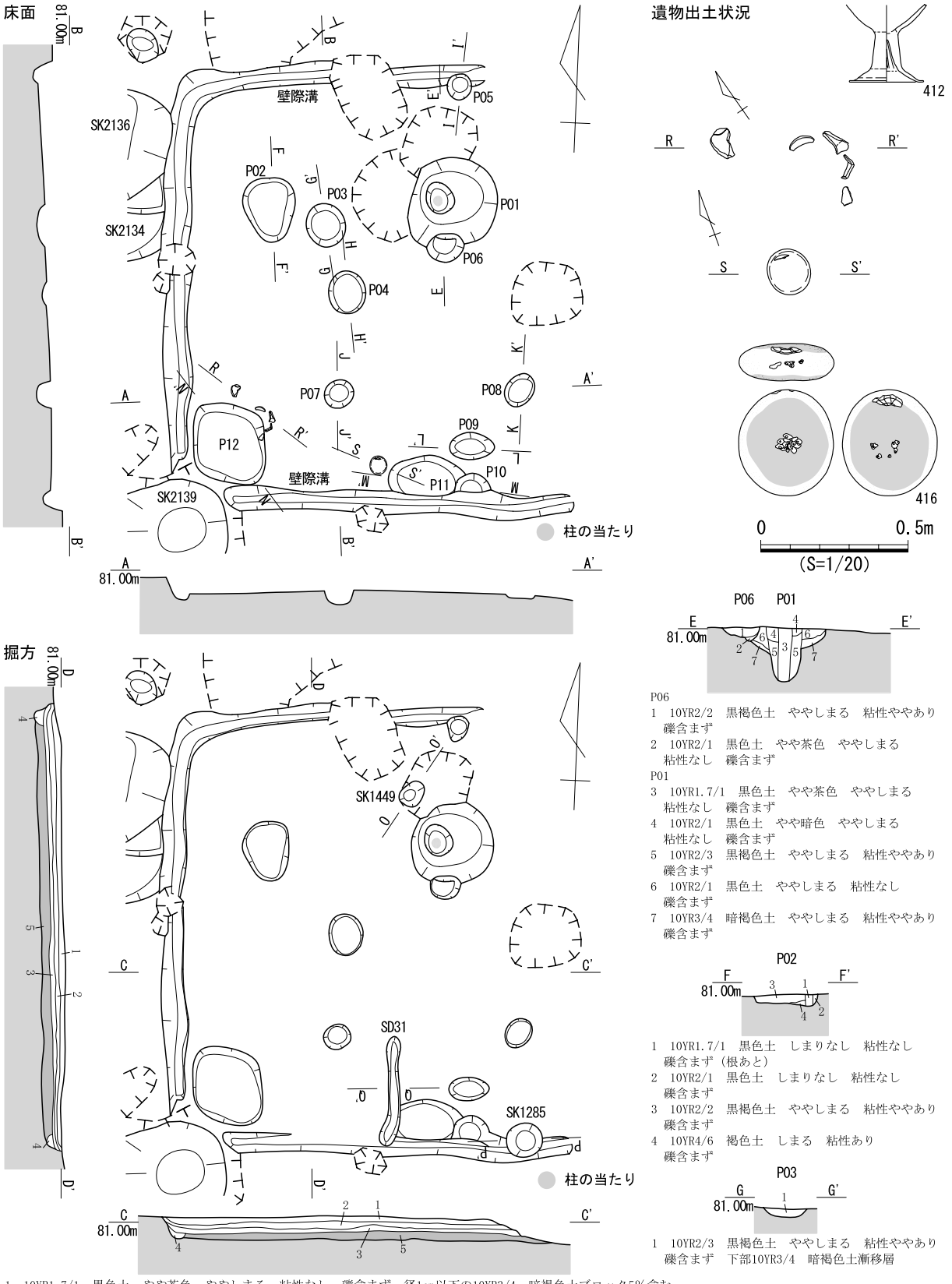
**時期**　床面出土土器から東野Ⅳ期と判断した。

**SI48（図 157～159）（AS1707）**

**検出状況**　Ｄ地点 H0６～HP７グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。建物東側は段丘の縁で東にくだる地形のため東側掘方と東壁が消失している。平面形は、残存する三辺がほぼ直線状の隅丸方形と想定できる。長軸の方位は、Ｎ－２°－Ｗである。

**埋土**　黒色土と黒褐色土がほぼ水平に堆積し、壁際埋土がやや傾斜して堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ・Ⅳ層を掘り込んでいる。壁面は三辺ともやや開く。壁の残存高は最大で 0.13ｍである。




1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/2　黒褐色土ブロック7%含む（壁際溝埋土）
5　10YR2/2　黒褐色粘質土と　10YR3/4　暗褐色粘質土の混合土　しまる　礫含まず（貼床層）

図157　SI48遺構図（１）

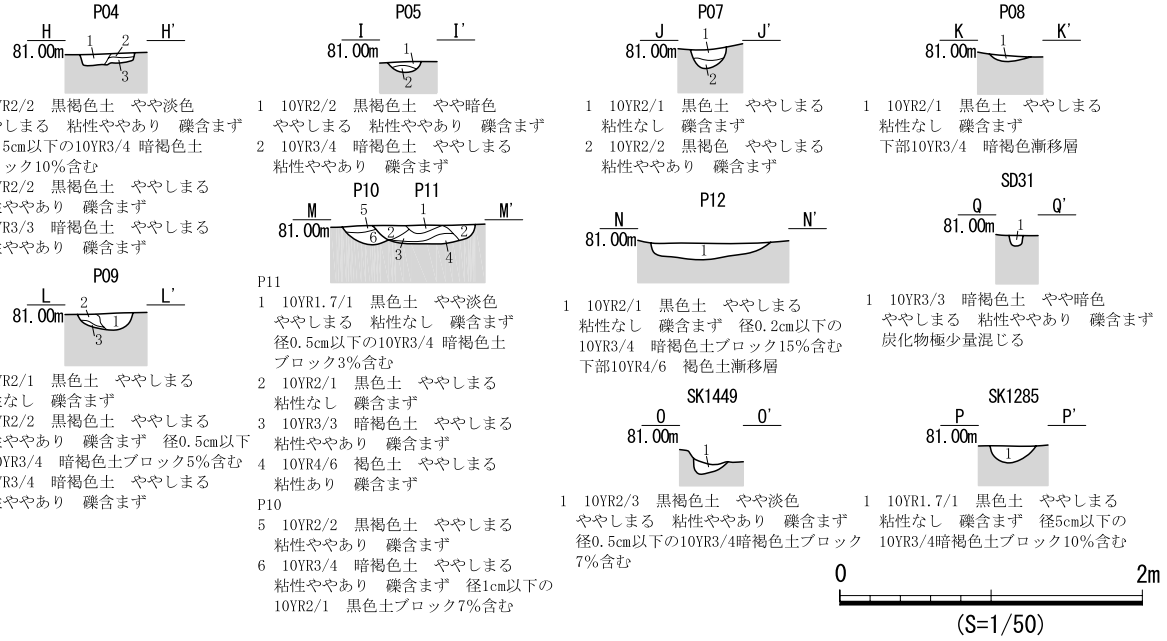



図158　SI48遺構図（２）

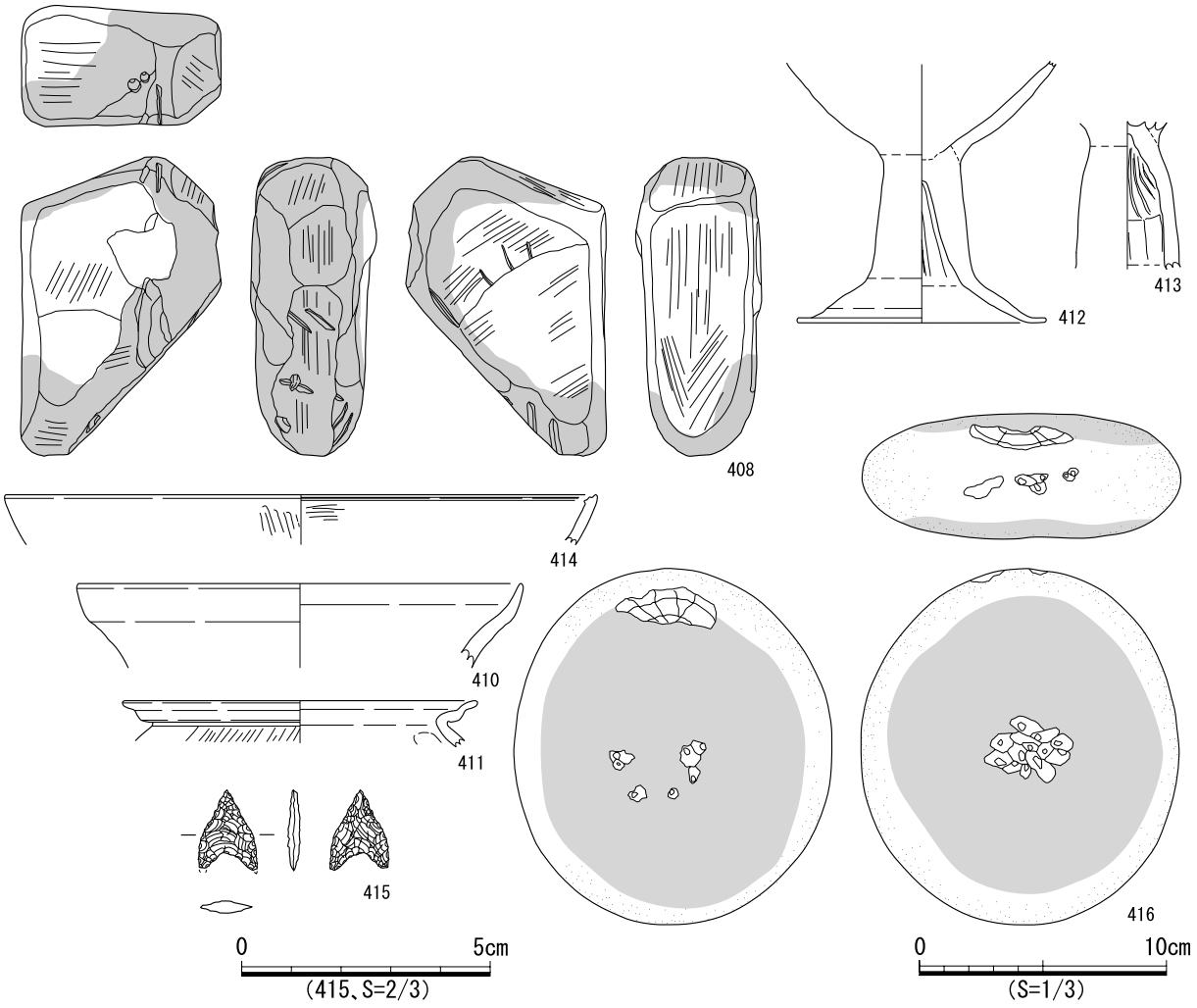



図159　SI47出土遺物（３）・SI48出土遺物

**床**　ほぼ平坦である。貼床（５層）が、建物の残存する部分全体にわたって明瞭に残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土でしまる。床面で検出した遺構は柱穴１基、壁際溝、貯蔵穴１基、性格不明土坑 10 基である。炉は確認できなかった。主柱穴は不明である。Ｐ01 で明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は約 0.11ｍと想定できる。壁際溝は、建物の残存する部分の壁際を巡る。深さ平均 0.05ｍを測る。

**貯蔵穴**　南西隅で検出したＰ12 を貯蔵穴と判断した。平面形は隅丸方形に近い形状である。壁は開き、底部は平らである。長軸長 0.80ｍ、残存短軸長 0.69ｍ、深さ 0.11ｍを測る。

**床下**　貼床除去後、溝状遺構１条、性格不明土坑２基を検出した。性格不明土坑と SI48 との関連は不明である。SD31 は SI48 プランを正方形と仮定すると、そのほぼ中央部南寄りに位置し、南壁に接することから、竪穴掘方掘削後に掘削された可能性が高い。

**遺物出土状況**　縄文土器４点、弥生土器３点、古墳前期土師器 65 点、古墳後期以降土師器類２点、時期不明土師器類 29 点、須恵器３点、灰釉陶器１点、礫類１点、石器類４点が出土した。埋土上層から弥生土器・土師器類片が出土したが、下層の掘削にしたがって減少した。

**出土遺物**　410 はⅣ期甕 B3 類の口縁部である。内外面はヨコナデ調整する。411 はⅣ期甕 C1 類の口縁～頸部である。胴部外面のハケが粗い。ハケ調整後、頸部に沈線が巡る。沈線は、工具を斜め下から当てているため胴部のハケがつぶれ、沈線が口縁屈曲部の下端を抉る。412 はⅣ期高坏 C1 類である。内外面は摩耗のため調整不明である。坏部内面の胎土は砂粒が多く粗い。坏部外面は底部との境に明瞭な稜がなく、丸みを帯びる。脚部内面は絞り込みである。裾部は端部で平坦面をつくる。413 はⅣ期高坏 C2 類の脚部である。外面は調整不明である。内面下部は板ナデ調整し、板状工具の当たりが稜として残る。内面上部は右回転の絞り込みである。坏部との接合部の僅かに下で強く絞って脚を細くする。414 はⅢ期高坏Ａ類の坏部である。口縁端部面をつくり、沈線が２条巡る。内面はヨコミガキ、外面はタテミガキを施す。415 は打製石鏃である。先端から直線状に開く側縁を作出し、中程で脚部に向かって垂直になる。基部を大きく抉る。左側縁部、右側縁部、基部の順に作出する。416 は磨石・敲石類である。磨面は２面、敲打面は３面で、背面より表面に敲打痕が多い。敲打痕は中央部に集中する。

**時期**　埋土出土土器から東野Ⅳ期の可能性が高いと判断した。

**SI49（図 160）（AS1925-2）**

**検出状況**　Ｃ地点 KD８・９グリッドで検出した竪穴建物である。Ⅲ層上面で検出した。北部は発掘区外のため不明だが、残存する二辺から隅丸方形と想定できる。検出時は１軒の竪穴建物と考えて掘削したが、床面に到達した段階で東西床面のレベルが異なることが分かり、２軒の建物の重複と判断した（第５節 SI29 参照）。SD07 に切られ、SI29 を切る。残存長軸の方位はＮ－45°－Ｗである。

**埋土**　黒褐色土がほぼ水平に堆積する。埋土中に暗褐色土ブロックを含むことから人為堆積の可能性が高いと考えられる。

**壁**　Ⅲ～Ⅴ層を掘り込んでいる。壁面は開く。壁の残存高は最大で 0.06ｍである。

**床**　ほぼ平坦である。貼床（７・８層）が残る。貼床は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土で、しまる。床面で検出した遺構は、壁際溝、貯蔵穴１基、性格不明遺構１基である。炉は確認できなかった。壁際溝は南隅で検出した。深さ平均 0.11ｍを測る。貼床層を切っていることから、貼床形成後に

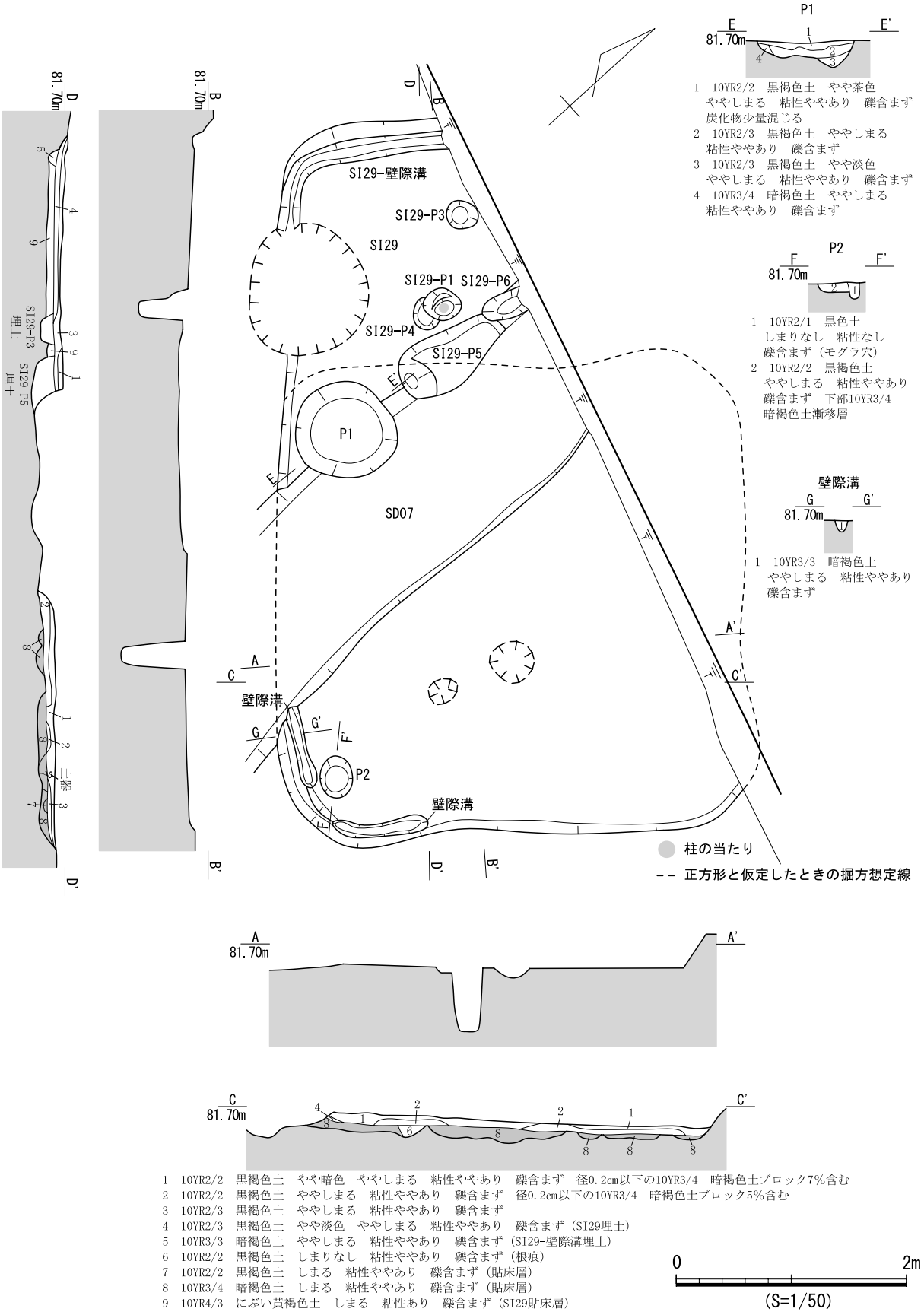



図160　SI49遺構図

掘削されたと考えられる。

**貯蔵穴**　Ｐ１を位置、規模、形状からこの建物の貯蔵穴と判断した。平面形は円形である。壁はやや開き、底面は北部がやや窪む二段構造の穴である。テラス部が広く、平らである。長軸長 0.86m、短軸長 0.82m、深さ 0.23mを測る。埋土からⅣ期壺Ｃ類の口縁部が出土した。

**床下**　貼床除去後、床下で SI29 柱穴、SI29 壁際溝を検出した。

**遺物出土状況**　埋土から弥生土器・土師器類、縄文土器の破片が出土した。掘削時には建物１軒と考えて遺物を取り上げたため、SI29 と重複する範囲から出土した遺物の帰属建物は不確定であるが、建物南西部の埋土出土遺物の多くは、SI49 の埋没時のものであると思われる。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。床面出土土器には、口縁部が直線的に開くⅣ期甕 B2 類の口縁部片、ハケ調整するⅣ期甕Ｃ類の胴部片、Ⅳ期高坏Ｃ類の脚部片が見られる。

**時期**　床面出土土器、貯蔵穴出土土器から、東野Ⅳ期の可能性が高いと判断した。

## ２　掘立柱建物

当該期に関連すると判断した掘立柱建物は８棟である。

### SB01（図 161・163）

**検出状況**　Ｃ地点 KG１～KH２グリッドで検出した掘立柱建物である。Ⅲ層上面で検出した。SB01-Ｐ4 が SB02-Ｐ3 を切ることから SB01＞SB02 と判断した。また、南西角の柱穴は SZ２周溝埋土との土色の類似により確認できなかったが、SB02-Ｐ5 が SZ２周溝埋土中に存在していたことから、SB01＞SZ２と判断した。平面形は長方形で、桁行２間（5.82m）×梁行１間（3.88m）、床面積 22.58 ㎡を測る。桁行の方位はＮ－70°－Ｗである。

**柱穴**　５基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.37～0.61m、深さ 0.08～0.54mを測る。Ｐ１～３、Ｐ５で柱痕跡が、Ｐ１、Ｐ３、Ｐ５で柱の当たりが確認できる。柱径は 0.09～0.13mと想定できる。Ｐ４は柱痕跡は確認できなかったものの、底部が基盤層より固く締まり柱の当たり状であることから SB01 柱穴と判断した。柱間は、桁行がＰ３－Ｐ１で 3.00m、Ｐ１－Ｐ２で 2.82m、梁行がＰ３－Ｐ４で 3.88mとなる。SP130 は棟持柱の位置に近く、柱筋から 0.6m外方向にずれている。しかし、対応する棟持柱が確認できないこと、Ｐ３とＰ４の中間点から南へ 0.1mずれることから SB01 柱穴から除外した。柱筋に載る SK0122、SK0123 はともに浅く、柱痕跡や底部硬化面が確認できなかったため除外した。SP024 は柱穴であるが、相対する SK0122 が柱穴でないため除外した。しかし、それぞれ SB01 を構成する柱穴の可能性もある。埋土は、上層が黒色、下層にしたがい黒褐色が強くなる。

**遺物出土状況**　Ｐ１から石器類１点、Ｐ４から縄文土器２点が出土した。

**出土遺物**　417 はＰ１出土のＲＦである。背面のポジ面を打撃して加工する。表面先端部を調整する。

**時期**　SZ２周溝埋没後にＰ５が掘削されていることからⅢ期以降となるが、当遺跡は段丘の縁に位置しており、SZ２周溝が埋没するまでにはかなりの時間を要する。SZ２周溝埋土の上層から最上層には古墳前期の土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗が含まれていることから、SZ２周溝埋没はⅣ期以降と考えられる。よって東野Ⅳ期以降と判断した。

### SB02（図 162・163）

**検出状況**　Ｃ地点 KH１・２グリッドで検出した掘立柱建物である。Ⅲ層上面で検出した。SB02-Ｐ３

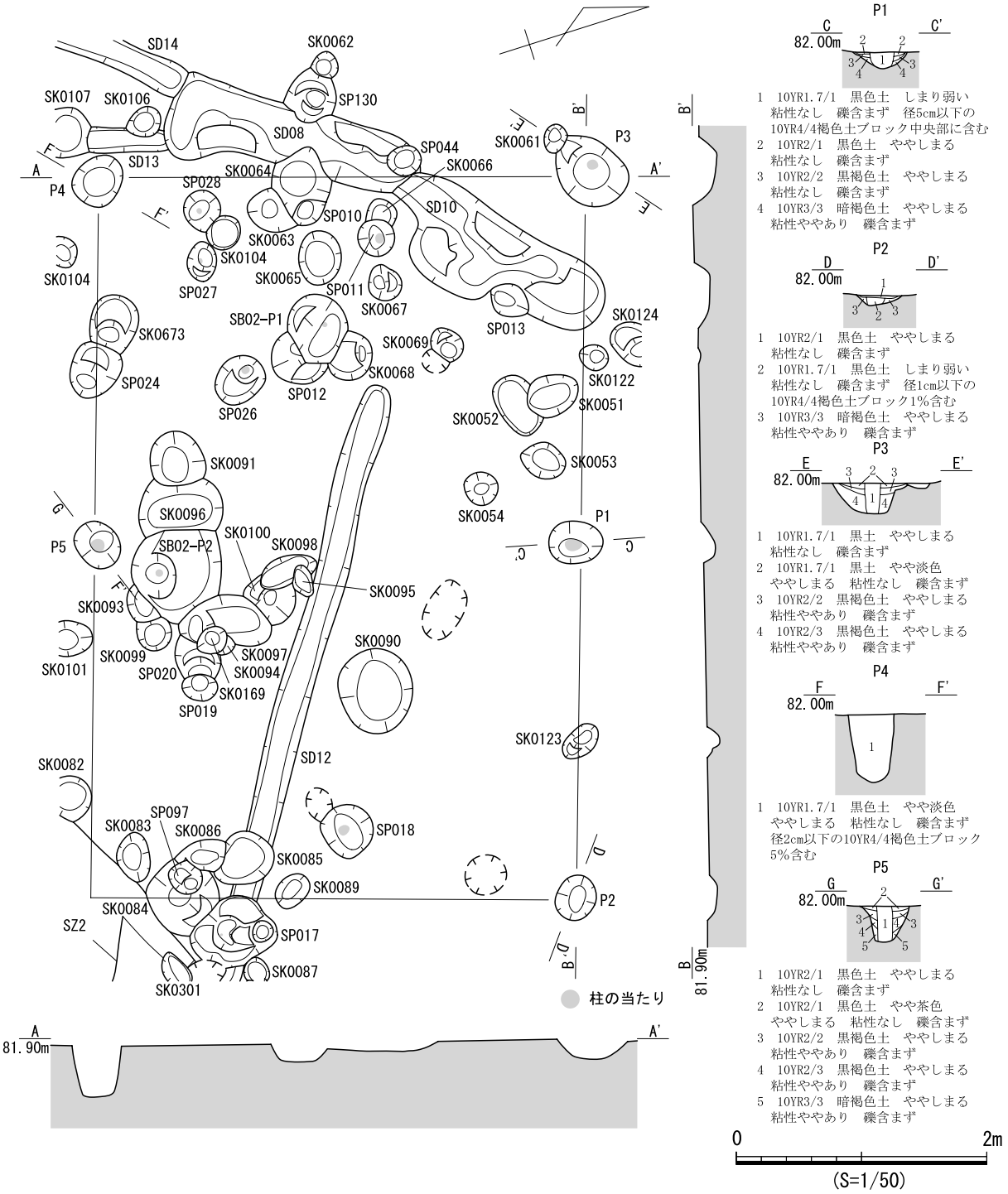
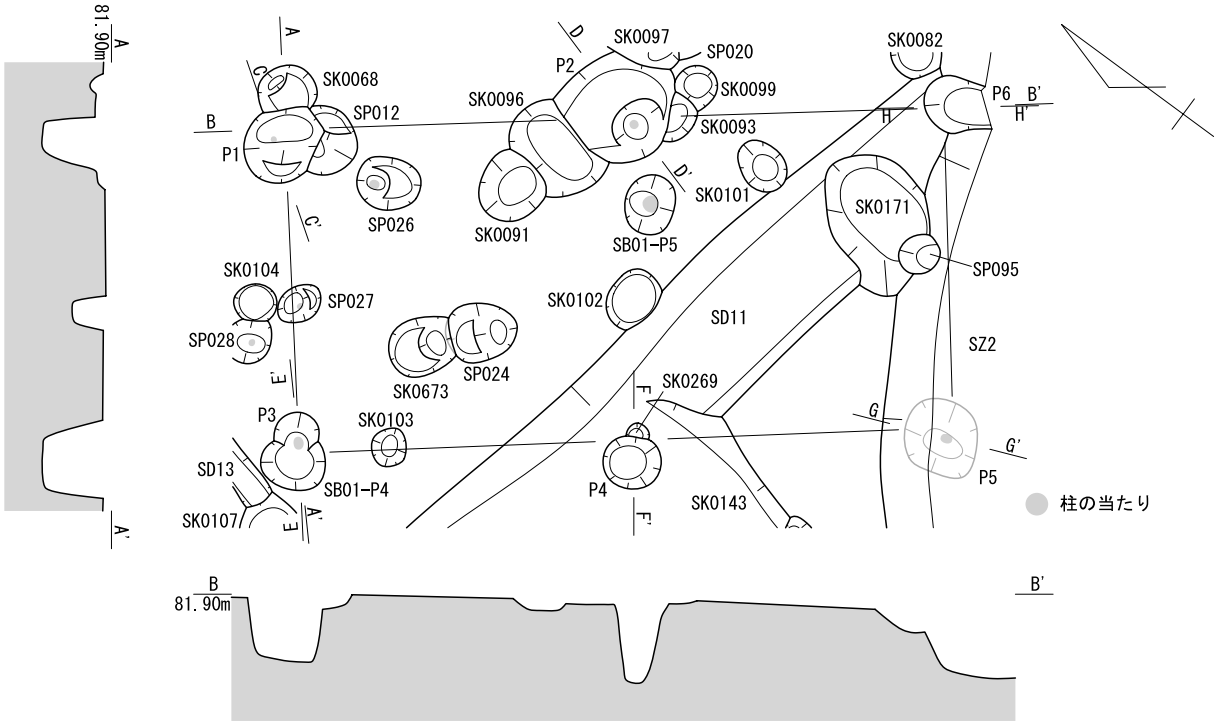


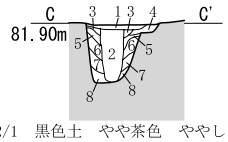

図161　SB01遺構図

がSB01-Ｐ６に切られることからSB02＜SB01と判断した。SB02-Ｐ５がSZ２周溝埋土中に存在していたことからSB02＞SZ２と判断した。SB02-Ｐ４をSD11の底面で検出したことからSB02＜SD11と判断した。平面形は長方形で、桁行２間（4.52m）×梁行１間（2.02m）、床面積9.13㎡を測る。桁行の主軸はＮ－50°－Ｗである。

**柱穴**　６基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径0.29～0.76m、深さ0.30～0.56mを測る。Ｐ１～

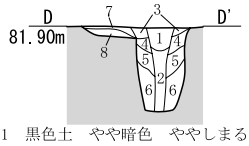



P1



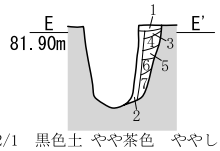

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず　10YR4/4褐色土ブロック3%含む
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　10YR4/4褐色土ブロック3%含む
7　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　10YR4/4褐色土ブロック15%含む
8　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　10YR4/4褐色土ブロック7%含む

P2



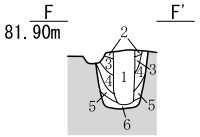

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土 やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
8　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　下部10YR4/4褐色土漸移層

P3



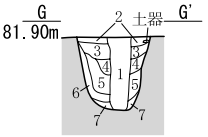

1　10YR2/1　黒色土 やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土 やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/2　黒褐色土 やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

P4



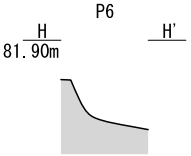

1　10YR2/1　黒色土 やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土 やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土 やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

P5




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや茶色　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土 やや茶色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

P6




＊土層図なし

0　2m
(S=1/50)

図162　SB02遺構図

Ｐ５で柱痕跡が、Ｐ１～Ｐ３、Ｐ５で柱の当たりが確認できる。柱径は0.06～0.13mと想定できる。Ｐ６はSZ２周溝掘削後、SZ２周溝壁でくぼみを確認したため土層断面図が欠落しているが、底部で柱の当たり状のやや硬化する部分が確認できる。柱間は、桁行がＰ１－Ｐ２で2.36m、Ｐ２－Ｐ６で2.16m、梁行がＰ１－Ｐ３で2.02mとなる。

**遺物出土状況**　Ｐ１上層から縄文土器２点、Ｐ２上層から時期不明土師器１点、下層から時期不明土師器１点、 Ｐ４上層から縄文土器１点、 Ｐ５上層から縄文土器１点、古墳前期土師器12点が出土した。

**出土遺物**　418 はＰ１出土の東海地方西部にみられない縄文土器深鉢である。口縁部に段をもちつつ波状になる。口縁端部上面に刺突を巡らせ方形区画状にする。口縁端部は内側につまみ出して肥厚させる。419 はＰ５出土のⅢ期器台である。口縁端部下方向へつまみだしつつ外面に面を持たせ、沈線が１条巡る。脚部は外反し、端部でやや跳ね上げつつつまみ上げる。透孔は１段４方向に見られる。外面と内面受部はタテミガキを施し、脚部外面はヨコナデ調整する。

**時期**　SZ２、SB01、SD11との重複関係と出土遺物から、東野Ⅳ～Ⅶ期と判断した。

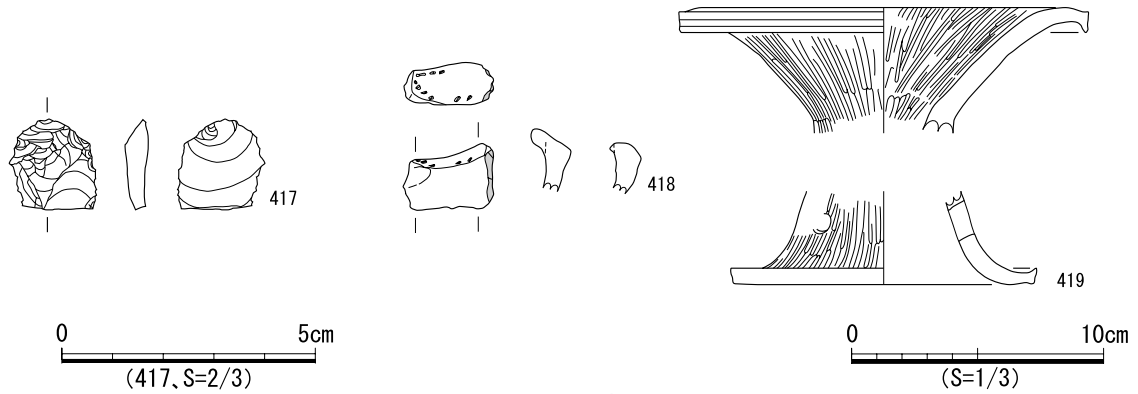



図163　SB01・SB02出土遺物

SB03（図164・165）

**検出状況**　Ｃ地点JI18～JK19グリッドで検出した掘立柱建物である。Ⅲ層上面で検出した。Ｐ14がSZ３周溝上端を切ることからSB03＞SZ３と判断した。桁行５間（9.82m）×梁行２間（4.64m）、床面積45.56㎡を測る。桁行の主軸はＮ－３°－Ｅである。

**柱穴**　14基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径0.32～0.59m、深さ0.06～0.45mを測る。Ｐ01～Ｐ11で柱痕跡が、Ｐ03、Ｐ06以外で柱の当たりが確認できる。柱径は0.06～0.13mと想定できる。柱間は、桁行がＰ14－Ｐ09で2.02m、Ｐ09－Ｐ10で1.92m、Ｐ10－Ｐ11で2.00m、Ｐ11－Ｐ08で1.88m、Ｐ08-Ｐ12で2.04m、梁行がＰ14－Ｐ02で2.32m、Ｐ02－Ｐ01で2.32mとなる。Ｐ02は北梁中間点に位置するが、対応するＰ13は南梁中間点から0.12m西へずれる。

**遺物出土状況**　Ｐ01上・下層から礫２点、Ｐ03下層から弥生土器１点、上層から古墳前期土師器３点、Ｐ05上層から弥生土器２点・山茶碗２点、Ｐ06上層から時期不明土師器２点・須恵器２点、下層から時期不明土師器１点、Ｐ10上層から古墳前期土師器１点・時期不明土師器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。

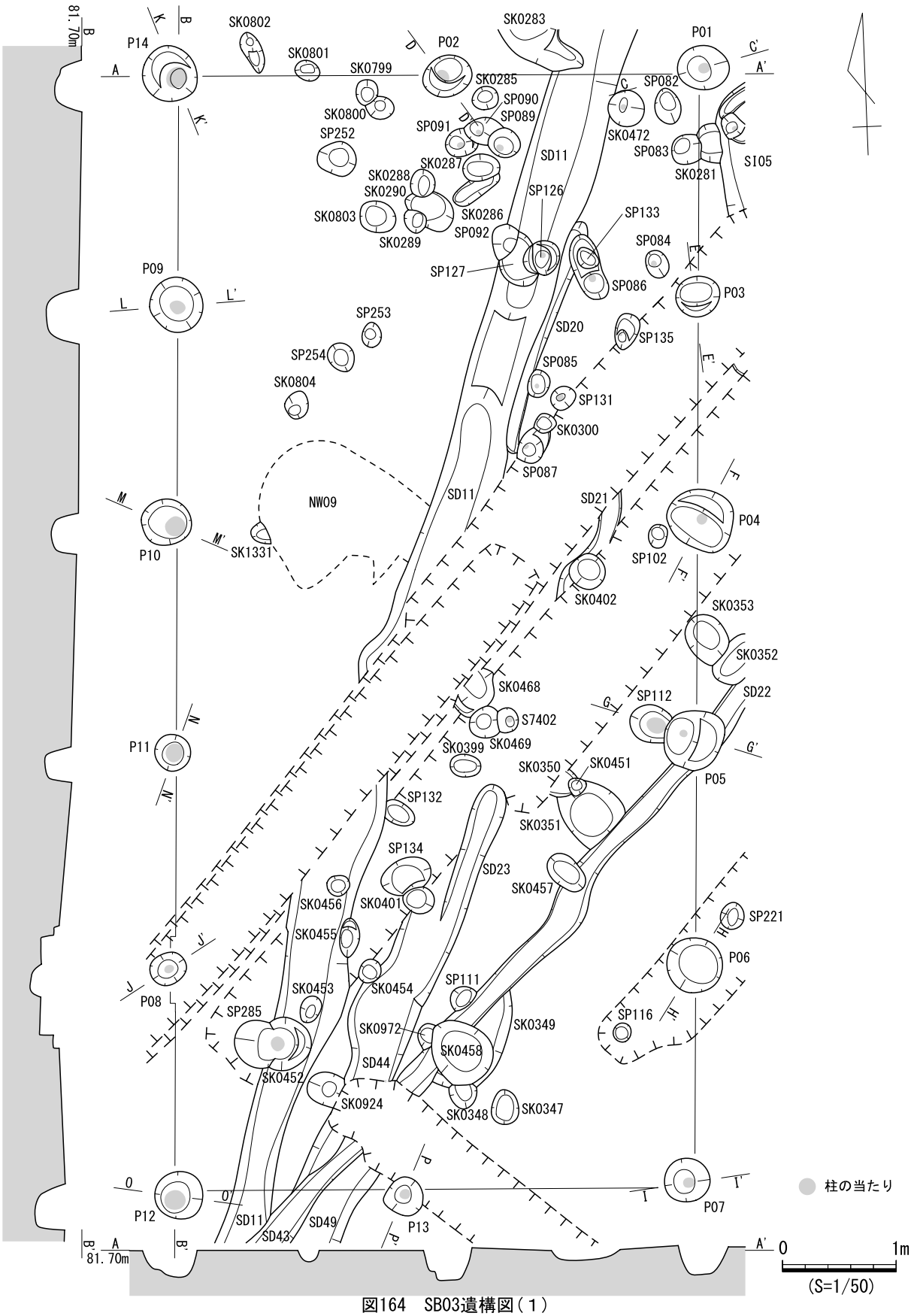



図164　SB03遺構図（１）

P01
1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

P02
1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　下部10YR4/4褐色土漸移層

P03
1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
　10YR4/4褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　固くしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/1黒色土ブロック5%含む

P04
1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径3cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
　10YR2/1黒色土ブロック3%含む

P05
1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　しまり弱い　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　しまりなし
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　しまりなし
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
　10YR4/4褐色土ブロック10%含む
7　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
　10YR4/4褐色土ブロック7%含む
8　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

P06
1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR1.7/1黒色土ブロック3%含む
　下部固くしまる
3　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR1.7/1黒色土ブロック5%含む
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず

P07
1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

P08
1　10YR2/2　黒褐色土　やや茶色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR4/4褐色土ブロック
　3%含む（撹乱埋土）
2　10YR3/3　暗褐色土　しまる
　粘性ややあり　礫含まず 径1cm以下の
　10YR2/1黒色土ブロック1%含む
　下部固くしまる
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

P09
1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
4　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

P10
1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　しまりなし
　粘性なし　礫含まず
　褐色土ブロック10%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　しまりなし
　粘性なし　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む

P11
1　10YR3/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　黒褐色土ブロック40%含む
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

P12
1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりなし
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　しまりなし
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック10%含む
5　10YR3/1　黒褐色土　しまりなし
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック40%含む

P13
1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/1　黒褐色土　しまりなし
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック10%含む

P14
1　10YR3/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック20%含む
4　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

図165　SB03遺構図（２）

**時期**　SZ３上端にかかることからⅢ期以降となる。SD11 が建物内部を縦断することからⅦ期以前となる。SZ３は当遺跡におけるⅢ期終末期であり、SB03 がⅢ期と仮定すると、SZ３と併存していると考えられる。この場合、SZ３周溝の一部を壊して建物を造ることになり、考えにくい。また、柱穴からの出土遺物は比較的Ⅳ期の土器が多い。よって、東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。

SB05（図 166・167）

**検出状況**　Ｃ地点 JK16～JM18 グリッドで検出した掘立柱建物である。Ⅲ層上面で検出した。SD39、SD43、SD45 に切られる。桁行４間（6.92m）×梁行３間（4.50m）、床面積 31.14 ㎡を測る。桁行の主軸は、Ｎ－35°－Ｅである。

**柱穴**　15 基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.30～0.61m、深さ 0.20～0.54mを測る。Ｐ02、Ｐ03、Ｐ04、Ｐ09、Ｐ10、Ｐ12、Ｐ15 で柱痕跡が、Ｐ03、Ｐ06、Ｐ15 で柱の当たりが確認できる。柱径は 0.06～0.18mと想定できる。柱間は、桁行が、東辺でＰ03－Ｐ14 で 1.66m、Ｐ14－Ｐ10 で 1.18m、Ｐ10－Ｐ15 で 1.63m、Ｐ15－Ｐ04 で 1.04m、Ｐ04－Ｐ05 で 1.41m、梁行が、Ｐ01－Ｐ02 で 1.44m、Ｐ02－Ｐ08 で 1.58m、Ｐ08－Ｐ03 で 1.48mである。東西辺で対応する柱穴がややずれる。Ｐ15 に対応する柱穴は撹乱坑によって消失した可能性が高いと考えられる。

**遺物出土状況**　Ｐ01 上層から古墳前期土師器１点、Ｐ02 下層から時期不明土師器１点、Ｐ04 上層から時期不明土師器２点、下層から時期不明土師器類４点、Ｐ05 上層から古墳前期土師器１点、Ｐ07 上層から弥生土器１点、下層から時期不明土師器２点、Ｐ09 上層から時期不明土師器類２点、Ｐ10 上層から弥生土器１点、古墳前期土師器３点、下層から弥生土器１点、Ｐ14 上層から時期不明土師器１点、Ｐ15 下層から時期不明土師器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器はⅢ期甕 D2 類が複数出土した。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片が出土した。

**時期**　時期が判断できた柱穴出土遺物は弥生土器・古墳前期土師器とⅣ期以前に収まる。また、前回調査で、同時期の大型掘立柱建物を確認している。よって東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。

SB06（図 168）

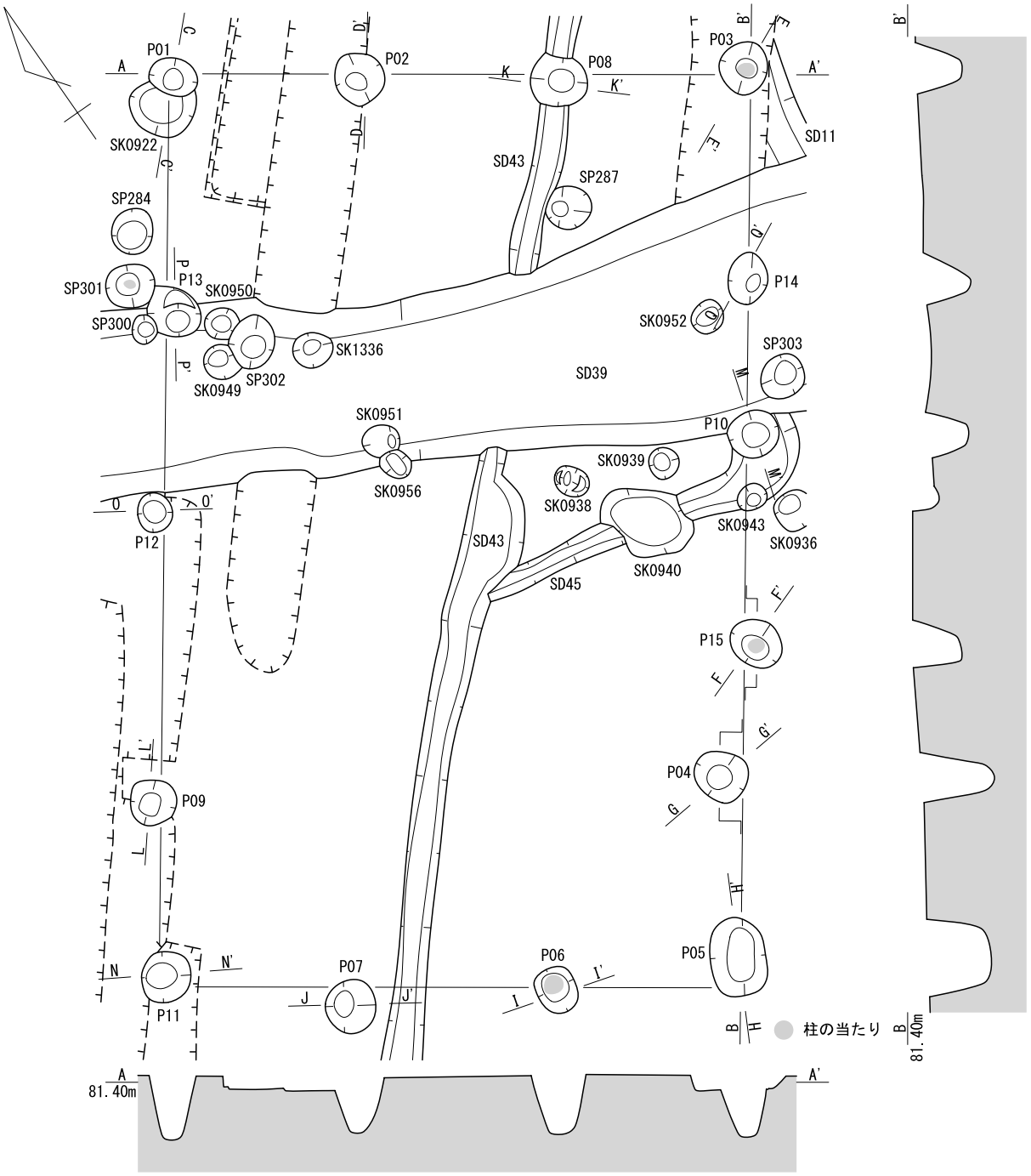
**検出状況**　Ｃ地点 KI２～KJ３グリッドで検出した掘立柱建物である。Ⅲ層上面で検出した。SB06-Ｐ8 が SI08 埋土を切ることから SB06＞SI08 と判断した。SD39 により南東隅と北東梁行中央の柱穴が消失していることから、SB06＜SD39 と判断した。平面形は北隅柱穴が北西方向にややずれる不整方形で、桁行３間（6.18m）×梁行２間（3.84m）、床面積 23.73 ㎡を測る。桁行の主軸はＮ－49°－Ｗである。

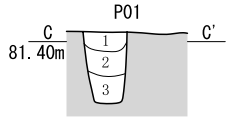
**柱穴**　８基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.25～0.43m、深さ 0.12～0.30mを測る。すべての柱穴で柱痕跡が、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ５、Ｐ６、Ｐ８で柱の当たりが確認できる。柱径は 0.06～0.12m と想定できる。柱間は、桁行がＰ６－Ｐ７で 1.64m、Ｐ７－Ｐ４で 1.94m、Ｐ４－Ｐ５で 2.60m、梁行がＰ５－Ｐ３で 1.88mである。

**遺物出土状況**　Ｐ６上層から古墳前期土師器類１点、Ｐ８上層から古墳前期土師器類１点、下層から弥生土器１点が出土した。

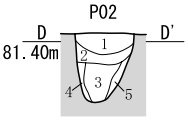
**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。古墳前期土師器は２点ともⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。

**時期**　SI08、SD39 との重複関係から東野Ⅲ～Ⅳ期に収まる。柱穴出土遺物は上層から古墳前期土師器、下層から弥生土器が出土している。よって、東野Ⅳ期の可能性が最も高いと判断した。

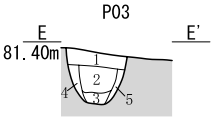



1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
2　2.5Y2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
褐色土粒1%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック10%含む
5　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
黒褐色土ブロック40%含む




1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック10%含む
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック30%含む

0　2m
(S=1/50)

図166　SB05遺構図（１）

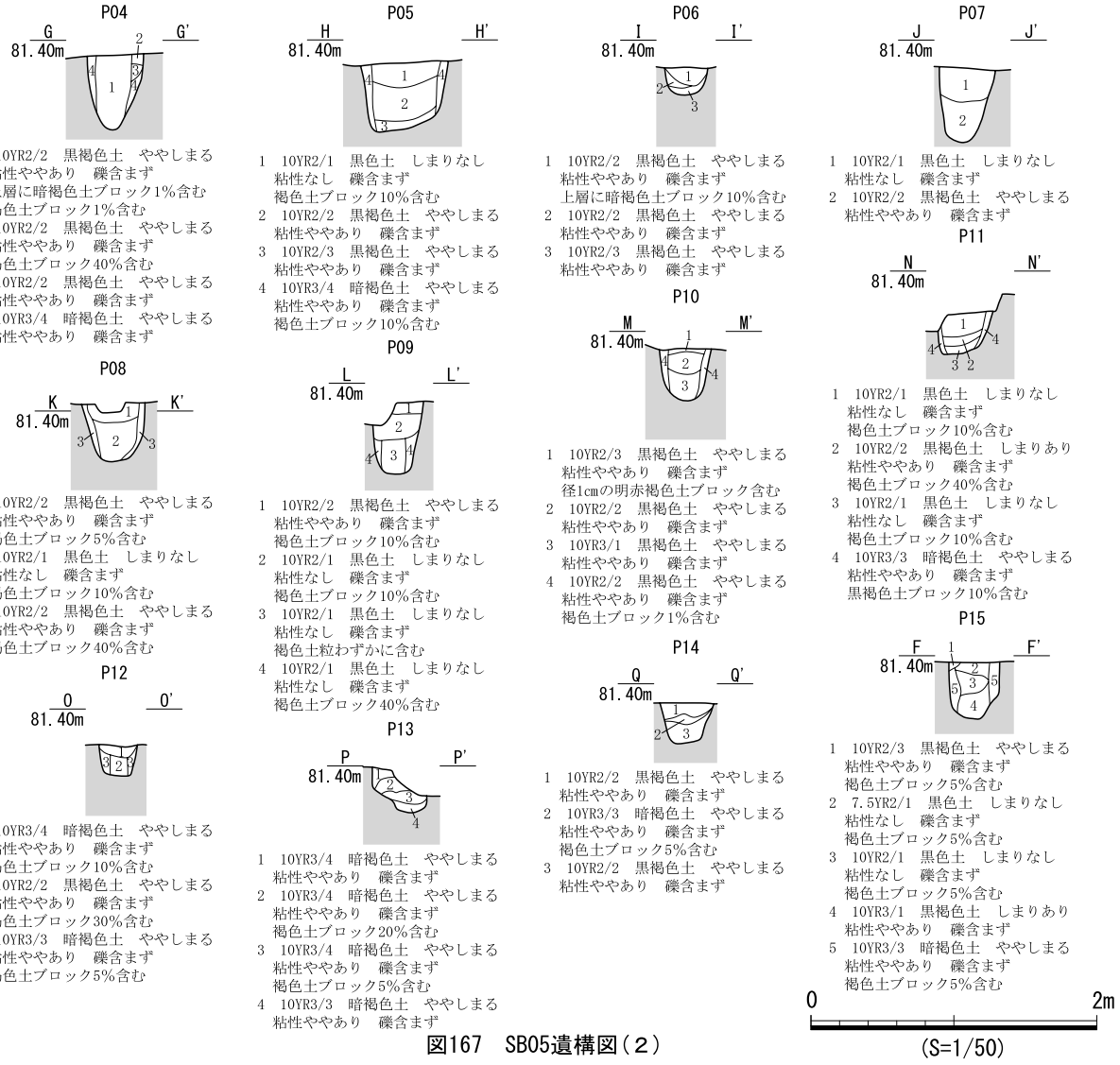


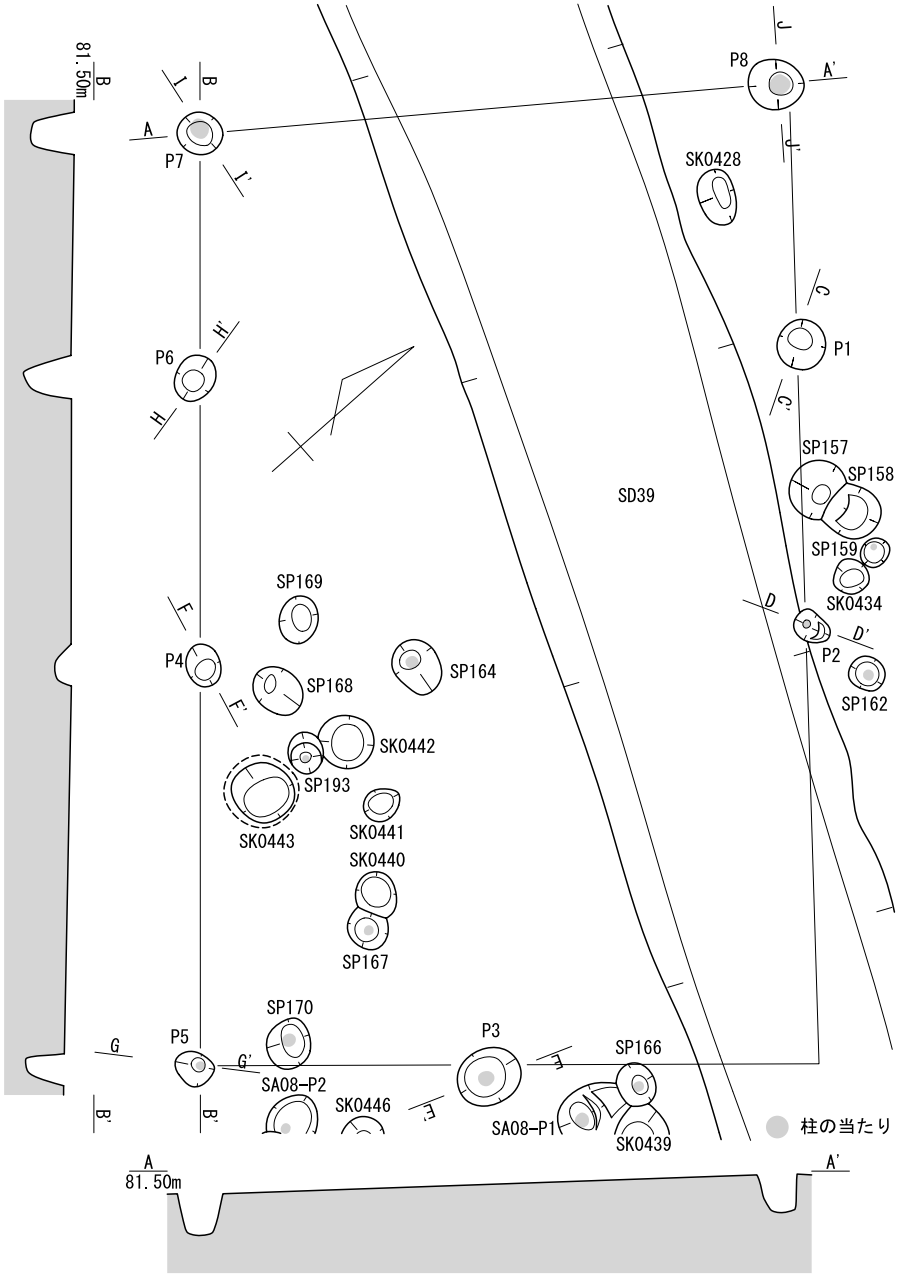

図167　SB05遺構図（２）

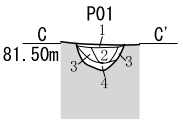
SB08（図 169・170）

**検出状況**　Ｃ地点 KJ５～KK６グリッドで検出した掘立柱建物である。SI35 床下で柱穴を確認したことから、SB08＜SI35 と判断した。SI36 埋土中で柱穴を確認したことから、SB08＞SI36 と判断した。東部が発掘区外へ延びることから、全体の規模は不明であるが、桁行３間以上（5.94m以上）×梁行２間（4.38m）、床面積 26.0 ㎡以上を測る。桁行の方向の軸はＮ－27°－Ｅである。

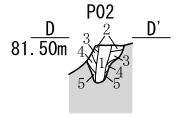
**柱穴**　８基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.35～0.74m、深さ 0.12～0.33mを測る。Ｐ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ４で柱痕跡が、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ４、Ｐ７で柱の当たりが確認できる。柱径は 0.09～0.21mと想定できる。柱間は、桁行がＰ５－Ｐ６で 1.96m、Ｐ６－Ｐ７で 2.06m、Ｐ７－Ｐ８で 1.92m、梁行がＰ１－Ｐ４で 2.06m、Ｐ４－Ｐ５で 2.32mとなる。

**遺物出土状況**　Ｐ１上層から縄文土器２点・時期不明土師器１点・石器類１点、下層から時期不明土師器２点、Ｐ２下層から時期不明土師器２点、Ｐ３上層から弥生土器１点、Ｐ７上層から古墳前期土師器１点、Ｐ８上層から古墳前期土師器２点、下層から時期不明土師器１点が出土した。

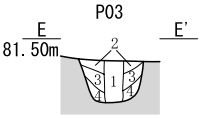


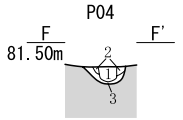

1　10YR1.7/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　4層との間に
　10YR3/4暗褐色土ブロック含む
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



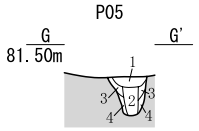

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



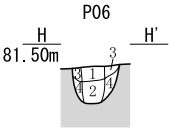

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



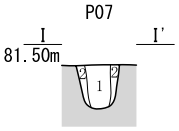

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　10%含む　下部固くしまる
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



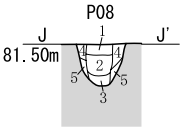

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　7.5YR2/2　黒褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず



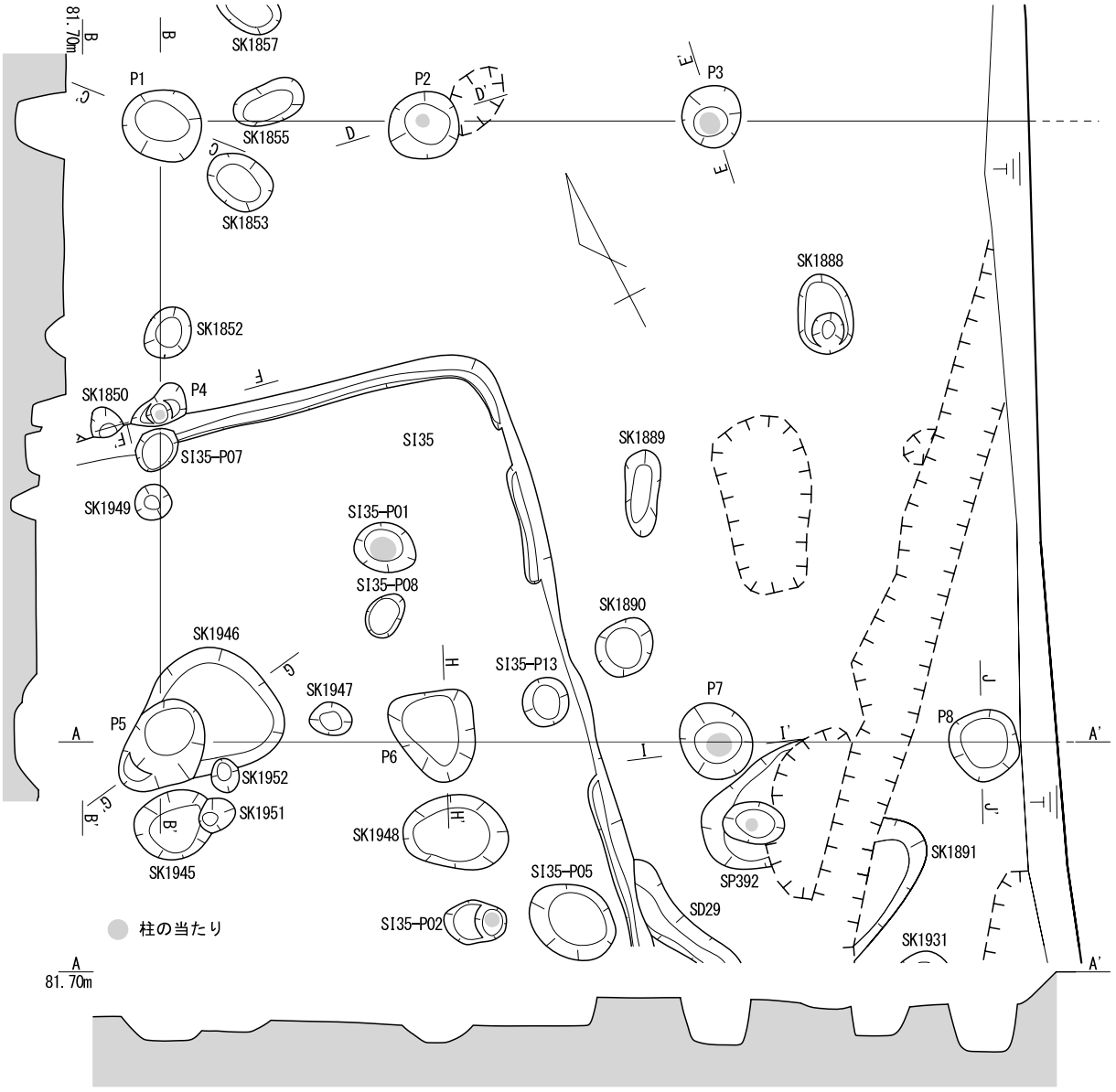

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
　粘性なし　礫含まず
　褐色土粒わずかに含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック10%含む

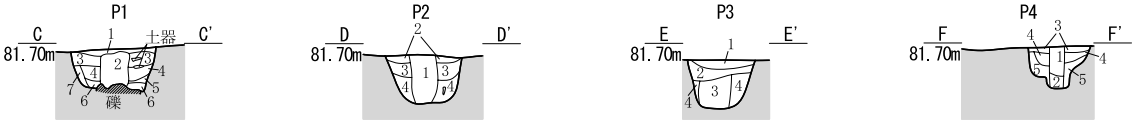



1　10YR2/1　黒色土　しまりなし
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック20%含む
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　褐色土ブロック5%含む

0　2m
(S=1/50)

図168　SB06遺構図




1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
4　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　5%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
7　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/1黒色土ブロック5%含む

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　径2cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　10%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　3%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む

1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　しまり弱い
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
　下部10YR3/4暗褐色土漸移層

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

0　2m
(S=1/50)

図169　SB08遺構図（１）

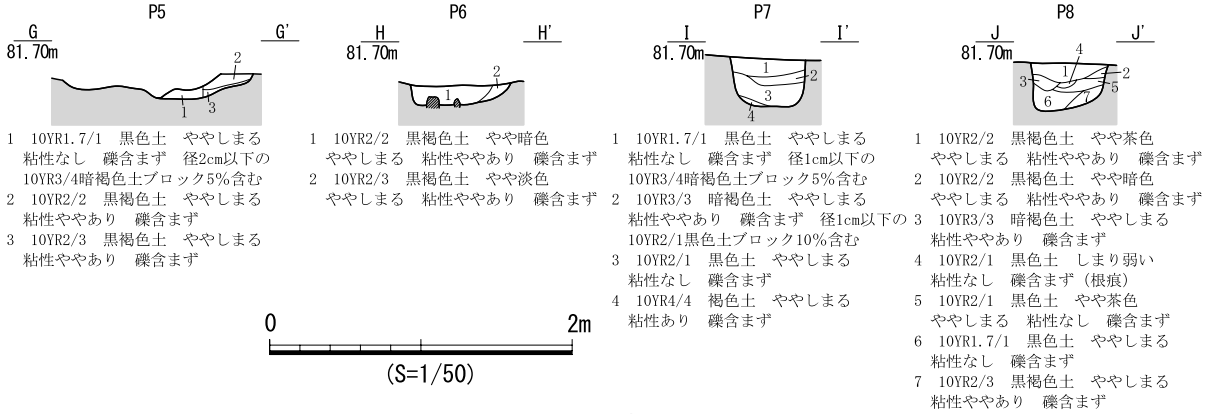



図170　SB08遺構図（２）

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器は条痕文をもつⅢ期甕 D2 類である。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片が出土している。

**時期**　SI35、SI36 との重複関係、柱穴出土遺物から東野Ⅳ期と判断した。

**SB09（図 171・172・181）**

**検出状況**　Ｃ地点 KK３～KM４グリッドで検出した掘立柱建物である。Ⅲ層上面で検出した。SD47 底面でＰ07 を確認したことから、SB09＜SD47 と判断した。SI37、SI38 埋土中で柱穴を確認したことから、SB09＞SI37・SI38 と判断した。平面形は長方形である。桁行６間（12.92m）×梁行２間（4.46m）、床面積 57.6 ㎡を測る。桁行の主軸はＮ－１°－Ｅである。

**柱穴**　14 基の柱穴を検出した。南桁行の棟持柱は確認できず、南東隅柱穴は撹乱坑によって消失した可能性が高いと考えられる。柱穴の規模は、直径 0.27～0.57m、深さ 0.08～0.52mを測る。すべての柱穴で明瞭な柱痕跡と柱の当たりが認められる。柱径は 0.10～0.17mと想定できる。柱間は、桁行がＰ01－Ｐ04 で 2.18m、Ｐ04－Ｐ05 で 2.12m、Ｐ05－Ｐ06 で 2.10m、Ｐ06－Ｐ07 で 2.16m、Ｐ07－Ｐ08 で 2.22m、Ｐ08－Ｐ09 で 2.14m、梁行がＰ01－Ｐ02 で 2.22m、Ｐ02－Ｐ03 で 2.24mとなる。Ｐ06 とＰ12 の間の SP406 は棟持柱筋を通り、桁行・梁行のほぼ中間点にあたることから、梁を支える柱穴の可能性が考えられる。

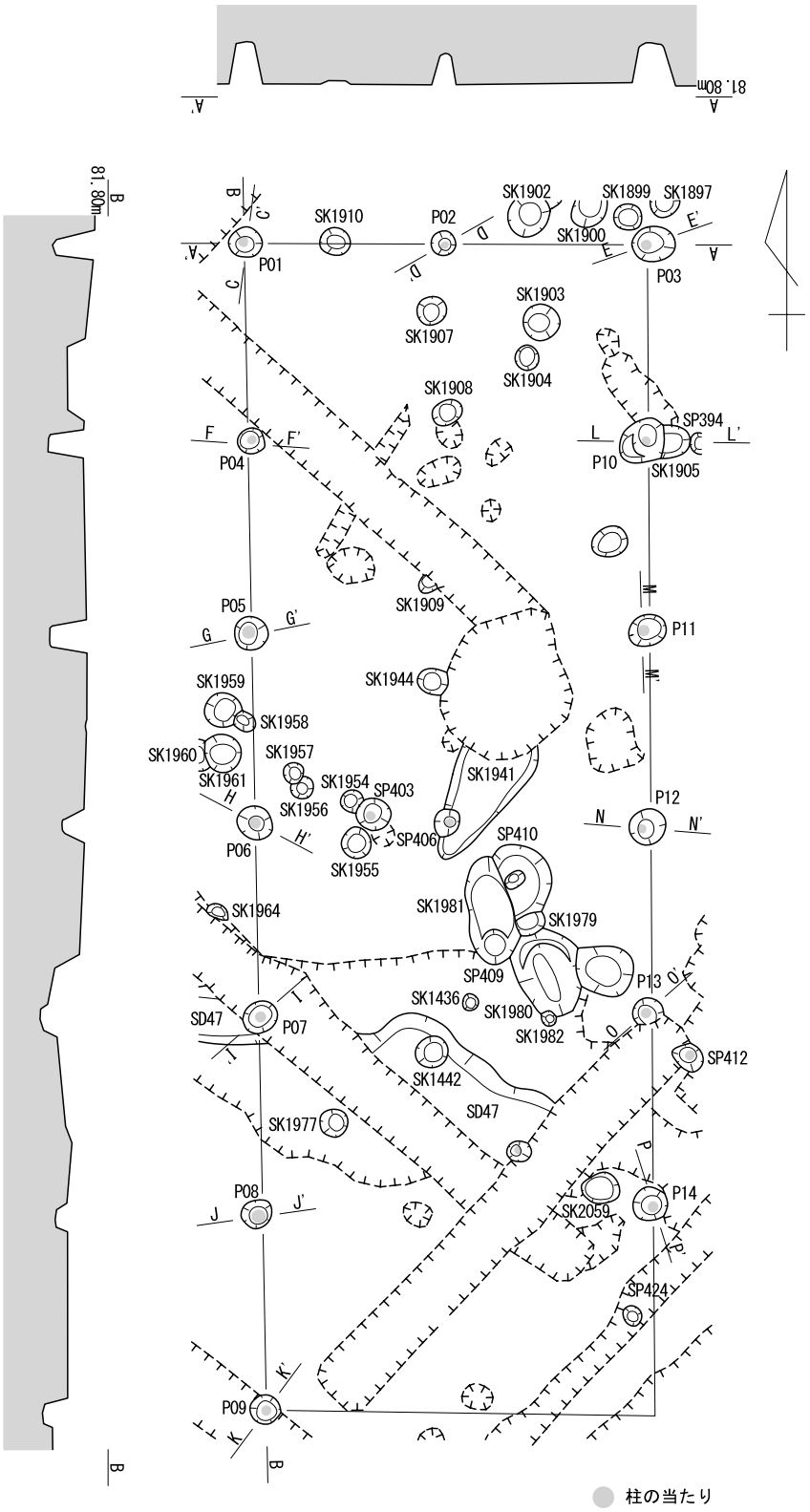
**遺物出土状況**　Ｐ03 上層から時期不明土師器類１点・灰釉陶器１点・山茶碗２点、下層から縄文土器１点、Ｐ02 上層から中世土師器２点・時期不明土師器類１点、下層から古墳前期土師器１点、Ｐ01 上層から古墳前期土師器類１点、Ｐ05 下層から時期不明土師器類１点、Ｐ04 上層から時期不明土師器類１点、Ｐ11 上層から時期不明土師器類１点、Ｐ13 上層から縄文土器１点、Ｐ06 上層から縄文土器１点、時期不明土師器類１点、Ｐ12 下層から古墳前期土師器１点、Ｐ06 上層から石器類１点が出土した。

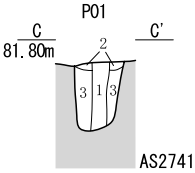
**出土遺物**　420 はＰ02 出土のⅦ期土師器皿である。外面はユビオサエ、内面はナデ調整する。

**時期**　SI37、SI38 との重複関係、柱穴出土遺物から東野Ⅳ期と判断した。

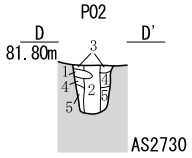
**SB10（図 173）**

**検出状況**　Ｃ地点 KK２～KL２グリッドで検出した掘立柱建物跡である。Ⅲ層上面で検出した。SI38、SI41 の床下で柱穴を確認したことから、SB10＜SI38・SI41 と判断した。北西隅柱穴は撹乱坑によって

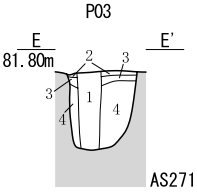


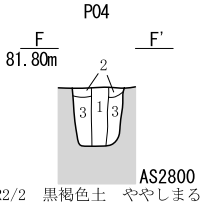

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　しまり弱い　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず




1　10YR4/4　褐色土　しまり弱い
　粘性あり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/2　黒褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック
　3%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック7%含む




1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
　下部しまり弱い
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

● 柱の当たり

0　4m
(S=1/80)

0　2m
(S=1/50)

図171　SB09遺構図（１）

図172　SB09遺構図（２）

消失したと考えられる。平面形は長方形である。桁行２間（4.62m）×梁行２間（4.32m）、床面積20.0㎡を測る。桁行の主軸はＮ－３°－Ｗである。

**柱穴**　７基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径0.36～0.54m、深さ0.20～0.37mを測る。すべての柱穴で柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は0.12～0.17mと想定できる。柱間は、桁行がＰ02－Ｐ04で2.20m、Ｐ04－Ｐ07で2.42m、梁行がＰ05－Ｐ06で2.18m、Ｐ06－Ｐ07で2.14mとなる。棟持柱間がＰ01－Ｐ06で5.10mとなる。

**遺物出土状況**　Ｐ３上層から弥生土器１点、下層から弥生土器１点、Ｐ４上層から石器類１点、Ｐ03上層から縄文土器１点、下層から古墳前期土師器１点、時期不明土師器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器は条痕文をもつⅢ期甕D2類である。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片が出土している。

**時期**　SI38、SI41との重複関係、柱穴出土遺物から東野Ⅳ期以前と判断した。

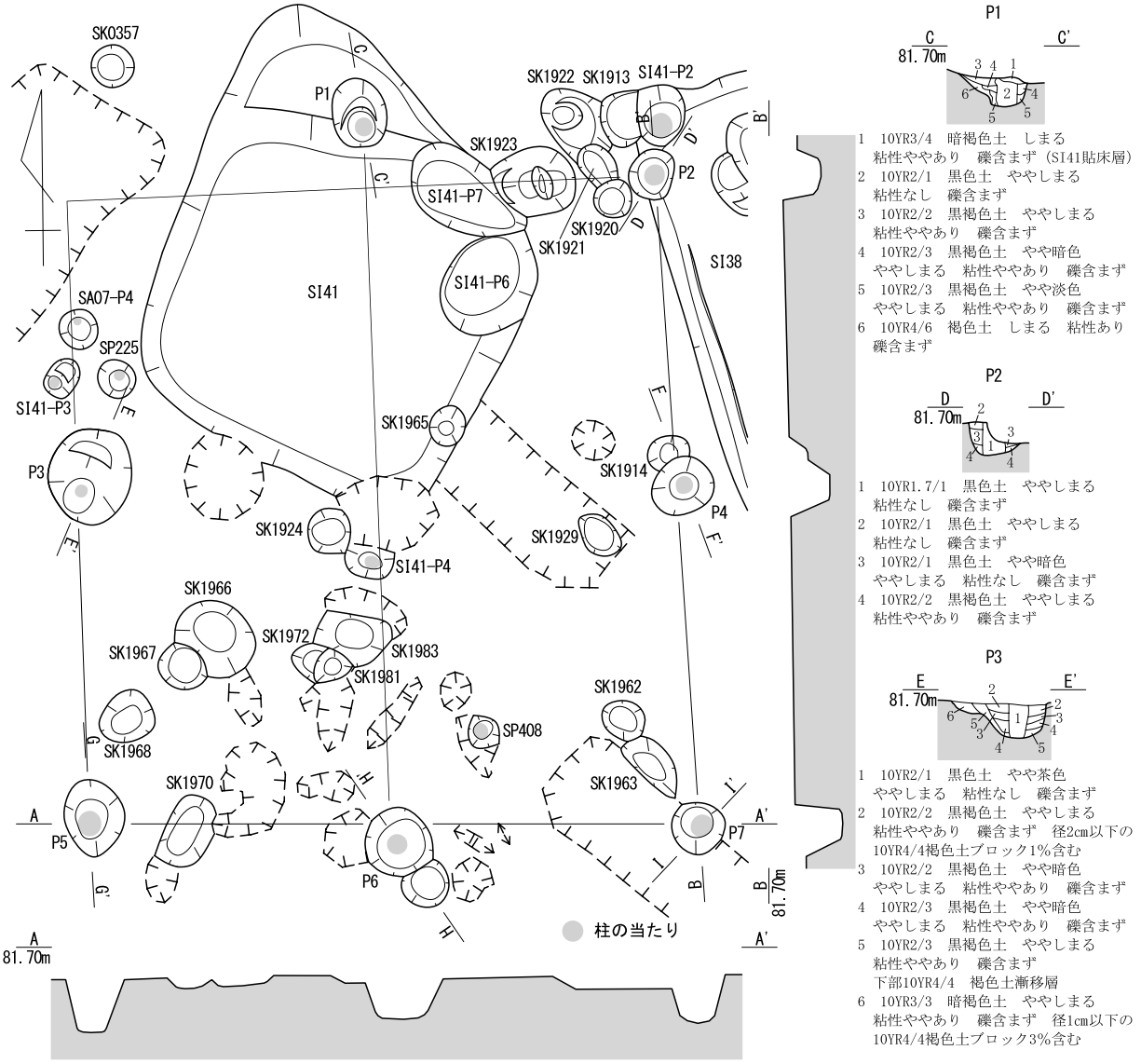



図173　SB10遺構図

### ３　柵

当該期に関連すると判断した柵は６列である。

SA01（図 174・181）

**検出状況**　Ｃ地点 JG20～JH20 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴がＬ字状に位置することから柵と判断した。SA01-Ｐ１が SD11 を切ることから、SA01＞SD11 と判断した。長辺の長さは 2.18m、短辺の長さは 1.66mを測る。柱間は、Ｐ２－Ｐ１で 1.0m、Ｐ１－Ｐ５で 1.18m、Ｐ５－Ｐ４で 0.88m、Ｐ４－Ｐ３で 0.78mである。長辺の軸はＮ－35°－Ｗである。

**柱穴**　５基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.24～0.68m、深さ 0.13～0.40mを測る。すべての柱穴で柱痕跡を確認し、柱径は 0.07～0.12mと想定できる。

**遺物出土状況**　Ｐ４下層から古墳前期土師器類１点、Ｐ５上層から弥生土器１点、時期不明土師器２点が出土した。

**出土遺物**　421 はＰ５出土のⅢ期甕 D2 類である。内面はナデ、外面はハケ調整する。二次被熱により赤色化する。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。

**時期**　SD11 との重複関係と柱穴出土遺物から、東野Ⅲ～Ⅳ期と判断した。

SA04（図 175・181）

**検出状況**　Ｃ地点 KJ２グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴が直線上に位置することから柵と判断した。Ｐ１とＰ２は SZ２完掘後に検出したが、Ｐ３が SZ２を切ることから SA04＞SZ2 と判断した。３基とも SD17 底や肩で検出したことから SA04＜SD17 となる。長さは 2.40mを測る。柱間はＰ１－Ｐ２で 0.82m、Ｐ２－Ｐ３で 1.58mである。主軸はＮ－33°－Ｗである。

**柱穴**　３基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.27～0.38m、深さ 0.21～0.22mを測る。すべての柱穴で柱痕跡を確認し、柱径は 0.08～0.12mと想定できる。

**遺物出土状況**　Ｐ１上層から時期不明土師器４点・須恵器１点、Ｐ３上層から弥生土器１点、古墳前期土師器１点が出土した。須恵器（422）は柱痕跡から出土している。

**出土遺物**　422 はＰ１出土の須恵器脚付壺の裾部である。内外面は回転ナデ調整する。内面に段をもち、開きつつ端部で立つ。外面に突帯状のふくらみがある。

**時期**　SZ2、SD17 との重複関係、柱穴出土遺物から東野Ⅳ期以降と判断した。

SA05（図 176）

**検出状況**　Ｃ地点 JK20 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴が直線上に位置することから柵と判断した。Ｐ1 は SI06 を、Ｐ2 は SI07 を切ることから、SA05＞SI06、SI07 と判断した。長さは 2.40mを測る。柱間は、Ｐ１－Ｐ３で 1.72m、Ｐ３－Ｐ４で 1.58m、Ｐ４－Ｐ２で 0.60mである。主軸はＮ－18°－Ｅである。

**柱穴**　４基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.30～0.56m、深さ 0.08～0.40mを測る。すべての柱穴で柱痕跡を確認し、柱径は 0.09～0.10mと想定できる。

**遺物出土状況**　Ｐ１上層から時期不明土師器４点、古墳前期土師器１点、下層から自然礫１点、Ｐ５下層から弥生土器１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器は条痕文をもつⅢ期甕 D2 類である。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。

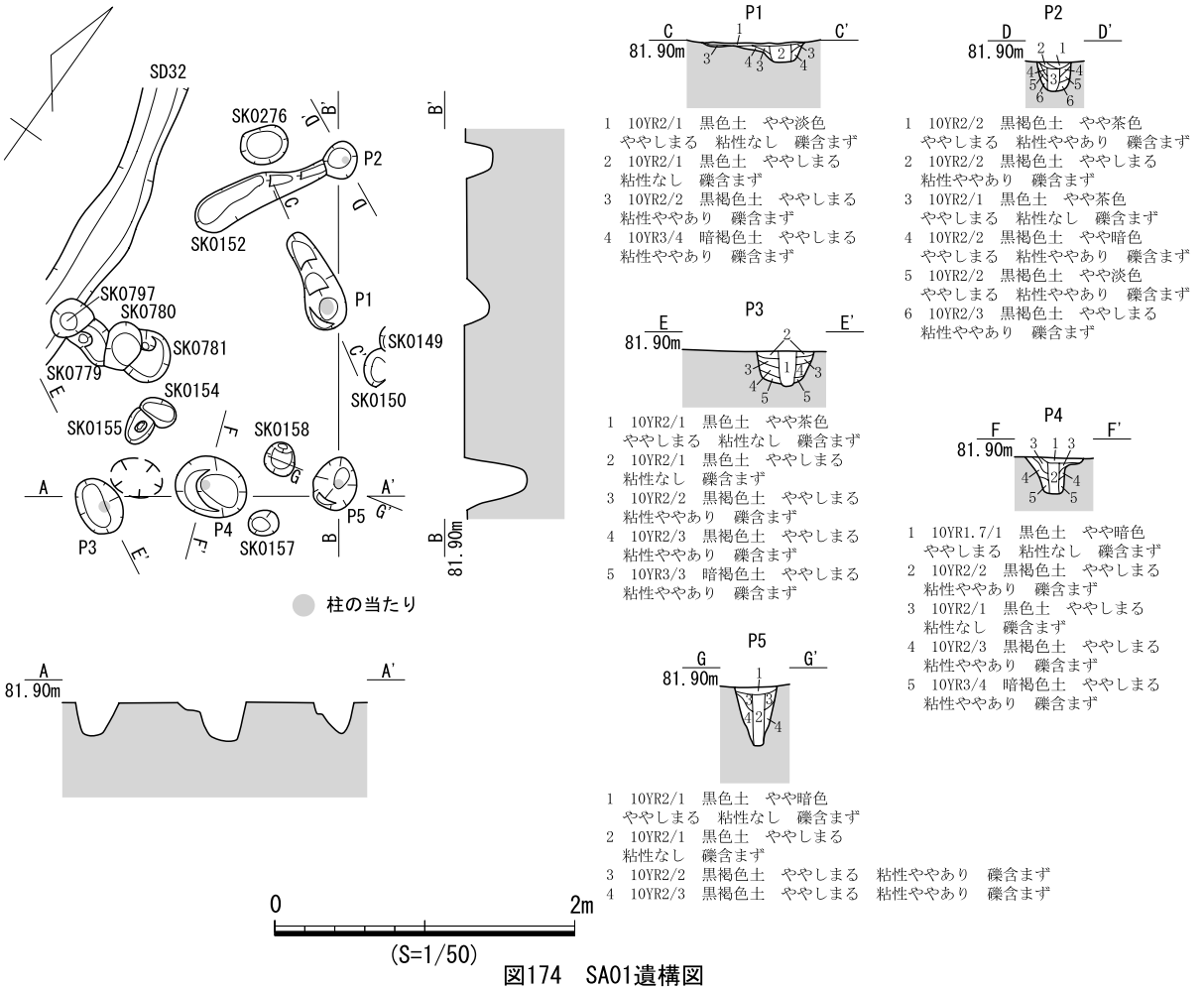



図174　SA01遺構図

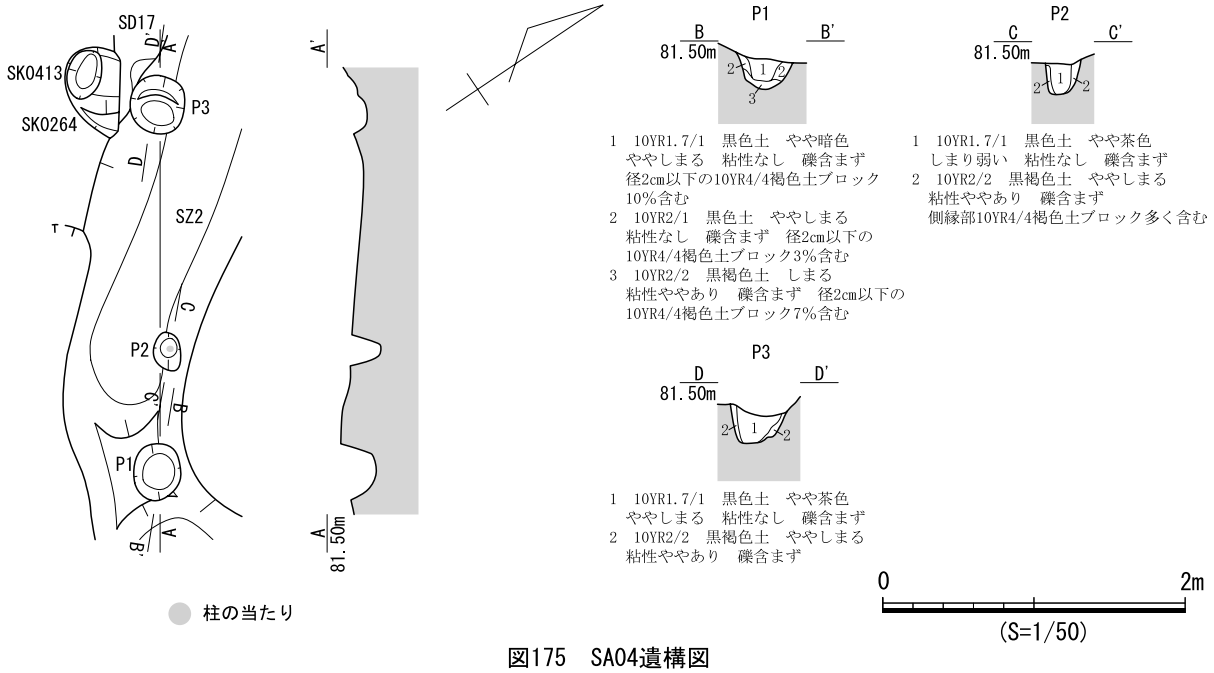



図175　SA04遺構図

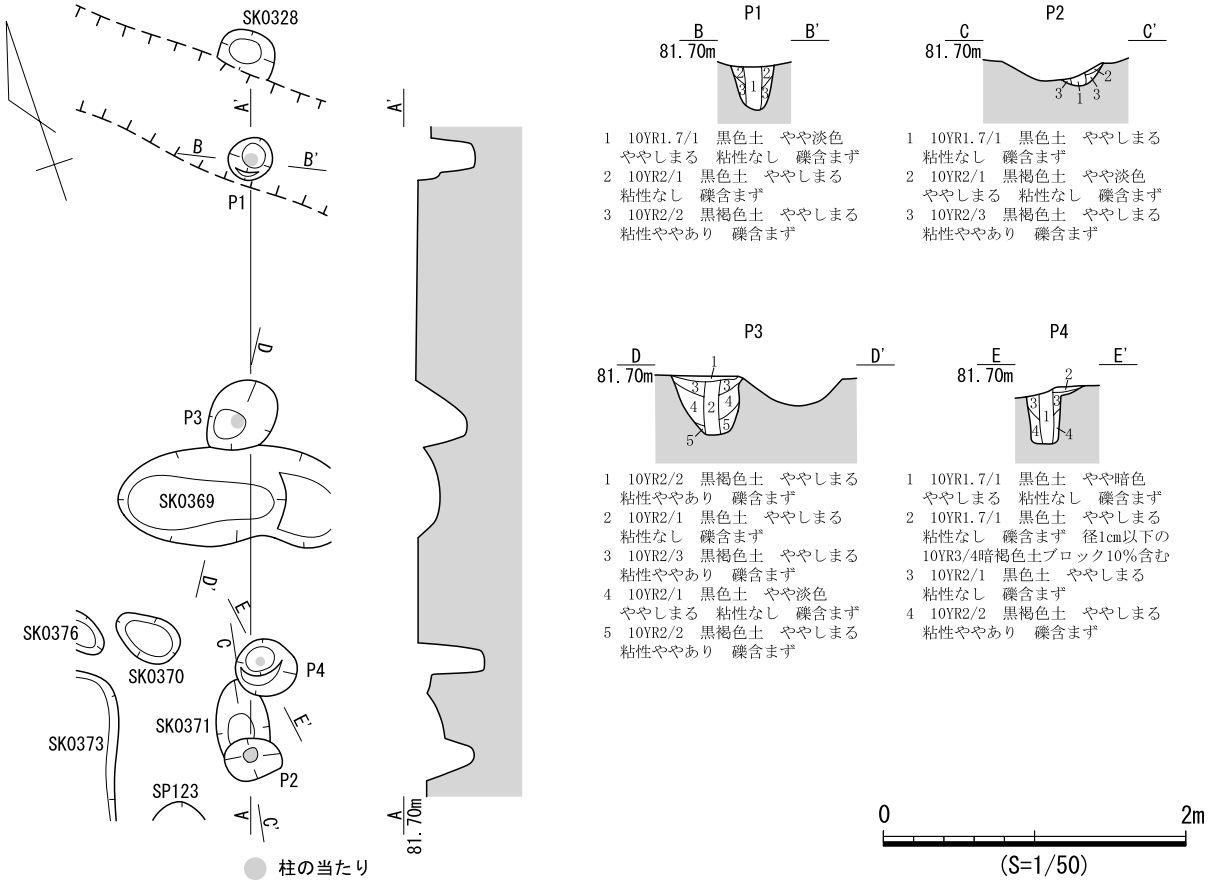



図176　SA05遺構図

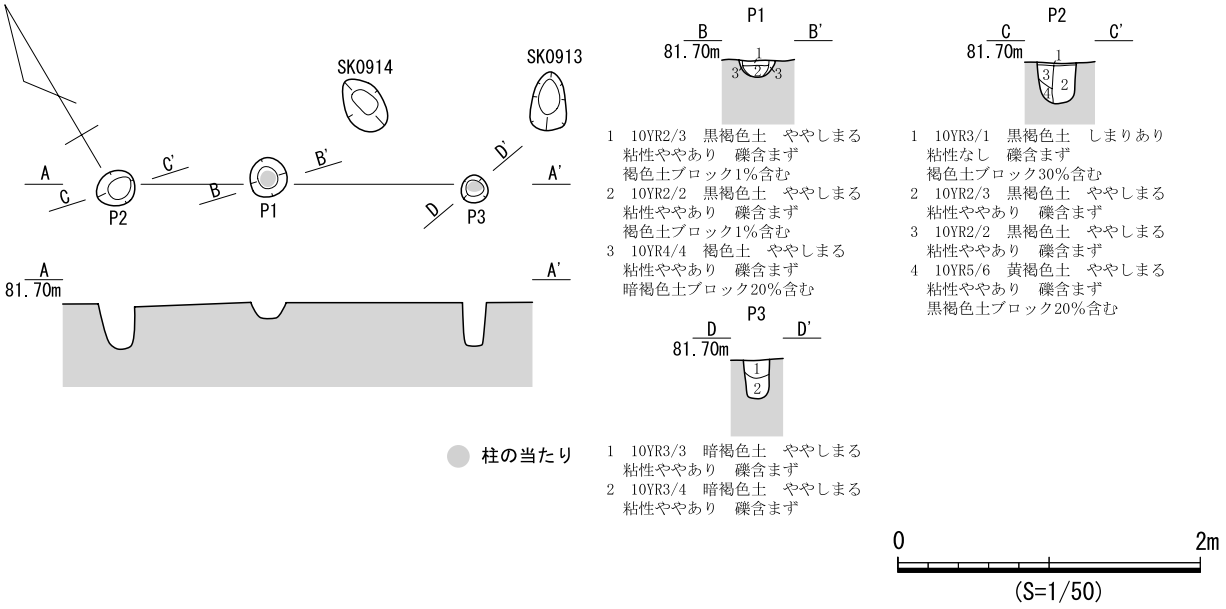



図177　SA12遺構図

**時期**　SI07 との重複関係から東野Ⅳ期以降と判断した。

SA12（図 177）

**検出状況**　Ｃ地点 JJ17～18 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴が直線上に位置することから柵と判断した。長さは 2.34ｍを測る。柱間は、Ｐ２－Ｐ１で 1.00ｍ、Ｐ１－Ｐ３で 1.34ｍである。主軸は、Ｎ－60°－Ｗである。

**柱穴**　３基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.19～0.27ｍ、深さ 0.11～0.27ｍを測る。Ｐ４、Ｐ７底面で柱の当たりを確認した。

**出土遺物**　柱穴からは遺物は出土しなかった。

**時期**　SI20 を切ることから、東野Ⅳ期以降と判断した。

SA13（図 178）

**検出状況**　Ｃ地点 KD３・４グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴が直線状に位置することから柵と判断した。長さは 4.82ｍを測り、柱間はＰ２－Ｐ１で 1.46ｍ、Ｐ１－Ｐ４で 1.68ｍ、Ｐ４－Ｐ３で 1.68ｍである。長辺の方位はＮ－85°－Ｗである。

**柱穴**　４基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.29～0.38ｍ、深さ 0.27～0.38ｍを測る。Ｐ４で柱痕跡を確認し、柱径は 0.16ｍと想定できる。

**遺物出土状況**　Ｐ３上層から古墳前期土師器２点・時期不明土師器１点、Ｐ４上層から時期不明土師器類３点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。

**時期**　出土遺物から、東野Ⅳ期以降の可能性が最も高いと判断した。

SA18（図 179）

**検出状況**　Ｃ地点 KM１～KN１グリッド、Ⅲ層上面及び撹乱坑底で検出した。柱穴が直線上に位置することから柵と判断した。SD39 を切る。長さは 3.88ｍを測る。柱間は、Ｐ１－Ｐ２で 1.82ｍ、Ｐ２－Ｐ３で 2.06ｍである。主軸はＮ－31°－Ｅである。

**柱穴**　３基の柱穴を検出した。柱穴の規模は、直径 0.19～0.33ｍ、深さ 0.15～0.26ｍを測る。すべての柱穴で明瞭な柱痕跡と柱の当たりが確認できる。柱径は 0.08～0.13ｍと想定できる。

**出土遺物**　柱穴から遺物は出土しなかった。

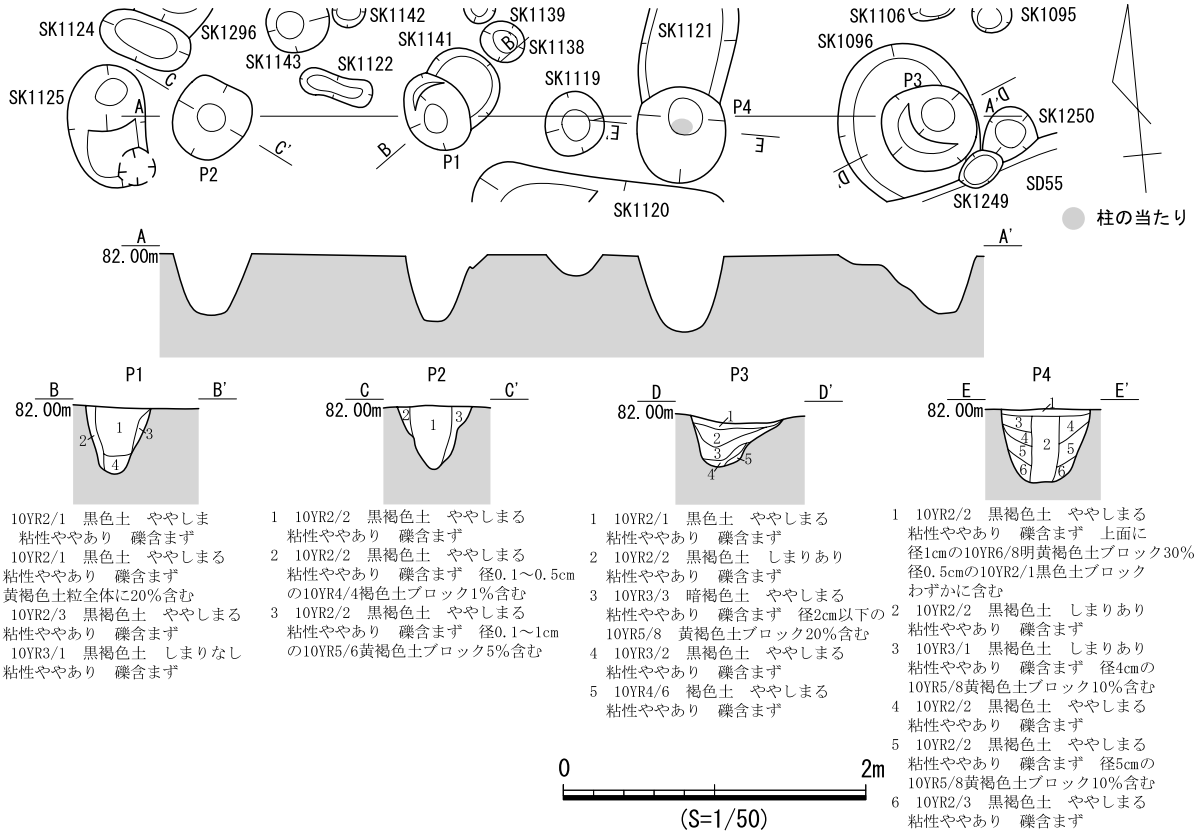
**時期**　SD39 との重複関係から、東野Ⅳ期以前と判断した。

## ４　溝状遺構（図 180～184）

当該期に関連すると判断した溝状遺構は８条である。通水の痕跡はない。８条ともにⅣ期に属する遺構との重複関係や出土遺物によって、Ⅳ期に関連する溝状遺構と判断した。以下、特徴的な溝状遺構について記述する。

SD39・48（図 180～183）（BS0376-AS3185,AS2990）

**検出状況**　JJ14～KK５グリッドで検出した直線状の溝状遺構である。Ⅲ層上面で検出した。KM１・２グリッドで一端収束するため、収束部西側を SD39、東側を SD48 とした。SD39 西端と SD48 東端は発掘区外へ延びる。SI08、SI40、SB05、SB06 を切り、SD11、SA18 に切られる。SD39 は、全長 39.8ｍ、最大幅 1.66ｍ、深さ 0.27ｍを測る。SD48 は、全長 16.9ｍ、最大幅 1.78ｍ、深さ 0.27ｍを測る。軸の方



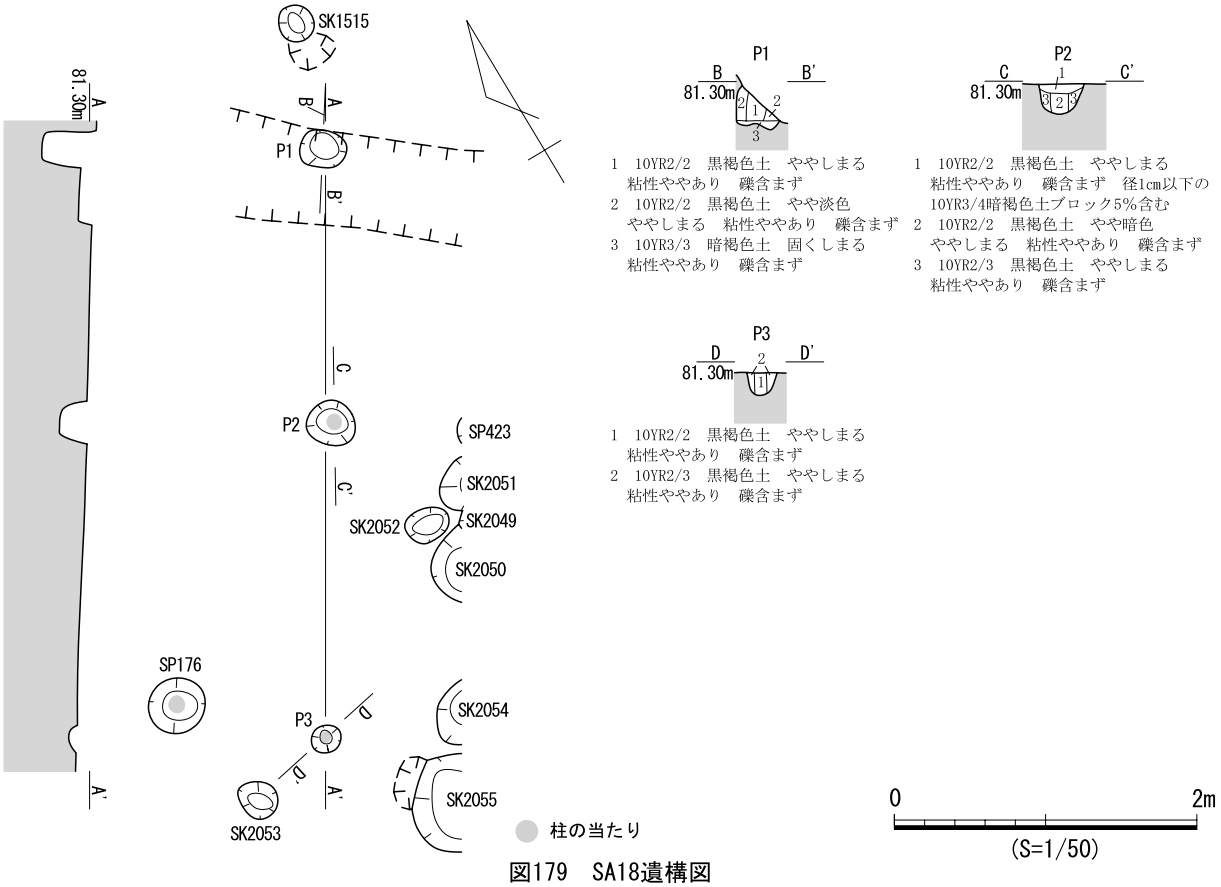

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土粒全体に20%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/1　黒褐色土　しまりなし　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.1～0.5cmの10YR4/4褐色土ブロック1%含む
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径0.1～1cmの10YR5/6黄褐色土ブロック5%含む

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の10YR5/8　黄褐色土ブロック20%含む
4　10YR3/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　上面に径1cmの10YR6/8明黄褐色土ブロック30%　径0.5cmの10YR2/1黒色土ブロックわずかに含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/1　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず　径4cmの10YR5/8黄褐色土ブロック10%含む
4　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径5cmの10YR5/8黄褐色土ブロック10%含む
6　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

図178　SA13遺構図

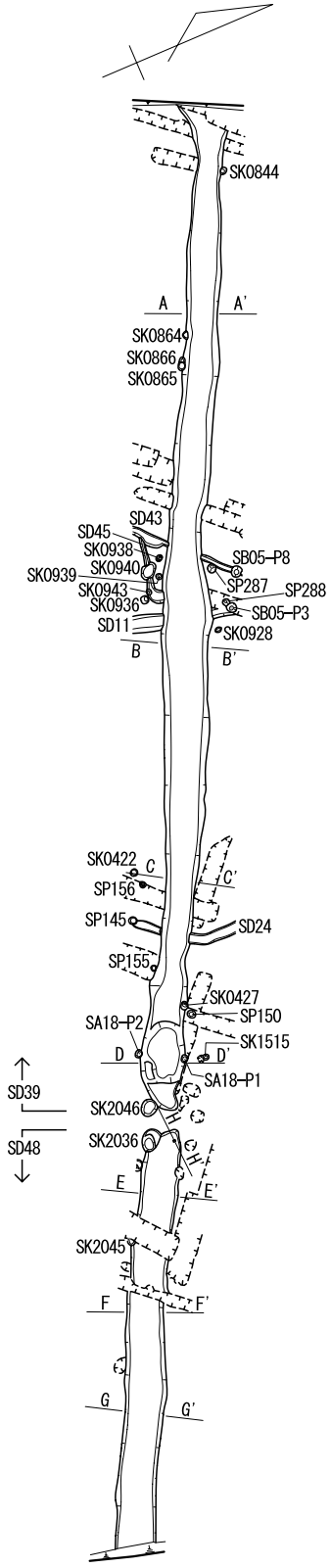


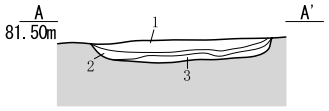

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　固くしまる　粘性ややあり　礫含まず

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

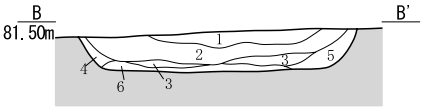
1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず

図179　SA18遺構図

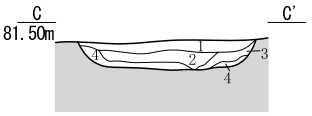


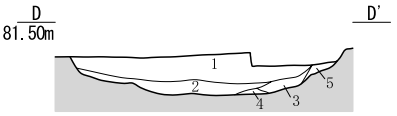

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック10%含む
3　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック40%含む



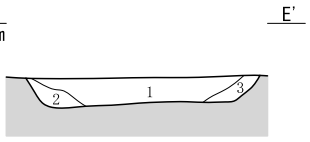

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック5%含む
4　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
5　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR5/6　黄褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土ブロック5%含む



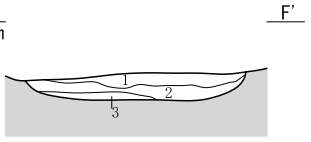

1　10YR2/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　褐色土ブロック1%含む
4　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土ブロック5%含む



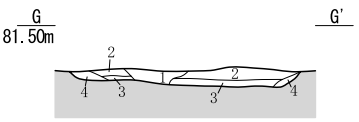

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色　ややしまる　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/1黒色土ブロック10%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む
4　10YR4/6　褐色土　しまる　粘性あり　礫含まず
5　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR4/6褐色土ブロック5%含む　炭化物極少量混じる

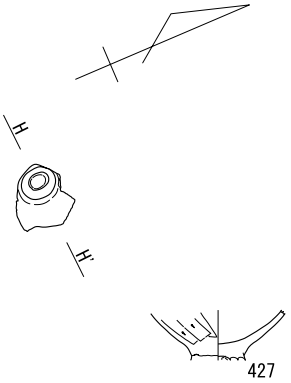



1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/4　褐色土　ややしまる　粘性あり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック7%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR2/2黒褐色土ブロック10%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の10YR3/4暗褐色土ブロック10%含む

遺物出土状況




0　10m　(S=1/300)　　0　2m　(S=1/50)　　0　1m　(S=1/20)

図180　SD39・SD48遺構図

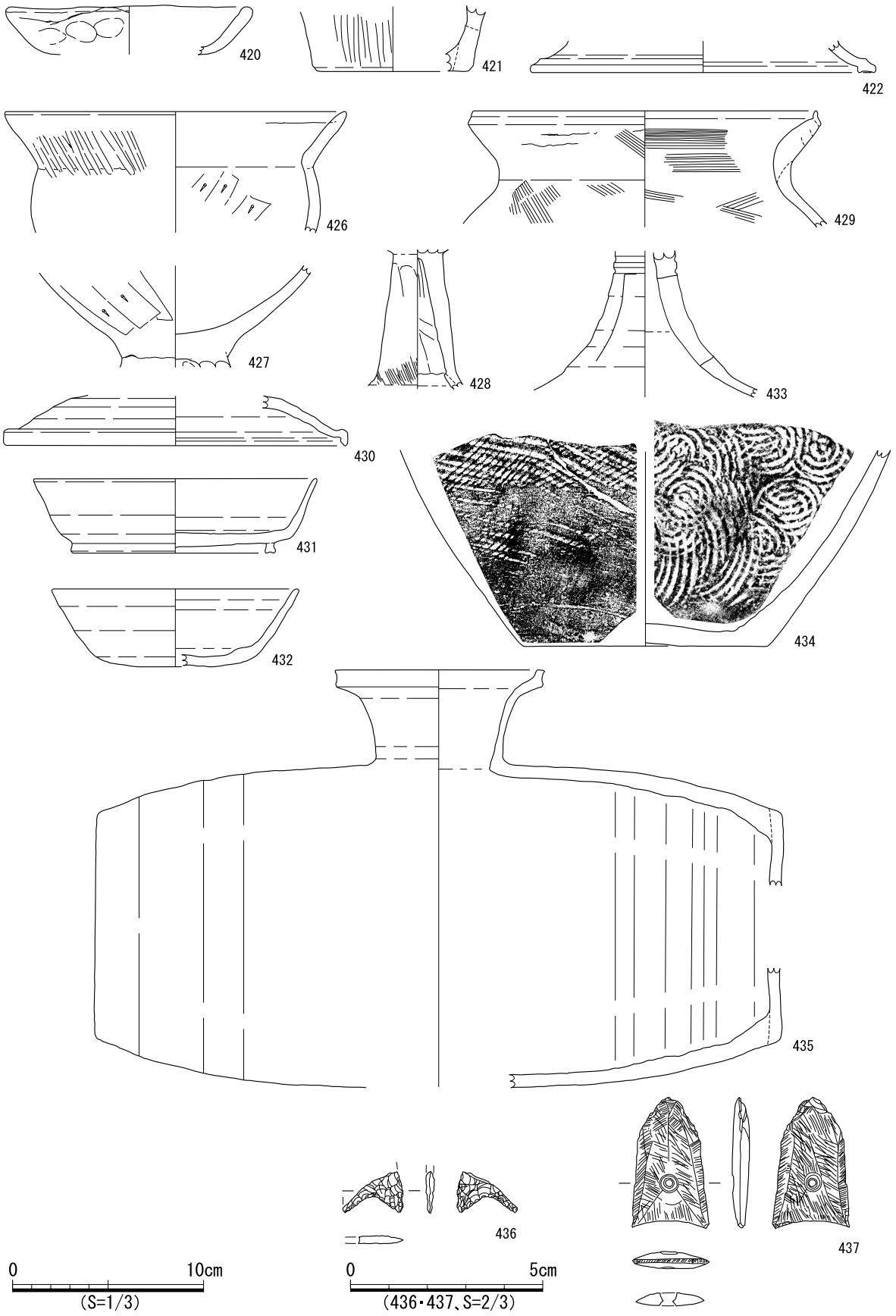



図181　SB09・SA01・SA04・SD39出土遺物・SD48出土遺物（１）

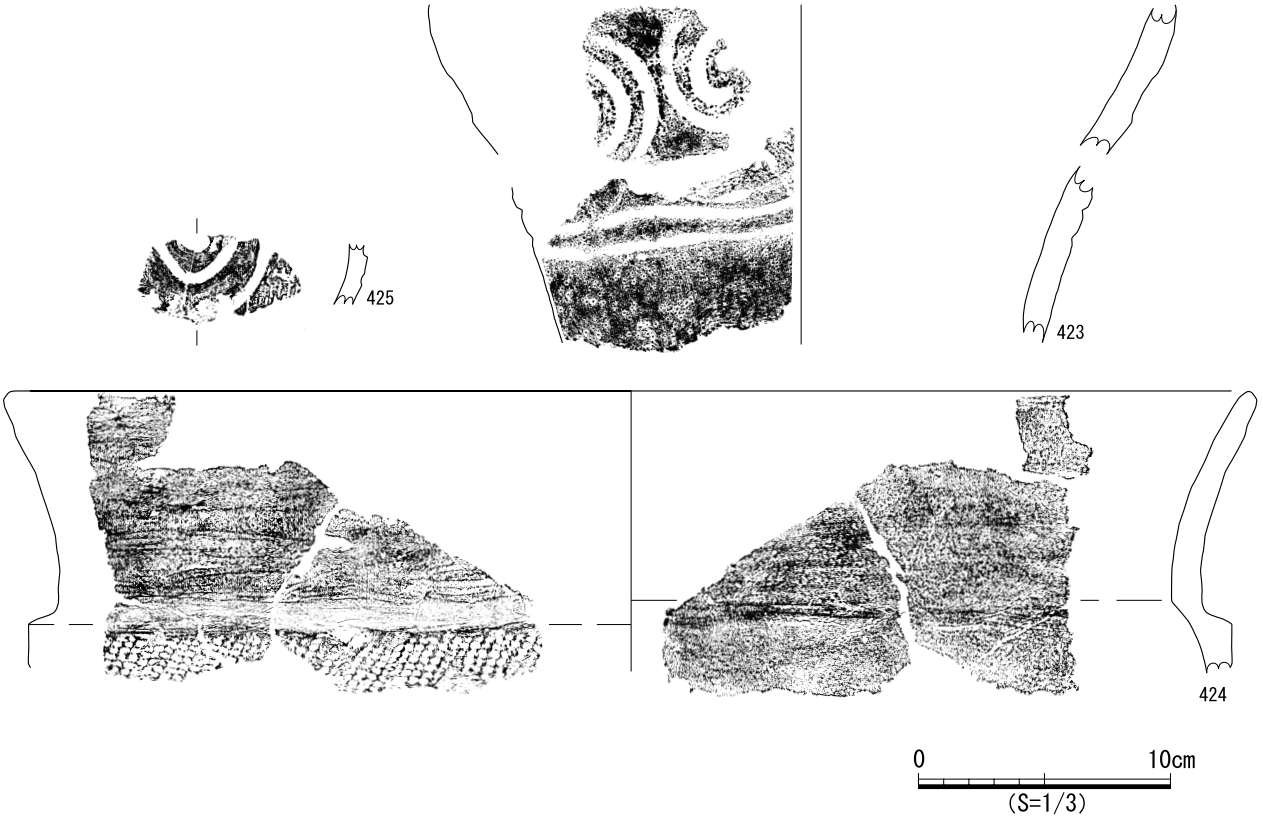



図182　SD48出土遺物（２）

位はＮ－64°－Ｗである。

**埋土**　中央がくぼむ堆積で、自然堆積と考えられる。底は平らである。多くの土層断面で、底と側壁の屈曲部に三角堆積が認められる。通水を示す堆積は認められない。SD39 の東端はやや深くなる二段構造となる。

**遺物出土状況**　埋土から縄文土器 315 点、弥生土器 37 点、古墳前期土師器 49 点、古墳後期以降土師器類 21 点、時期不明土師器類 201 点、須恵器 22 点、山茶碗３点、石器 37 点が出土した。縄文土器と石器は、主に SI40 と重複する範囲で、弥生土器・土師器類は埋土全体で出土している。須恵器、山茶碗は埋土最上層で出土した。SD48 西端で溝底部に接してⅢ期甕 X1 類（427）が逆位で出土した。

**出土遺物**　423～425 は縄文土器である。423 は深鉢Ａ類で、外面頸部下のくびれ部に３条の沈線を施す。最上段の沈線はやや直線状、中段はやや波状、下段は強い波状で、その波状文に区画の沈線をぶつける。口縁部は渦巻き文を棒状工具で施し、条線を埋める。424 は東海地方西部にみられない深鉢で、胴部はやや開きつつ中程に段をつくって面をもち、口縁端部に向かって開く。段の面にＬＲ縄文を施す。口縁部は内外面磨く。425 は双耳壺か鍔付土器に類する。沈線で渦巻文を施し、沈線に沿って刻みを埋める。426、427 は弥生土器である。426 はⅢ期甕 D2 類で、口縁部が開く。内面は板ナデ、外面は条痕文である。胴部内面はケズリ、外面はややケズリ気味の板ナデで調整する。内面に煤が付着する。427 はⅢ期甕 X1 類である。外面はケズリ調整し、ハケは見られない。内面はナデ調整する。底部内面にリング状の煤が付着する。高蔵式併行である。428、429 は土師器である。428 はⅣ期高坏 C1 類の脚部で、裾に向かって開く。外面は板ナデ調整し、裾との屈曲部の外面にハケが見られる。内

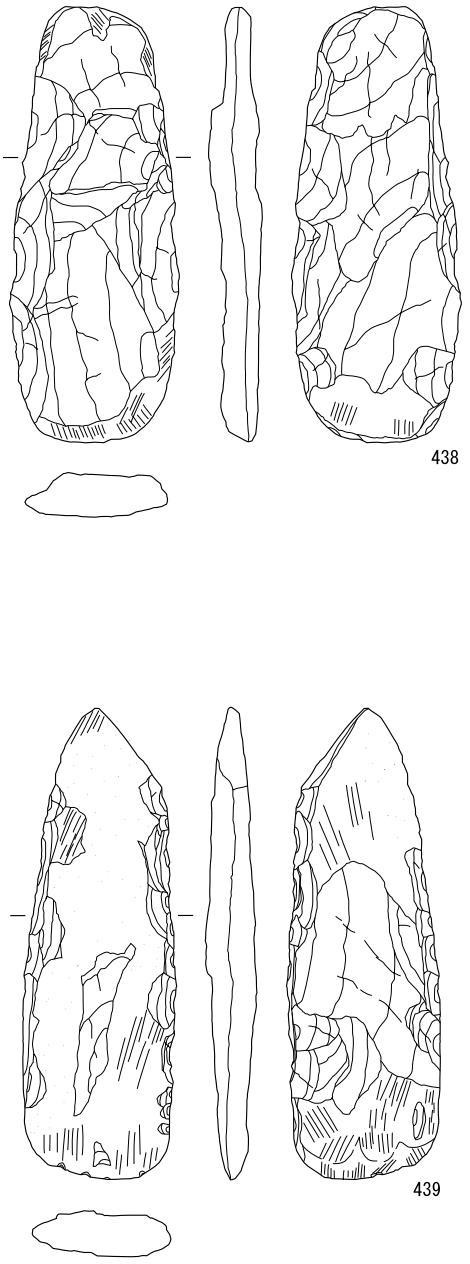



図183　SD48出土遺物（３）

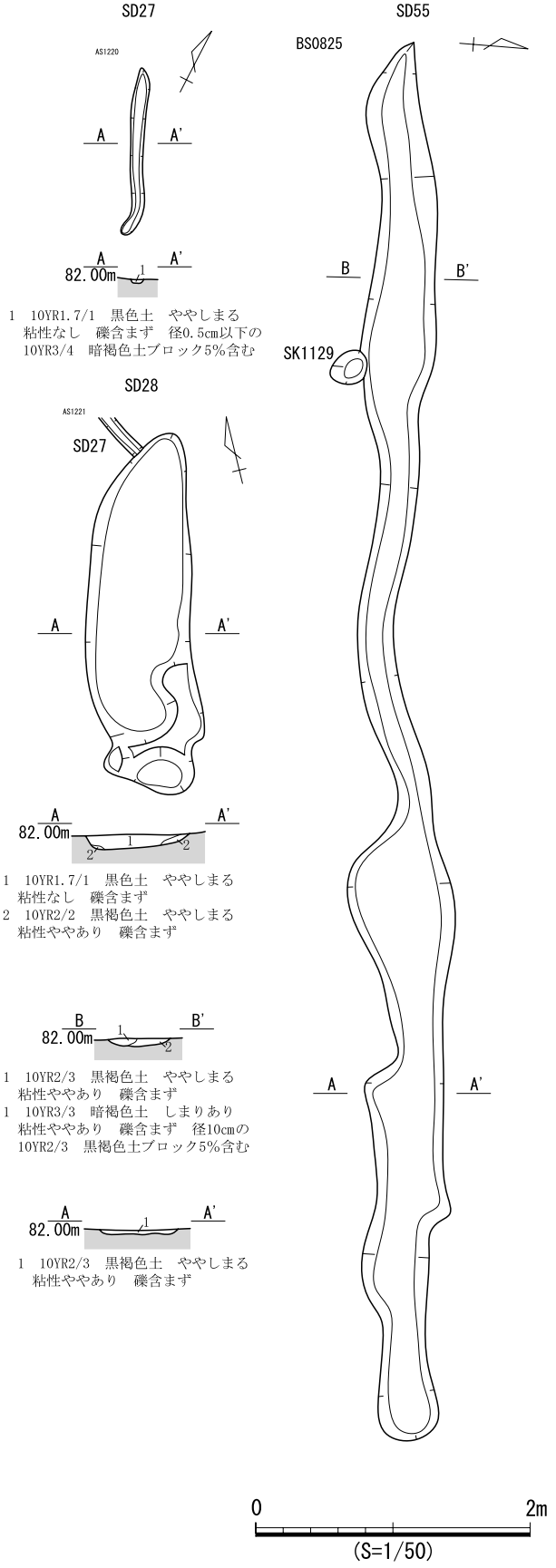



図184　Ⅳ期SD遺構図

面は絞り込みとユビナデ調整する。内面は裾との接合部に貼付状の粘土積みが残る。429 はⅤ・Ⅵ期甕である。口縁端部を内側につまみ出し、外方に面をもたせる。外面はハケ、内面はヨコナデ後ハケ調整する。430～435 は須恵器である。430 は坏蓋で、蓋端部が鍵手状に屈曲する。431 は有台坏で、外面は緩やかに屈曲しつつ面をもたない。432 は無台坏で、胴部が直線的に開く。底部外面にヘラ切り痕が残る。433 は長脚高坏の脚部で、方形の透孔が２段２方向にある。上段に沈線が２条巡り、その下から透孔が始まる。沈線下から裾に向かって開く。434 は甕の胴部から底部で、平底である。胴部外面下部は回転ヘラケズリ調整する。外面は平行叩き、内面同心円の当て具痕が残る。435 は横瓶である。接点がないが、同一地点で出土したことから同一個体と判断し合成実測した。口縁部は受口状である。口縁部の段からすぼみつつ頸部に至る。肩部は屈曲し、長軸方向に面をもつ。436 は打製石鏃である。鏃身部は折損する。一部残存する側縁部と基部から側縁の調整後抉りを作出する。437 は磨製石鏃である。背面先端部を折損する。表面に穿孔から三方向に稜が見られる。背面はやや稜が崩れる。438、439 は打製石斧である。438 は基部に向かってやや収束する短冊形である。刃部に線状痕が見られる。全体が風化しており、装着痕は不明である。439 は刃部が摩耗のため角が取れる。使用痕と思われる。刃部の所々に刃こぼれ状の微細な剥離が見られる。刃部に明瞭な線状痕が残る。

**時期**　Ⅱ・Ⅲ期の遺構を切ること、Ⅳ期の竪穴建物がこの溝以南で確認できないこと、Ⅴ期以降の竪穴建物等主要遺構が SD39・48 に区分されず南北で確認できることから、Ⅳ期居住域の南限を示す区画溝の可能性が考えられる。重複関係と出土遺物から東野Ⅳ期に構築され、東野Ⅴ～Ⅵ期に埋没したと考えられる。

### ５　柱穴（図 185）

当該期に関連すると判断した柱穴は 24 基である。Ⅳ期に属する遺構との重複関係や出土遺物によって、Ⅳ期に関連する柱穴と判断した。以下、特徴的な柱穴について記述する。

**SP244（図 185・199）（BS0146）**

**検出状況**　Ｃ地点 JG19 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は円形である。

**埋土**　埋土は暗褐色土でややしまる。中央がくぼむ堆積である。深さ 0.25ｍほどの２層中から円礫が出土した。円礫は底面に接していた。深さは 0.41ｍを測る。底面は平らで、礫との間に少量土を挟む。礫と底面の間の土を除去すると、柱の当たり状の基盤層よりややしまる硬化範囲を確認したため柱穴と判断した。土器片はほぼ埋土全体に含まれるがまとまりに欠く。柱を抜き取ったあとに礫や土器片を入れた可能性も考えられる。

**遺物出土状況**　上層から弥生土器１点、古墳前期土師器５点、下層から弥生土器１点、古墳前期土師器５点が出土した。最下層で自然礫１点が出土した。

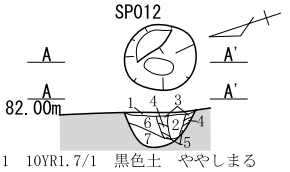
**出土遺物**　440 はⅣ期壺Ｂ類である。口縁端部が折損する。口縁部はほぼ直線状に開く。器壁がややうすい。外面に煤が付着する。

**時期**　出土遺物から、東野Ⅳ期以降の可能性が高いと判断した。

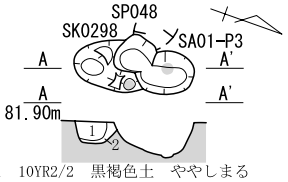
**SP270（図 185・199）（AS1821）**

**検出状況**　Ｃ地点 KE５グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は円形である。

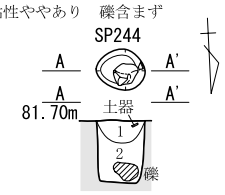
**埋土**　明瞭な柱痕跡、柱の当たりが確認できる。柱径は 0.09ｍと想定できる。底面は平らで、壁は直



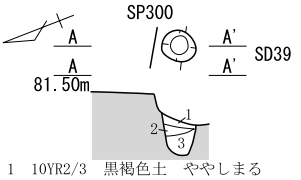

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　しまり強い
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
7　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



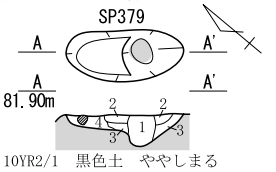

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



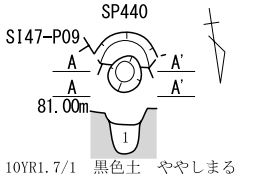

1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　径20cmの亜円礫含む



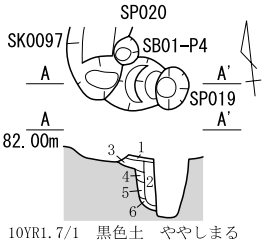

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック1%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



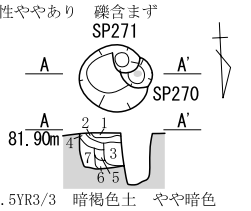

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土
ブロック20%含む



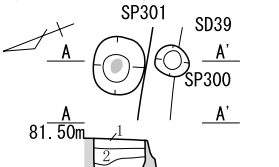

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず



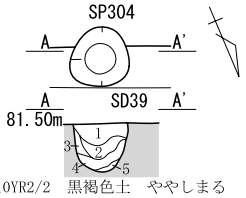

1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



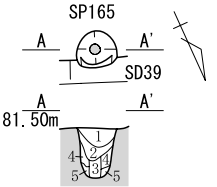

1　7.5YR3/3　暗褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　7.5YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　7.5YR3/4　暗褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
4　7.5YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　7.5YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
6　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
7　5YR2/4　極暗赤褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



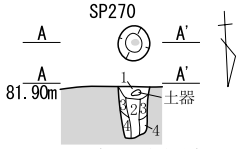

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック10%含む
3　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック10%含む



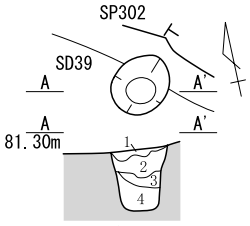

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック1%含む
3　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　暗褐色土
ブロック10%含む
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土
ブロックと褐色土ブロック1%含む
5　10YR5/6　黄褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　暗褐色土
ブロック5%含む



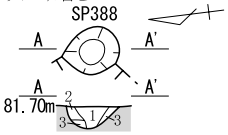

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
下部固くしまる
4　10YR3/4　暗褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



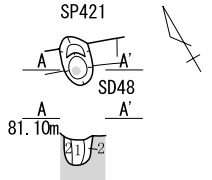

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　下部
10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む



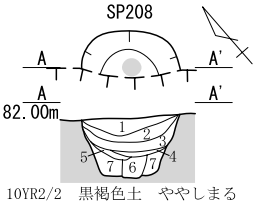

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土
ブロック1%含む
3　10YR3/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　黄褐色土
ブロック1%含む



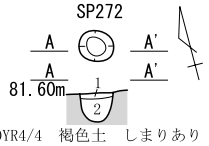

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



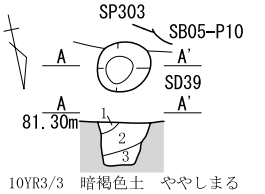

1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



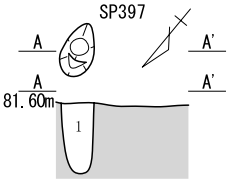

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土
ブロック10%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む
5　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
下部固くしまる
7　10YR2/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



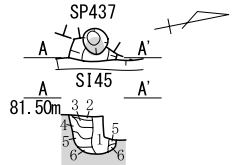

1　10YR4/4　褐色土　しまりあり
粘性なし　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック20%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　褐色土
ブロック1%含む
3　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
6　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性あり　礫含まず

柱の当たり

0　2m
(S=1/50)

図185　Ⅳ期SP遺構図

立する。

**遺物出土状況**　埋土最上層から松河戸Ⅰ式前半期に比定できるⅣ期高坏 C1 類脚部（441）が出土した。

**出土遺物**　441 はⅣ期高坏 C1 類の脚部で、外面はタテミガキを施す。内面は絞り込みとユビオサエである。絞り込みがほぼ直線的であることから接合時に回転させていないと考えられる。内面下部にユビオサエが残る。

**時期**　出土遺物から東野Ⅳ期以降の可能性が高いと判断した。

**その他の柱穴出土遺物**　Ⅳ期に関連すると判断した柱穴出土の特徴的な遺物について記述する。442 は SP397 出土Ⅳ期甕 C1 類である。Ｓ字の屈曲が強く、受口状に口縁を作る。胴部はハケ調整で、頸部に沈線が１条巡る。Ⅳ期甕Ｃ類の調整に類似する。

## ６　土坑（図 186～200）

当該期に関連すると判断した土坑は 269 基である。Ⅳ期に属する遺構との重複関係や出土遺物によって、Ⅳ期に関連する土坑と判断した。以下、特徴的な土坑について記述する。

### SK0443（図 188）（AS0909）

**検出状況**　Ｃ地点 JM19 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は円形である。

**埋土**　中央がくぼむ堆積で、自然堆積と考えられる。中間層である３層は比較的しまりが強い。底面は丸く、壁は袋状になる。その形状から貯蔵穴の可能性が考えられる。

**遺物出土状況**　上層から縄文土器１点、中層から古墳前期土師器類１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。

**時期**　出土遺物から東野Ⅳ期の可能性が高いと判断した。

### SK0575・SK0612（図 189）（AS1179・AS1254）

**検出状況**　Ｃ地点 KD２～KE３グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不定形である。竪穴建物の可能性を想定して掘削したが、壁際溝、主柱穴、壁際溝、貼床などの竪穴建物と認定できる関連遺構は確認できなかった。また、SK0575 と SK0612 の形状は SI41（東野Ⅶ期）に類似するが、周囲に柱穴は確認できなかった。北西部、中央～東部、南部は現代の撹乱によって消失している。

**埋土**　埋土は南部の舌状部分が先に埋没し、その後全体が徐々に堆積した状況を示す。底部はほぼ平らだが、中央部が緩やかにくぼむ。SK0612 は SK0575 の２・３層下層で検出した。上端北部が、SK0575 北部壁下端と一致し、壁面傾斜もほぼ一致することから、関連する遺構と判断した。埋土は単層で、少量の暗褐色土ブロック、炭化物を含む。

**遺物出土状況**　埋土から縄文土器３点、弥生土器４点、古墳前期土師器５点、時期不明土師器類 25 点、須恵器２点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。弥生土器はⅢ期甕Ｄ類の胴部片、古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片・脚台部片等が出土した。

**時期**　埋土中の出土土器から、東野Ⅳ期以降と判断した。

### SK1973（図 196）（AS2916）

**検出状況**　Ｃ地点 KL～KM２グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は円形である。SB10-Ｐ6 を切ることから SK1973＞SB10 である。

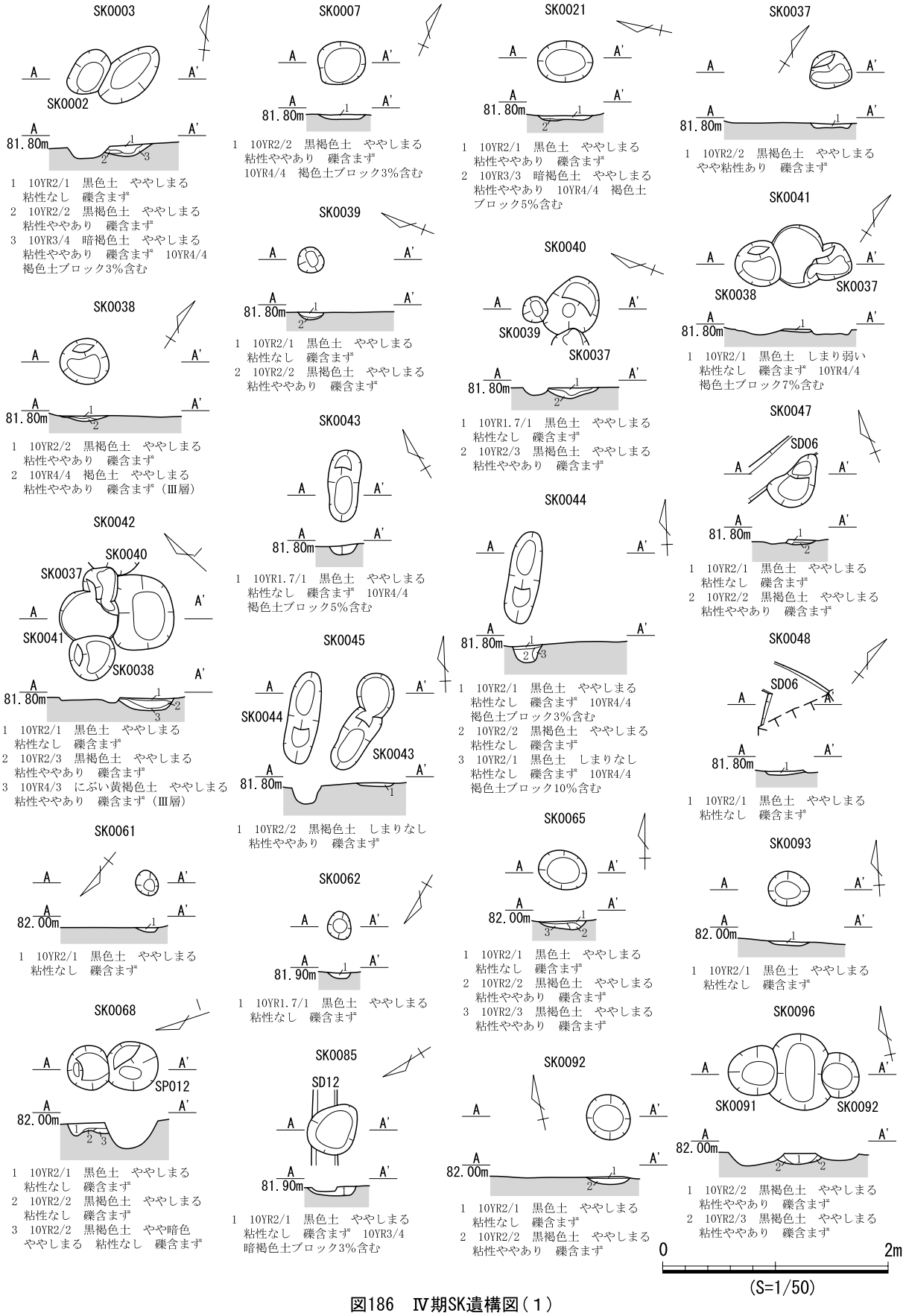



図186　Ⅳ期SK遺構図（１）

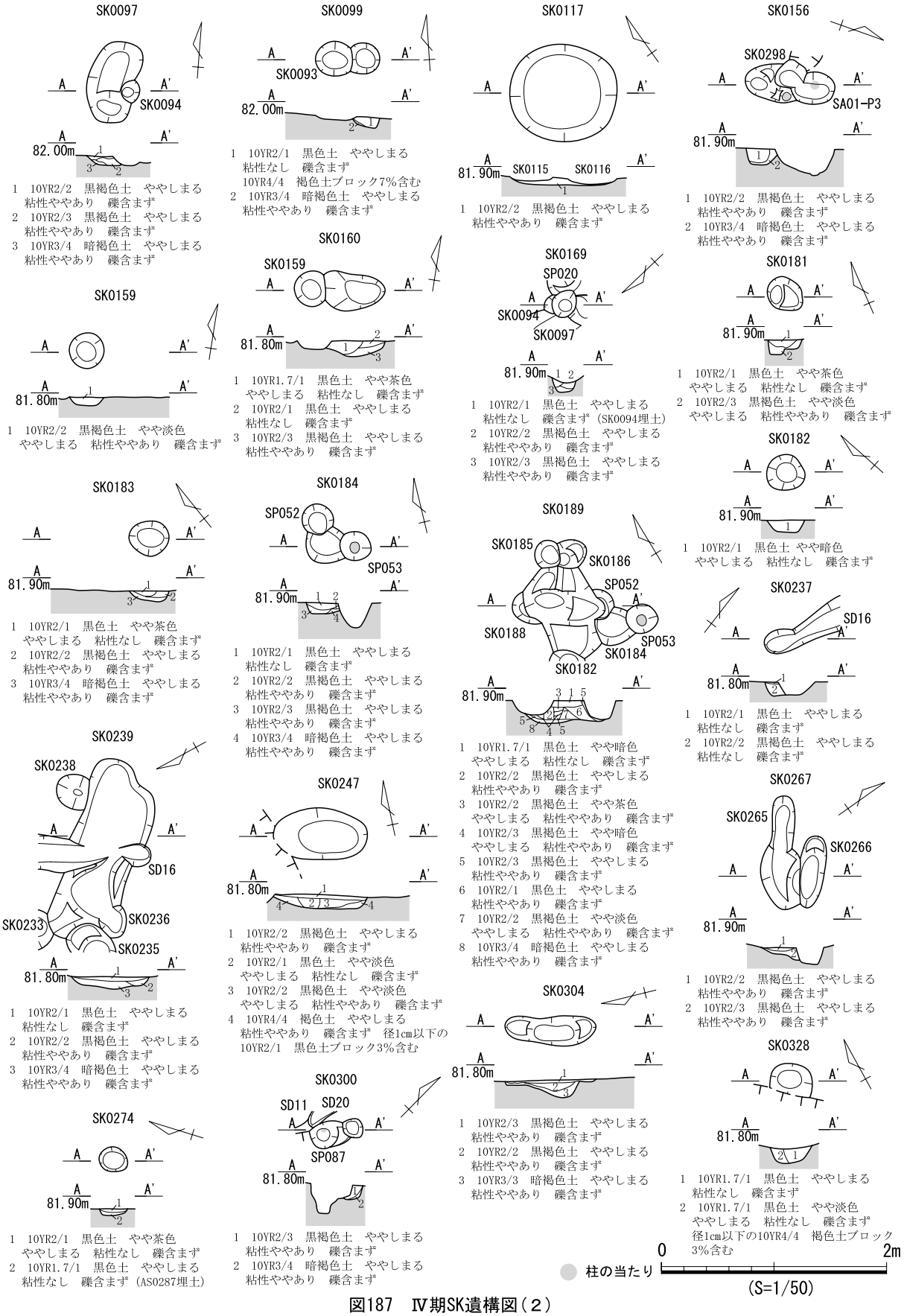



図187　Ⅳ期SK遺構図（２）

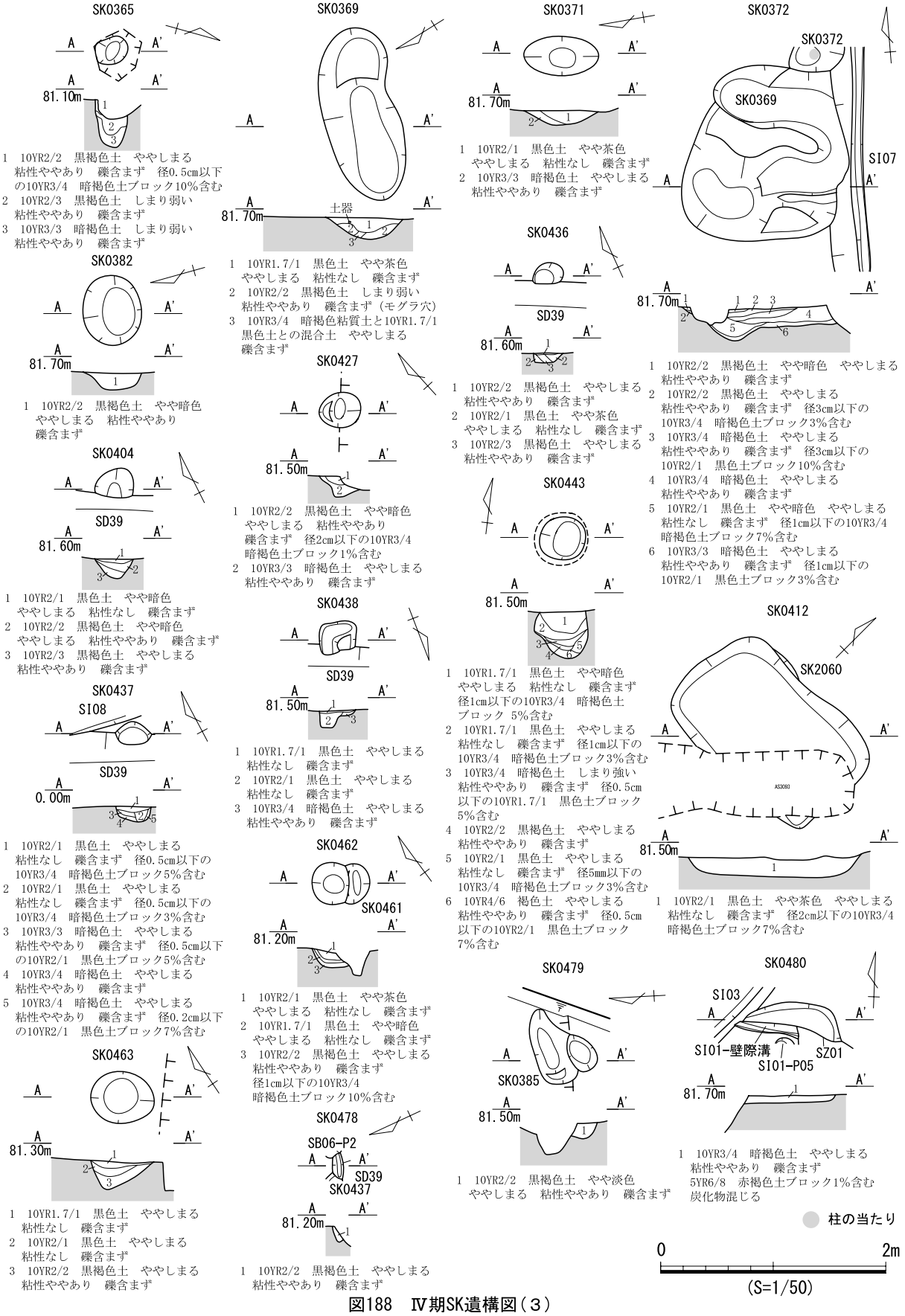



図188　Ⅳ期SK遺構図（３）

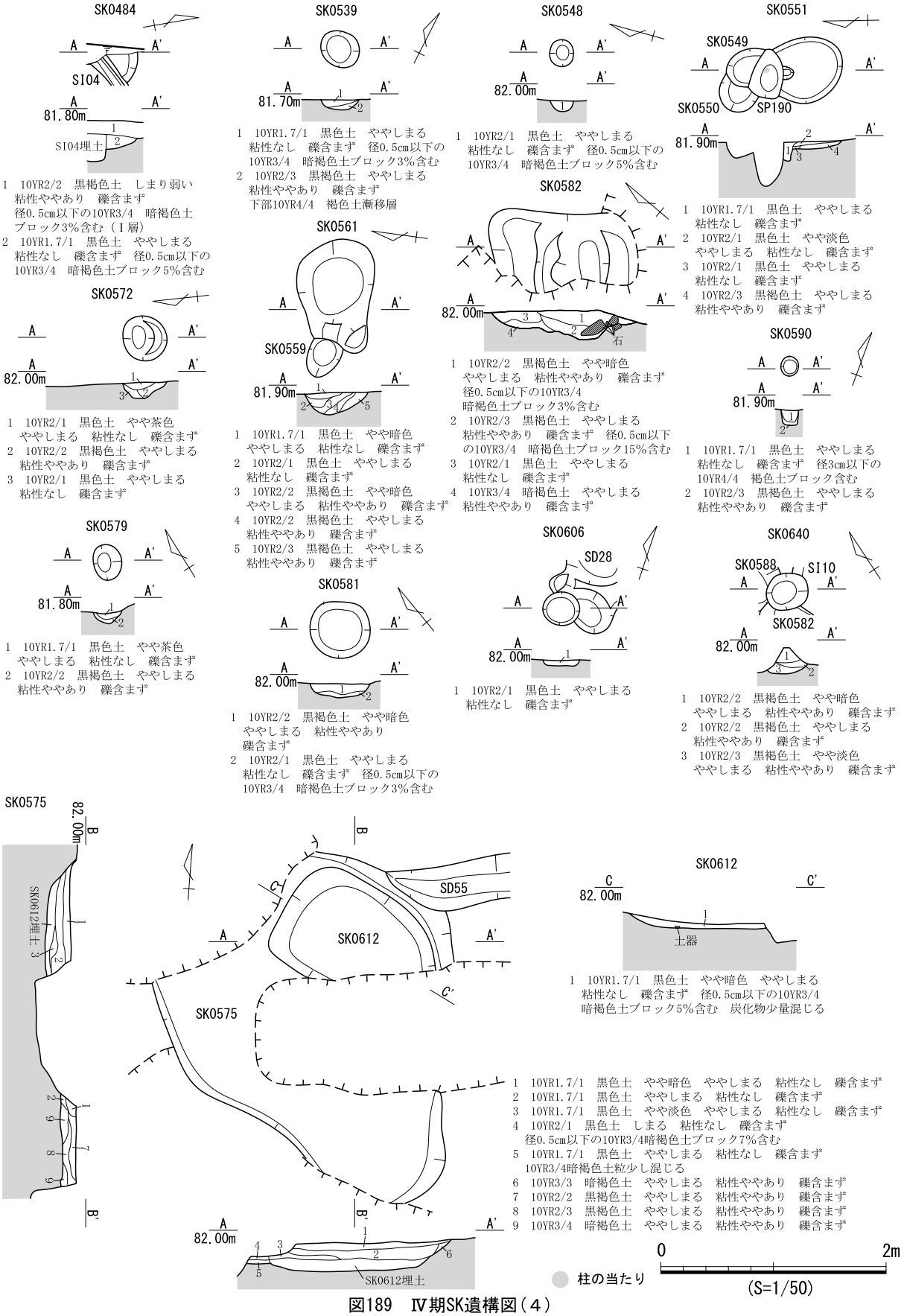



図189　Ⅳ期SK遺構図（４）

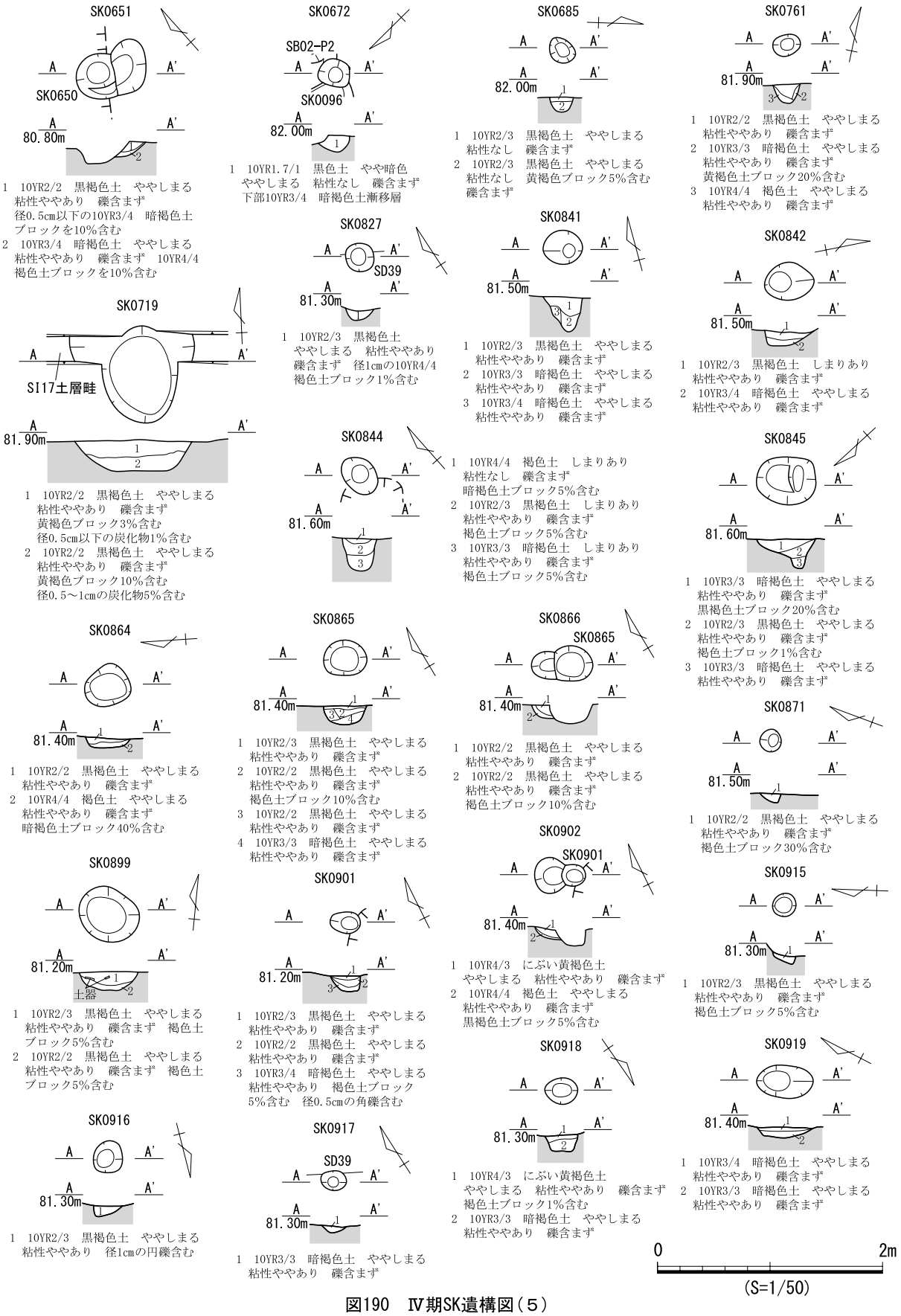
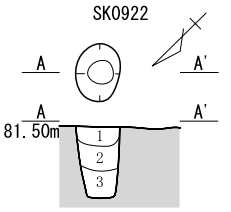
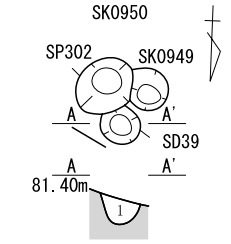


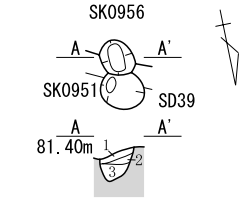

図190　Ⅳ期SK遺構図（５）



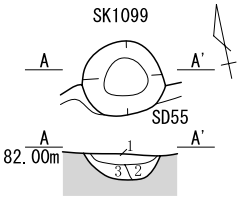

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



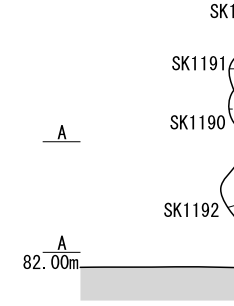

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　黒褐色土
ブロック1%、褐色土ブロック5%含む




1　10YR3/4　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック5%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/3　にぶい黄褐色土　しまりあり　粘性ややあり　礫含まず



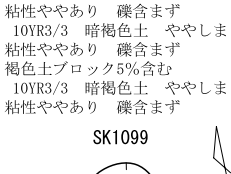

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



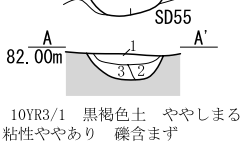

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　径2cmの円礫含む




1　10YR3/2　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　しまりなし
粘性ややあり　礫含まず



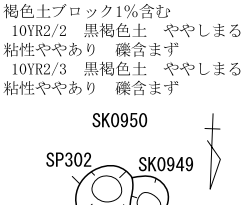

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり
粘性なし　礫含まず




1　10YR4/3　にぶい黄褐色土
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
黒褐色土ブロック1%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック5%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.5cmの
10YR5/6　黄褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR4/4　褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
褐色土ブロック1%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR3/1　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.5cmの
10YR5/6　黄褐色土ブロック1%含む
3　10YR2/1　黒色土　しまりあり
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/6　褐色土　しまる　粘性あり
礫含まず

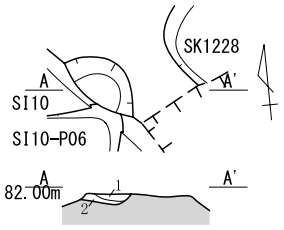
柱の当たり

0　2m

(S=1/50)

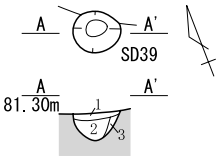
図191　Ⅳ期SK遺構図（６）

SK1282



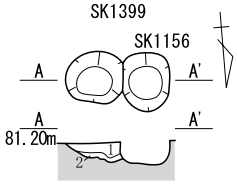

1　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず

SK1336



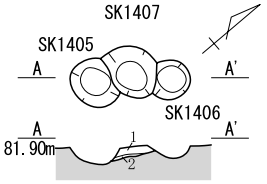

1　10YR4/4　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下
　の10YR2/3　黒褐色土ブロック5%、
　径0.5cm以下の10YR5/6
　黄褐色土ブロック5%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1399



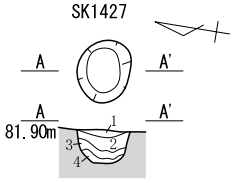

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径2cm以下の
　10YR4/6　褐色土ブロック10%含む

SK1407



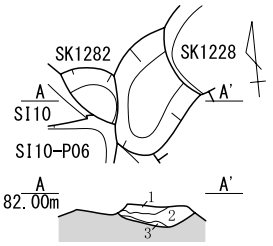

1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む

SK1427



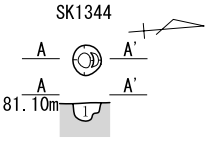

1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　炭化物極少量混じる
2　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1283



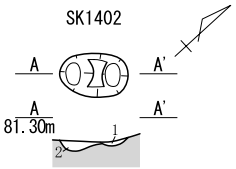

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR5/6　黄褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず

SK1344



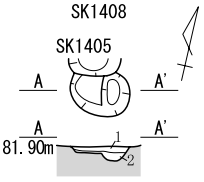

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR5/4にぶい黄褐色土ブロック
　1%含む

SK1402



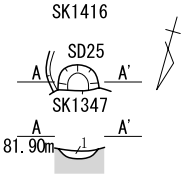

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/1　黒色土　やや暗色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
　下部10YR3/4　暗褐色土漸移層

SK1408



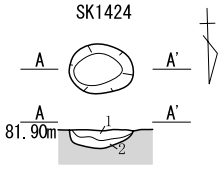

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1416



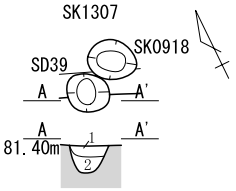

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1424



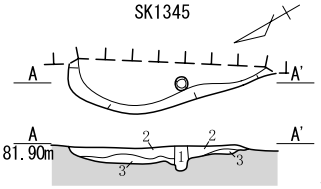

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1307



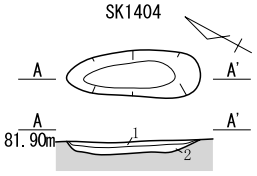

1　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず

SK1345



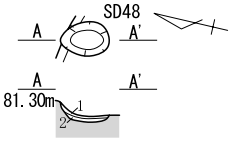

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
　しまりなし　粘性ややあり　礫含まず
　(根痕)
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む
3　10YR4/6　褐色土　ややしまる
　粘性あり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む

SK1404



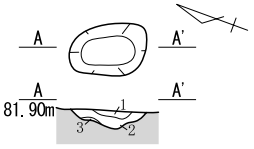

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下
　の10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む

SK1413



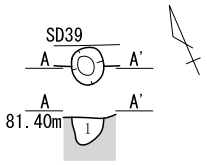

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1428



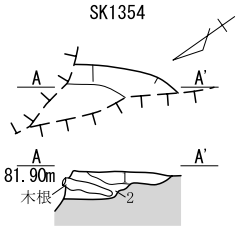

1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
　ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1308



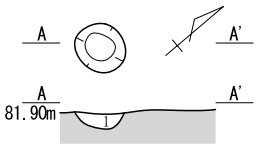

1　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり
　粘性ややあり　礫含まず

SK1354



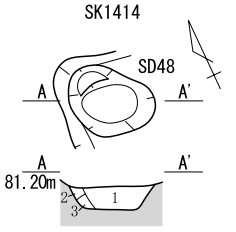

1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
　粘性なし　礫含まず　径0.2cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR3/3 暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径0.2cm以下
　の10YR2/1 黒色土ブロック7%含む

SK1405



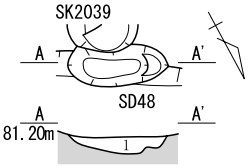

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
　ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
　径0.5cm以下の10YR3/4
　暗褐色土ブロック5%含む

SK1414




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径3cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径3cm以下の
　10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず

SK1431




1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
　粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
　10YR2/1　黒色土ブロック5%含む
　径1cm以下の10YR3/4　暗褐色土ブロック
　15%含む　炭化物極少量混じる

0　2m
(S=1/50)

図192　Ⅳ期SK遺構図（７）

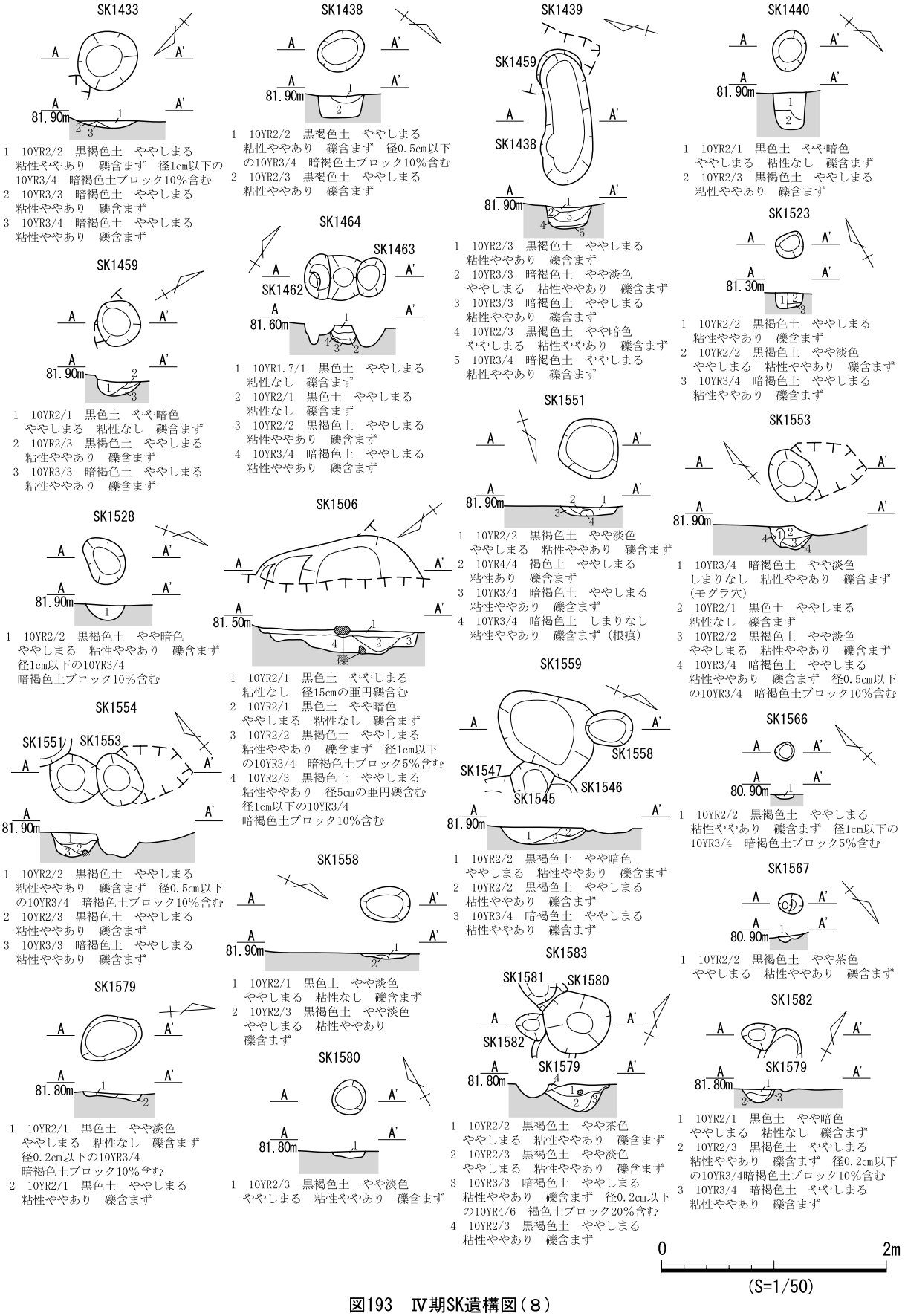



図193　Ⅳ期SK遺構図（８）

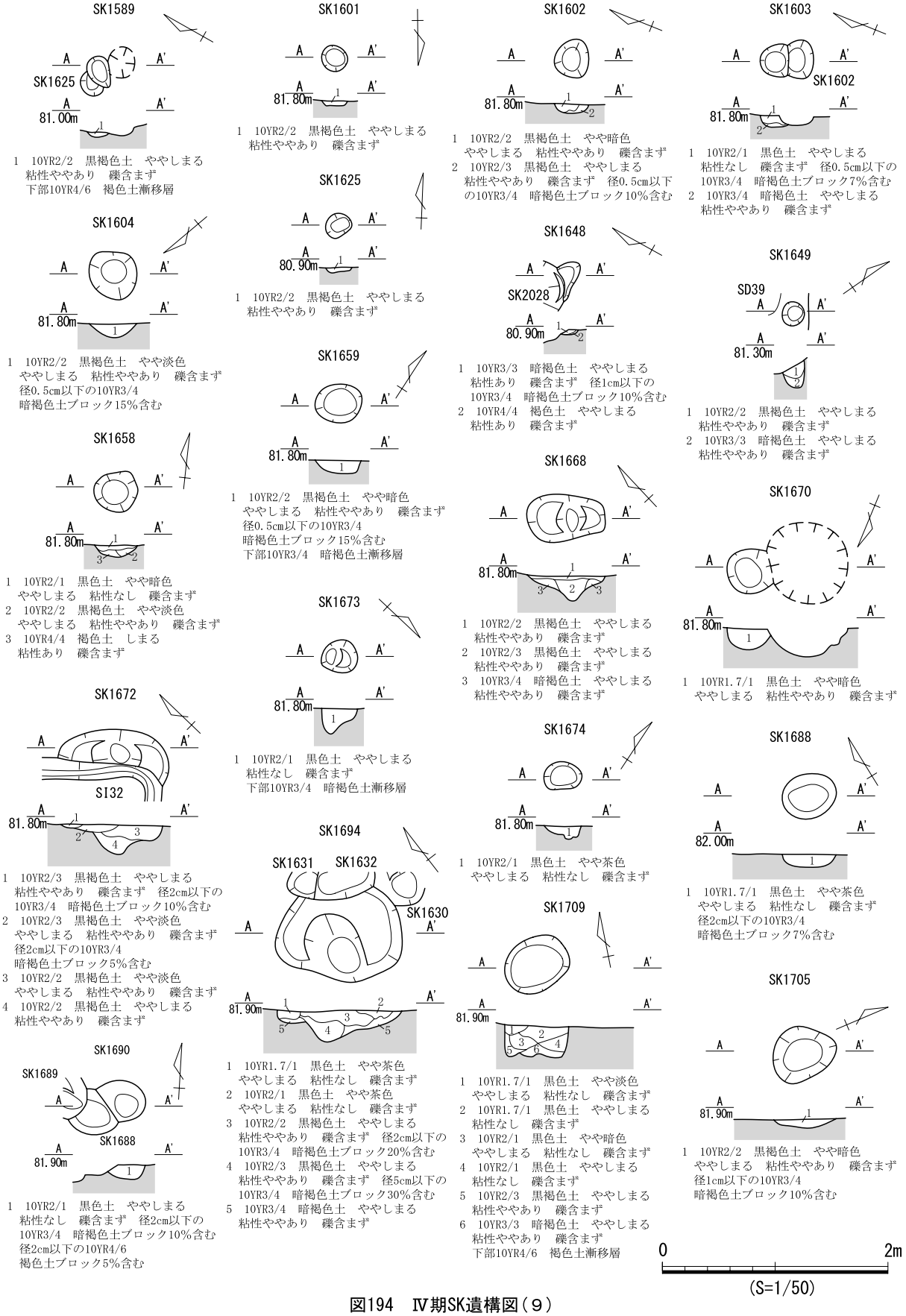
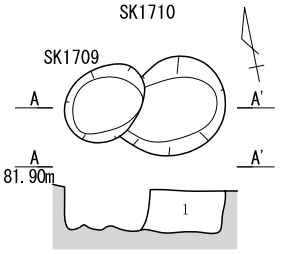
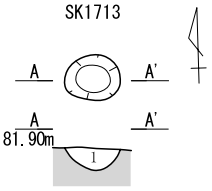


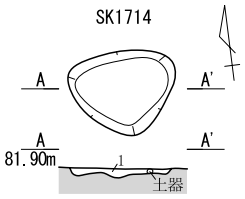

図194　Ⅳ期SK遺構図（９）



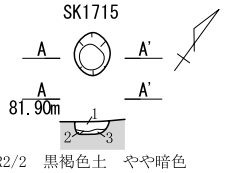

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず



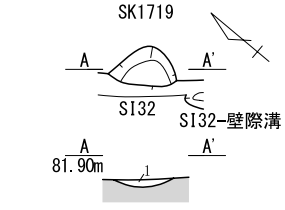

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
下部10YR3/4　暗褐色土漸移層



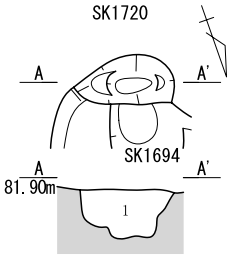

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



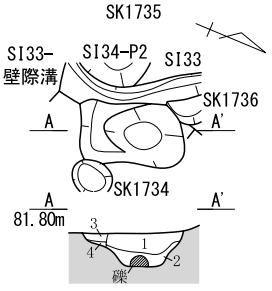

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
3　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



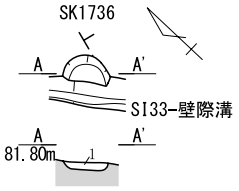

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む



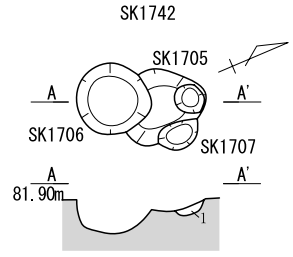

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径5cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む



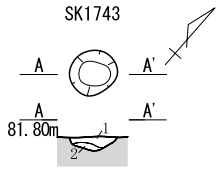

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
4　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



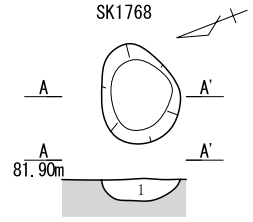

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック5%含む



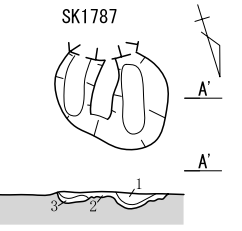

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



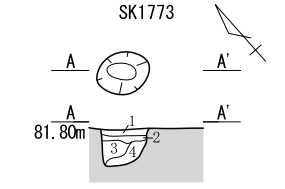

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



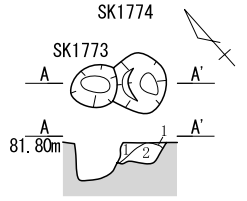

1　10YR1.7/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし　礫含まず



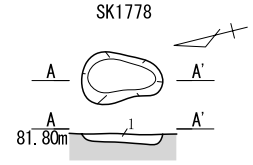

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず



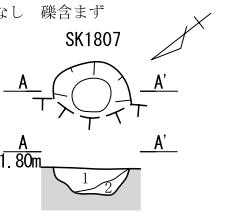

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径0.5cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径0.5cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
しまり弱い　粘性ややあり　礫含まず
下部10YR4/6　褐色土漸移層
4　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



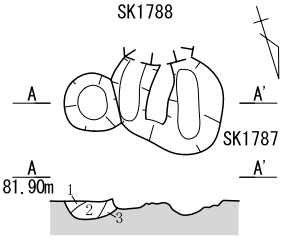

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず　径3cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む



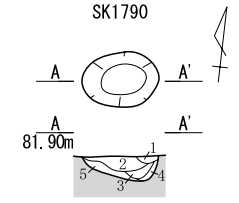

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
下部10YR3/4　暗褐色土漸移層



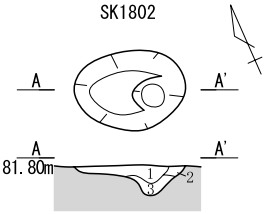

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
径5cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



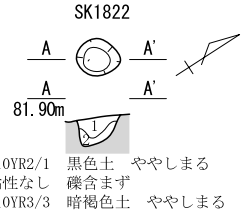

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



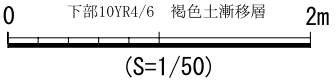

1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む
4　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
5　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR2/2　黒褐色土ブロック10%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
下部10YR4/6　褐色土漸移層




(S=1/50)

図195　Ⅳ期SK遺構図(10)

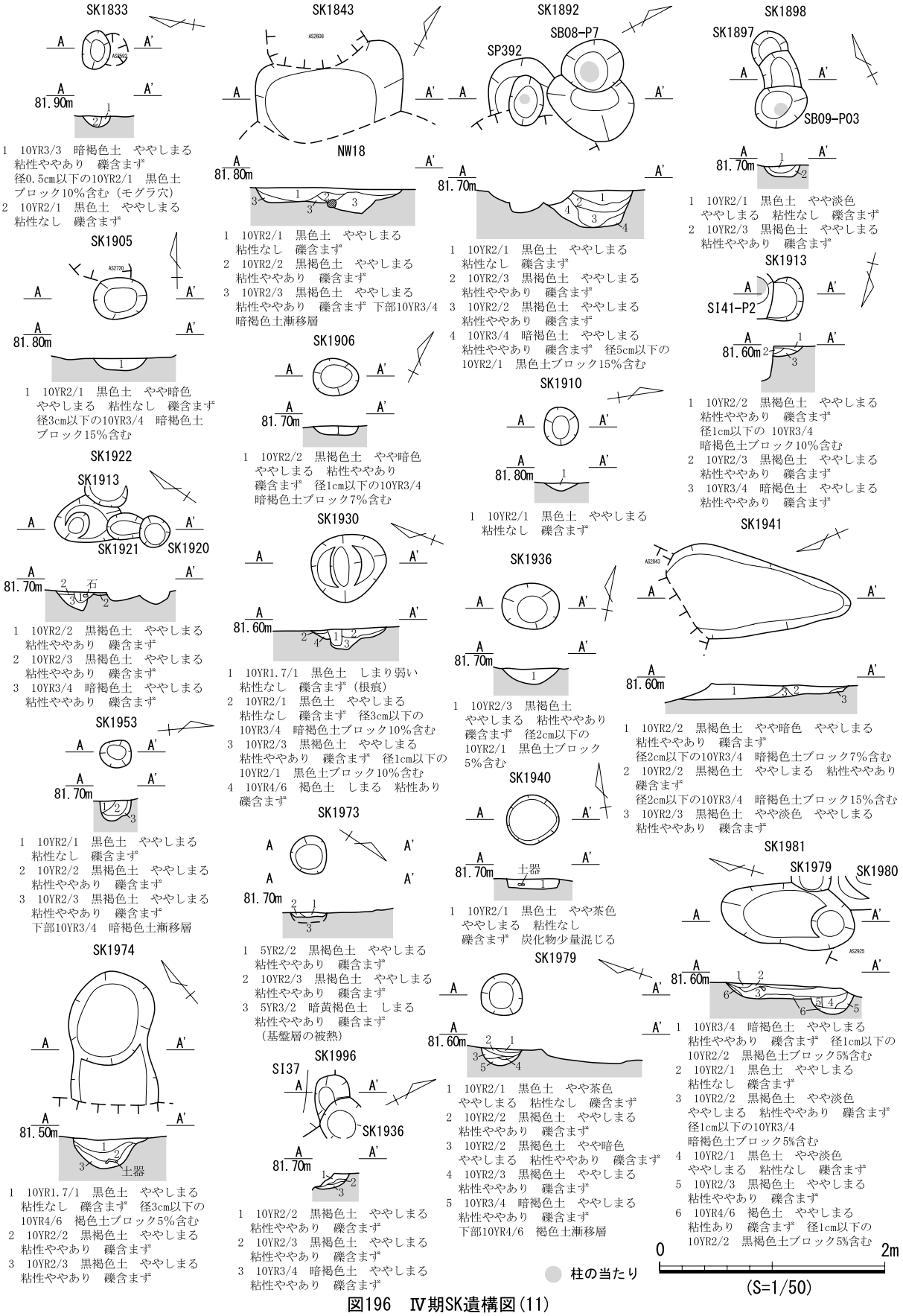
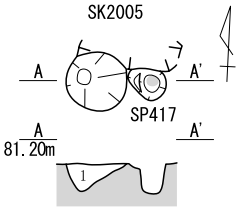
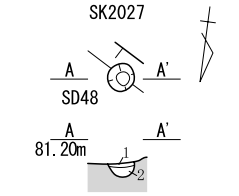


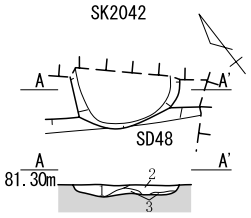

図196　Ⅳ期SK遺構図(11)



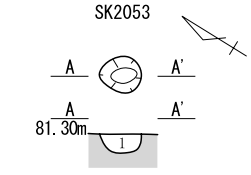

1　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径0.5cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック5%含む



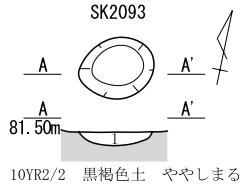

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



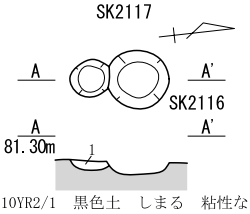

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック5%含む
2　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



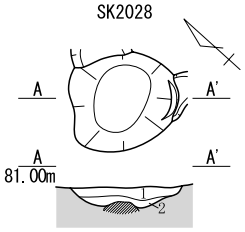

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



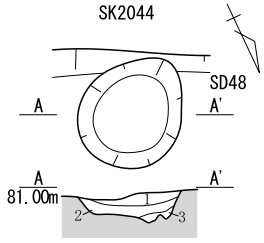

1　10YR2/1　黒色土　しまる　粘性なし
礫含まず　径0.5cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック15%含む




1　10YR1.7/1　黒色土　ややしまる
粘性なし　径10cmの亜円礫含む



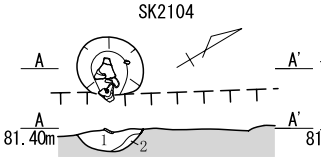

1　10YR2/1　黒色土　やや暗色
ややしまる　粘性なし
礫含まず　径1cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR3/4　暗褐色土
ややしまる　粘性ややあり
径5cm以下の亜円礫多く含む



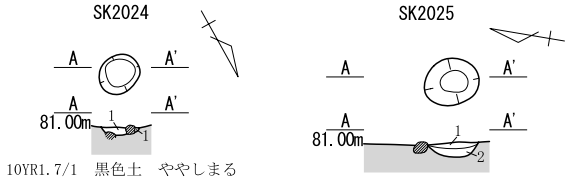

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



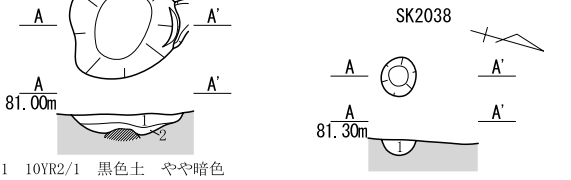

1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック10%含む、
10YR2/1　黒色土ブロック5%含む
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック3%含む



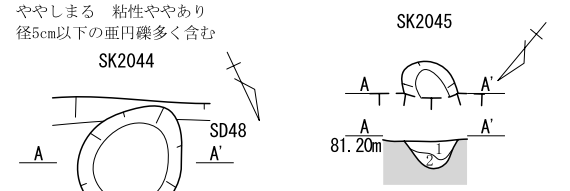

1　10YR2/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



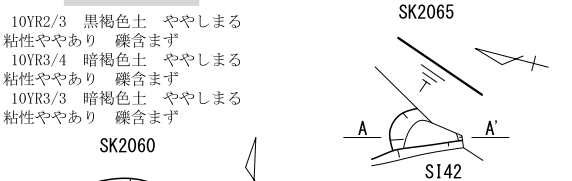

1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



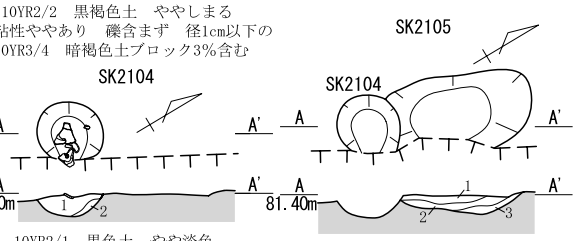

1　10YR2/3　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり
礫含まず　径1cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック15%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
2　10YR2/3　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



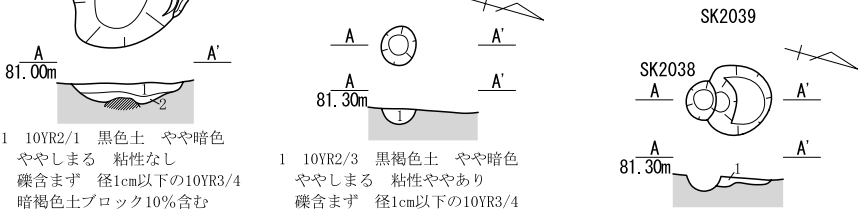

1　10YR4/4　褐色土　しまりなし
粘性あり　礫含まず（モグラ穴）
2　10YR2/2　黒褐色土　やや淡色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径0.1cm以下の10YR2/1　黒色土ブロック
1%含む　炭化物極少量混じる
3　10YR3/4　暗褐色土　やや明色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず



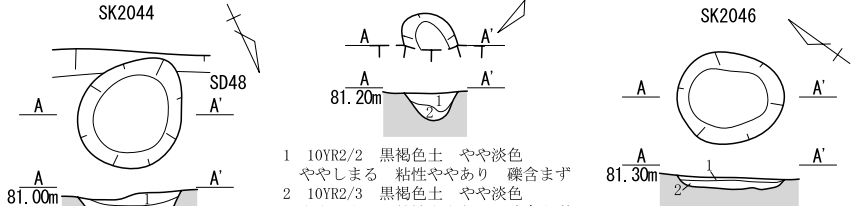

1　10YR1.7/1　黒色土　やや淡色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
2　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず
3　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず



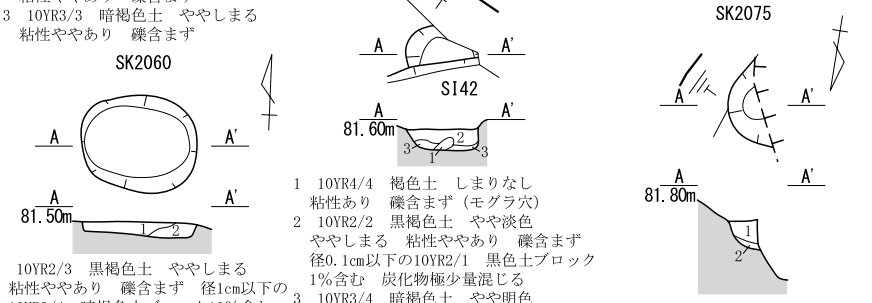

1　10YR2/2　黒褐色土　やや暗色
ややしまる　粘性ややあり　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/3　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径1cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック20%含む




1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず　径2cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック15%含む
2　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる
粘性ややあり　礫含まず




1　10YR2/1　黒色土　やや茶色
ややしまる　粘性なし　礫含まず
径1cm以下の10YR3/4
暗褐色土ブロック10%含む
2　10YR3/4　暗褐色土　やや茶色
ややしまる　粘性ややあり
礫含まず　径0.2cm以下の10YR2/2
黒褐色土ブロック3%含む

1　10YR1.7/1　黒色土　しまる
粘性なし　礫含まず　径0.5cm以下の
10YR3/4　暗褐色土ブロック7%含む

● 柱の当たり

0　2m
(S=1/50)

図197　Ⅳ期SK遺構図(12)

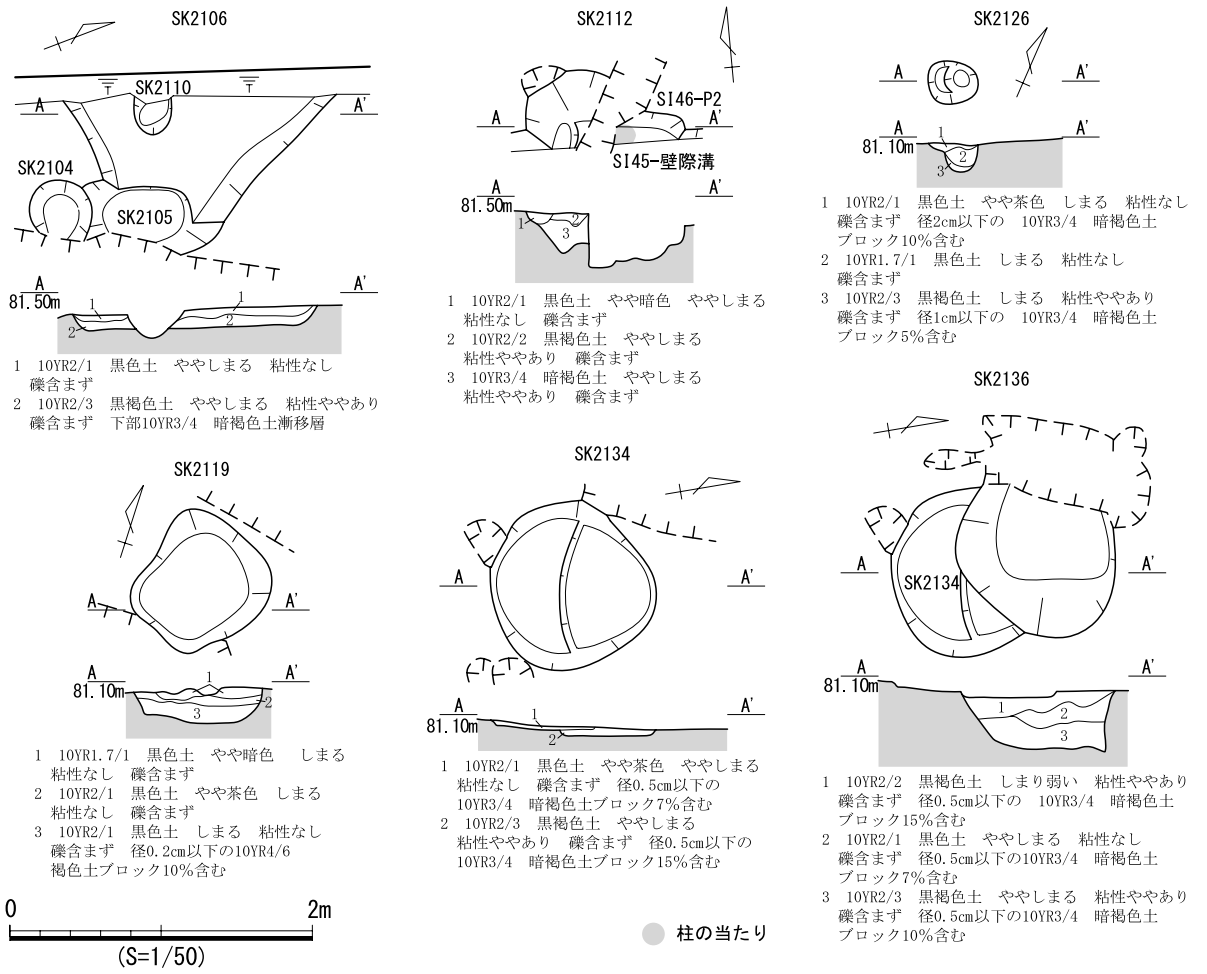



図198　Ⅳ期SK遺構図(13)

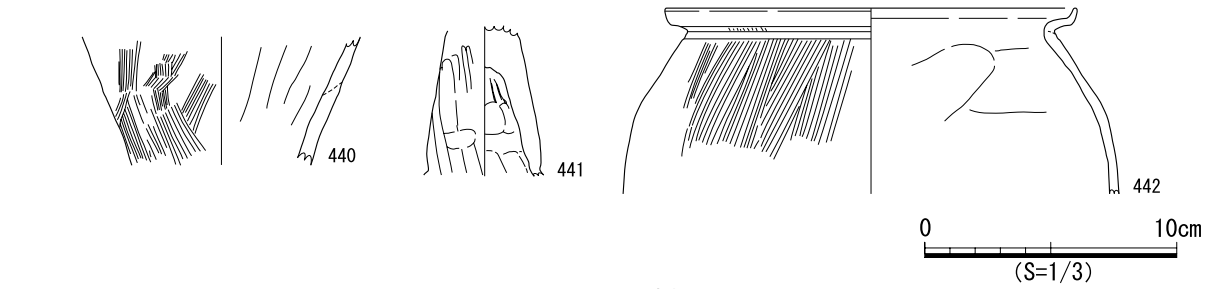



図199　Ⅳ期出土遺物（１）

**埋土**　くぼみが偏る堆積である。浅い穴で、底面は平らである。底面がやや被熱していることから、炉の可能性があるが､埋土中に焼土や炭化物は確認できなかったことから性格不明の土坑と判断した。

**遺物出土状況**　埋土から縄文土器４点、古墳前期土師器１点、時期不明土師器１点、石器類１点が出土した。

**出土遺物**　実測に足る遺物は出土していない。古墳前期土師器はⅣ期甕Ｃ類の胴部片である。

**時期**　SB10 との重複関係と出土遺物から東野Ⅳ期以降の可能性が高いと判断した。

**その他の土坑出土遺物（図 200）**　Ⅳ期に関連すると判断した土坑出土の特徴的な遺物について記述する。443 は SK0160 出土のⅢ期甕 D2 類である。口縁部外面は条痕文、内面端部刺突列、その下にヨコミガキを施す。444 は SK0480 出土の打製石斧である。刃部がややすぼむ形状で、刃部に線状痕が見られる。445 は SK0582 出土のⅣ期甕の胴部である。胴部形状から口縁部はやや開くと思われる。446 は SK0845 出土の縄文土器深鉢 E2 類である。口縁部は無文で、内外面はナデ調整する。深鉢Ｄ類の口縁部の可能性もある。447 は SK0899 出土のⅢ・Ⅳ期甕 X2 類である。底部は平坦で、胴部との境界部に面をもつ。胴部へ向かいなだらかに開く。外面下部の粘土積みが顕著である。448 は SK1773 出土のⅣ期壺 D1 類である。胴部外面は下から上へ削る。その後、頸部を回しナデ、口縁端部をヨコナデ調整する。口縁端部内側に面をつくる。449 は SK1807 出土のⅢ・Ⅳ期器台裾部である。透孔が２か所に見られる。位置から４方向と考えられる。段数は不明である。裾は開き、外反する。450、451 は SK2104 出土である。450 はⅢ期器台で、受部内外面はタテミガキを施す。受底部で横方向に板ナデし、ヨコミガキを消す。内面は横方向の板ナデでややケズリ気味。下部のケズリはやや右下がりになる。透孔２段３方向で、裾端部は肥厚する。451 はⅣ期甕 B3 類で、口縁部が頸部からやや開き、内彎するところで折損する。外面に煤が付着する。452 は SK2106 出土のⅣ期高坏Ａ類の坏部で、有段部で破断する。外面はタテミガキを施す。

## ７　撹乱坑・遺物包含層・表土層出土遺物（図 200）

453～459 はⅣ期土師器である。453 は撹乱坑出土のⅣ期壺 A2 類で、口縁部は緩やかに外反する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部は板ナデによって面をつくる。454 は JI17 グリッド出土のⅣ期壺 B2 類である。胴部はやや潰れ気味の形状である。口縁部外面はタテミガキ、体上半部外面はヨコミガキを施す。体下半部はケズリ調整する。胴部中程を折損する。内面はナデ、板ナデ調整する。廻間Ⅲ式から松河戸Ⅰ式に比定できる。455 はＢ地区表土層出土のⅣ期壺Ｂ類である。口縁部は直立する。当遺跡の壺Ｂ類としては、口縁部が短い。胴部外面にヨコミガキが僅かに残る。内面はナデ調整する。456、457 は撹乱坑出土のⅣ期甕 B2 類である。456 の口縁部はやや開く。外面に煤が付着する。457 の胴上半部はケズリ調整する。ケズリはランダムだが、多くは上から下方向である。口縁端部がやや肥厚する。458 は撹乱坑出土のⅣ期壺Ｂ類の口縁部で、外面はタテミガキを施す。内面はナデ調整する。口縁部内面の端部近くまで黒斑が見られる。459 は撹乱坑出土のⅣ期甕類の胴部片で、線刻が施される。縦位の直線と横位の曲線が直角に交わり十字を描く。

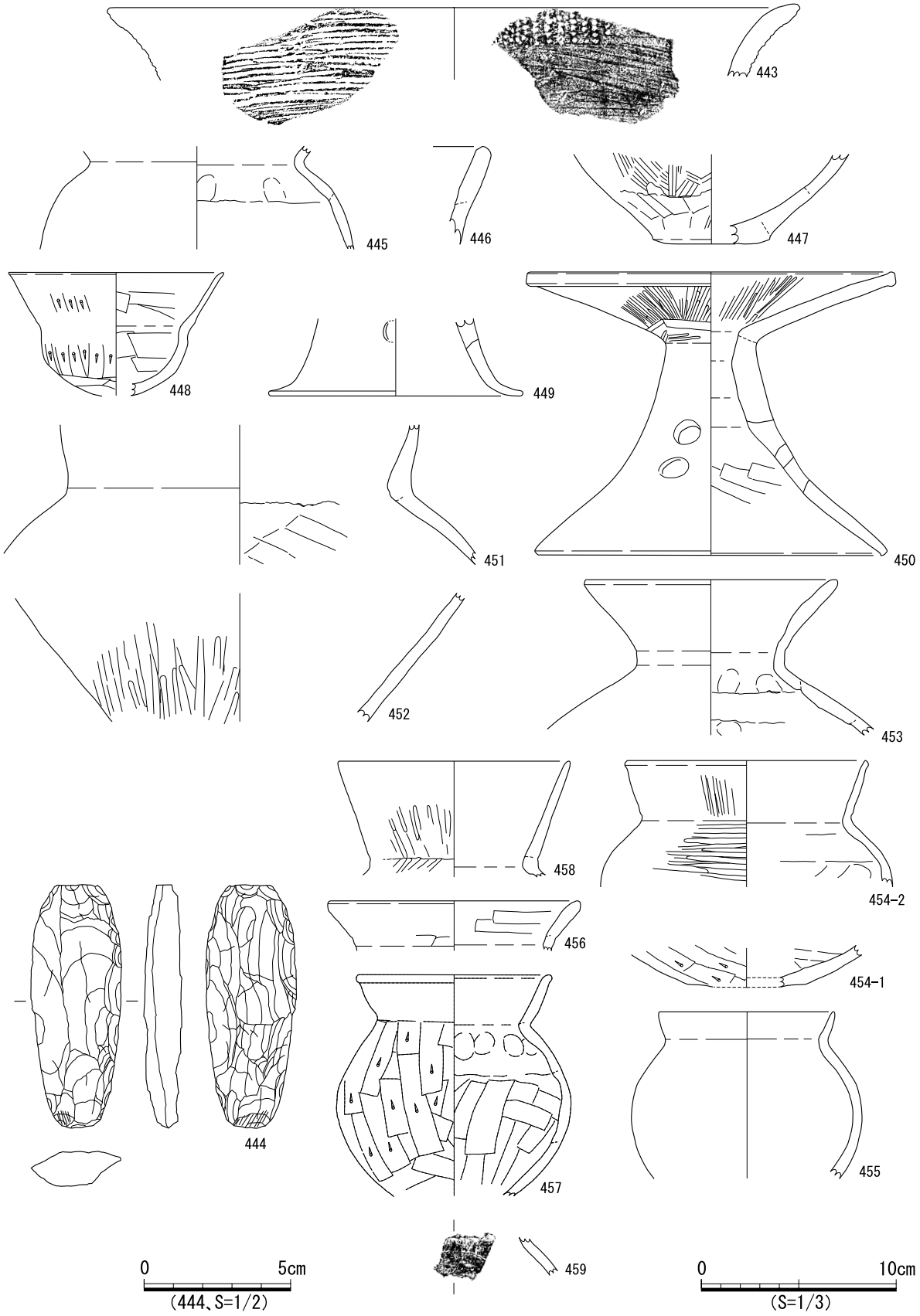



図200　Ⅳ期出土遺物（２）